

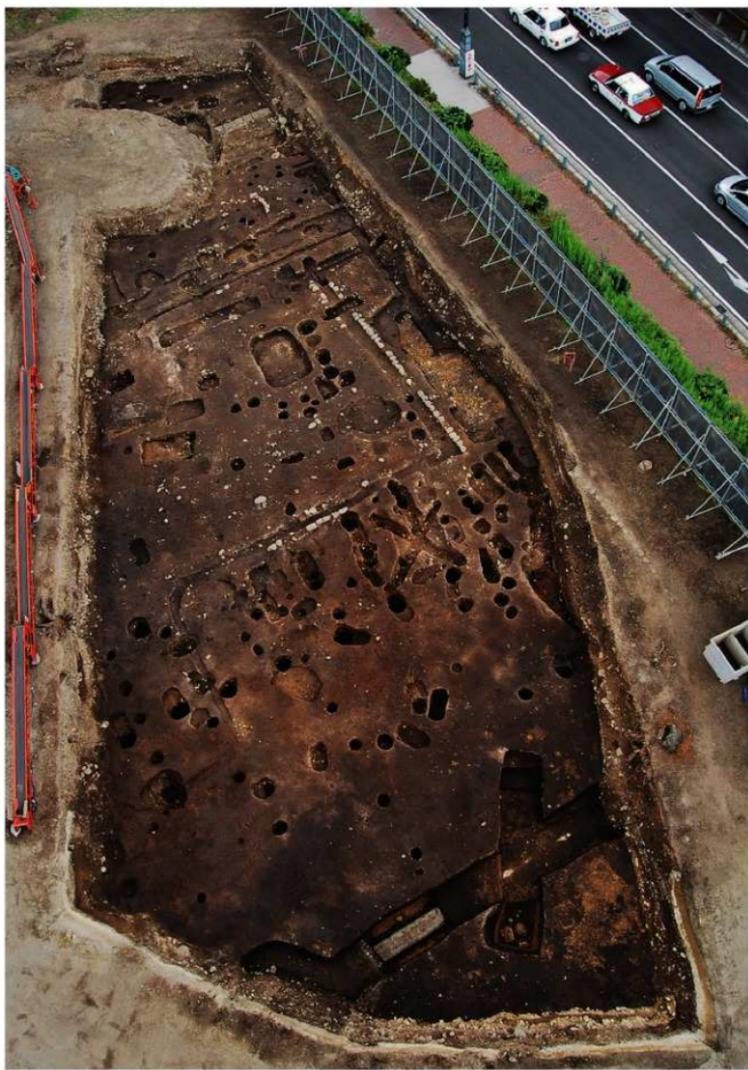
仙台市文化財調査報告書第 384 集

桜ヶ岡公園遺跡

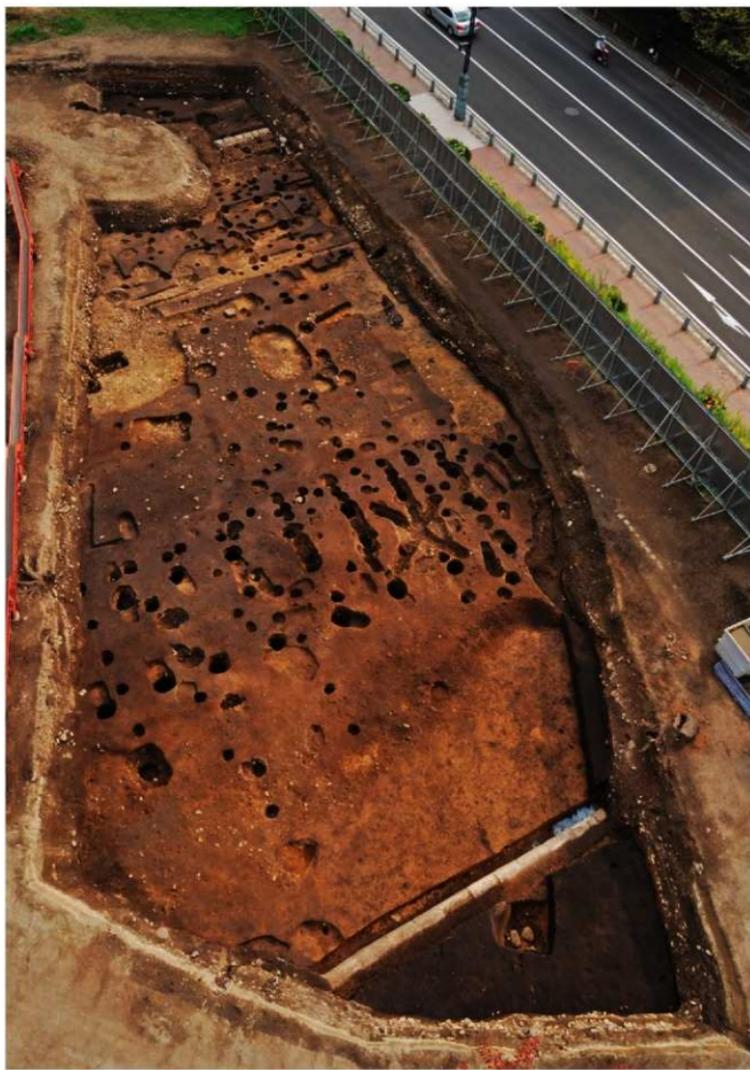
—— 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ ——

2011 年 3 月

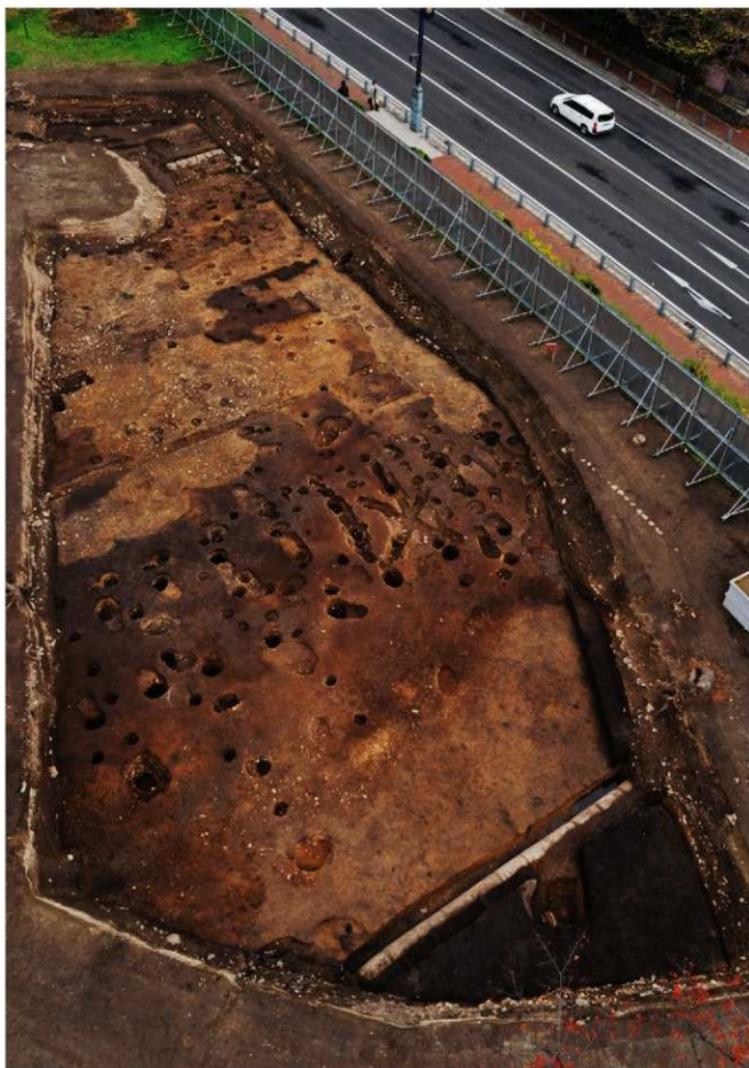
仙台市教育委員会



II層上面調査区全景（西から）



III a 層上面調査区全景（西から）



IVa 層上面調査区全景（西から）



II層上面調査区全景（北から）



III a層上面調査区南側（北から）



SB4、SB5、SB6 (北から)



SB2 (東から)



SX39 出土遺物



SX39 出土遺物



SX49 出土遺物



SX49 出土遺物

序 文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

さて、当市では、高速鉄道東西線建設事業を推進し、高速鉄道南北線や、鉄道、バスと連携した公共交通ネットワークを形成することにより、暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを進めております。

高速鉄道東西線の計画路線内には仙台北城跡をはじめとした遺跡があり、さらに新しい遺跡が発見されることも予測されたことから、仙台市教育委員会では事業主体者の仙台市交通局と協議を重ね、平成16年度より確認・試掘調査を実施してまいりました。桜ヶ岡公園遺跡は広瀬川の左岸、仙台北城跡の対岸に位置し、平成16年から翌年度にかけて実施した試掘調査により、平成19年度に新たに遺跡登録され、翌平成19・20年度に本発掘調査を実施いたしました。調査の結果、仙台北城跡の対岸に位置する武家屋敷の様相を示す貴重な資料が得られております。本報告書は両年度の本発掘調査の成果をまとめたもので、高速鉄道東西線関係遺跡の4冊目の本報告書となります。

これまで、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、活用しながら市民の宝として、次の世代に引き継いでいくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことであると考えております。ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。最後になりましたが、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げます、刊行の序といたします。

平成23年3月

仙台市教育委員会

教育長 青沼 一民

例言

1. 本書は仙台市高速鉄道東西線建設事業に伴い実施した桜ヶ岡公園遺跡(西公園トンネル・駅部ほか)の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会が国際航業株式会社(現国際文化財株式会社)へ委託して実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 原河英二・主濱光朗・結城慎一の監理のもとに、国際文化財株式会社 守谷健吾 荻澤太郎 朝日向久が担当した。
4. 本書の第3・4・5図の絵図・地図の掲載にあたっては、所蔵機関の許可を得ている。
5. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、さまざまな協力を賜った。

記して謝意を表す次第である。(敬称略順不同)

藤沢敦・柴田恵子(東北大学埋蔵文化財調査研究室) 松本秀明(東北学院大学) 深澤百合子(東北大学)

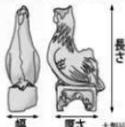
鈴木裕子(株式会社四門) 邊渡慎也(雑草文庫主宰) 東北大学 斎藤報恩会 東北歴史博物館

宮城県図書館 仙台市歴史民俗資料館 仙台市戦災復興記念館 仙台市交通局 仙台市建設局 仙台市博物館

6. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
7. 遺物の墨書等の確認は瀧川幸子氏、倉橋真紀氏、栗原伸一郎氏、坂田美咲氏(仙台市博物館)のご教示を得た。
8. 石製品の花材については、蟹沢聡史 東北大学名誉教授(理学博士)に鑑定していただいた。
9. 陶磁器の年代等の確認は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 佐藤 洋の協力を得た。

凡例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖(農林水産省農林水産技術会議事務局1998年版)に準拠している。
2. 本書中の第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図「仙台」の一部と1万分の1地形図「青葉山」「仙台駅」の一部を合成した。
3. 図中の座標値は日本測地系座標を使用した。
4. 本文図版等で使用した方位は真北を基準としている。
5. 標高値は、海拔高度(T.P)を示している。
6. 遺構図は1/40縮尺を基本とした。その他については各図のスケールを参照されたい。
7. 基本層の表記は、表土層からローマ数字を用い、遺構堆積土についてはアラビア数字で表記した。
8. 遺構図において、 (トーン) は礫を示している。
9. 遺構・遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。
SA:柱列跡、SB:建物跡、SD:溝跡、SE:井戸跡、SK:土坑、P:ピット、SN:祭祀跡、SX:性格不明遺構
A:縄文土器、F:丸瓦・軒丸瓦、G:平瓦・軒平瓦、H:その他の瓦、I:陶器・瓦質土器・土師質土器
J:磁器、K:石器・石製品、N:金属製品、O:自然遺物、P:土製品、X:その他の遺物
10. 遺物実測図は原則として縮尺1/3としたが、瓦は1/4、古銭は原寸で表示した。
11. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で、軸葉部の境は一点鎖線で表した。
中心線が一点鎖線の場合は、展開し図上復元したものである。
12. 陶磁器類の遺物観察表には備考に「ロクロ成形」の記載は行っていない。また、法量の表示で()書きの値は残存値である。
13. 報告書内で使用している尺、寸の長さは「1尺=30.3cm」、「1寸=3.03cm」とした。



本文目次

第1章 調査概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
第3節 調査概要	4
1 現地調査	4
2 整理作業	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
1 近世から近代	6
2 近代から現代	7
3 これまでの発掘調査	8
第3章 調査方法	10
第1節 調査方法	10
1 現地調査	10
2 整理作業	10
3 遺構名称について	10
第2節 調査区グリッドの設定	11
第4章 基本層序	12
第5章 検出遺構と遺物	17
第1節 駅部	17
1 IV a層上面検出遺構	17
2 III a層上面検出遺構とIII層出土遺物	26
3 II層上面検出遺構とII層出土遺物	54
4 I b層上面検出遺構とI b層出土遺物	137
第2節 交番部	167
1 II a層上面検出遺構	167
2 I層上面検出施設跡	169
3 遺構外出土遺物	170
第3節 大銀杏部	172
1 大銀杏部調査区	172
2 III層出土遺物	173
3 II層出土遺物	173
4 I b層出土遺物	181
第6章 出土遺物と検出遺構について	183
第1節 出土遺物について	183
1 遺物数量表	183

2	陶磁器の数的分析	186
3	乾山について	188
4	焼窯について	188
5	土師質土器	190
6	近・現代資料	190
7	金属製品	192
8	土製品	193
9	古銭	194
10	出土遺物のまとめ	194
第2節	検出遺構について	194
1	近世の遺構	194
2	近代の遺構	197
第7章	まとめ	199
参考文献		200

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	3	第30図	SD10 溝跡平面図・断面図	32
第2図	河岸段丘分布図・断面模式図	5	第31図	SD12 溝跡平面図・断面図	32
第3図	絵図(1)	6	第32図	SK48 土坑平面図・断面図・出土遺物	33
第4図	絵図(2)	7	第33図	SK54 土坑平面図・断面図・出土遺物	34
第5図	絵図(3)	8	第34図	SK55 土坑平面図・断面図	34
第6図	周辺遺跡分布図	9	第35図	SK56 土坑平面図・断面図	35
第7図	グリッド設定図	11	第36図	SK57 土坑平面図・断面図	35
第8図	基本土層図(1)	13	第37図	SK58 土坑平面図・断面図	35
第9図	基本土層図(2)	14	第38図	SK59 土坑平面図・断面図	36
第10図	基本土層図(3)	15	第39図	SK60 土坑平面図・断面図	36
第11図	基本土層図(4)	16	第40図	SK62 土坑平面図・断面図	36
第12図	IV a層上面遺構配置図	17	第41図	SK63 土坑平面図・断面図	37
第13図	SD9 溝跡平面図・断面図・出土遺物	18	第42図	SK65 土坑平面図・断面図	37
第14図	SD14 溝跡平面図・断面図	19	第43図	SK66 土坑平面図・断面図	38
第15図	SX29 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)	20	第44図	SK67 土坑平面図・断面図	38
第16図	SX29 性格不明遺構出土遺物(2)	21	第45図	SK68 土坑平面図・断面図	39
第17図	SX31 性格不明遺構平面図・断面図	21	第46図	SK69 土坑平面図・断面図	39
第18図	SX31 性格不明遺構遺物出土状況・出土遺物(1)	22	第47図	SK70 土坑平面図・断面図	39
第19図	SX31 性格不明遺構出土遺物(2)	23	第48図	SK71 土坑平面図・断面図	40
第20図	SX32 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	23	第49図	SK72 土坑平面図・断面図	40
第21図	SX33 性格不明遺構平面図・断面図	24	第50図	SK73 土坑平面図・断面図	40
第22図	SX50 性格不明遺構平面図・断面図	24	第51図	SK85 土坑平面図・断面図	41
第23図	SX51 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	25	第52図	SX22 性格不明遺構平面図・断面図	41
第24図	III層上面遺構配置図	26	第53図	SX22 性格不明遺構遺物出土状況・出土遺物	42
第25図	SA1 柱列跡平面図・断面図	27	第54図	SX23 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	43
第26図	SB2・SB3 掘立柱建物跡平面図・断面図	28	第55図	SX34 性格不明遺構平面図・断面図	43
第27図	SB2 掘立柱建物跡出土遺物	29	第56図	SX34 性格不明遺構出土遺物	44
第28図	SB4・SB5 掘立柱建物跡平面図・断面図	30	第57図	SX37 性格不明遺構平面図	44
第29図	SB6 掘立柱建物跡平面図・断面図	31	第58図	SX37 性格不明遺構断面図・出土遺物	45

第 59 図	SX61 性格不明遺構平面図・断面図	46	第 108 図	SK40 土坑平面図・断面図	78
第 60 図	SX62 性格不明遺構平面図・断面図	46	第 109 図	SK46 土坑平面図・断面図	78
第 61 図	SX63 性格不明遺構平面図・断面図	47	第 110 図	SK47 土坑平面図・断面図・出土遺物	79
第 62 図	SX63 性格不明遺構出土遺物	48	第 111 図	SK50 土坑平面図・断面図	80
第 63 図	Ⅲ層遺構外出土遺物 (1)	48	第 112 図	SK51 土坑平面図・断面図	80
第 64 図	Ⅲ層遺構外出土遺物 (2)	49	第 113 図	SK52 土坑平面図・断面図	81
第 65 図	Ⅲ層遺構外出土遺物 (3)	50	第 114 図	SK75 土坑平面図・断面図・出土遺物 (1)	81
第 66 図	Ⅲ層遺構外出土遺物 (4)	51	第 115 図	SK75 土坑出土遺物 (2)	82
第 67 図	Ⅲ層遺構外出土遺物 (5)	52	第 116 図	SK75 土坑出土遺物 (3)	83
第 68 図	Ⅲ層遺構外出土遺物 (6)	52	第 117 図	SK75 土坑出土遺物 (4)	84
第 69 図	Ⅲ層遺構外出土遺物 (7)	53	第 118 図	SK75 土坑出土遺物 (5)	85
第 70 図	Ⅱ層上面遺構配列図	54	第 119 図	SK75 土坑出土遺物 (6)	86
第 71 図	SD3 溝跡平面図・断面図	55	第 120 図	SK76 土坑平面図・断面図・出土遺物	86
第 72 図	SD3 溝跡出土遺物	56	第 121 図	SK77 土坑平面図・断面図・出土遺物 (1)	87
第 73 図	SD4 溝跡平面図・断面図	57-58	第 122 図	SK77 土坑出土遺物 (2)	88
第 74 図	SD6 溝跡平面図・断面図	59	第 123 図	SK77 土坑出土遺物 (3)	89
第 75 図	SK1 土坑平面図・断面図・出土遺物 (1)	60	第 124 図	SK78 土坑平面図・断面図	90
第 76 図	SK1 土坑出土遺物 (2)	61	第 125 図	SN1 祭祀遺構かわらけ・古銭出土状況図	90
第 77 図	SK1 土坑出土遺物 (3)	62	第 126 図	SN1 祭祀遺構出土遺物	91
第 78 図	SK2 土坑平面図・断面図・出土遺物	63	第 127 図	SN2 祭祀遺構遺物出土状況・出土遺物	92
第 79 図	SK3 土坑平面図・断面図・出土遺物	63	第 128 図	SX2 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	93
第 80 図	SK4 土坑平面図・断面図	64	第 129 図	SX4 性格不明遺構平面図・断面図	94
第 81 図	SK5 土坑平面図・断面図	64	第 130 図	SX5 性格不明遺構平面図・断面図	94
第 82 図	SK6 土坑平面図・断面図	64	第 131 図	SX6 性格不明遺構平面図・断面図	94
第 83 図	SK7 土坑平面図・断面図	65	第 132 図	SX7 性格不明遺構平面図・断面図	95
第 84 図	SK9 土坑平面図・断面図	65	第 133 図	SX9 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	95
第 85 図	SK10 土坑平面図・断面図	65	第 134 図	SX10 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	96
第 86 図	SK11 土坑平面図・断面図	66	第 135 図	SX12 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	97
第 87 図	SK12 土坑平面図・断面図・出土遺物	66	第 136 図	SX14 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	98
第 88 図	SK14 土坑平面図・断面図	67	第 137 図	SX15 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物 (1)	99
第 89 図	SK15 土坑平面図・断面図	67	第 138 図	SX15 性格不明遺構出土遺物 (2)	100
第 90 図	SK17 土坑平面図・断面図・出土遺物	68	第 139 図	SX15 性格不明遺構出土遺物 (3)	101
第 91 図	SK18 土坑平面図・断面図	69	第 140 図	SX19 性格不明遺構平面図・断面図	101
第 92 図	SK19 土坑平面図・断面図	69	第 141 図	SX26 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物 (1)	102
第 93 図	SK22 土坑平面図・断面図・出土遺物	70	第 142 図	SX26 性格不明遺構出土遺物 (2)	103
第 94 図	SK23 土坑平面図・断面図	70	第 143 図	SX27 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	104
第 95 図	SK25 土坑平面図・断面図	71	第 144 図	SX28 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	105
第 96 図	SK27 土坑平面図・断面図・出土遺物	71	第 145 図	SX35 性格不明遺構平面図・断面図	106
第 97 図	SK28 土坑平面図・断面図・出土遺物	72	第 146 図	SX36 性格不明遺構平面図・断面図	106
第 98 図	SK30 土坑平面図・断面図	72	第 147 図	SX38 性格不明遺構平面図・断面図	107
第 99 図	SK31 土坑平面図・断面図	73	第 148 図	SX39 性格不明遺構平面図・断面図	107
第 100 図	SK32 土坑平面図・断面図・出土遺物	73	第 149 図	SX39 性格不明遺構出土遺物 (1)	108
第 101 図	SK33 土坑平面図・断面図	74	第 150 図	SX39 性格不明遺構出土遺物 (2)	109
第 102 図	SK34 土坑平面図・断面図・出土遺物	74	第 151 図	SX39 性格不明遺構出土遺物 (3)	110
第 103 図	SK35 土坑平面図・断面図	75	第 152 図	SX39 性格不明遺構出土遺物 (4)	111
第 104 図	SK36 土坑平面図・断面図	75	第 153 図	SX39 性格不明遺構出土遺物 (5)	112
第 105 図	SK37 土坑平面図・断面図	76	第 154 図	SX39 性格不明遺構出土遺物 (6)	113
第 106 図	SK37 土坑出土遺物 (1)	77	第 155 図	SX41 性格不明遺構平面図・断面図	113
第 107 図	SK37 土坑出土遺物 (2)	78	第 156 図	SX42 性格不明遺構平面図・断面図	114

第157図	SX43 性格不明遺構平面図・断面図	114
第158図	SX49 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)	115
第159図	SX49 性格不明遺構出土遺物(2)	116
第160図	SX49 性格不明遺構出土遺物(3)	117
第161図	SX49 性格不明遺構出土遺物(4)	118
第162図	SX49 性格不明遺構出土遺物(5)	119
第163図	SX49 性格不明遺構出土遺物(6)	120
第164図	SX49 性格不明遺構出土遺物(7)	121
第165図	SX56 性格不明遺構平面図・断面図	122
第166図	SX56 性格不明遺構出土遺物	123
第167図	SX57 性格不明遺構平面図・断面図	124
第168図	SX64 性格不明遺構平面図・断面図	124
第169図	Ⅱ層遺構外出土遺物(1)	125
第170図	Ⅱ層遺構外出土遺物(2)	126
第171図	Ⅱ層遺構外出土遺物(3)	127
第172図	Ⅱ層遺構外出土遺物(4)	128
第173図	Ⅱ層遺構外出土遺物(5)	129
第174図	Ⅱ層遺構外出土遺物(6)	130
第175図	Ⅱ層遺構外出土遺物(7)	131
第176図	Ⅱ層遺構外出土遺物(8)	132
第177図	Ⅱ層遺構外出土遺物(9)	133
第178図	Ⅱ層遺構外出土遺物(10)	134
第179図	Ⅱ層遺構外出土遺物(11)	135
第180図	Ⅱ層遺構外出土遺物(12)	136
第181図	I b 層上面遺構配置図	137-138
第182図	SB1 近代建物跡平面図	139
第183図	SB1 近代建物跡断面図	140
第184図	SD1 溝跡平面図・断面図	142
第185図	SD1 溝跡出土遺物	143
第186図	SD2 溝跡平面図・断面図	144
第187図	SD2 溝跡出土遺物	145
第188図	SD15 溝跡平面図・断面図	146
第189図	SD15 溝跡出土遺物	147
第190図	SD16 溝跡平面図・断面図・出土遺物	148
第191図	SK74 土坑平面図・断面図・出土遺物(1)	149
第192図	SK74 土坑出土遺物(2)	150
第193図	SK80 土坑平面図・断面図・出土遺物	151
第194図	SK81 土坑平面図・断面図	152
第195図	SK82 土坑平面図・断面図	152
第196図	SK83 土坑平面図・断面図	153
第197図	SK84 土坑平面図・断面図・出土遺物	154
第198図	SX53 性格不明遺構平面図・断面図	155

第199図	SX54 性格不明遺構平面図	157
第200図	SX54 性格不明遺構断面図	158
第201図	SX58 性格不明遺構平面図・断面図	159
第202図	SX60 性格不明遺構平面図・断面図	159
第203図	I 層遺構外出土遺物(1)	160
第204図	I 層遺構外出土遺物(2)	161
第205図	I 層遺構外出土遺物(3)	162
第206図	I 層遺構外出土遺物(4)	163
第207図	I 層遺構外出土遺物(5)	164
第208図	I 層遺構外出土遺物(6)	165
第209図	I 層遺構外出土遺物(7)	166
第210図	Ⅱ層上面遺構配置図・基本土層図	167
第211図	SE1 井戸跡平面図・断面図	168
第212図	SE1 井戸跡出土遺物	169
第213図	I 層上面検出施設跡	169
第214図	交番部遺構外出土遺物(1)	170
第215図	交番部遺構外出土遺物(2)	171
第216図	大銀杏部調査区平面図・基本土層図	172
第217図	Ⅲ b 層出土遺物	173
第218図	Ⅱ層出土遺物(1)	173
第219図	Ⅱ層出土遺物(2)	174
第220図	Ⅱ層出土遺物(3)	175
第221図	Ⅱ層出土遺物(4)	176
第222図	Ⅱ層出土遺物(5)	177
第223図	Ⅱ層出土遺物(6)	178
第224図	Ⅱ層出土遺物(7)	179
第225図	Ⅱ層出土遺物(8)	180
第226図	Ⅱ層出土遺物(9)	181
第227図	I b 層出土遺物(1)	181
第228図	I b 層出土遺物(2)	182
第229図	SX39 出土の乾山路の陶器	188
第230図	焼織のある出土遺物	189
第231図	SX31・SN1 出土の土師質土器	190
第232図	土師質土器高台「FO」の墨書	190
第233図	板ヶ岡公園遺跡出土の洋食器	191
第234図	板ヶ岡公園遺跡出土の金属製品	192
第235図	板ヶ岡公園遺跡出土の土製品	193
第236図	IV a 層上面検出遺構	194
第237図	Ⅲ a 層上面検出遺構	195
第238図	Ⅱ層上面検出遺構	196
第239図	I b 層上面検出遺構	197
第240図	板ヶ岡公園遺跡検出遺構時期別変遷模式図	198

表 目 次

第1表	遺跡地名表	9
第2表	調査区基本土層注記表	12
第3表	SA1 柱穴観察表	27
第4表	SB2・SB3 掘立柱建物跡観察表	29
第5表	SB4 掘立柱建物跡柱穴観察表	30

第6表	SB5 掘立柱建物跡柱穴観察表	30
第7表	SB6 掘立柱建物跡柱穴観察表	31
第8表	SB1 近代建物跡基礎坑観察表	140
第9表	SD15 溝跡石材分類表	146
第10表	出土遺物数量表(1)	183

第11表	出土遺物数量表(2).....	184
第12表	出土遺物数量表(3).....	185
第13表	出土層位・産地別遺物数量表.....	186
第14表	食器器産地別グラフ.....	186
第15表	喫茶・飲酒具産地別グラフ.....	187

第16表	暖房具・貯蔵具・調理具・灯明具産地別グラフ.....	187
第17表	信仰・調度具・その他産地別グラフ.....	187
第18表	焼窯のある出土遺物観察表.....	188
第19表	板ヶ岡公園遺跡の時期区分表.....	194
第20表	掘立柱建物跡の規模.....	195

写真目次

写真1	調査区より旧天文台を望む(東から).....	2
写真2	SD9・14 溝跡検出状況(南から).....	19
写真3	SX22 性格不明遺構遺物出土状況(南から).....	42
写真4	SX22 性格不明遺構遺物出土状況(南から).....	42
写真5	SX37 性格不明遺構瓦検出状況(北から).....	45
写真6	SX63 性格不明遺構遺物出土状況(西から).....	47
写真7	SX63 性格不明遺構遺物出土状況(西から).....	47
写真8	SD4 溝跡石組検出状況(南から).....	58
写真9	SN1 祭祀遺構かわらけ・古銭出土状況(南から).....	90
写真10	SN2 祭祀遺構かわらけ出土状況(東から).....	92
写真11	SX39 性格不明遺構埋蔵状況(南から).....	113
写真12	SX49 性格不明遺構遺物出土状況(北から).....	121

写真13	板ヶ岡公園と大銀杏.....	137
写真14	仙台市公会堂と板ヶ岡公園の噴水.....	138
写真15	大銀杏周辺の遺構検出状況(西から).....	138
写真16	創業当時の抱翠館(明治19年撮影).....	140
写真17	SD1 溝跡検出状況(北から).....	141
写真18	SD1 溝跡検出状況(南東から).....	141
写真19	SD1 溝跡検出状況(南東から).....	141
写真20	SD15・16 検出状況(北から).....	147
写真21	SX54 性格不明遺構東側検出状況(東から).....	156
写真22	SX54 性格不明遺構検出状況(北から).....	156
写真23	公会堂と噴水(絵巻書から).....	171

写真図版目次

図版1	駅部Ⅳ a層上面(1).....	203
図版2	駅部Ⅳ a層上面(2).....	204
図版3	駅部Ⅲ層上面(1).....	205
図版4	駅部Ⅲ層上面(2).....	206
図版5	駅部Ⅲ層上面(3).....	207
図版6	駅部Ⅲ層上面(4).....	208
図版7	駅部Ⅲ層上面(5).....	209
図版8	駅部Ⅲ層上面(6).....	210
図版9	駅部Ⅲ層上面(7).....	211
図版10	駅部Ⅲ層上面(8).....	212
図版11	駅部Ⅲ層上面(9).....	213
図版12	駅部Ⅱ層上面(1).....	214
図版13	駅部Ⅱ層上面(2).....	215
図版14	駅部Ⅱ層上面(3).....	216
図版15	駅部Ⅱ層上面(4).....	217
図版16	駅部Ⅱ層上面(5).....	218
図版17	駅部Ⅱ層上面(6).....	219
図版18	駅部Ⅱ層上面(7).....	220
図版19	駅部Ⅱ層上面(8).....	221
図版20	駅部Ⅱ層上面(9).....	222
図版21	駅部Ⅱ層上面(10).....	223
図版22	駅部Ⅱ層上面(11).....	224
図版23	駅部Ⅱ層上面(12).....	225
図版24	駅部Ⅱ層上面(13).....	226
図版25	駅部Ⅱ層上面(14).....	227
図版26	駅部Ⅱ層上面(15).....	228

図版27	駅部Ⅱ層上面(16).....	229
図版28	駅部Ⅱ層上面(17).....	230
図版29	駅部Ⅱ層上面(18).....	231
図版30	駅部Ⅱ層上面(19).....	232
図版31	駅部Ⅱ層上面(20).....	233
図版32	駅部Ⅱ層上面(21).....	234
図版33	駅部Ⅱ層上面(22).....	235
図版34	駅部Ⅱ層上面(23).....	236
図版35	駅部Ⅱ層上面(24).....	237
図版36	駅部Ⅱ層上面(25)・駅部Ⅰ層上面(1).....	238
図版37	駅部Ⅰ層上面(2).....	239
図版38	駅部Ⅰ層上面(3).....	240
図版39	駅部Ⅰ層上面(4).....	241
図版40	駅部Ⅰ層上面(5).....	242
図版41	駅部Ⅰ層上面(6).....	243
図版42	駅部Ⅰ層上面(7).....	244
図版43	駅部Ⅰ層上面(8).....	245
図版44	駅部Ⅰ層上面(9).....	246
図版45	説明会風景・作業風景.....	247
図版46	交番部Ⅰ層上面(1).....	248
図版47	交番部Ⅰ層上面(2).....	249
図版48	交番部Ⅰ層上面(3).....	250
図版49	交番部Ⅰ層上面(4)・大銀杏部(1).....	251
図版50	大銀杏部(2).....	252
図版51	駅部Ⅳ a層上面遺構出土遺物(1).....	253
図版52	駅部Ⅳ a層上面遺構出土遺物(2).....	254

圖版 5 3	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (1)…… 255
圖版 5 4	駝部Ⅲ層上面遺構出土遺物 (2)…… 256
圖版 5 5	駝部Ⅲ層上面遺構出土遺物 (3)…… 257
圖版 5 6	駝部Ⅲ層遺構外出土遺物 (1)…… 258
圖版 5 7	駝部Ⅲ層遺構外出土遺物 (2)…… 259
圖版 5 8	駝部Ⅲ層遺構外出土遺物 (3)…… 260
圖版 5 9	駝部Ⅲ層遺構外出土遺物 (4)·Ⅱ層上面遺構出土遺物 (1)…… 261
圖版 6 0	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (2)…… 262
圖版 6 1	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (3)…… 263
圖版 6 2	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (4)…… 264
圖版 6 3	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (5)…… 265
圖版 6 4	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (6)…… 266
圖版 6 5	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (7)…… 267
圖版 6 6	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (8)…… 268
圖版 6 7	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (9)…… 269
圖版 6 8	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (10)…… 270
圖版 6 9	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (11)…… 271
圖版 7 0	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (12)…… 272
圖版 7 1	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (13)…… 273
圖版 7 2	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (14)…… 274
圖版 7 3	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (15)…… 275
圖版 7 4	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (16)…… 276
圖版 7 5	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (17)…… 277
圖版 7 6	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (18)…… 278
圖版 7 7	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (19)…… 279
圖版 7 8	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (20)…… 280
圖版 7 9	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (21)…… 281
圖版 8 0	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (22)…… 282
圖版 8 1	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (23)…… 283
圖版 8 2	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (24)…… 284
圖版 8 3	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (25)…… 285
圖版 8 4	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (26)…… 286
圖版 8 5	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (27)…… 287
圖版 8 6	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (28)…… 288
圖版 8 7	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (29)…… 289
圖版 8 8	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (30)…… 290
圖版 8 9	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (31)…… 291
圖版 9 0	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (32)…… 292
圖版 9 1	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (33)…… 293
圖版 9 2	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (34)…… 294
圖版 9 3	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (35)…… 295

圖版 9 4	駝部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (36)·Ⅱ層遺構外出土遺物 (1)…… 296
圖版 9 5	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (2)…… 297
圖版 9 6	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (3)…… 298
圖版 9 7	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (4)…… 299
圖版 9 8	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (5)…… 300
圖版 9 9	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (6)…… 301
圖版 10 0	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (7)…… 302
圖版 10 1	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (8)…… 303
圖版 10 2	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (9)…… 304
圖版 10 3	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (10)…… 305
圖版 10 4	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (11)…… 306
圖版 10 5	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (12)…… 307
圖版 10 6	駝部Ⅱ層遺構外出土遺物 (13)·Ⅰ層上面遺構出土遺物 (1)…… 308
圖版 10 7	駝部Ⅰ層上面遺構出土遺物 (2)…… 309
圖版 10 8	駝部Ⅰ層上面遺構出土遺物 (3)…… 310
圖版 10 9	駝部Ⅰ層上面遺構出土遺物 (4)…… 311
圖版 11 0	駝部Ⅰ層上面遺構出土遺物 (5)·Ⅰ層遺構外出土遺物 (1)…… 312
圖版 11 1	駝部Ⅰ層遺構外出土遺物 (2)…… 313
圖版 11 2	駝部Ⅰ層遺構外出土遺物 (3)…… 314
圖版 11 3	駝部Ⅰ層遺構外出土遺物 (4)…… 315
圖版 11 4	駝部Ⅰ層遺構外出土遺物 (5)…… 316
圖版 11 5	駝部Ⅰ層遺構外出土遺物 (6)…… 317
圖版 11 6	交番部Ⅰ層出土遺物 (1)…… 318
圖版 11 7	交番部Ⅰ層出土遺物 (2)…… 319
圖版 11 8	大銀杏部Ⅲ層出土遺物·Ⅱ層出土遺物 (1)~ 320
圖版 11 9	大銀杏部Ⅱ層出土遺物 (2)…… 321
圖版 12 0	大銀杏部Ⅱ層出土遺物 (3)…… 322
圖版 12 1	大銀杏部Ⅱ層出土遺物 (4)…… 323
圖版 12 2	大銀杏部Ⅱ層出土遺物 (5)…… 324
圖版 12 3	大銀杏部Ⅱ層出土遺物 (6)…… 325
圖版 12 4	大銀杏部Ⅱ層出土遺物 (7)…… 326
圖版 12 5	大銀杏部Ⅱ層出土遺物 (8)…… 327
圖版 12 6	大銀杏部Ⅰ層出土遺物 (1)…… 328
圖版 12 7	大銀杏部Ⅰ層出土遺物 (2)…… 329
圖版 12 8	大銀杏部Ⅰ層出土遺物 (3)…… 330
圖版 12 9	瓦…… 331
圖版 13 0	出土古錢 (1)…… 332
圖版 13 1	出土古錢 (2)…… 333
圖版 13 2	出土古錢 (3)…… 334
圖版 13 3	出土古錢 (4)…… 335
圖版 13 4	出土古錢 (5)…… 336

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

平成11年5月、仙台市教育委員会と当時、事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第1回目の協議が持たれた。その後、事業主管局が仙台市交通局に移され、平成15年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が行われた。その結果、高速鉄道東西線事業計画予定路線内における周知の遺跡及び遺跡範囲外の状況把握のため、先ず確認調査及び試掘調査を実施し、その結果を踏まえて本調査を実施する箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めていくことが両者間で確認された。

以上の協議事項に基づき、平成16年度より確認調査及び試掘調査を開始した。平成16年度の対象地域は、高速鉄道東西線西部の川内地区、青葉山地区、西公園地区で、18箇所の調査区を設定し、総面積448㎡の調査を実施した。

平成17年度の調査対象地域は仙台城跡及びその周辺地区、川内A遺跡隣接地区、西公園地区で、22箇所の調査区を設定し、総面積421㎡の調査を実施した。このうち、西公園地区（この確認・試掘調査での便宜的区割りのD区）は、平成16年9月6日から9月17日までの間に1箇所（70㎡）の試掘調査が行われ、翌平成17年9月12日から9月27日の間、3箇所（51㎡）の試掘調査が実施された。その結果、近世を中心とした時代の遺構・遺物の存在が確認された。これを受け、仙台市教育委員会は仙台市交通局と協議を行い、平成19年度に桜ヶ岡公園遺跡のトンネル・駅部Ⅰ区、大銀杏部、交番部の本調査、平成20年度には桜ヶ岡公園のトンネル・駅部Ⅱ区の本調査を実施することとし、平成19年度は5月10日から、平成20年度は4月4日から本調査を開始した。

第2節 調査要項

調査要項

遺跡名称：桜ヶ岡公園遺跡（宮城県遺跡登録番号01562）

所在地：仙台市青葉区桜ヶ岡公園1-1地内

調査原因：高速鉄道東西線路線・駅舎工事に伴う事前調査

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：文化財課調査係主査 原河 英二（平成19～20年度）

文化財課調査係主査 佐藤 洋（平成19年度）

文化財課調査係主事 広瀬真理子（平成19年度）

文化財課調査係主事 大久保弥生（平成20年度）

文化財課調査係文化財教諭 志賀 雄一（平成20年度）

調査組織：国際航業株式会社（平成19年度）

国際文化財株式会社（平成20～22年度）

主任調査員 守谷 健吾（平成19年5月～8月・平成20年4月～7月）

主任調査員 竹内 俊之（平成19年9月～3月）

調査員 朝日向忠久（平成19年9月～3月・平成20年4月～7月）

第2節 調査要項

	土橋 高起 (平成19年9月～平成20年3月)
調査員	栗木 寧 (平成19年5月～8月)
	皆川 貴史 (平成19年5月～7月)
	関 美男 (平成19年5月～8月)
	竹内 俊之 (平成20年4月～7月)
計測員	佐々木 亨 (平成19年5月～8月)
	佐川 幸夫 (平成19年5月～平成20年3月)
	諸熊 和彦 (平成19年9月～平成20年3月・平成20年4月～7月)

調査期間：平成19年5月10日～平成20年3月31日

平成20年4月4日～7月17日

調査対象面積：約2,990㎡

調査面積：平成19年度 約1,282㎡ (平成19年度調査)

平成20年度 約1,000㎡ (平成20年度調査)

報告書作成要項

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：文化財課調査係主査 原河 英二 (平成21年度)

文化財課調査指導係主査 主濱 光朗 (平成22年度)

文化財調査指導係専門員 結城 慎一 (平成22年度)

調査組織：国際文化財株式会社 (平成21年～平成22年度)

調査員 守谷 健吾 (平成21年4月～平成22年3月
平成22年5月～平成23年3月)

調査補助員 朝日向忠久 (平成21年4月～平成22年3月)

荻澤 太郎 (平成22年5月～11月)

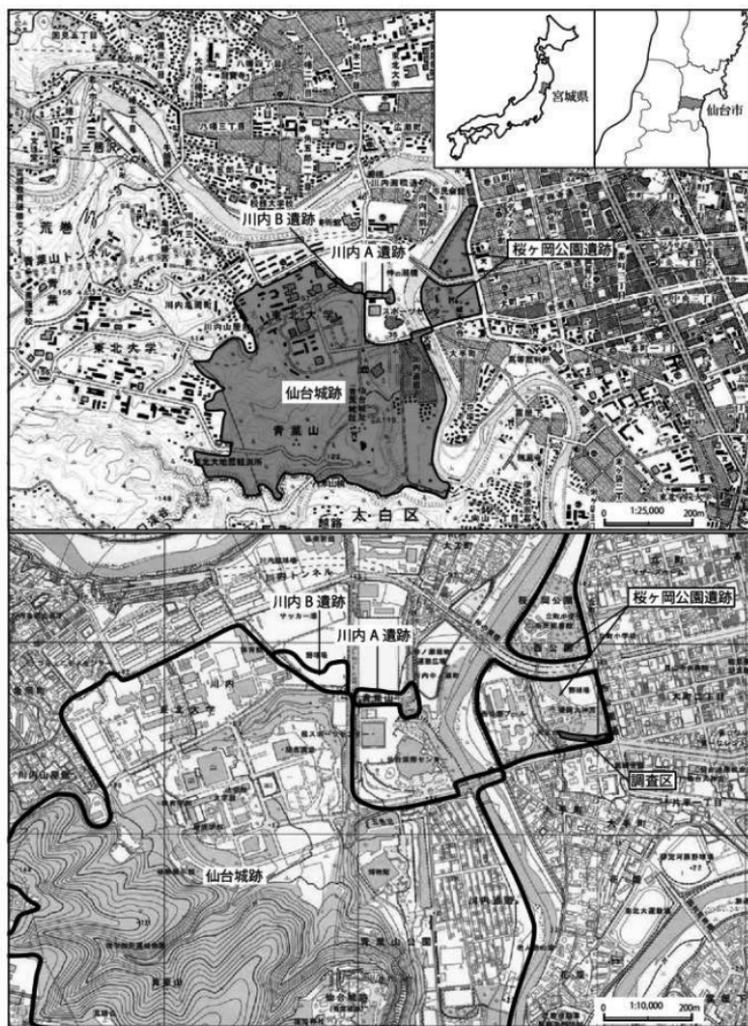
計測員 諸熊 和彦 (平成21年4月～平成22年3月・平成22年5月～10月)

作成期間：平成21年4月4日～平成22年3月19日

平成22年5月10日～平成23年3月11日



写真1 調査区より旧天文台を望む(東から)



第1図 遺跡位置図

第3節 調査概要

1 現地調査

現地調査は、平成16年から17年にかけて行われた試掘調査の結果を受けて、平成19年5月10日から年度をまたいで平成20年6月30日までの期間に実施した。調査は交番部→大銀杏部→西公園トンネル・駅部Ⅰ区→Ⅱ区の順に着手し、調査日数は270日で、調査面積は2,282㎡である。

平成19年5月10日、大町交番移設予定地である「交番部」の調査区設定、および重機掘削を開始した。近代地図、写真記録等にもある仙台市公会堂の噴水跡を確認し、同年6月6日に埋め戻しまで完了した。仙台市指定樹木である大銀杏の移植予定地である「大銀杏部」の調査は、平成19年6月4日から同年8月3日まで行った。大銀杏部では近代の絵図（「仙台区及近傍村落之図」明治15年・P8第5図11）に描かれている中央に小島を持つ池跡の一部を確認した。平成19年8月15日より「西公園トンネル・駅部Ⅰ区」の重機掘削を開始し、東西線の工事の都合上、同年11月22日に一時中断、平成20年1月より未着手部分の調査を再開した。トンネル・駅部では近世の遺構面2面と近代建物跡等を確認した。仙台市天文台の解体終了後に「西公園トンネル・駅部Ⅱ区」の重機掘削に着手し、平成20年4月4日より人力による遺構調査を開始、近世の掘立柱建物、近代建物施設などを検出した。また、6月7日には一般市民を対象とした現地説明会を開催し、約530名の参加があった。調査は6月30日までに埋め戻し、撤収を完了した。

2 整理作業

整理作業及び報告書作成作業は、平成21年4月から2カ年にわたって実施した。平成21年度は、出土遺物の1次・2次整理及び遺構図面の編集・調整を行い、翌年度に編集作業を行い報告書刊行を実施した。

出土遺物は、内法54.5cm×33.6cm×15cmの平箱に450箱程である。大部分を近世～近代の陶磁器が占め、その他に瓦、土師質土器、瓦質土器等が見られる。また少量であるが、縄文土器・石器等も見られる。出土遺物は水洗・注記した後、取り上げ番号毎に内容を確認し、遺物台帳に記載した。陶磁器・土師質土器・瓦質土器・瓦等は、器種・器形・文様等により分類し、接合を行った。接合した後さらに産地別に分類し、取り上げ番号毎に、それぞれの破片数をカウントした。また、産地・時期が判別でき、遺構や土層の性格が判断できるもの等について抽出し、実測・写真撮影に耐えられるよう、破損箇所に樹脂を充填して補強・復元を行った。金属製品等は付着している泥土や錆を落とし、陶磁器類と同様に分類・カウント・抽出を実施した。各種データはFileMaker社FileMaker Proを利用したデータベースを構築し、業務進捗情報とあわせて一元管理を行った。

抽出遺物については、それぞれ、種別ごとに登録し、実測・デジタルトレースによる遺物図作成及び写真撮影を行い遺物観察表を作成した。

遺構についても現場で計測・作成された遺構図面を確認し、検出面・堆積土・出土遺物等を確認して、その所属年代、性格を検討し、遺構図の作成を行った。

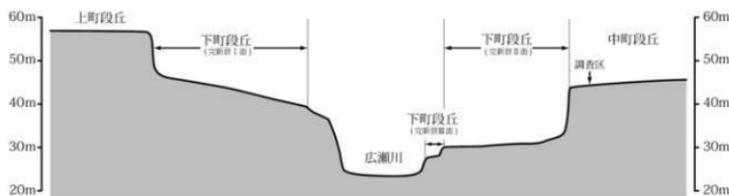
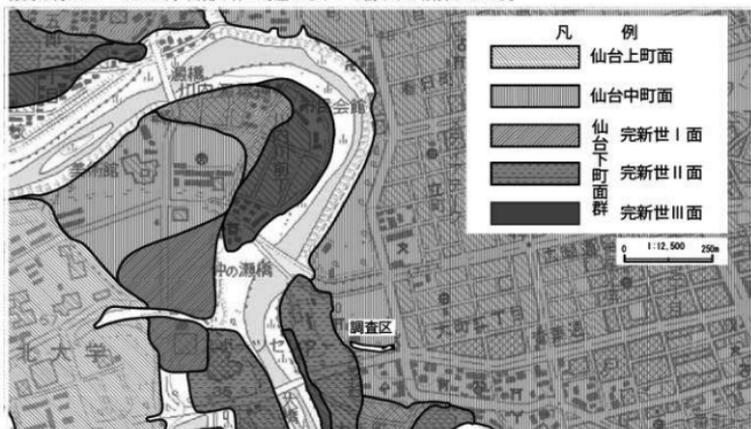
第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

桜ヶ岡公園遺跡は、広瀬川が形成した河岸段丘、仙台中町面上に位置し、現状は仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内に所在する。周辺は、西側に標高差約10mをはかる仲の町崖があり、その崖線下から広瀬川まで仙台下町面群(完新世Ⅱ面～完新世Ⅲ面)が連続する。

広瀬川の形成した河岸段丘は上位より青葉山面群・台ノ原面・仙台上町面・仙台中町面・仙台下町面(完新世Ⅰ面～Ⅲ面)の順に7面に区分される。各段丘面の形成時期は、年代測定結果によると、それぞれ、台ノ原面:約10万年前、仙台上町面:約2.6万年前、仙台中町面:約1.6万年前、仙台下町面(完新世Ⅰ面):約9100～9500年前、仙台下町面(完新世Ⅱ面):約2010年前とされている。また、仙台下町面(完新世Ⅲ面)の形成時期については完新世Ⅱ面の形成から近世期の間に形成されたものと考えられる。(松本・熊谷2010)

桜ヶ岡公園遺跡の位置する中町段丘は、広瀬川が大きく蛇行する渡橋付近の北西から南東方向へ広がる。調査区の標高は約43m～45mで、西側の仲の町崖にむかって緩やかに傾斜している。



第2図 河岸段丘分布図・断面模式図(松本・熊谷2010の図を一部改変して使用した)

第2節 歴史的環境

1 近世から近代

桜ヶ岡公園遺跡は、西公園通り、広瀬川、大町通り、仙台市民会館に囲まれた範囲である。今回の調査地点は桜ヶ岡公園遺跡の南東部、仙台市天文台跡地および大町交差点北西側の広場付近にあたる。当遺跡は仙台北城本丸（第6図-4）から広瀬川を挟んで北東に約850m、二ノ丸から東北東約700mに位置しており、標高は約43m～45mである。川内A遺跡（第6図-2）、川内B遺跡（第6図-3）等と同様の仙台湾家臣の武家屋敷遺跡である。

慶長5年に伊達政宗が、仙台北城の縄張り、城下の町割を行い、それ以前は原野だったと考えられる当該地域は武家屋敷として使われるようになった。また、仙台市天文台の西側、崖下の旧市民プールの周辺は中間・御小人屋敷が立ち並び、また、御作事方会所・御紙蔵などの藩施設にあてられた。

仙台北城関連の絵図資料等から、本調査区のおおよその変遷を概観する。正保2・3年（1645・1646）の「奥州仙台北城下絵図」（第3図-1）では「侍屋敷」と記されており、仙台北城周辺の屋敷割の段階で、武家地に割り当てられたことが推測される。寛文4年（1664）の「仙台北城下絵図」（第3図-2）では、片倉小十郎（一家:1万8000石）の屋敷地となっている。寛文4年の片倉家は三代景長が家督を継いでおり、絵図の片倉小十郎は景長のことを指すと思われる。なお、延宝9年～天和年間（1681～1683）の「仙台北城下絵図」（第3図-3）以降では広瀬川の右岸、仙台北城大手門に通じる大橋のたもとに居を移しているのが描かれている。

調査地点の北側の野球場、現在は公園として再整備されている土地には藩政時代を通して伊達成実を初代とする亙理伊達家（一門:2435貫302文）の屋敷地となっている。寛文の絵図にある伊達安房は、政宗九男で成実の養子に入った亙理伊達家2代当主の宗実の通称である。「仙台北城下絵図」（第3図-3）では、津田民部（虎の間:500貫文、津田民部春康。伊達騒動で処問された津田玄藩の弟）、大嶋良設（召出:50貫文、四郎左衛門仲施）南十工門（召出:37貫415文、十右衛門良重）の名が見られる。元禄4・5年（1691・1692）の「仙台北城下五疊掛絵図」（第



1. 正保2・3年(1645・1646)『奥州仙台北城下絵図』 高橋報忠会所蔵



2. 寛文4年(1664)『仙台北城下絵図』 宮城県図書館所蔵



3. 延宝9年～天和年間(1681～1683)『仙台北城下絵図』仙台市歴史民俗資料館所蔵



4. 元禄4・5年(1691・1692)『仙台北城下五疊掛絵図』 高橋報忠会所蔵

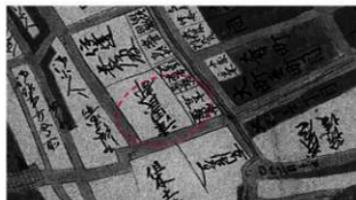
第3図 絵図(1) (〰️は調査区推定範囲) (高倉ほか1994・2005)

3図-4)では引き続き津田民部、大嶋良設、伊達安房の名のほか猪又立順(格式不明:15頁文)が居している。享保9年(1724)の「仙台城下絵図」(第4図-5)では津田民部、伊達安房のほか、常磐玄与(内科医:150俵。玄與定倉。巨理氏家臣の大内縫殿の次男玄椿素行は、医学を岡本玄治に学び、玄與はその2代目となる。)の名が見られる。宝暦10~明和3年(1760~1766)「仙台城下絵図」(第4図-6)では津田民部の名がなくなり、古内要人(着座:704貫223文。要人広富)の名が現れ、これ以降初代岩沼市長を務める古内広直まで古内家が当地を拝領することになる。また、佐藤平八郎の名があるが詳細は不明である。天明6~寛政元年(1781~1789)の「仙台城下絵図」(第4図-7)では古内要人の名が見られるが、古内屋敷の東側は空き地となっている。

安政3~6年(1856~1859)の「安政補正改革仙府絵図」(第4図-8)では古内左近介(左近之介直:戊辰戦争後中嶋屋敷に移り、岩沼町長、初代岩沼市長を勤める)、大内縫殿(一族:139貫777文。縫殿義門。慶邦奉行を務める)、伊達藤五郎(13代藤五郎邦実もしくは14代邦成と思われる)が、当地を拝領していたようである。

2 近代から現代

戊辰戦争後の版籍奉還に伴い、武家地は新政府に没収され、当屋敷地は広瀬川を見下ろす景勝地として櫻岡大神宮、芝居小屋などが設置されていく。その後、明治6年(1873)1月15日の「公園開設に関する太政官布達」によって明治8年(1875)6月に桜ヶ岡公園が開園された。公園内に建てられた主な施設として和洋料亭「挾翠館」が挙げられる(第5図-12)。これは、明治19年(1886)に針生惣助により建てられたとされている。「挾翠館」は仙台の西洋文化の中心的な施設の一つであったと考えられ、板垣退助や尾崎行雄などの著名人の演説会が、催されたという記録も残っている。なお、「挾翠館」は、明治42年(1909)には仙台市が買収し、公会堂の一部としたが、昭和20年(1945)の仙台大空襲で焼失している。また、昭和3年(1928)には、当地が仙台市商工会主催による「東北産業博覧会」の会場となり、多くのパビリオンが設けられた(第5図-13)。昭和30年(1955)には市民からの寄付により、仙台市天文台が開台した。翌年に仙台市に寄贈され市の施設となった。この仙台市天文台は、平成20年(2008)東西線建設事業により解体・撤去され50年の歴史に幕を閉じた。



5. 享保9年(1724)以降「仙台城下絵図」

東北歴史博物館所蔵



6. 宝暦10~明和3年(1760~1766)「仙台城下絵図」

斎藤報忠会所蔵



7. 天明6~寛政元年(1781~1789)「仙台城下絵図」

仙台市博物館所蔵



8. 安政3~6年(1856~1859)「安政補正改革仙府絵図」

(戦災消失)

第4図 絵図(2)(---は調査区推定範囲)(高倉ほか1994・2005)

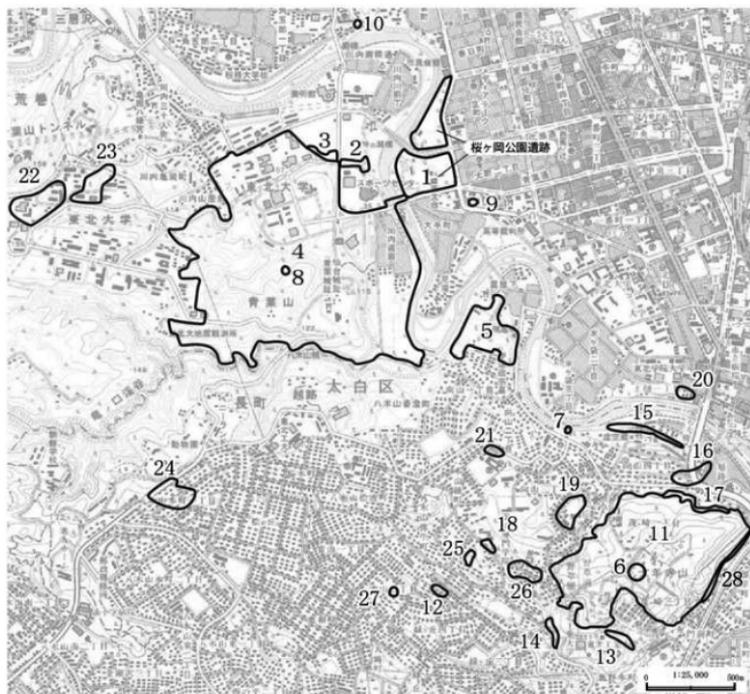
第2節 歴史的環境

3 これまでの発掘調査

本調査区から北側に約60m離れた野球場（第1図）と、その周辺では、桜ヶ岡公園遺跡2次調査（仙台市2007b）、3次調査（仙台市2008）、4次調査（仙台市2010）が行われている。それぞれの調査とも、調査面積が狭く、攪乱により削平されている箇所も多いため、明確に近世といえる遺構の検出は乏しい。そのため、両調査とも遺跡の全体像の把握までには至っていないが、注目すべき点として、2次調査の11トレンチと16トレンチで検出した2基の礎石が示す礎石建物の可能性と、3次調査の調査区№21における陶磁器、土師質土器、瓦質土器、銅製品、ベツ甲製品等、多種多様な遺物の出土等があげられる。各調査区出土の遺物の帰属年代は16世紀末～19世紀（幕末）を示しており、遺物の数量比から、主体となる年代は、ともに、18～19世紀代と考えられる。なお、これら調査区のある野球場と、その周辺は前述の伊達安房の拝領地にあたり、遺構と遺物はそれに関連する可能性がある。既調査の出土遺物の年代、武家屋敷地の屋敷割などの成果は、本調査区を含めた近世の桜ヶ岡公園周辺の景観復元を行うにあたり重要な資料といえよう。



第5図 絵図(3) (○は調査区推定範囲) (高倉ほか1994・2005)



第6図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名称	時代	所在地	性格	番号	遺跡名称	時代	所在地	性格
1	桜ヶ岡公園遺跡	縄文・近世	青葉区桜ヶ岡公園	武家屋敷、散布地	16	愛宕山横穴墓群B・C地点	古墳・奈良	太白区向山4丁目他	横穴墓
2	川内A遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山2丁目	武家屋敷、散布地	17	大森三山横穴墓群	古墳	太白区向山4丁目	横穴墓
3	川内B遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山	武家屋敷	18	八木山山頂遺跡	弥生・奈良・平安	太白区八木山山頂	集落跡
4	仙舟跡	中世・近世	青葉区川内・荒巻	城跡跡	19	松ヶ丘遺跡	縄文晩・奈良・平安	太白区松ヶ丘	散布地
5	餅ヶ塚伊達家墓所	近世	青葉区室屋下	墓所	20	土樋遺跡	縄文	青葉区土樋1丁目	散布地
6	大年寺跡	近世	太白区茂ヶ崎1丁目	墓所	21	向山高表遺跡	縄文中期	太白区八木山山頂	散布地
7	拉徳寺砦跡	中世	青葉区向山2丁目	砦跡	22	青葉山北遺跡	縄文中・中・晩	青葉区院巻字青葉	包圍地
8	川内古砦跡	中世	青葉区川内・荒巻	砦跡	23	青葉山B遺跡	縄文中・中・晩	青葉区院巻字青葉	包圍地
9	古平山古砦跡の北碑	中世	青葉区古平1丁目	砦跡	24	松ヶ丘遺跡	縄文	太白区八木山山本町1丁目	散布地
10	殿不動尊文太十年砦碑	中世	青葉区区郷1丁目	砦跡	25	二ツ沢遺跡	縄文	太白区院巻字青葉	散布地
11	茂ヶ崎城跡	中世	太白区茂ヶ崎1丁目他	城跡跡	26	松ヶ丘B遺跡	縄文	太白区院巻字青葉	散布地
12	青山二丁目遺跡	奈良・平安	太白区青山2丁目	散布地	27	青山二丁目B遺跡	旧石器・縄文	太白区青山2丁目	散布地
13	茂ヶ崎横穴墓群	古墳・奈良	太白区二ツ沢	横穴墓	28	杉土手	近世	太白区茂ヶ崎3丁目他	跡跡土手
14	二ツ沢横穴墓群	古墳	太白区二ツ沢	横穴墓					
15	愛宕山横穴墓群A地点	古墳	太白区向山4丁目他	横穴墓					

第1表 遺跡地名表

第3章 調査方法

第1節 調査方法

1 現地調査

掘削作業は、公園に植栽されていた桜の伐採作業終了の後、現地表である公園広場の盛土層（1層）を重機で除去し、以下は人力掘削にて調査を実施した。調査は作業工程上3地区に分け、それぞれの調査区を、交番部、大銀杏部、トンネル駅部と呼称した（第7図）。

計測作業は、日本測地系座標に基づいて設置された基準点から、今回調査に使用可能な位置に新点を設置し、グリッドの設定及び、遺構の計測・遺物出土地点の計測を行った。使用機材はトータルステーション:TOPCON社 GPT7000、電子平板:福井コンピュータ社 BlueTrend V を使用し、必要に応じてクラボウ社製の三次元写真計測システム:KuravesG を使用して図面の作成を実施した。

写真撮影は、作業開始前、遺構検出状況、土層断面、遺物出土状況、遺構完掘状況、全景写真を35mm一眼レフカメラを使用してカラーリバーサル及びモノクロの2種類のフィルムで撮影した。また、補助として500万画素以上のデジタルカメラで、調査写真と同一カットのほか、作業状況等を撮影し、調査日記に添付するなどして日々変化する遺跡の状況を記録した。また、調査区的全景撮影は遺構検出状況及び完掘状況を、20mの高所作業車を使用して撮影を行った。

2 整理作業

出土遺物は、調査区毎に1番から取り上げ番号を付し、遺物カードに調査区・出土地点（グリッド・遺構 No.）・層位・内容・出土年月日等の情報を記載した。

整理作業では、出土遺物を水洗し十分乾燥させた後、遺物カードの内容を注記し、接合を行った。注記の内容は、遺跡番号(01562)・調査次数(1)・調査区略号(1:交番部 2:大銀杏部 3:駅部I区 4:駅部II区)・出土地点(遺構名)・取り上げ番号の順に記載した。破片の接合には、セメダインC及びバラロイドB72を使用した。接合作業後、遺物の器種、産地等を分類しながら破片数を数え、出土遺構や土層の性格を判断できる主要遺物を抽出し、遺物の登録を実施した。欠損部の充填・復元が必要なものは、ブライトン、モビニール、エレホン等の樹脂を用いた。遺物写真は、1000万画素級のデジタル一眼レフカメラを用いて、正面のほか、見込み、高台内文様等必要に応じて数方向からの撮影を実施した。遺物実測は、外形及び断面を従来手法で実測し、デジタルトレースする際に、並行してオルソイメージャー（完全正射影・深焦点撮影システム）を使用して得られた、染付や文様等を画像処理して重ね合わせ、遺物図を作成した。遺物のデジタルトレース及び編集には Adobe 社製 Illustrator を、画像処理には同社の PhotoShop を使用した。

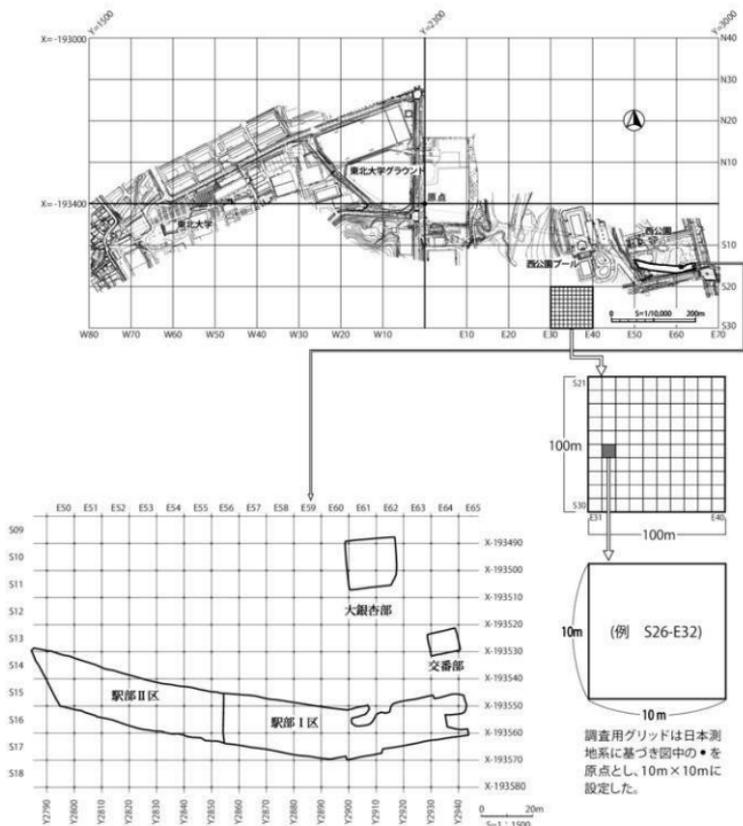
遺構平面図・断面図は、現場で計測・描画した図面データを Adobe 社製 Illustrator で編集・調整を行い作成した。また、遺構・遺物の図版、写真図版のレイアウト及び報告書の編集作業には Adobe 社製 Indesign を使用した。

3 遺構名称について

遺構番号は調査区毎・遺構種別毎に検出順に1番から通し番号を付した。遺構の種類を表す略号は凡例に示したとおりである。

第2節 調査区グリッドの設定

高速鉄道東西線計画路線に係わる青葉山地区、川内地区、西公園地区の全域を網羅するグリッドが既に設定されており、今回の調査もそのグリッドに準拠して調査を実施した。日本測地系 X=193400m、Y=23000m の座標点を原点として、10m 単位の方眼を設定し、東西南北それぞれの方向へ E1・S2・N1・N2 というように方位記号と番号を付した。S-N 方向の番号と E-W 方向の番号 2 つを組み合わせ、N1-W6 といったようなグリッド名とした。



第7図 グリッド設定図

第4章 基本層序

基本層序は、大別でⅠ～Ⅵの6層、細別では13層が確認された。

Ⅰ層は、桜ヶ岡公園の造成時に盛土された客土と空襲の焦土や瓦礫を含む層で2層に細別される。Ⅰa層はオリブ褐色の砂質シルトからなる桜ヶ岡公園の戦後に造成された客土である。調査区の東側にかけて堆積し、層厚は10～30cmを測る。上面は現代の造成工事により大幅に削平されている箇所がみられる。Ⅰb層はオリブ褐色の砂質シルト層からなり、レンガ、コンクリート片、ガラス片、鉄屑、炭化物などを多量に含む。出土した遺物の年代等から戦前に盛土・整地された層と考えられる。Ⅰa層と同様に調査区の東側にかけて堆積し、層厚は20～40cmを測る。

Ⅱ層は、近世(18世紀中頃～19世紀初頭)の盛土・整地層と考えられる層である。黒褐色の砂質シルト層で、細礫・炭化物(径0.5～1cm)を少量含む。調査区の全域に堆積しているが、例外的に調査区中央部は近代以降の著しい削平を受けており、これの堆積を確認することはできなかった。層厚は5～45cmを測る。

Ⅲ層は、近世(17世紀中頃～18世紀中頃)の盛土・整地層と考えられる層でa・b・cの3層に細別される。Ⅲa層は黒色の粘土質シルト層で、まだらに暗オリブ褐色土を少量混入し、径1cm程の小礫を含む。調査区の全域に堆積し、層厚は5～10cmを測る。Ⅲb層はオリブ黒色の粘土質シルト層で、径1cm程の小礫を含む。調査区の東側に堆積し、層厚は5～10cmを測る。Ⅲc層は暗褐色の砂質シルト層で、径3～5cmの礫を少量含む。調査区の全域に堆積し、層厚は5～10cmを測る。なお、Ⅲ層は屋敷地開発に伴う樹木等の抜根の際に生じた凹凸を平らに整地する層としても考えることができる。

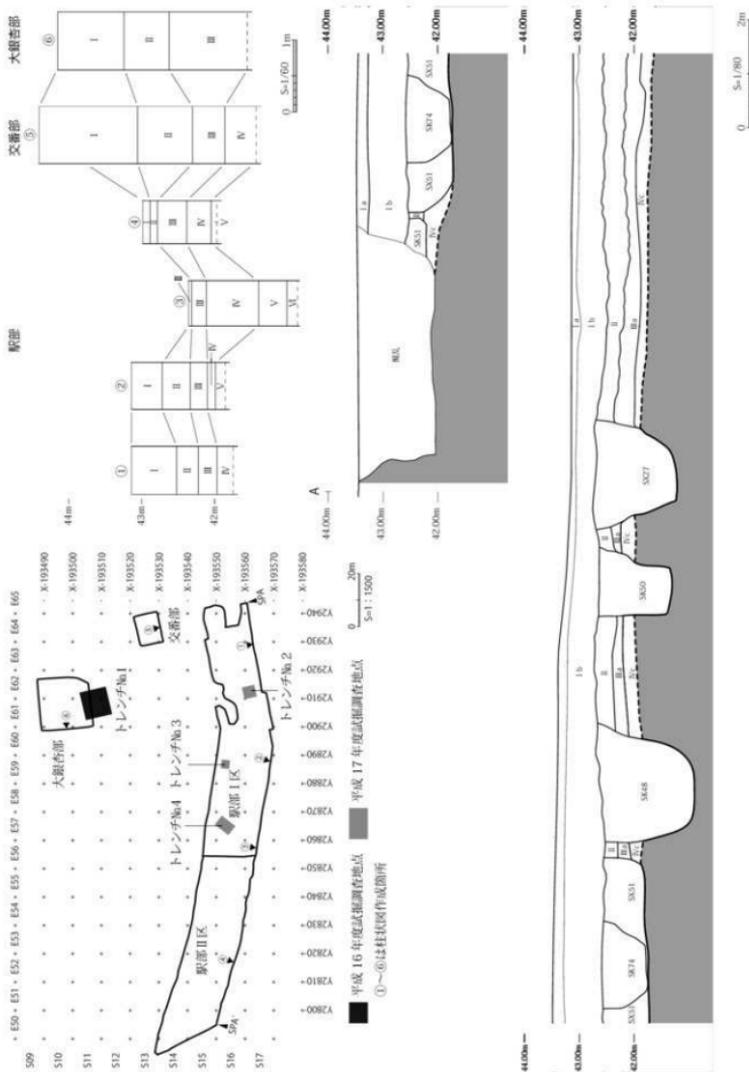
Ⅳ層は、自然堆積層でa・b・c・dの4層に細別される。Ⅳa層は青黒色の粘土質シルト層で小礫を含む。調査区の東半分には堆積し、層厚は5～25cmを測る。Ⅳb層は黒色の粘土質シルト層で小礫を含む。調査区の東半分には堆積し、層厚は10～25cmを測る。Ⅳc層は黒色の粘土質シルト層で少量の細礫、磨耗が著しく、型式が判別不能な縄文土器の破片、石器(剥片)、被熱した礫を含む。Ⅳd層は黒褐色の粘土質シルト層で、Ⅳc層の土がまだらに混在する。Ⅴ層との漸位層と考えられる。

Ⅴ層は、自然堆積層で所謂、ローム層である。これは、2層に細分される。Ⅴa層は暗褐色の粘土質シルト層で1～3mmの砂粒を微量に含む。調査区の東半分には堆積し、層厚は20～30cmを測る。Ⅴb層は暗褐色の砂質シルト層で1mm程度の砂粒を多量に含む。調査区の東端部周辺で、標高が低い箇所のみ堆積する。層厚は5cm～20cmを測る。

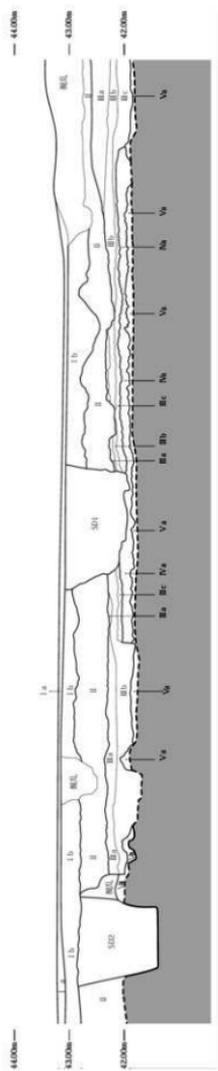
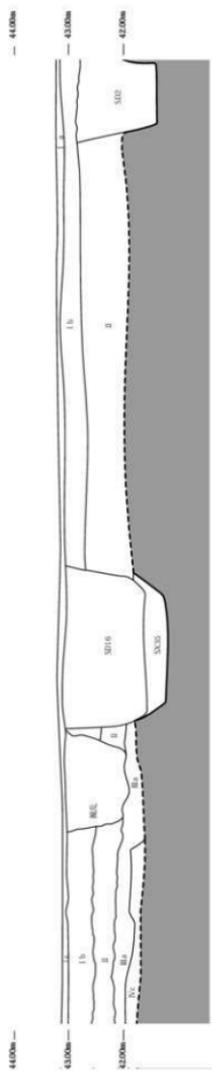
Ⅵ層は、自然堆積層としての段丘礫層である。径5～10cmの礫で構成される。調査区全域に堆積している。重機による基本層の断削り確認で2m以上の層厚を確認したが、掘り抜くことは出来なかった。

層名	土色	土質	粘性	しまり	備 考	
Ⅰa	2.5Y4/4	オリブ褐色	砂質シルト	なし	なし	瓦礫・レンガ等多量。近代盛土層。
Ⅰb	2.5Y4/4	オリブ褐色	砂質シルト	なし	なし	瓦礫・レンガ等多量。近代盛土層。炭土含む。
Ⅱ	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径5～10mmの炭化物多量。径1～2cm程度の礫少量。
Ⅲa	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	あり	あり	2.5Y3/3暗オリブ褐色まだらに含む。シルト粒少量。径1cm程の小礫を含む。
Ⅲb	5Y2/2	オリブ黒色	粘土質シルト	あり	あり	径5～10mmの2.5Y3/3暗オリブ褐色。シルト粒多量。径1cm程の小礫を含む。
Ⅲc	10YR3/1	暗褐色	砂質シルト	あり	あり	2.5Y2/1黒色シルトとの混合土。径3～5cmの礫を少量含む。
Ⅳa	5P8/2	青黒色	粘土質シルト	あり	あり	径1mm以下の10YR3/3暗褐色シルト粘礫少量。径1cm程の小礫を含む。
Ⅳb	7.5YR2/1	黒色	粘土質シルト	あり	あり	10YR2/1黒色シルト少量。粘質強。
Ⅳc	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	あり	あり	径1mm以下の10YR3/3暗褐色シルト粘礫少量。粘性強。
Ⅳd	10YR2/1	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	10YR3/3暗褐色粘土質シルトが段丘に混在する層。
Ⅴa	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	径1～3mmの礫。小礫少量。白色シルト粒少量。
Ⅴb	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	径約1mmの砂粒主体の層。
Ⅵ	10YR3/4	暗褐色	礫層	なし	なし	段丘礫層。径5～10cmの礫多量。粘性では径10～50cmの礫多量。

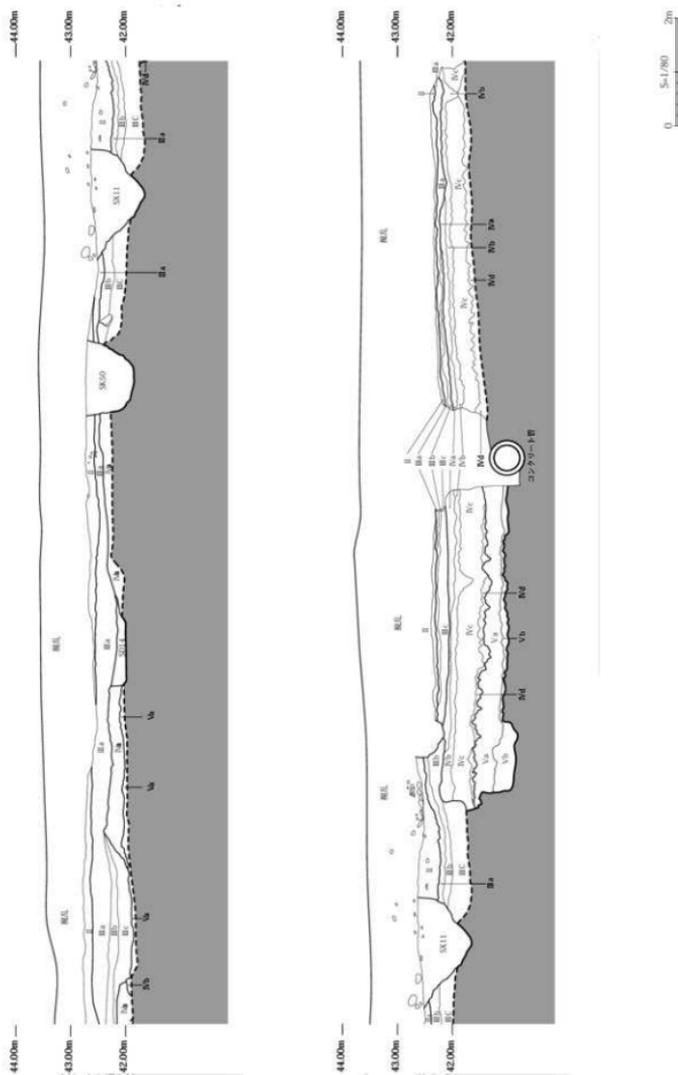
第2表 調査区基本土層注記表



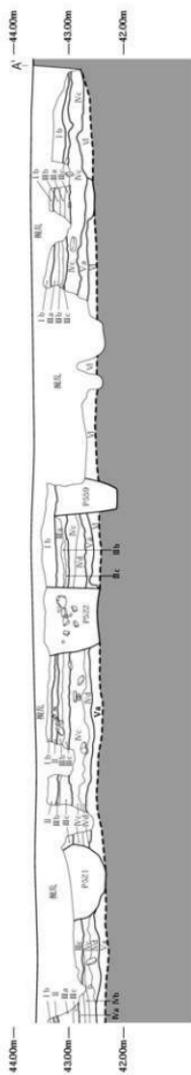
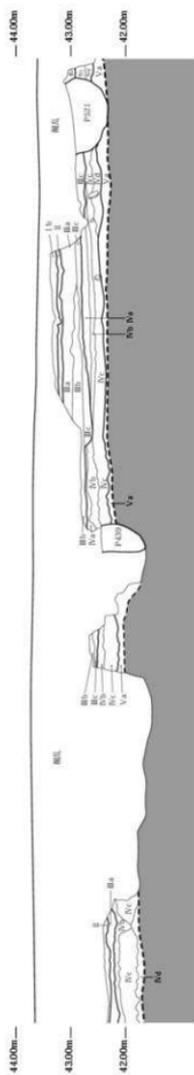
第8図 土層断面図作成位置図・柱状図・基本土層図(1)



第 9 图 基本土层图 (2)



第10図 基本土層図(3)



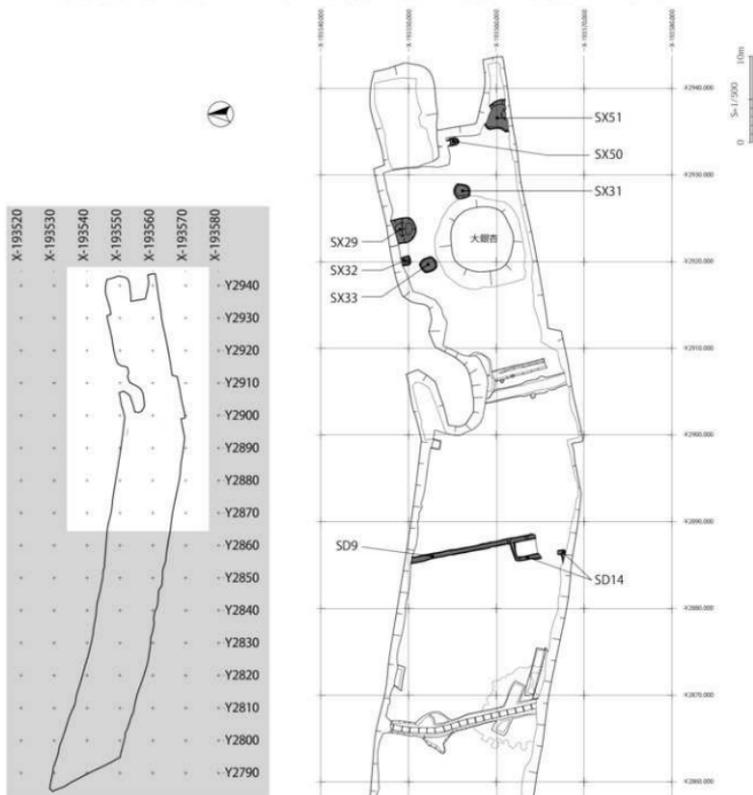
第 11 图 基本土層图 (4)

第5章 検出遺構と遺物

第1節 駅部

1 IV a層上面検出遺構

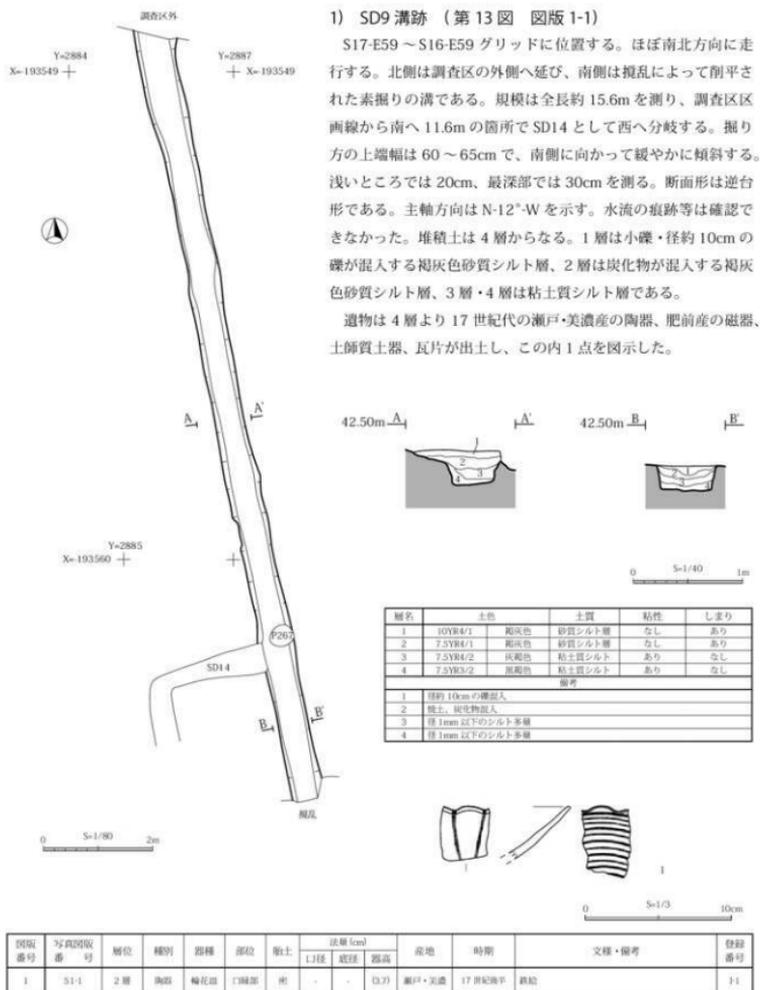
IV a層上面で検出された遺構は、溝が2条、性格不明遺構が6基である。IV a層は自然堆積層で、本遺跡の遺構検出面としては最下面である。検出した遺構は性格不明のものが大半でⅢ a層で検出した掘立柱建物跡などはみられない。検出面は著しく凹凸がみられる。また、遺構から出土した遺物は17世紀代のものが多い。



第12図 IV a層上面遺構配置図

第1節 駅部

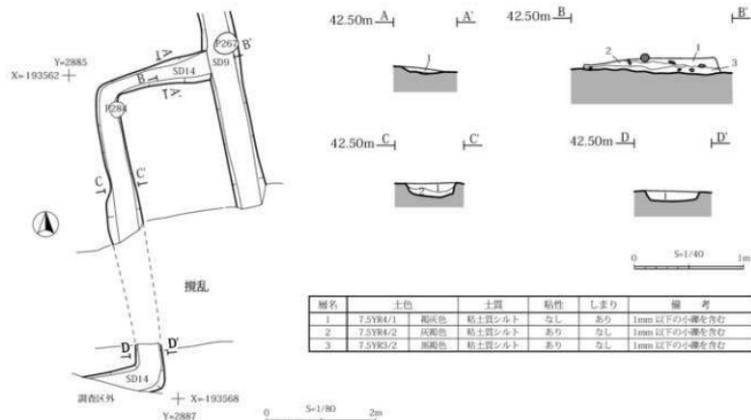
(1) 溝跡



第13図 SD9 溝跡平面図・断面図・出土遺物

2) SD14 溝跡 (第14図 図版1-2)

S16-E59～S17-E59 グリッドに位置する。クランク状を呈する素掘りの溝である。南側を一部覆乱によって寸断される。規模は全長約9.2mを測り、上端幅は45～60cmで、深さは10cmを測る。SD9から分岐し、西方向へ2m進んだ箇所でも南向方へ90度折れ曲がり、SD9と並走しながら南向方に5.6m進んだ箇所でも、さらに西方向に90度屈折し、調査区外へ延びる。底面は平坦をなし、壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。主軸方向はN-10°-Wを示す。水流の痕跡は確認できなかった。堆積土は、1mm以下の小礫を少量含む粘土質シルトの3層からなる。遺物は出土していない。



第14図 SD14 溝跡平面図・断面図

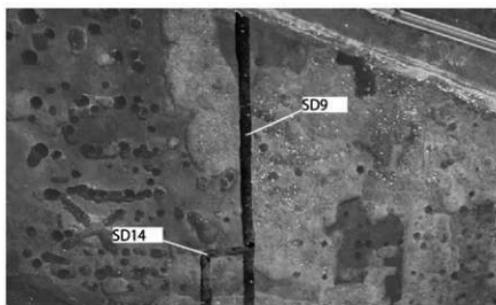


写真2 SD9・14 溝跡検出状況(南から)

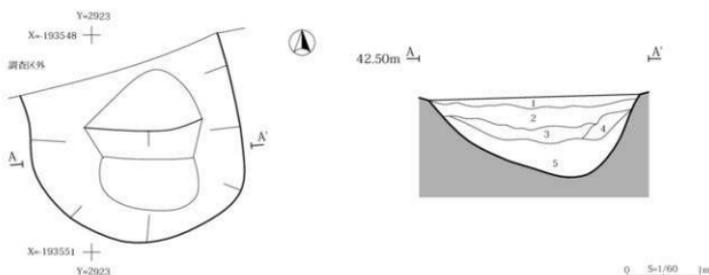
第1節 駅部

(2) 性格不明遺構

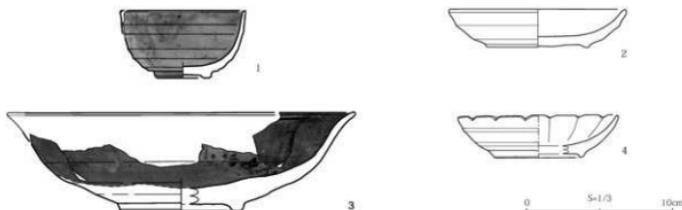
1) SX29 性格不明遺構 (第15・16図 図版1-3)

S16-E63 グリッドに位置し、北側が調査区外へ延びる。規模は長軸2.9m、短軸2.45m、深さ1.16mを測る。平面形は不明で、底面は北側がテラス状になり、断面形は開いたU字状を呈する。壁面は、南側から北側にかけて緩やかに立ち上がる。堆積土はいずれも砂質シルト層で5層からなる。1層は植物根が混入した層、2層は径2～3cmの礫を少量含む層、3層は径2～10cmの礫を少量含む層、4層は径2～5cmの礫を少量含む層、5層は径約10cmの礫を少量含む層である。

遺物は2～3層より17世紀代の瀬戸・美濃産および唐津産の陶器、17世紀～18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内5点を図示した。

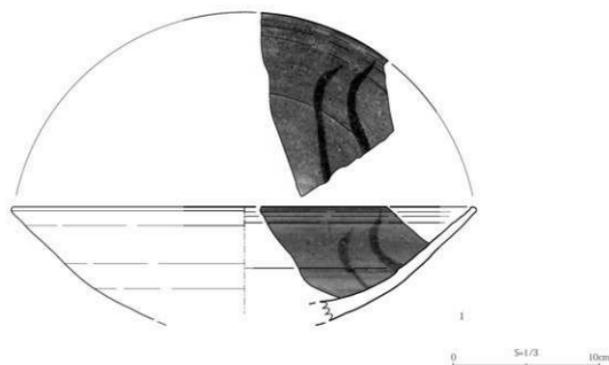


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	なし	あり	根混入層
2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	なし	あり	径2～3cmの礫少量
3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	なし	なし	径2～4cmの礫少量、径約10cmの礫少量
4	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径2～5cmの礫少量
5	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径約10cmの礫少量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	土質	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	51-2	2層	陶器	碗	口縁～底部	密	8.6	3.8	4.6	瀬戸・美濃	17世紀	白濁輪	1-2
2	51-4	2層	陶器	皿	口縁～底部	密	12.1	7	2.7	志野	17世紀後半	二次焼結	1-3
3	51-5	2層	陶器	皿	口縁～底部	密	22.1	8.4	6.8	唐津	17世紀	黒灰輪	1-4
4	51-6	2層	陶器	輪花皿	口縁～底部	用 (1)	10	10	3	志野	17世紀後半	輪花	1-5

第15図 SX29 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)



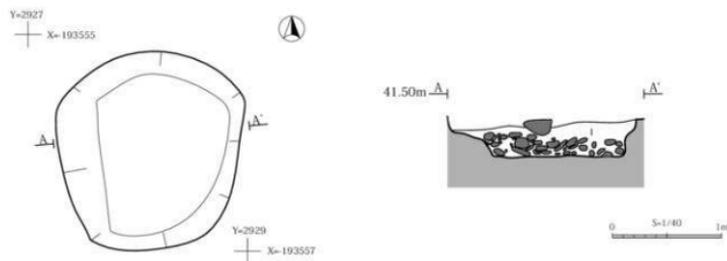
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土所	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	51-3	3層	陶版	皿	口縁～体部	所	31.8	11.6	7.9	唐津	17世紀	鉄絵? 草文	16

第16図 SX29 性格不明遺構出土遺物(2)

2) SX31 性格不明遺構 (第17～19図 図版1-4)

S13-E63 グリッド、大銀杏東側の根元に位置する。規模は、長軸 1.83m、短軸 1.7m、深さ 33cm を測る。平面形は主軸方向 N-5°-W を示す楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトからなり、人為的に埋められたものと考えられる。堆積土中には多量の自然礫が確認された。自然礫の寸法は長軸 10～25cm、幅 5～10cm、厚さ 10～15cm の扁平なものである。

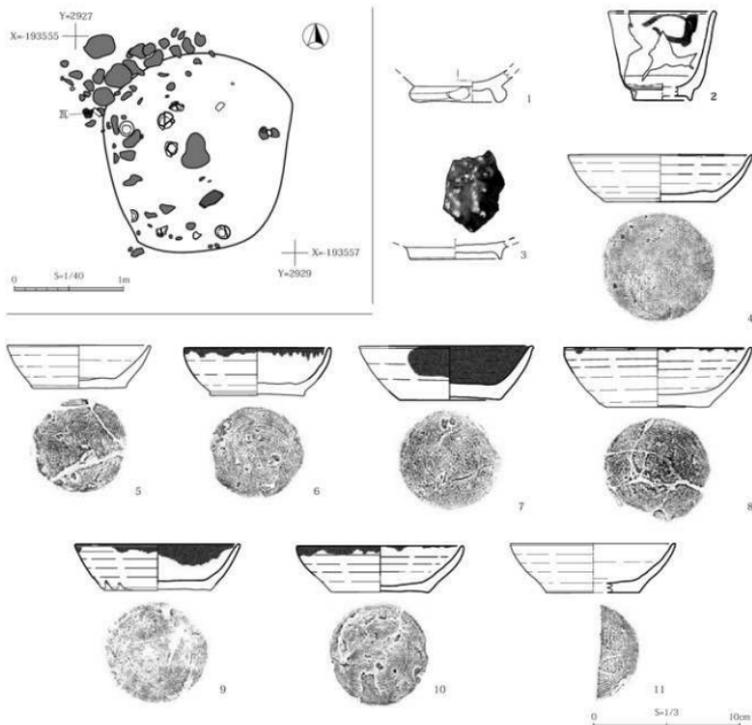
遺物は 17 世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、17 世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、軒丸瓦片、水晶片、・在地産の瓦質土器の小片が出土し、この内 14 点を図示した。



種名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/3	粘褐色	粘土質シルト	あり	あり

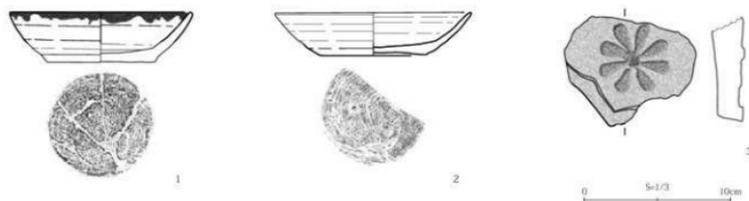
第17図 SX31 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	粘土	寸法 (cm)			発地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	51-7	2層	陶器	碗	底部～ 肩部	黒	-	5.8	2.3	兼戸・元遺	17世紀後半		I-7
2	51-8	2層	陶器	碗	「胴～ 底部	黒	7.4	4	6.2	兼戸・元遺	17世紀後半	鉄胎	I-8
3	51-9	2層	陶器	皿	底部	黒	-	6.3	(1.4)	兼戸・元遺	17世紀後半	鐵胎輪	I-9
4	51-12	2層	土師器 土器	かわらけ	「胴～ 底部	黒	12.7	7.5	3.3	在地	17世紀?		I-216
5	52-8	2層	土師器 土器	かわらけ	「胴～ 底部	黒	9.8	6.5	3	在地	17世紀?		I-217
6	52-3	2層	土師器 土器	かわらけ	「胴～ 底部	黒	10	6.5	3.4	在地	17世紀?	油煙付着	I-218
7	52-9	2層	土師器 土器	かわらけ	「胴～ 底部	黒	12	7	3.8	在地	17世紀?	油煙付着	I-219
8	52-7	2層	土師器 土器	かわらけ	「胴～ 底部	黒	13.1	7.1	4.2	在地	17世紀?	油煙付着	I-220
9	52-2	2層	土師器 土器	かわらけ	「胴～ 底部	黒	11.4	7.2	3.2	在地	17世紀?	油煙付着	I-221
10	52-1	2層	土師器 土器	かわらけ	「胴～ 底部	黒	11.5	6.5	3.2	在地	17世紀?	油煙付着	I-222
11	51-10	2層	土師器 土器	かわらけ	「胴～ 底部	黒	11.3	6.9	3.4	在地	17世紀?		I-223

第18図 SX31 性格不明遺構遺物出土状況・出土遺物(1)



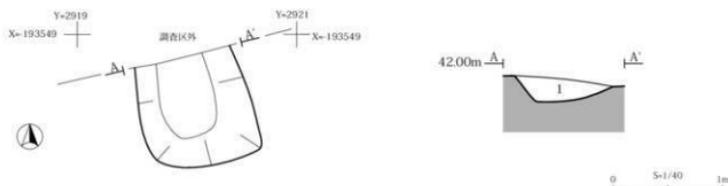
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号	
							口径	底径	器高					
1	52-4	2層	土師質土器	かわらけ	縁部～底面	赤	7.4	12.6	3.5	在野	17世紀	陶器付着	I-224	
2	53-1	2層	土師質土器	かわらけ	口縁～底面	赤	7.3	13.5	3	在野	17世紀		I-225	
図版番号	写真図版番号	層位	種別	法量 (cm)			備考						登録番号	
3	53-2	2層	滴水土瓦	2	長さ	幅	厚さ							H-1

第19図 SX31 性格不明遺構出土遺物(2)

3) SX32 性格不明遺構 (第20図 図版1-5)

S16-E63 グリッドに位置し、北側が調査区の外側へ延びる。確認された規模は、長軸 1.02m、短軸 1.02m、深さ 24cm を測る。平面形は不明で、底面は外側に向かって緩やかに開き、断面形は開いた逆台形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器小片、土師質土器が出土し、この内 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	深 10～20cm の硬多層



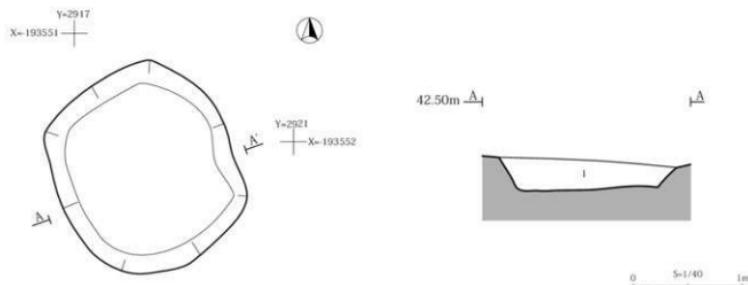
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	53-5	1層	土師質土器	かわらけ	口縁～底面	赤	11.6	7.5	3.2	在野	17世紀?	陶器付着	I-226

第20図 SX32 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

4) SX33 性格不明遺構 (第21図 図版2-1)

S16-E63 グリッドに位置する。規模は、長軸 1.85m、短軸 1.67m、深さ 32cm を測る。平面形は主軸方向 N-30°-W を示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



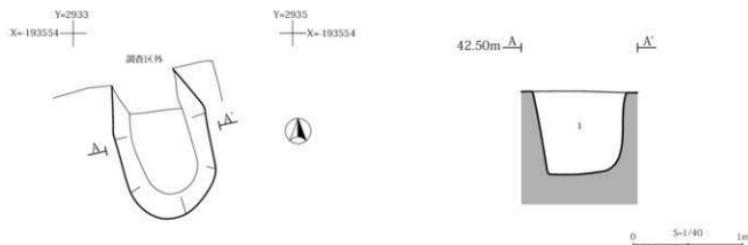
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	厚 2～3cm の薄層少量。粘土粒数極少

第21図 SX33 性格不明遺構平面図・断面図

5) SX50 性格不明遺構 (第22図 図版2-2)

S16-E64 グリッドに位置する。北側が調査区外へ延びる。規模は、長軸 1m、短軸 86cm、深さ 76cm を測る。平面形は主軸方向 N-15°-W を示す楕円形と考えられる、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は灰褐色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



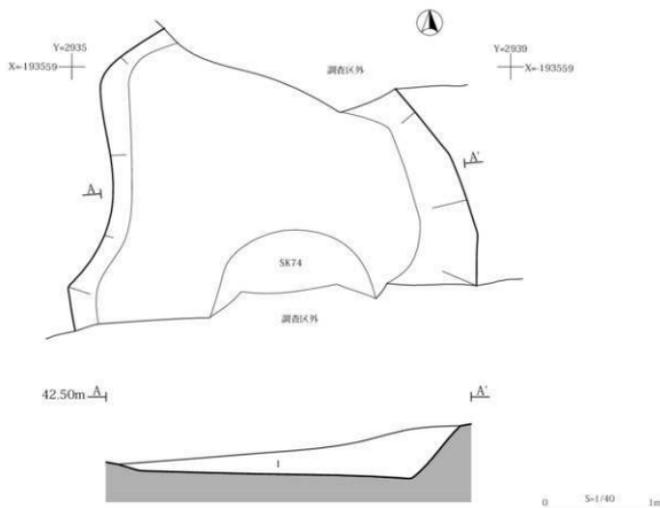
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5YR5/2	灰褐色	砂質シルト	あり	厚 1cm～3cm の小塊を少量含む

第22図 SX50 性格不明遺構平面図・断面図

6) SX51 性格不明遺構 (第23図 図版2-3~4)

S17-E64 グリッドに位置する。南北両側が調査区外へ延び、SK74と重複しており、SX51が古い。規模は、長軸3.76m、短軸2.7m、深さ51cmを測る。平面形は長軸方向N-82°Eを示す不整形で、底面は平坦で、断面形は逆台形である。西壁は攪乱によって削平されているため、不明瞭である。堆積土は暗赤褐色砂質シルトの単層である。

遺物は17世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、土師質土器、瓦片が出土し、この内2点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	なし	あり	径2~3cmの遺物少量、粘土粒数多



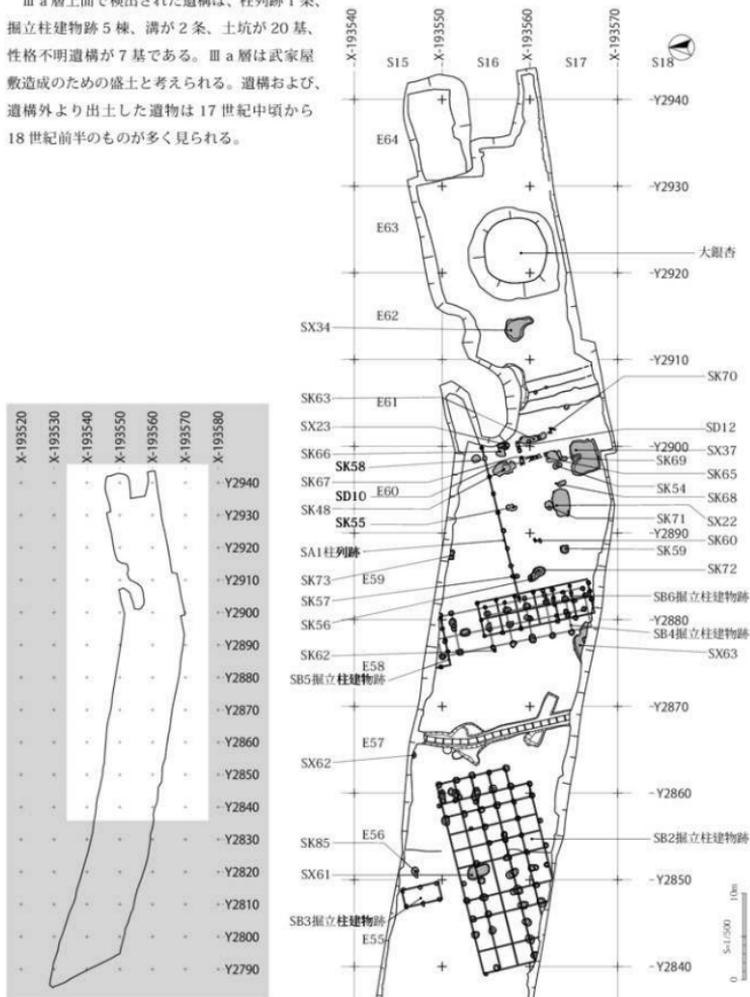
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	径 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	53-6	1層	陶器	かわらけ	底部	密	-	3.4	1.39	各地	不明		1-10
2	53-7	1層	陶器	鉢	体部	密	-	3.09		瀬戸・美濃	17世紀前半	内面無施	1-11

第23図 SX51 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

2 III a 層上面検出遺構とIII層出土遺物

III a 層上面で検出された遺構は、柱列跡1条、掘立柱建物跡5棟、溝が2条、土坑が20基、性格不明遺構が7基である。III a 層は武家屋敷造成のための盛土と考えられる。遺構および、遺構外より出土した遺物は17世紀中頃から18世紀前半のものが多く見られる。



第24図 III層上面遺構配置図

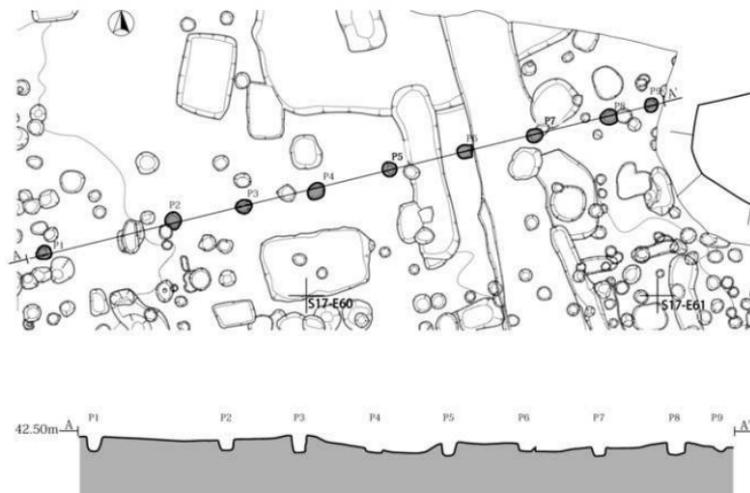
(1) 柱列跡

1) SA1 柱列跡 (第25図 図版3-1)

S16-E59～E61グリッドに位置する。東西方向に直線的に並ぶ9基の柱穴からなる。

規模は長さ12.8mである。柱間寸法は西端から3.75m(12尺4寸)・2m(6尺6寸)・2.1m(6尺9寸)・2.3m(7尺5寸)・2.2m(7尺2寸)・2.1m(6尺9寸)・2.2m(7尺2寸)・1.25m(4尺1寸)を測る。主軸方向はN-77°-Eを示す。東側は調査区外へ延びる可能性がある。

掘り方の規模は径46～54cm、深さ10～70cmを測る。各柱穴の平面形は不整形～不整楕円形で断面形は逆台形である。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも1～3cmの小礫を含む粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。



PTT No.	径 (cm)	深さ (cm)	断面形状	土色
P1	0.46	0.39	U字形	10YR3/3 暗褐色
P2	0.51	0.25	U字形	10YR3/4 暗褐色
P3	0.46	0.9	逆台形	7.5Y2/1 黒色
P4	0.54	0.11	楕円形	10YR3/2 暗褐色
P5	0.43	0.4	U字形	10YR3/1 暗褐色
P6	0.45	0.7	逆台形	10YR3/1 暗褐色
P7	0.46	0.24	U字形	10YR2/3 暗褐色
P8	0.51	0.31	U字形	7.5YR2/1 黒色
P9	0.43	0.15	楕円形	10YR2/2 暗褐色

第3表 SA1 柱穴観察表

第25図 SA1 柱列跡平面図・断面図

第1節 駅部

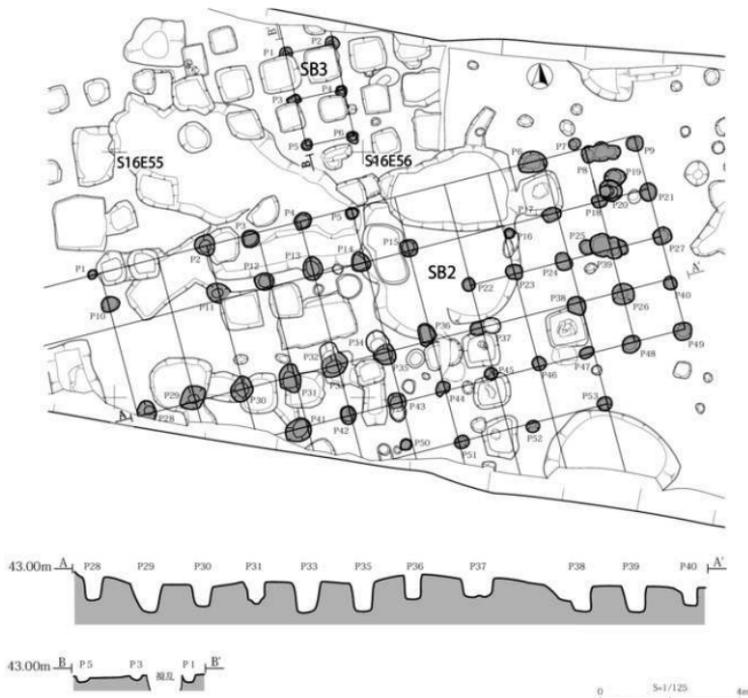
(2) 掘立柱建物跡

1) SB2 掘立柱建物跡 (第26・27図 図版3-2)

S16-E55～S17-E57グリッドに位置する。上面は近代の建物(SB1)、桜の根などにより著しく攪乱され、柱穴が部分的に失われている可能性が高いこと、及び当該遺構の南西隅が調査区外に広がるため建物規模・構造の詳細は不明な部分がある。

桁行検出長 21.8m(11間)、梁行検出長 14m(5間)を測る東柱を有する東西棟である。柱間寸法は桁行方向、梁行方向ともに平均2.1m(6尺9寸)を測り、主軸方向はN-77°-Eである。平面形は、不整形円形もしくは楕円形で、断面形は逆台形であるものが多い。各柱穴の規模は径0.4～1.17m、深さ0.08～0.87mを測る。また、柱穴脇に柱の抜取穴と考えられる痕跡を数基の柱穴で確認した。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトからなり径1～5mmの礫を少量含む。

遺物はP6より17世紀代の肥前産の陶器が1点出土し、これを図示した。



第26図 SB2・SB3 掘立柱建物跡平面図・断面図

SB2 表中の■は採取が確認されたもの

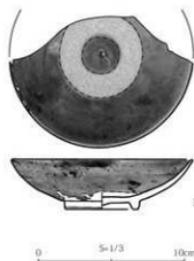
PTI No.	径 (cm)	深さ (cm)	断面形状	土色	
P1	0.41	0.31	逆台形	10YR2/2	黒褐色
P2	0.88	0.44	逆台形	10YR2/2	黒褐色
P3	0.71	0.53	逆台形	10YR4/1	褐色
P4	0.78	0.28	逆台形	2.5Y2/1	黒色
P5	0.53	0.21	圓形	10YR2/2	黒褐色
P6	1.17	0.65	逆台形	7.5YR2/1	黒色
P7	0.50	0.24	逆台形	7.5YR2/1	黒色
P8	0.79	0.32	逆台形	10YR3/1	黒褐色
P9	0.69	0.35	逆台形	7.5YR2/1	黒色
P10	0.70	0.36	逆台形	7.5YR2/2	黒褐色
P11	0.85	0.74	逆台形	10YR4/2	灰黄褐色
P12	0.76	0.83	逆台形	10YR3/1	黒褐色
P13	0.96	0.82	逆台形	10YR1.2/1	黒色
P14	0.86	0.31	逆台形	5YR2/1	黄褐色
P15	0.70	0.36	逆台形	7.5YR2/2	黒褐色
P16	0.40	0.08	圓形	10YR3/3	暗褐色
P17	0.76	0.80	逆台形	5Y2/1	黒色
P18	0.55	0.24	圓形	10YR2/1	黒色
P19	0.88	0.24	圓形	10YR3/4	暗褐色
P20	0.94	0.87	逆台形	10YR2/3	黒褐色
P21	0.75	0.24	圓形	7.5YR2/1	黒色
P22	0.56	0.32	逆台形	7.5YR2/1	黒色
P23	0.69	0.63	逆台形	7.5YR2/1	黒色
P24	0.76	0.64	U字形	5YR2/1	黒褐色
P25	1.06	0.22	圓形	2.5Y2/1	赤褐色
P26	0.89	0.56	逆台形	7.5YR2/1	褐色
P27	0.74	0.44	逆台形	7.5YR2/2	黒褐色
P28	0.80	0.76	逆台形	10YR3/1	黒褐色
P29	1.01	0.68	逆台形	10YR4/1	褐色
P30	1.06	0.53	逆台形	10YR4/1	褐色
P31	1.17	0.71	逆台形	10YR2/2	黒褐色
P32	0.74	0.70	逆台形	10YR4/1	褐色

PTI No.	径 (cm)	深さ (cm)	断面形状	土色	
P33	1.14	0.81	逆台形	2.5YR2/2	褐色赤褐色
P34	0.86	0.59	逆台形	10YR4/3	にじみ黄褐色
P35	0.88	0.84	逆台形	10YR3/3	暗褐色
P36	0.91	0.7	逆台形	7.5YR2/1	黒色
P37	0.65	0.24	圓形	5YR1	オリーブ黒色
P38	0.82	0.24	圓形	5Y2/1	黒色
P39	0.92	0.65	逆台形	2.5Y2/1	黒色
P40	0.56	0.29	逆台形	10YR3/3	暗褐色
P41	1.14	0.54	逆台形	10YR4/2	灰黄褐色
P42	0.75	0.64	逆台形	10YR4/1	褐色
P43	0.74	0.6	逆台形	10YR4/4	黒色
P44	0.60	0.13	圓形	10YR2/2	黒褐色
P45	0.52	0.47	逆台形	7.5YR2/1	黒褐色
P46	0.58	0.28	逆台形	10YR3/2	暗褐色
P47	0.63	0.34	逆台形	10YR2/1	黒色
P48	0.77	0.35	逆台形	10YR3/4	暗褐色
P49	0.74	0.32	圓形	10YR3/2	暗褐色
P50	0.48	0.25	逆台形	10YR4/2	灰黄褐色
P51	0.60	0.16	圓形	5Y2/1	黒色
P52	0.54	0.22	圓形	8.1.5	黒色
P53	0.60	0.21	圓形	10YR2/1	黒褐色

SB3

PTI No.	径 (cm)	深さ (cm)	断面形状	土色	
P1	0.53	0.2	圓形	10YR2/2	黒褐色
P2	0.59	0.25	圓形	10YR2/2	黒褐色
P3	0.54	0.12	圓形	7.5YR4/3	褐色
P4	0.45	0.15	圓形	10YR3/4	暗褐色
P5	0.48	0.11	圓形	7.5YR4/3	褐色
P6	0.52	0.21	逆台形	10YR3/4	にじみ黄褐色

第4表 SB2・SB3・掘立柱建物跡観察表



図版番号	写真図版番号	方位	種別	器種	部位	胎土	寸法 (cm)			産地	時期
							L径	口径	器高		
1	538	-	陶器	皿	口縁～底面	栗	12.5	5	3.5	豊前	17世紀
					文様・備考						登録番号
											1-12

第27図 SB2 掘立柱建物跡出土遺物

2) SB3 掘立柱建物跡 (第26図 図版3-2)

S15-E55 グリッドに位置する。当該遺構の北部が調査区外へ広がるため桁行は2間以上と考えられる。なお、建物規模・構造の詳細には不明な部分がある。

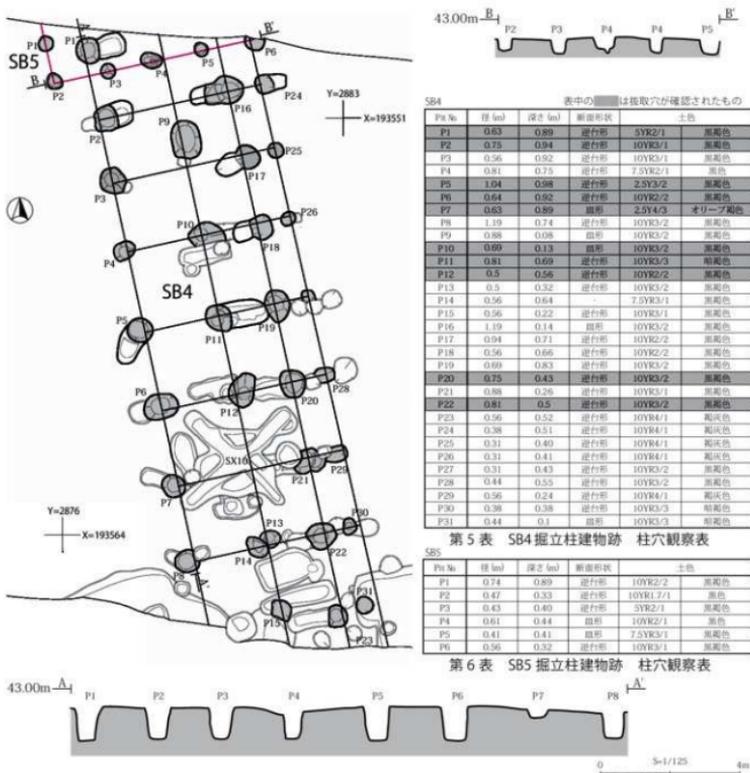
桁行検出長 3.8m(2間)、梁行総長 1.8m(1間)を測る側柱の南北棟である。柱間寸法は桁行方向、梁行方向ともに平均 1.8mを測り主軸方向はN-13°Wである。各柱穴の平面形は不整形円形もしくは楕円形で断面形は逆台形である。各柱穴の規模は径 0.45～0.59m、深さ 0.11～0.25mを測る。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトからなり、径 1～5mmの礫を少量含む。遺物は出土していない。

第1節 駅部

3) SB4 掘立柱建物跡 (第28図 図版4-1)

S16-E58～S17-E59 グリッドに位置する。当該遺構の北部及び、南部が調査区外へ広がるため、桁行は7間以上と考えられる。なお、上記理由と柱穴の一部を他遺構に削平されている可能性もあり、建物規模の詳細には不明な点がある。

桁行検出長17.5m(7間)、梁行総長4.2m(2間)を測る東柱を有する南北棟で身舎の東側に廂をもつ。柱間寸法は桁行方向、梁行方向ともに平均2.1m(6尺9寸)、身舎の東側柱六列と廂の各柱間寸法は平均0.8mを測り、主軸方向はN-13°-Wである。各柱穴の規模は径0.31～1.19m、深さ0.1～0.98mを測る。また、柱穴脇に柱の抜取穴と考えられる痕跡を数基の柱穴で確認した。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトで径1mm以下の砂粒、径1～3cmの礫を少量含む。遺物は出土していない。



第28図 SB4・SB5 掘立柱建物跡平面図・断面図

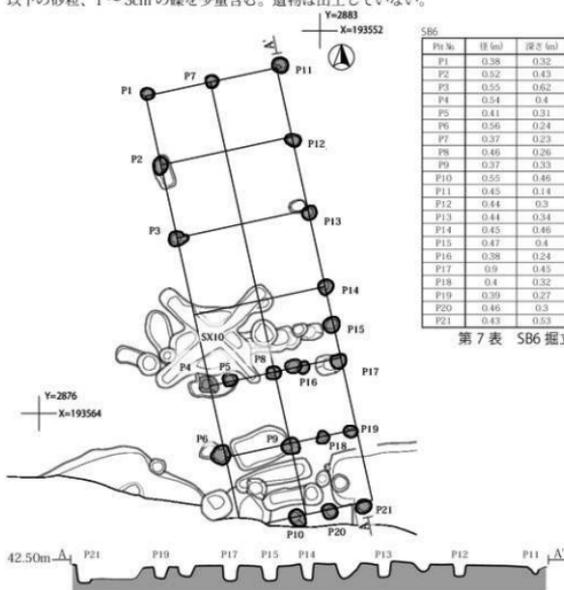
4) SB5 掘立柱建物跡 (第28図 図版4-1)

S15-E58 グリッドに位置する。建物北部の大部分が調査区外へ広がるため、建物の規模・構造の詳細には不明な部分が多い。東西方向に検出長5.7m(4間)、南北方向に検出長1.2m(1間)を測り、柱間寸法は、南北方向平均1.2m(約3尺9寸)、東西方向平均1.45m(4尺7寸)を測る。各柱穴の平面形は不整形もしくは楕円形で、断面形は逆台形であるものが多い。径0.41～0.74m、深さ0.32～0.89mを測る。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトからなり、径1mmの以下の寸粒、径1～3cmの礫を少量含む。遺物は出土していない。

5) SB6 掘立柱建物跡 (第29図 図版4-1)

S16-E58～S17-E59 グリッドに位置する。建物の南部が調査区外に広がること、及び柱穴の一部を他遺構に削平されているため桁行は6間以上と考えられ、建物の規模・構造の詳細には不明な部分がある。なお、SB4と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。桁行検出長12.5m(6間)、梁行検出長3.9m(2間)を測る東柱を有する南北棟である。柱間寸法は桁行方向、梁行方向ともに平均2.1m(6尺9寸)を測る。梁行の北側から5～7列目にかけた桁行中央柱穴列と、東側柱穴列との間に間仕切りと考えられる柱穴(P16.P18.P20)が検出された。なお、桁行中央柱穴列及び東側柱穴列と間仕切りの柱穴列との各柱間寸法は、平均0.91mである。

各柱穴の平面形は不整形及び、楕円形で断面形状は逆台形を呈するものが多い。各柱穴の規模は、径0.37～0.56m、深さ0.14～0.62mを測る。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトからなり、1mm以下の寸粒、1～3cmの礫を少量含む。遺物は出土していない。



第29図 SB6 掘立柱建物跡平面図・断面図

柱穴 No.	径 (m)	深さ (m)	断面形状	土色	
P1	0.38	0.32	長方形	10YR2/3	黒褐色
P2	0.52	0.43	逆台形	10YR4/1	黒灰色
P3	0.55	0.62	逆台形	10YR3/2	黒褐色
P4	0.54	0.4	逆台形	2.5Y3/2	黒褐色
P5	0.41	0.31	逆台形	10YR2/2	黒褐色
P6	0.56	0.24	楕円形	2.5Y3/3	鉛筆リズ褐色
P7	0.27	0.23	逆台形	10YR3/2	黒褐色
P8	0.46	0.26	逆台形	10YR3/1	黒褐色
P9	0.37	0.33	逆台形	10YR3/1	黒褐色
P10	0.55	0.46	逆台形	10YR3/4	黒褐色
P11	0.45	0.14	楕円形	10YR3/2	黒褐色
P12	0.44	0.3	逆台形	10YR3/3	黒褐色
P13	0.44	0.34	逆台形	10YR4/1	黒灰色
P14	0.45	0.46	逆台形	10YR3/2	黒褐色
P15	0.47	0.4	逆台形	10YR3/3	黒褐色
P16	0.38	0.24	逆台形	10YR4/1	黒灰色
P17	0.9	0.45	逆台形	10YR3/1	黒褐色
P18	0.4	0.32	逆台形	10YR3/4	黒褐色
P19	0.39	0.27	逆台形	10YR3/1	黒褐色
P20	0.46	0.3	逆台形	10YR4/1	黒灰色
P21	0.43	0.53	逆台形	10YR2/3	黒褐色

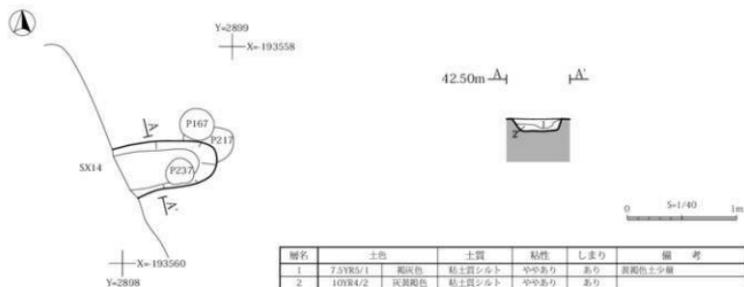
第7表 SB6 掘立柱建物跡 柱穴観察表

第1節 駅部

(3) 溝跡

1) SD10 溝跡 (第30図 図版5-1・2)

S16-E60 グリッドに位置する。東西方向に伸び、SX14 と重複しており、SD10 が古い。規模は長軸 90cm、短軸 40cm、深さ 11cm を測る。主軸方向は N-81°E で、断面形状は逆台形である。底面は平坦で傾斜はもたず、流水の痕跡等は確認できなかった。堆積土は粘土質シルトの2層からなる。遺物は出土していない。



第30図 SD10 溝跡平面図・断面図

2) SD12 溝跡 (第31図 図版5-3・4)

S16-E60 グリッドに位置する。東西方向に伸びる。規模は長軸 1.44m、短軸 36cm、深さ 20cm を測る。方向は N-75°E で、断面形は逆台形である。底面は平坦で傾斜はもたず、流水の痕跡は確認できなかった。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、平瓦の小片が少量出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	径5~20cmの破片あり

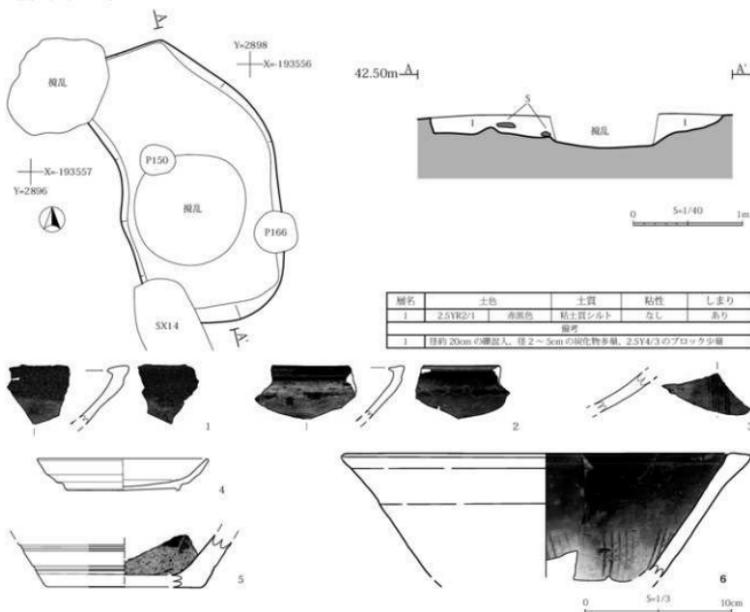
第31図 SD12 溝跡平面図・断面図

(4) 土坑

1) SK48 土坑 (第32図 図版5-5・6)

S16-E60 グリッドに位置する。北西端と中央部を掘乱れで削平され、SX14、P150、P166と重複しており、SK48が古い。規模は長軸 2.69m、短軸 1.44m、深さ 30cmを測る。平面形は主軸方向 N-18°-Wを示す不整長方形で、底面はやや起伏を持ち、断面形は皿形である。堆積土は径 20cm 程度の礫、炭化物を含む赤黒色粘土質シルトの単層である。

遺物は 17 世紀代の志野産の皿、岸産の播鉢、肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器が出土し、この内 6 点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			高地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	53-9	1層	陶器	播鉢	口縁～体部	岸	-	-	5.0	岸	17世紀	口縁部に磁気輪	I-13
2	53-11	1層	陶器	播鉢	口縁～体部	岸	-	-	0.99	岸	17世紀	口縁部に磁気輪	I-14
3	53-10	1層	陶器	播鉢	体部	岸	-	-	0.55	岸	17世紀		I-15
4	54-1	1層	陶器	皿	側	志野	11.7	7.7	2.3	志野	17世紀	祝込に目取	I-16
5	54-2	1層	陶器	播鉢	体部～底部	岸	-	(10.6)	0.7	在地	不明	鉄輪	I-17
6	54-3	1層	陶器	播鉢	口縁～体部	岸	28.2	-	0.9	不明	不明		I-227

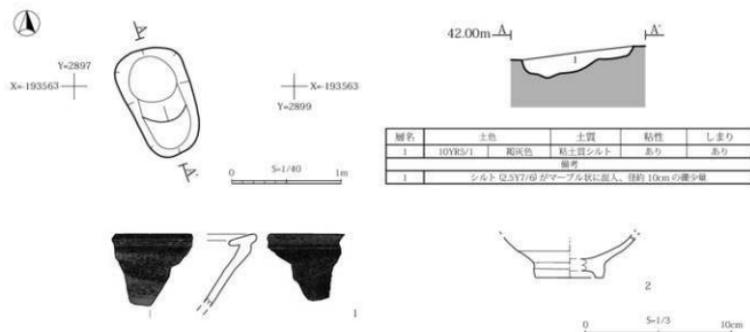
第32図 SK48 土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

2) SK54 土坑 (第33図 図版6-1)

S17-E60 グリッドに位置する。規模は長軸 1.02m、短軸 63cm、深さ 27cm を測る。平面形は主軸方向 N-20°-W を示す楕円形で、底面に起伏をもつ。断面形は皿形である。底面は北側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は径 10cm 程度の礫を少量含む褐灰色粘土質シルトの単層である。

遺物は 17 世紀代の岸産の播鉢、18 世紀前半の肥前産の陶胎磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内 2 点を図示した。



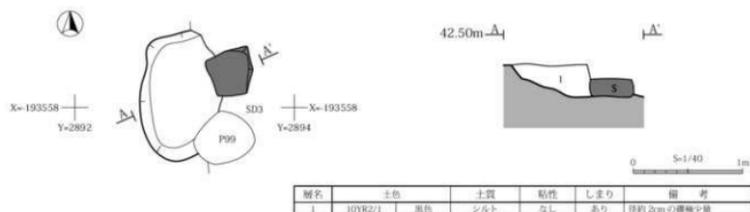
図版番号	写真図版番号	層位	類別	器種	部位	胎土	器量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	54-4	1層	陶器	播鉢	口縁～体部	滑	(14.4)	-	色白	岸	17世紀	口縁部に黒灰釉	I-18
2	54-5	1層	陶胎磁器	瓦	体部～底面	滑	(4.2)	3.0		肥前	18世紀前半		J-286

第33図 SK54 土坑平面図・断面図・出土遺物

3) SK55 土坑 (第34図 図版6-2)

S16-E60 グリッドに位置する。SD3、P99 と重複しており、SK55 が古い。規模は長軸 1.21m、短軸 70cm、深さ 30cm を測る。平面形は主軸方向 N-6°-E を示す不整形形で、底面はわずかな起伏をもち、断面形は皿形である。検出範囲の東端で 40 × 40 × 15cm の平坦な礫が確認された。これは礎板石の可能性も考えられる。堆積土は木端片を含む黒色シルトの単層である。

遺物は土師質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第34図 SK55 土坑平面図・断面図

4) SK56 土坑 (第35図 図版6-3・4)

S17-E59～S16-E59 グリッドに位置する。SK72と重複しており、SK56が新しい。規模は長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.3mを測る。平面形は主軸方向N-77°Eを示す隅丸方形である。底面は平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は径5～20cmの礫を含む黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/1 黒色	シルト	なし	あり	径5～20cmの礫混入

第35図 SK56土坑平面図・断面図

5) SK57 土坑 (第36図)

S16-E59 グリッドに位置し、中央部は攪乱により削平されている。規模は長軸1.05m、短軸0.72m、深さ0.35mを測り、平面形は主軸方向N-31°Eを示す不整楕円形をなすが、底面の形状は攪乱に壊され不明である。断面形は階段状である。堆積土は黒色シルトの単層である。

遺物は18世紀代の肥前産の磁器、産地不明の陶器、土師質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/1 黒色	シルト	なし	あり	シルト位SY7/40がメープル板に混入、径約10cmの礫少量

第36図 SK57土坑平面図・断面図

6) SK58 土坑 (第37図 図版6-5)

S16-E59 グリッドに位置する。規模は長軸96cm、短軸84cm、深さ85cmを測る。平面形は主軸方向N-33°Wを示す楕円形で、底面は平坦をなす。断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	なし	あり	

第37図 SK58土坑平面図・断面図

第1節 駅部

7) SK59 土坑 (第38図 図版6-6)

S16-E60 グリッドに位置し、南東側は土層確認用のサブレンチにより削平されている。規模は長軸 1.23m、短軸 70cm、深さ 27cm を測る。平面形は主軸方向 N-68°-E を示す楕円形で、底面は平坦である。断面形は開いた弧状である。堆積土は径 2～5cm の礫を含む褐灰色粘土質シルト・黒褐色シルト層からなる。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5YR5/1	褐灰色 粘土質シルト	あり	なし	径約 5cm の礫少量
2	7.5YR3/1	黒褐色	シルト	なし	あり 径 2～5cm の礫多量

第38図 SK59 土坑平面図・断面図

8) SK60 土坑 (第39図 図版6-7)

S17-E59 グリッドに位置する。P5、P60 と重複しており、SK60 が古い。規模は長軸 93cm、短軸 40cm、深さ 24cm を測る。平面形は主軸方向 N-16°-E を示す楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は焼土、炭化物、小礫を含む褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり 焼土・炭化物少量、径 20～30cm の礫少量

第39図 SK60 土坑平面図・断面図

9) SK62 土坑 (第40図 図版6-8)

S16-E58 グリッドに位置する。東側は SB4 を構成する P2 と重複しており、SK62 が古い。確認された規模は長軸 60cm、短軸 40cm、深さ 14cm を測る。削平されているため平面形は不明である。底面は平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は礫を少量含む黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



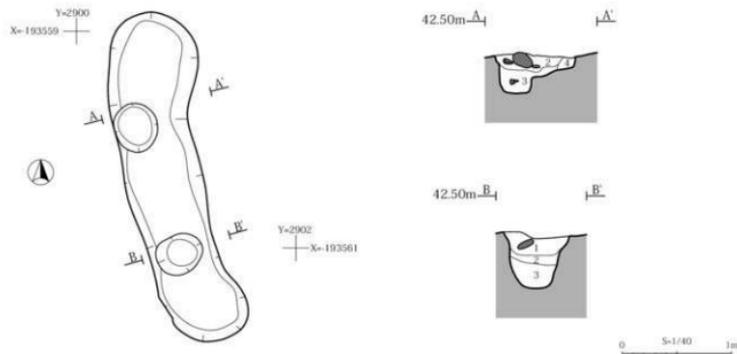
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	なし	あり 礫少量 シルト径 5/7/6 少量、径約 2cm の礫少量

第40図 SK62 土坑平面図・断面図

10) SK63 土坑 (第41図 図版7-1・2)

S17-E61～S16-E61グリッドに位置する。規模は長軸3.09m、短軸90cm、深さ35～45cmを測る。平面形は主軸方向N-12°-Wを示す長楕円形で、断面形は逆台形及び階段状である。底面にビット状の落ち込みが確認されており、布振り溝の可能性もあるが、明確に組むビットを周辺で検出できなかった。落ち込みの径は平均40cm、深さは45cm、間隔は1.48mを測る。堆積土は砂質シルトと粘土質シルトの4層からなる。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦質土器、が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



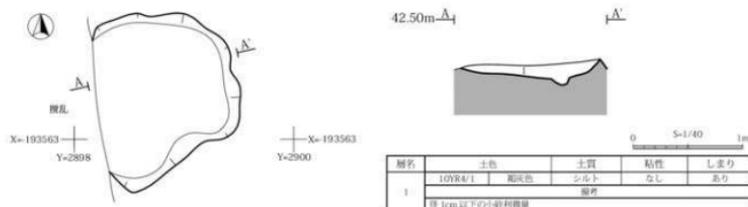
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	厚約20cmの薄層
2	10YR1.7/1	黒色	砂質シルト	なし	あり シルト(2.5Y7.0)がマール状に混入
3	10YR1.7/1	黒色	粘土質シルト	あり	あり シルト(2.5Y7.0)がマール状に混入
4	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	なし	あり

第41図 SK63 土坑平面図・断面図

11) SK65 土坑 (第42図 図版7-3・4)

S17-E60グリッドに位置し、西側は規乱により削平されている。SK67と重複しており、SK65が新しい。規模は長軸1.56m、短軸1.32m、深さ24cmを測る。平面形は不整楕円形と考えられ、底面は起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は径1cm以下の礫を少量含む褐灰色シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、土師質土器の小片、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



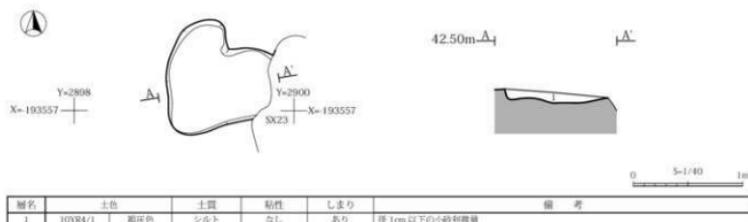
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/1	黄灰色	シルト	なし	あり 径1cm以下の小礫を少量含む

第42図 SK65 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

12) SK66 土坑 (第43図 図版7-5・6)

S16-E60 グリッドに位置する。SX23 と重複しており、SK66 が古い。規模は長軸 1.09m、短軸 90cm、深さ 13cm を測る。平面形は不整形で、北側に突出して広がる部分が見られる。底面はわずかに起伏し、断面形は皿形である。堆積土は径 1cm 以下の礫を少量含む褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

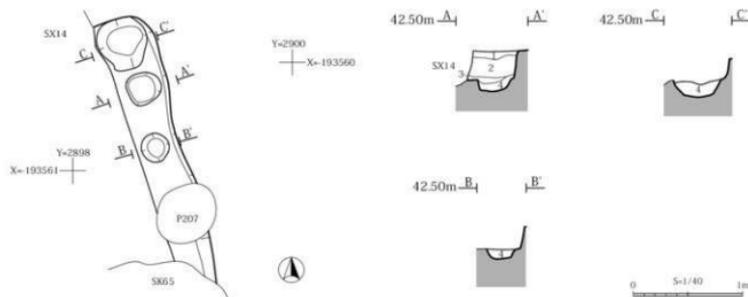


第 43 図 SK66 土坑平面図・断面図

13) SK67 土坑 (第44図 図版8-1・2)

S17-E60 ~ S16-E60 グリッドに位置する。SX14、SK65 と重複しており、SK67 が古い。規模は長軸 2.57m、短軸 53cm、深さ 10 ~ 40cm を測る。残存する平面形は主軸方向 N-18°-W を示す溝状で、断面形は逆台形である。底面にピット状の落ち込みが確認されており、布振り溝の可能性もあるが、明確に組むピットを周辺で検出できなかった。落ち込みの間隔は、北から順に 7.5cm、25cm を測る。堆積土はシルト・粘土質シルトの 4 層からなる。

遺物は 18 世紀代の肥前産の磁器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

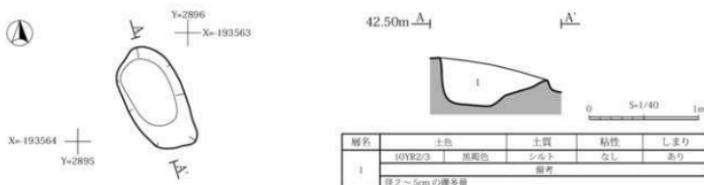


第 44 図 SK67 土坑平面図・断面図

14) SK68 土坑 (第45図 図版7-7・8)

S17-E60 グリッドに位置し、規模は長軸10cm、短軸53cm、深さ40cmを測る。平面形は主軸方向N-21°-Wを示す不整楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は径2～5cmの礫を多量に含む黒褐色シルトの単層である。

遺物は在産産の瓦質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

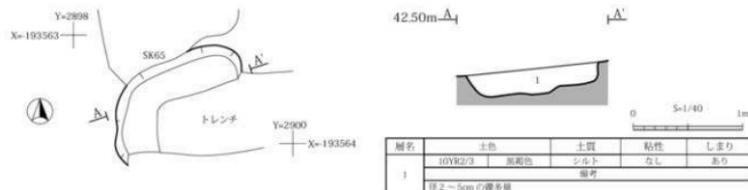


第45図 SK68 土坑平面図・断面図

15) SK69 土坑 (第46図 図版8-3)

S16-E60 グリッドに位置する。SK65と重複しており、SK69が古い。南東側は土層確認用のサブレンチで削平されている。規模は長軸1.23m、短軸72cm、深さ27cmを測る。平面形は楕円形と考えられ、底面は中央部にわずかな起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は径2～5cmの礫を多量に含む黒褐色シルトの単層である。

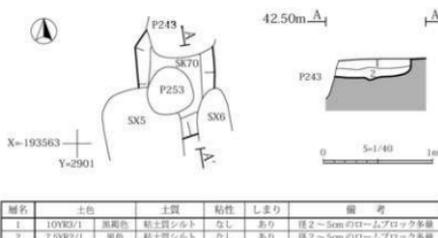
遺物は瀬戸・美濃産の陶器が1点出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第46図 SK69 土坑 平面図・断面図

16) SK70 土坑 (第47図 図版8-4)

S17-E61 グリッドに位置する。SX5、SX6、P243、P253と重複しており、SK70が古い。規模は長軸67cm、短軸65cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形と推定され、残存する底面は平坦である。断面形は皿形である。堆積土は径2～5cmのロームブロックを含む粘土質シルトの2層からなる。遺物は出土していない。



第47図 SK70 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

17) SK71 土坑 (第48図 図版8-5)

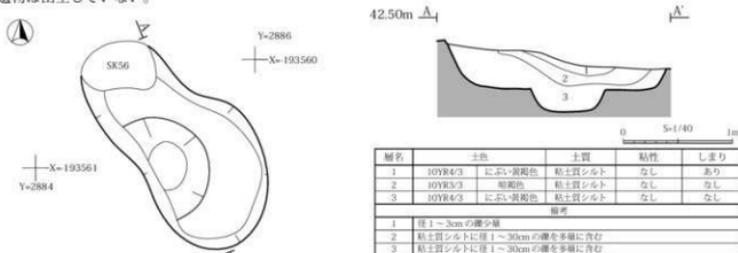
S17-E60 グリッドに位置する。SD3、P286 と重複しており、SK71 が古い。規模は長軸 1.01m、短軸 86cm、深さ 12cm を測る。平面形は主軸方向 N-65°-E を示す楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は径 2～5cm の礫を含む黒褐色シルト層の単層である。遺物は出土していない。



第48図 SK71 土坑平面図・断面図

18) SK72 土坑 (第49図 図版8-6)

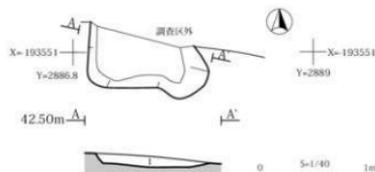
S17-E59～S16-E59 グリッドに位置する。SK56 と重複しており、SK72 が古い。規模は長軸 2.2m、短軸 1.08m、深さ 67cm を測る。平面形は主軸方向 N-35°-W を示す不整形円形で、底面中央に窪みを有する。断面形は階段状である。堆積土は礫を含む粘土質シルト・礫の 3 層からなる。礫を用い人為的に埋め戻されたものと思われる。遺物は出土していない。



第49図 SK72 土坑平面図・断面図

19) SK73 土坑 (第50図 図版8-7)

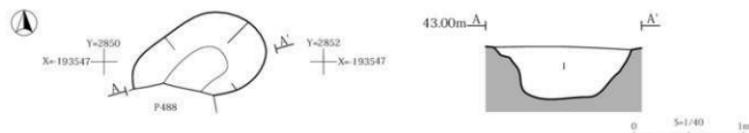
S16-E59 グリッドに位置し、北側は調査区外に延びる。規模は長軸 1.12m、短軸 53cm、深さ 10cm を測る。平面形は不整形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



第50図 SK73 土坑 平面図・断面図

20) SK85 土坑 (第51図)

S15-E56 グリッドに位置する。P488 と重複しており、SK85 が古い。規模は長軸 1.25m、短軸 76cm、深さ 48cm を測る。平面形は主軸方向 N-73°-E を示す楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は礫を含む黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/1	黒色シルト	なし	なし	径約5cmの礫混入、径約3mmの小礫混入

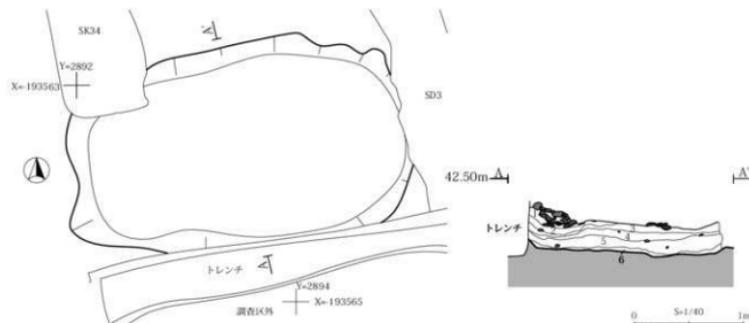
第51図 SK85 土坑平面図・断面図

(5) 性格不明遺構

1) SX22 性格不明遺構 (第52～53図 図版9-1～4)

S17-E60 グリッドに位置する。SK34、SD3 と重複しており、SX22 が古い。南側の一部が基本土層確認用のトレンチによって削平されている。規模は長軸 3.14m、短軸 1.94m、深さ 44cm を測る。平面形は主軸方向 N-82°-E を示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は礫を含む黒褐色シルト・粘土質シルトの6層からなる。

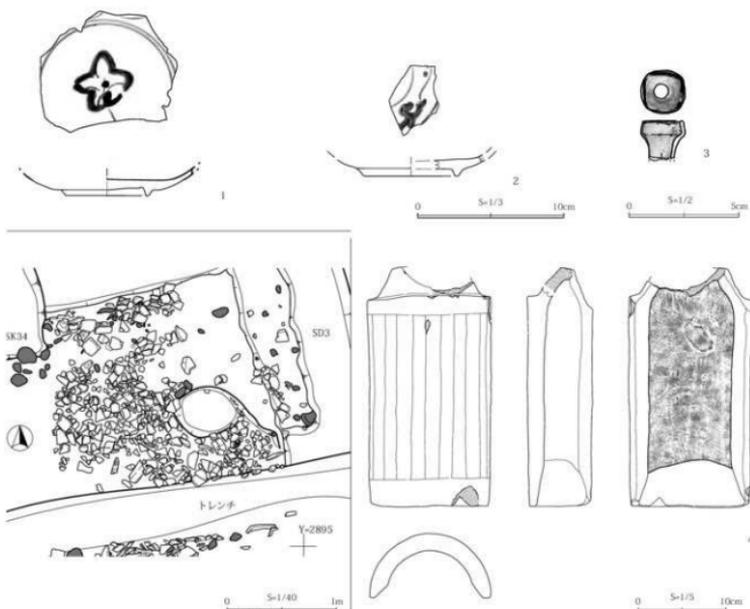
遺物は上層の3層より軒丸瓦片 133 点、平瓦片 1192 点に、17 世紀代の肥前産の磁器、瀬戸・美濃産の陶器、在地産の瓦質土器が少量出土し、この内 4 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR6/3	灰赤・黄褐色	粘土質シルト	あり	瓦片多数 径3～10cmの礫混入
2	7.5YR2/2	黒褐色	シルト	なし	あり 瓦片 径約3cmの礫混入少
3	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	なし	あり 瓦片 径約3cmの礫混入少
4	7.5YR2/2	黒褐色	シルト	なし	あり 径約3cmの礫混入少
5	7.5YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり 径約3cmの礫混入少
6	7.5YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり 径約1cmの礫混入少

第52図 SX22 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	部位	種類	器種	部位	出土	法庫 (cm)			高地	時期	文様・備考	登録番号
							L径	底径	器高				
1	55-1	3層	碗類	皿	鉢部～底部	南	11.3	5.7	12	肥前	17世紀後半	染付け 二重開線 冠誌に花文	J1
2	55-2	3層	碗類	皿	鉢部	南	11.9	6.5	12.1	肥前	18世紀前半	染付け 草花文	J2
3	55-3	3層	碗類	花文?	口縁部	南	3.1	-	13	瀬戸・尾張	17世紀	口縁部に露輪	I-19

図版番号	写真図版番号	部位	種類	法庫 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
4	129-7	3層	瓦瓦	29.2	10.3	6.2	内面に菊目瓦	F2

第53図 SX22 性格不明遺構遺物出土状況・出土遺物

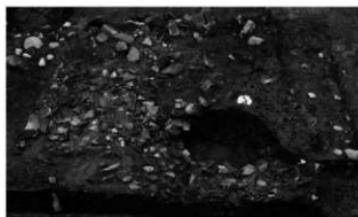


写真3 SX22 性格不明遺構遺物出土状況 (南から)

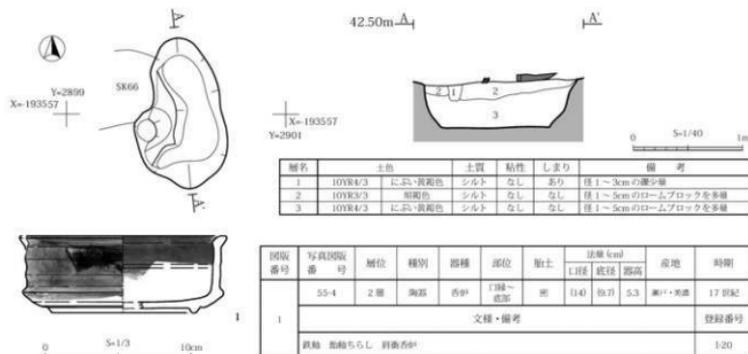


写真4 SX22 性格不明遺構遺物出土状況 (南から)

2) SX23 性格不明遺構 (第54図 図版10-1)

S17-E60～61 グリッドに位置する。SK66と重複しており、SX23が新しい。規模は長軸1.4m、短軸81cm、深さ44cmを測る。平面形は主軸方向N-6°-Wを示す楕円形で、底面は西側がテラス状に高まり、断面形は逆台形である。堆積土は径1～3cmの礫少量と径1～5cmのロームブロックを多量に含むシルトの3層からなる。

遺物は17世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、瓦片、土師質土器片が出土し、この内1点を図示した。

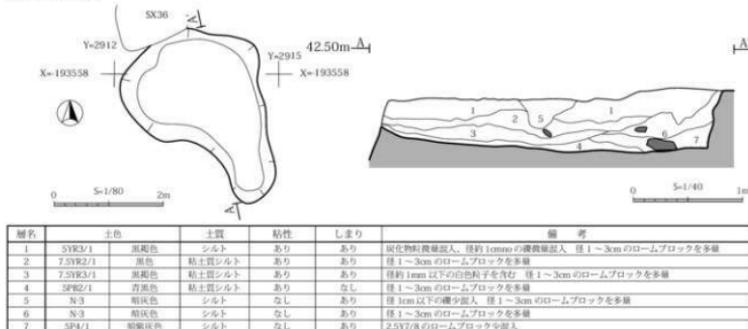


第54図 SX23 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

3) SX34 性格不明遺構 (第55・56図 図版10-2)

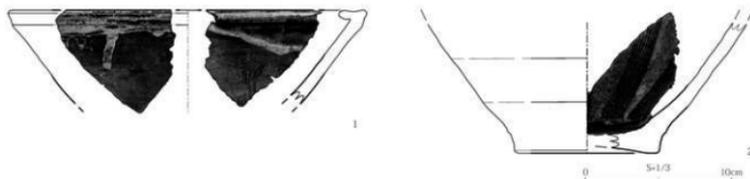
S17-E62 グリッドに位置する。SX36と重複しており、SX34が古い。規模は長軸3.43m、短軸2.61m、深さ54cmを測る。平面形は主軸方向N-20°-Wを示す不整形で、底面は平坦で断面形は逆台形である。堆積土は小礫と径1～3cmのロームブロックを多量に含む粘土質シルト・シルトの7層からなる。

遺物は17世紀代の岸産の陶器、土師質土器、在地産の瓦質土器、18世紀代の肥前産の磁器が出土し、この内2点を図示した。



第55図 SX34 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部



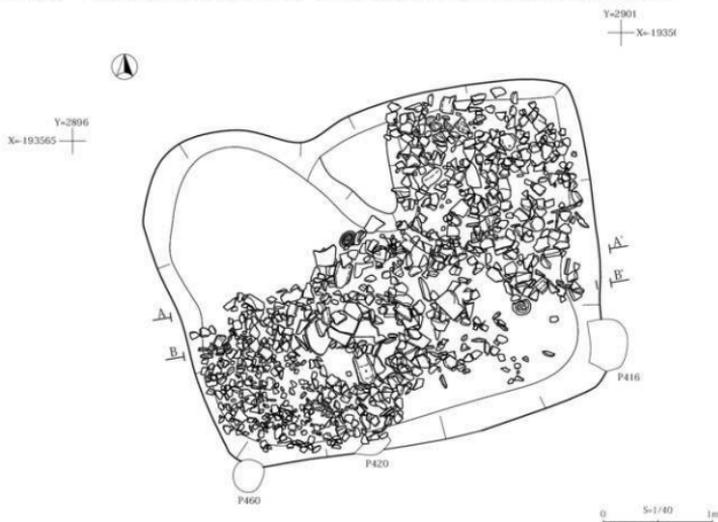
図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	出土 状況	法量 (cm)		高地	時期	文様・備考	登録 番号	
							口径	底径					
1	55-6	2層	陶器	甗鉢	口縁～ 体部	雨	24.60	-	6.71	岸	17世紀後半	口縁部に黒灰輪郭が浅し	I-21
2	55-5	2層	陶器	甗鉢	体部～ 底面	雨	-	69.86	68.86	岸	17世紀後半		I-22

第56図 SX34 性格不明遺構 出土遺物

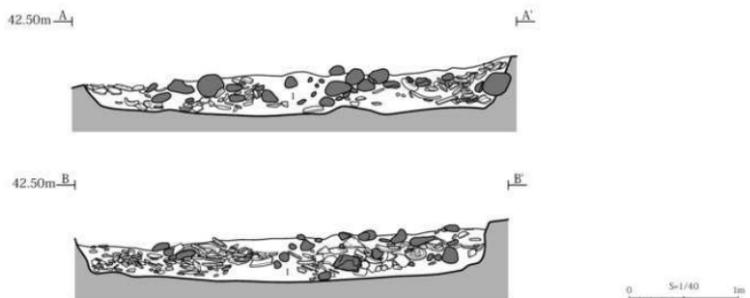
4) SX37 性格不明遺構 (第57・58図 図版10-3・4)

S17-E60～61 グリッドに位置する。堆積土中より多量の軒丸瓦片、平瓦片を検出した。P416・420・460と重複しており、SX37が古い。規模は長軸4.08m、短軸3.14m、深さ50cmを測る。平面形は長軸方向N-76°Eを示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は、長さ10～20cm、幅10～15cm、厚さ10～20cmの礫・瓦片を多量を含む黒褐色粘土質シルトからなる。

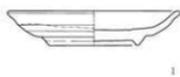
遺物は軒丸瓦片1080点、平瓦片2832点、その他の瓦が10点、17世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、土師質土器、瓦質土器、17～18世紀代肥前産の磁器が出土し、この内、実測可能な輪違ひ瓦と志野産の皿を図示した。



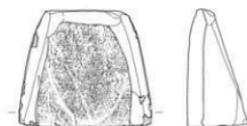
第57図 SX37 性格不明遺構平面図



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/2	黄褐色	粘土質シロト	あり	なし



0 S=1/3 10cm



0 S=1/5 10cm

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	量土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	50-7	1層	陶器	皿	口縁~底面	附	11.8	6	2.4	瀬戸・北濃	17世紀後半	灰釉	123
図版番号	写真図版番号	層位	種別	法量 (cm)			備考	登録番号					
				長さ	幅	厚さ							
2	129-4	1層	陶器・瓦	9	10.2	5.5		112					

第58図 SX37 性格不明遺構断面図・出土遺物

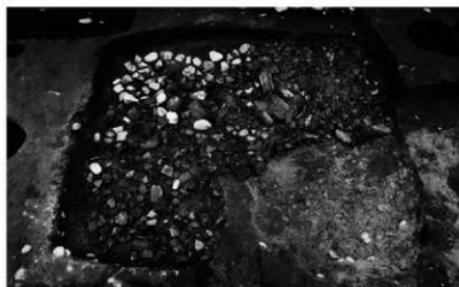


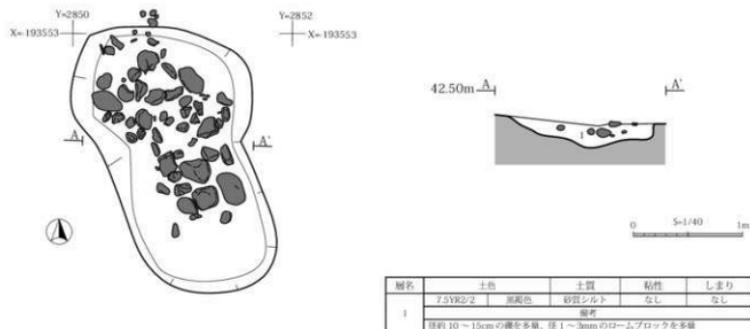
写真5 SX37 性格不明遺構瓦検出状況(北から)

第1節 駅部

5) SX61 性格不明遺構 (第59図 図版11-1)

S15-E56 グリッドに位置する。規模は長軸 2.64m、短軸 1.62m、深 22cm を測る。平面形は、長軸方向 N-23°-W を示す中央がややくびれた楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土上部から中部にかけて径 10～15cm の自然礫が多量に出土した。堆積土は径 1～3cm のロームを斑状に含む黒褐色砂質シルトの単層からなる。

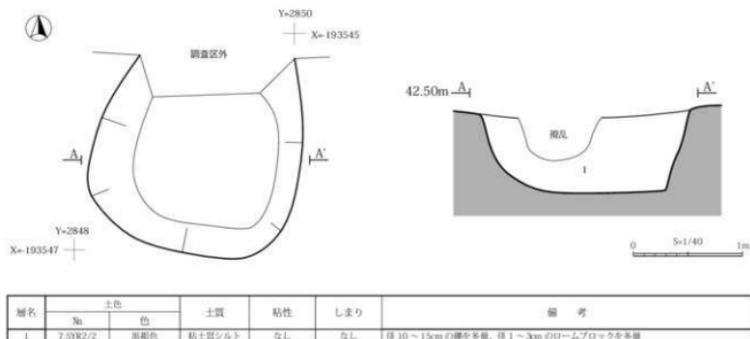
遺物は産地不明の陶器、土師質土器、瓦質土器、瓦片が少量出土しているが、細片のため図示しなかった。



第 59 図 SX61 性格不明遺構平面図・断面図

6) SX62 性格不明遺構 (第60図 図版11-2)

S15-E55 グリッドに位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構堆積土の一部は掘乱で削平されている。規模は長軸 1.89m、短軸 1.54m、深 73cm を測る。平面形は不整楕円形、底面は平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は径 1～3cm のロームを斑状に含む黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

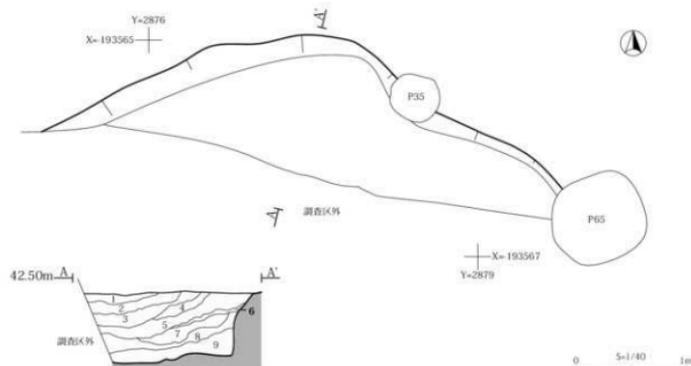


第 60 図 SX62 性格不明遺構平面図・断面図

7) SX63 性格不明遺構 (第 61～62 図 図版 11-3～6)

S17-E58 グリッドに位置し、南側は調査区外へ延びる。P35、P65 と重複しており、SX63 が古い。規模は長軸 4.76m、短軸 1.4m、深さ 64cm を測る。平面形は不明で、底面は南側が低くなり、断面形は逆台形である。堆積土は積層状に堆積した粘土質シルト・砂質シルトの 9 層からなる。

遺物は 1 層から 5 層より陶器、土師質土器、瓦質土器、磁器、器種不明の金属製品の細片が出土した。底面からは、17 世紀代の唐津産の陶器小皿と瀬戸・美濃産の陶器小皿が重なった状態で出土し、この内 3 点を図化した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y3/3	黄オリーブ褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒多量
2	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	あり	あり	粘土質シルト (10YR3/2 層状に少層)
3	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂・炭化物粒少層
4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	あり	あり	砂粒少層
5	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	あり	砂質シルト (10YR3/1) との互層
6	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	下部 3～5cm 層の腐化物層あり、径 2～10cm の遺少層、砂多層
7	10YR2/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	径 2～5cm の遺多層
8	10YR4/1	黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 2～5cm の遺多層
9	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	径 2～5cm の遺少層

第 61 図 SX63 性格不明遺構平面図・断面図

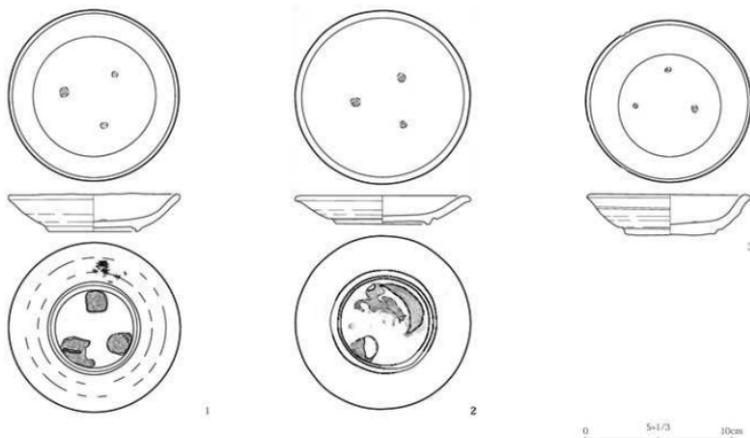


写真 6 SX63 性格不明遺構遺物出土状況 (西から)



写真 7 SX63 性格不明遺構遺物出土状況 (西から)

第1節 駅部

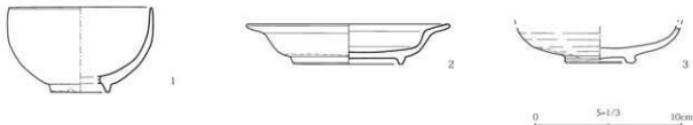


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	55-9	9層	陶器	皿	口縁～底部	密	11.7	6.2	2.6	志野	17世紀	瓦輪 瓦込に目取3×所 高台に胎土目有り	1-24
2	55-10	9層	陶器	皿	口縁～底部	密	12	6.5	2	唐津	17世紀後半	瓦輪 瓦込に目取3×所	1-25
3	55-8	9層	陶器	皿	口縁～底部	密	11.2	6	2.8	唐津	17世紀	瓦輪 瓦込に目取3×所	1-26

第62図 5X63 性格不明遺構出土遺物

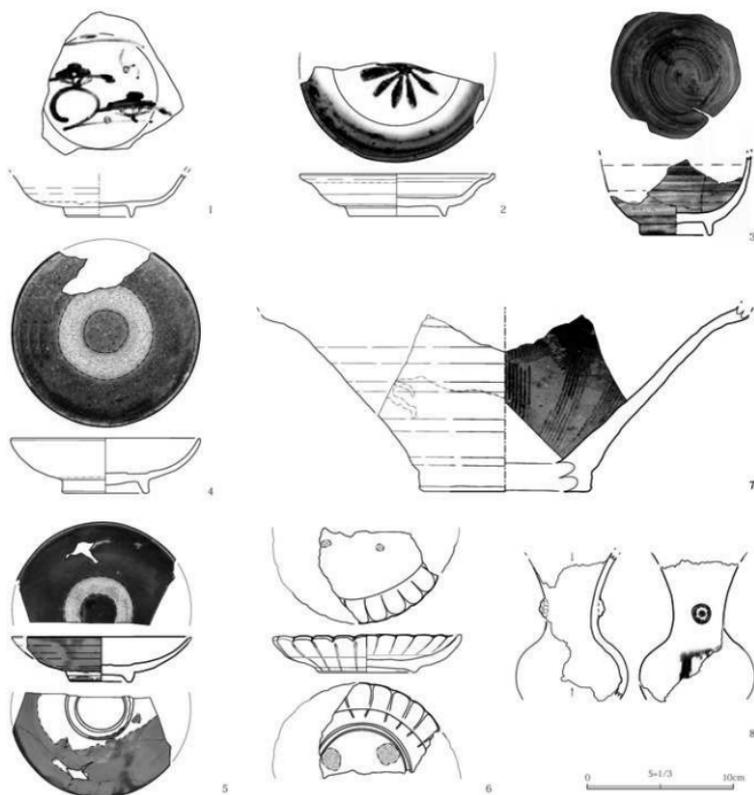
(6) III層遺構外出土遺物

III層遺構外出土遺物は種別別訳で陶器片 590点、磁器片 700点、土質質土器片 216点、瓦質土器片 60点、石製品 13点、平瓦 996点、丸瓦片 312点、その他の瓦 13点、金属製品(古銭)58点、土製品 5点、その他の遺物 20点となり、総数で 2983点を数え、この内 42点を抽出し図示した。



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	56-1	S16-E50	陶器	碗	口縁～底部	密	19.8	10	6	人取野	18世紀後半		1-27
2	56-2	S16-E50	陶器	皿	口縁～底部	密	13	7.4	2.8	瀬戸・美濃	17世紀後半	瓦輪	1-28
3	56-4	S16-E50	陶器	皿	口縁～底部	密	14.8	12.6	2.6	瀬戸・美濃	17世紀後半	瓦輪 高台内取あり	1-29

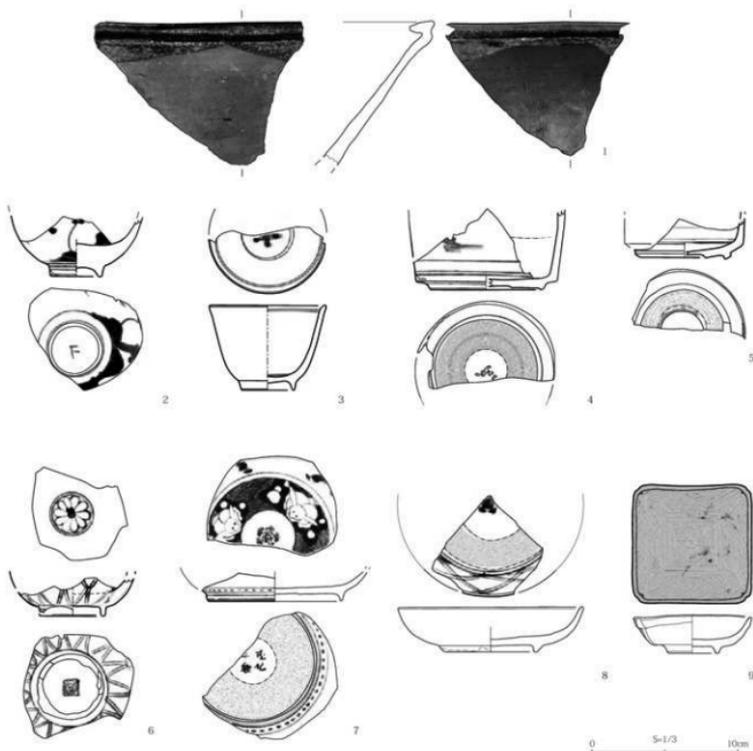
第63図 III層遺構外出土遺物(1)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			高地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	56-5	S16-E59	陶器	皿	体部～底部	密	-	4.7	2.9	大塚和馬	18世紀後半～19世紀前半	鉄絵 松	I-30
2	56-6	S17-E59	陶器	皿	口縁～底部	密	113.39	6.6	3	兼戸・実盛	17世紀後半	鉄絵	I-31
3	56-7	S16-E59	陶器	碗	体部～底部	密	-	4.9	5.5	津津	18世紀後半	刷毛目文	I-32
4	56-8	S16-E59	陶器	皿	口縁～底部	密	13	6	3.8	小野和馬	18世紀後半～19世紀前半	蛇の目輪刷	I-33
5	56-9	S17-E59	陶器	皿	口縁～底部	密	11.5	4.6	3.1	肥前	17世紀後半	蛇の目輪刷 磁野原	I-34
6	56-11	S16-E59	陶器	輪花皿	体部～底部	密	111.69	5.9	2.6	志野	17世紀後半	輪花 高人内助土目職	I-35
7	57-1	S16-E59	陶器	指鉢	体部～底部	密	33.8	11.3	13.5	岸	17世紀		I-36
8	57-3	S16-E59	陶器	山花皿	体部	密	6.6	-	10.5	小野和馬	19世紀前半	瓦輪掛け出し	I-37

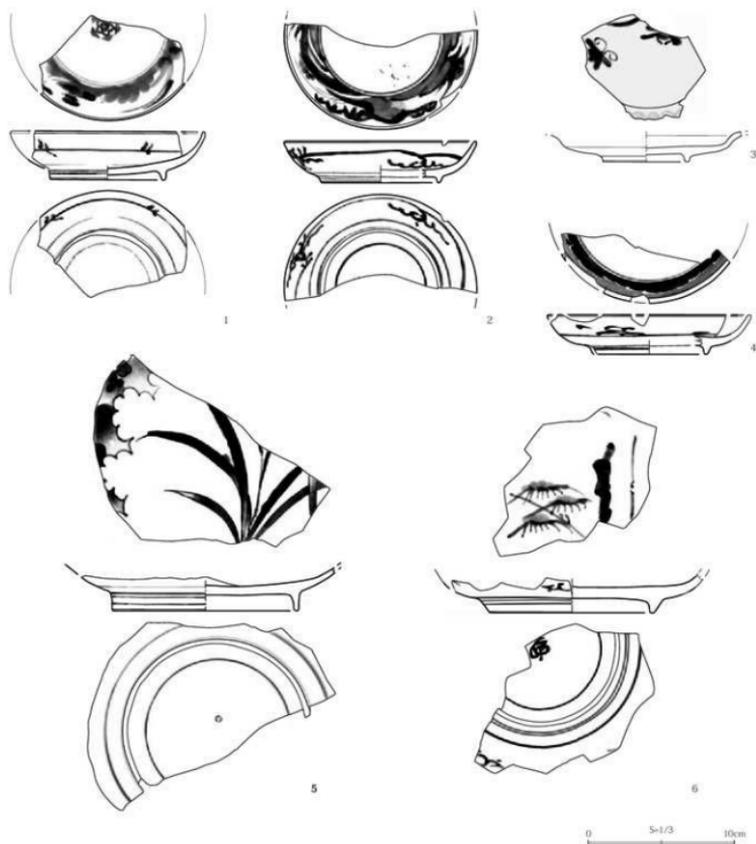
第64図 川層遺構外出土遺物(2)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	57-2	S16-E59	陶器	皿鉢	口縁部	赤	-	-	-	卑	17世紀	蓮花胎染	J-38
2	58-1	S16-E59	磁器	碗	体部～底部	赤	-	3.5	4.5	肥前	18世紀前半	染付け 草文 高台内に露	J-3
3	57-7	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	赤	8	3.7	5.9	肥前	18世紀前半	青磁輪 短込に五弁花	J-4
4	57-6	S17-E59	磁器	火入れ	体部～底部	赤	-	17.8	5.6	肥前	18世紀前半	染付け 團扇	J-5
5	57-5	S16-E59	磁器	火入れ	体部～底部	赤	-	16.9	2.7	肥前	18世紀前半	染付け 外面)團扇	J-6
6	57-4	S17-E59	磁器	碗	体部～底部	赤	8.3	4.5	12.7)	肥前	18世紀前半	染付け(外面)蘭目文 内面)短込に菊花 高台内に渦線	J-7
7	58-7	S16-E59	磁器	皿	体部～底部	赤	-	9	11.5)	肥前	18世紀前半	染付け 青海渡文、雪庵 五弁花 靱の日大高台 高台内に「成化辛製」	J-8
8	59-2	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	赤	12.6	6.4	3.1	肥前	18世紀前半	染付け 内面)格子文 短込に五弁花	J-9
9	57-8	S16-E59	磁器	小皿	口縁～底部	赤	-	-	-	肥前	18世紀前半	染付け 蘭入り角小皿	J-10

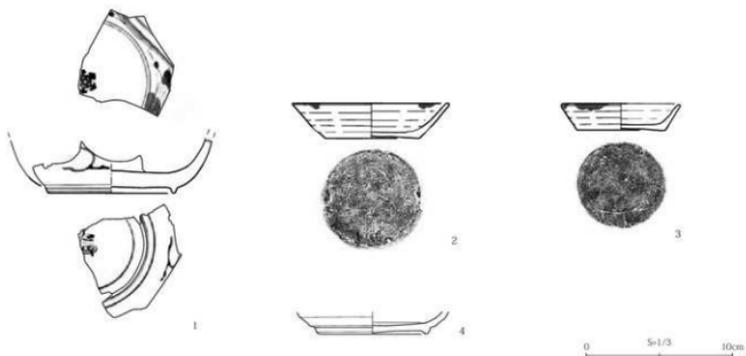
第65図 川層遺構外出土遺物(3)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			窯地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	58-4	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	赤	113.4	17.8	3.3	肥前	18世紀前半	染付け(外面)萬葉草文 内面)草花文 尾込 に五弁花	J-11
2	58-2	S17-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	赤	113.2	18.2	2.8	肥前	18世紀前半	染付け(外面)萬葉草文 内面)草花文	J-12
3	59-1	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	赤	13	5.9	2.2	肥前	17世紀	染付け 墨文	J-13
4	58-5	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	赤	11.4	17.9	2.8	肥前	17世紀後半～ 18世紀前半	染付け(外面)萬葉草文 内面)口縁部帯押さ	J-14
5	58-6	S17-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	赤	17.8	11.2	3.9	肥前	18世紀前半	染付け 花草文	J-15
6	58-8	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	赤	18.2	11.3	2.7	肥前	18世紀前半	染付け(外面)萬葉草文 内面)帯押さ 高台 に透眼	J-16

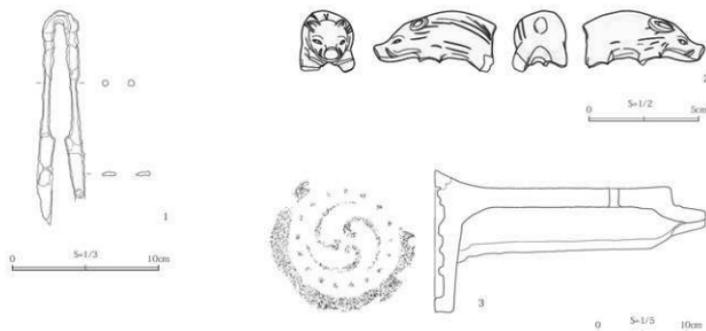
第66図 川層遺構外出土遺物(4)

第1節 駅部



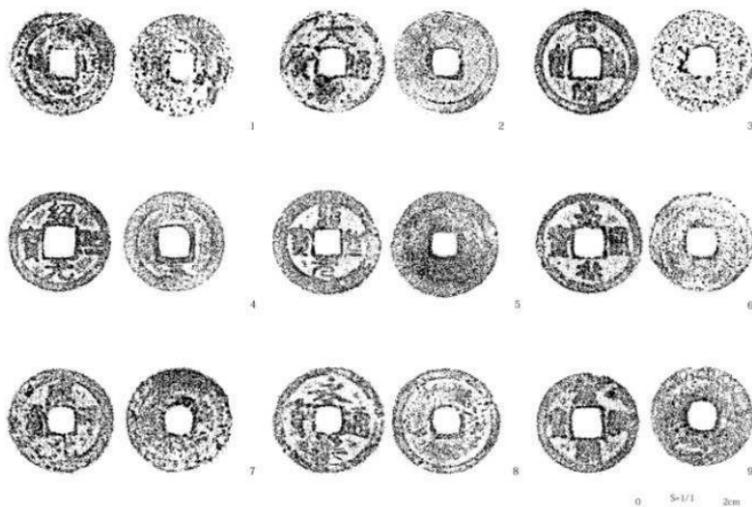
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	寸法 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	58-3	S16-450	磁器	皿	縁部～底部	青	-	8.7	3.8	肥前	18世紀中頃	菊付付 外面1段文 内面1段文 見込に五弁花 高弁に渦巻	F-17
2	59-3	S16-450	土器質土器	かわらけ	口縁～底部	青	10.8	6.8	2.2	在産	不明	油障子着	I-228
3	59-4	S16-450	土器質土器	かわらけ	口縁～底部	黒	8.2	6	1.8	在産	不明	高障子着	I-229
4	59-5	S16-450	陶器	皿	口縁～底部	青	11.4	7.3	2.4	志野	17世紀後半	見込に目取	I-39

第 67 図 川原遺構外出土遺物 (5)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	寸法 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	59-7	S16-450	金属製品	10	3	0.5	鉄	N-1
2	59-6	S16-450	土製品	5.5	2.5	3	土人形 猪	P-1
3	129-1	S16-450	軒瓦瓦	31	17	16	瓦当に巴文	F-4

第 68 図 川原遺構外出土遺物 (6)



図版 番号	写真図版 番号	グリップ	銭貨名	初鑄年	法量 (mg)			備考	登録 番号
					外径	穿径	重さ		
1	133-7	S16-E59	皇宋通宝	1039(北宋)	2.4	0.8	2.81		N-19
2	133-6	S17-E59	大觀通宝	1107(北宋)	2.5	0.8	2.42		N-20
3	133-14	S16-E59	皇宋通宝	1039(北宋)	2.4	0.8	2.5		N-21
4	134-9	S16-E59	紹熙元宝	1190(南宋)	2.4	0.7	2.6		N-22
5	134-11	S16-E59	紹聖元宝	1094(宋)	2.4	0.8	2.83		N-23
6	133-4	S17-E59	嘉祐通宝	1056(宋)	2.4	0.8	2.85		N-24
7	134-3	S16-E59	淳化元宝	1064(宋)	2.4	0.7	2.61		N-25
8	134-5	S16-E59	永樂通宝	1408(明)	2.4	0.8	2.68		N-26
9	134-13	S16-E59	元豐通宝	1078(宋)	2.4	0.7	2.54		N-27

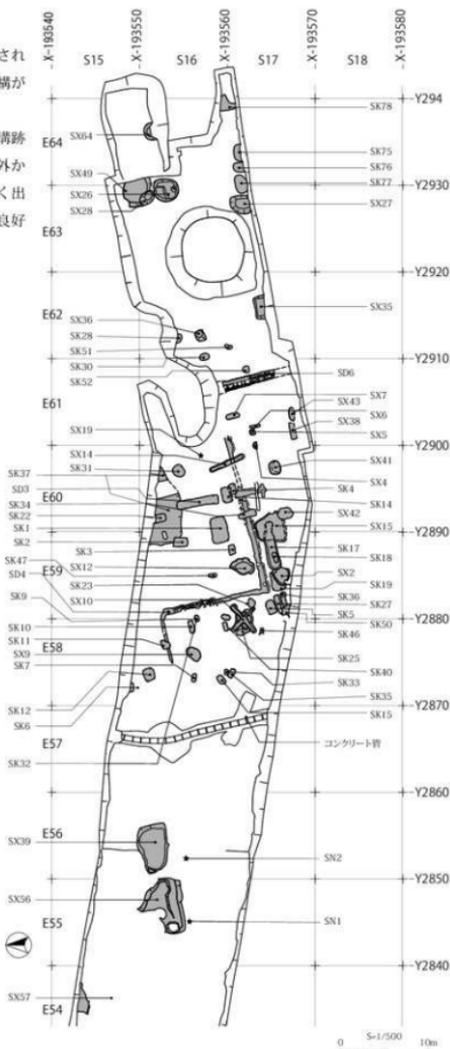
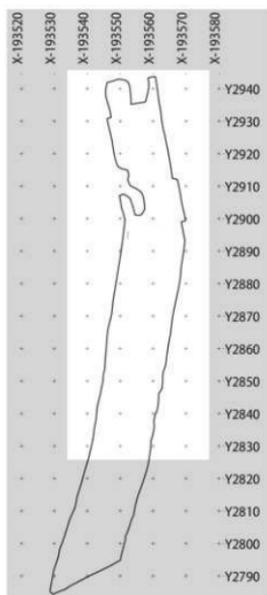
第 69 図 川原遺構外出土遺物(7)

第1節 駅部

3 II層上面検出遺構とII層出土遺物

II層は近世の盛土である。II層上面で検出された遺構は、溝が3条、土坑が39基、祭祀遺構が2基、性格不明遺構が25基である。

調査区中央部では土地の区画と考えられる溝跡(SD4・SD6)を検出した。遺構および、遺構外からは18世紀中頃～19世紀前半の遺物が多く出土している。また、SX39からは、幕末期の良好な一括資料が出土した。



第70図 II層上面遺構配置図

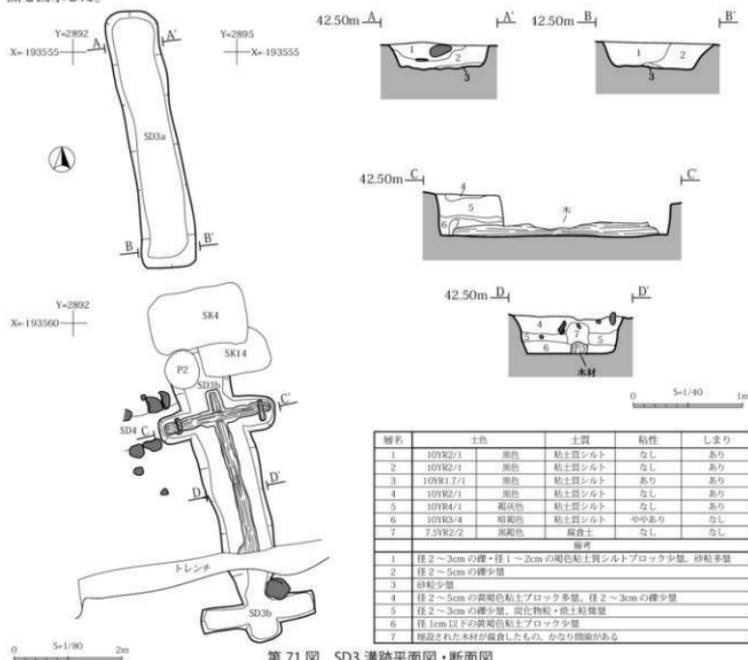
(1) 溝跡

1) SD3 溝跡 (第71・72図 図版12-1~3・13-1)

S16-E60～S17-E60 グリッドに位置する。南北方向に走行する素堀の溝で、南側を土層確認用のトレンチに削平されている。この溝は中央部が途切れており、便宜的に北側をSD3aと南側をSD3bと呼称した。主軸方向は共にN-13°-Wを示す。

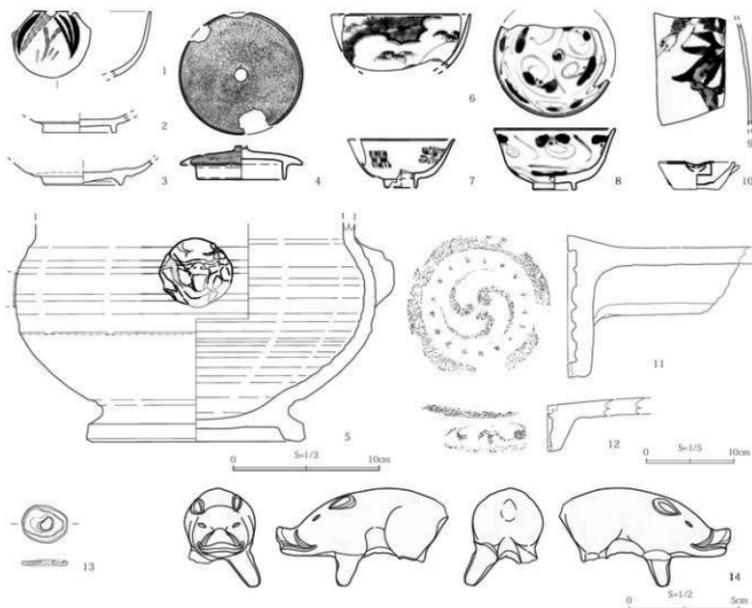
SD3aは長さ2.4m、幅は0.43～0.50mで、深さ0.24～0.3mを測る。底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。

SD3bはSK4、SK14、P2より古く、SD4、SK37、SK55、SK70、SK71より新しい。長さ2.7m、幅は0.46～1mで、深さは0.32m～0.4mを測る。堆積土中から腐食の著しい木材片が確認された。平面形は直線形を基本とするが、「十」の字状を呈する。溝の内部で検出した木材は腐食により大半が失われているが、溝と同様に「十」の字状に組木されていたものと考えられる。遺構の底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。なお、SD3a、SD3bともに、底面に傾斜はみられず、水流等の痕跡も確認できなかった。SD3bは木片の検出状況等から、地中梁の類とも考えられる。堆積土は粘土質シルト・腐食土の7層からなる。遺物は2層、4～5層中より17世紀前半の京焼、19世紀代の大船相馬産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片、金属製品、土製品が出土し、この内14点を図示した。



第71図 SD3 溝跡平面図・断面図

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	60-1	4層	陶器	甕	口縁～底部	甕	-	-	4.6	京	17世紀前半	色絵付付 草花文	I-40
2	60-4	4層	陶器	碗	体部～底部	甕	-	5	1.0	大塚和馬	19世紀前半	鉄軸 灰陶	I-41
3	59-9	4層	陶器	皿	体部～底部	甕	-	-	1.0	志野	18世紀後半～19世紀前半		I-42
4	39-10	4層	陶器	土瓶(甕)		甕	8.5	-	2.1	大塚和馬	19世紀前半	灰軸	I-43
5	60-3	4層	陶器	水甕	体部～底部	甕	21.8	14.4	14.3	在池	19世紀前半		I-44
6	60-7	2層	磁器	碗	体部	甕	8.8	-	14	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付付 雪付物	J-18
7	60-5	2層	磁器	碗	口縁～底部	甕	7.2	2.2	3.4	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付付 口縁有り 源氏杵文	J-19
8	60-6	4層	磁器	碗	口縁～底部	甕	8.2	3	4.3	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付付 口縁有り 雲芝	J-20
9	60-8	4層	磁器	德利	体部	甕	4.7	-	8	在池	19世紀以降	染付付 武者?	J-21
10	60-2	5層	陶器	灯明皿	口縁～底部	甕	5.2	3.1	2	在池	19世紀?	疑込沖仁屋少爺付前	I-45
図版番号	写真図版番号	層位	種類	長さ	法量 (cm)		備考	登録番号					
					幅	厚さ							
11	127-11	4層	軒瓦瓦	21	16.5	16.5	瓦中に巴文	F-5					
12	129-10	4層	軒平瓦	11	11	3	瓦中に巴文	G-1					
13	60-10	4層	金属製品	2	1.8	0.5	不明	N-2					
14	60-9	4層	土製品	8	4.5	4.8	土人形 猪	P-2					

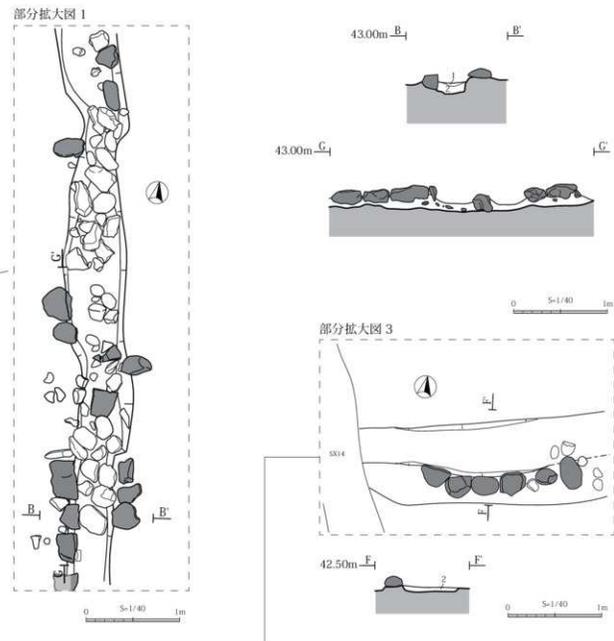
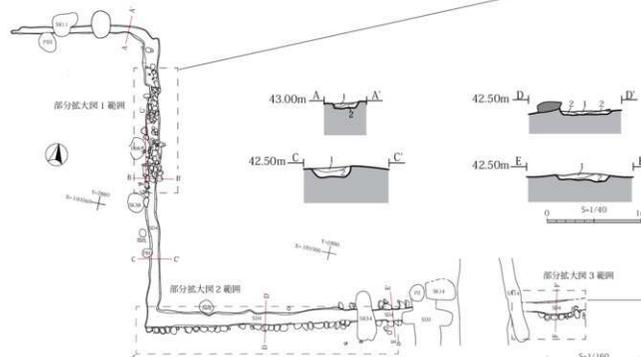
第72図 SD3 溝跡出土遺物

2) SD4 溝跡 (第73図 図版13-1~4)

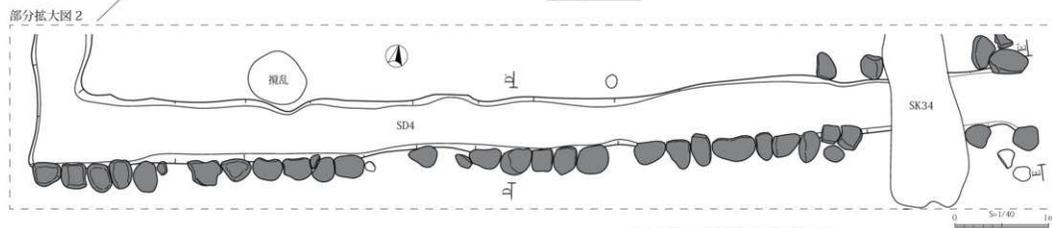
S16-E58～S17-E61 グリッドに位置し、一部に石組をもつ区画溝と考えられる。SD1、SD3、SK11、SK34と重複しており、SD4 が古い。規模は、北西の端部を基点として考えると、東方向へ6m 進んだ位置で南方向へ90°折れ曲がり、N-13°の方向に12m 走行する。更に、その位置から東方向へ90°折れ曲がり19m 走行する。検出長は総延長に対して約34mを測る。幅は40～60cmで、深さは60～80cmを測る。平面形はクランク形で、底面はやや起伏をもつ。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。水流の痕跡等は確認できなかった。

総延長34m に対して約70%にあたる23.8mの石組が残存していたが、両辺に石組が残存している箇所は、総延長の8%にあたる2.6mである。石材はいずれも端部片側を調整し平面を作り出した自然礫であり、長さ30～50cm、幅20～35cm、厚さ30～40cmを測る。石組はこの石材を内側に面を揃えて直線的に構築されている。堆積土は、砂粒・炭化物粒を含む砂質シルトの2層からなる。

遺物は1層より産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土物	土質	粘性	しまり	備考
1	1018R4/1 磁器片	砂質シルト	なし	あり	磁器・磁土・炭化物粒多量
2	723R3/3 陶器片	砂質シルト	なし	あり	炭化物粒・径約2～4mmの礫多量



第73図 SD4 溝跡平面図・断面図

写真8 SD4 溝跡石組検出状況(南から)

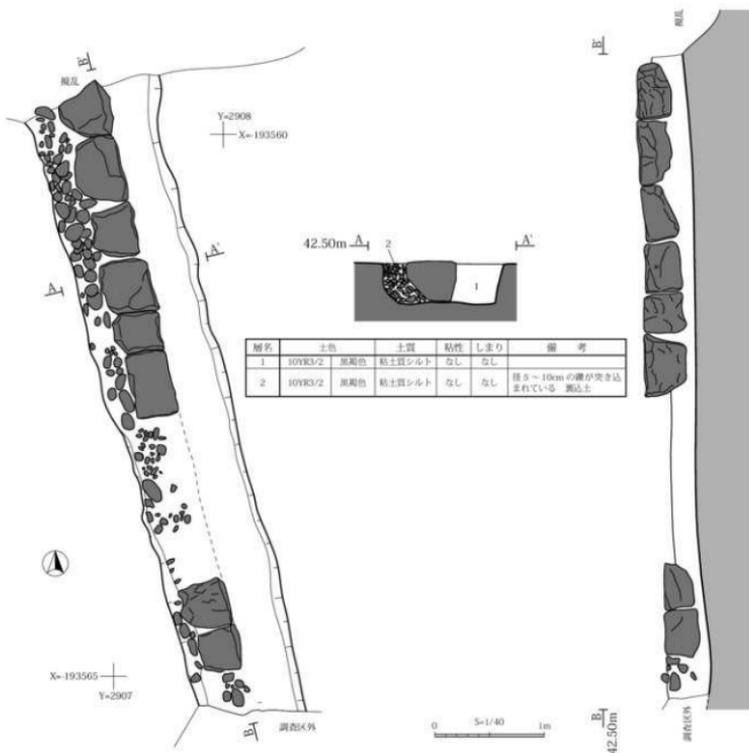


3) SD6 溝跡 (第74図 図版14-1~3)

S17-E61 グリッドに位置する。両端は調査区の外側に伸び、調査区を南北に縦断する石組みを有する溝である。石組の一部は攪乱により削平されている。検出長は3.2mで、主軸方向はN-13°-Wを示す。

石組の上端幅は0.4~0.45m、下端幅は0.3~0.4mを測る。石組は、間知石(長さ38~60cm、幅40~60cm、厚さ28~40cm)の面を内側に揃え、直線的に配置されている。裏込は自然礫(長さ5~15cm、幅5~10cm、厚さ3~10cm)が間知石の安定のために頑強に突きこまれている。

掘り方の上端幅は1~1.32m、下端幅は0.8~0.92m、深さは0.36~0.4mを測り、南側に向かって緩やかに傾斜している。堆積土は、1層は黒褐色粘土質シルトで、2層は裏込である。遺物は出土していない。



第74図 SD6 溝跡平面図・断面図

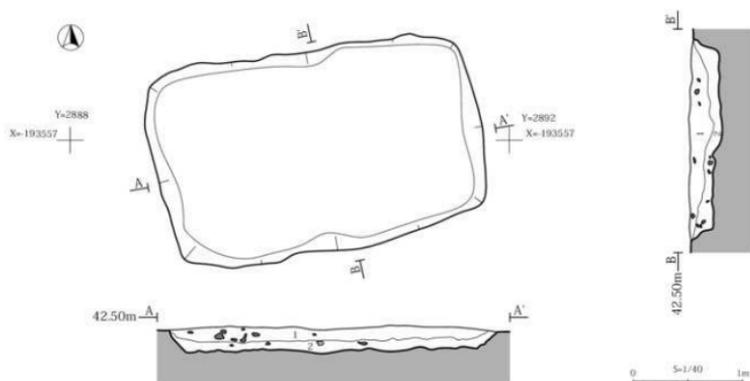
第1節 駅部

(2) 土坑

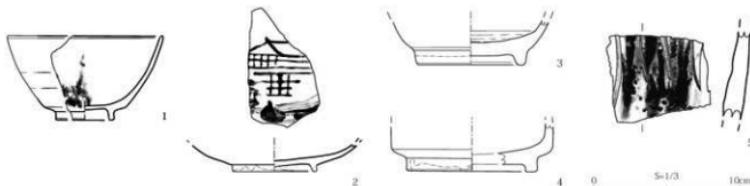
1) SK1土坑 (第75～77図 図版14-4～7)

S16-E60グリッドに位置する。規模は、長軸2.98m、短軸1.87m、深さ20cmを測る。平面形は主軸方向N-78°Eを示す長方形で、底面は起伏を持つ。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色・暗褐色砂質シルトの2層からなり、1層は炭化物、砂粒を多量に含み、2層は径2～3cm礫を多量に含む。

遺物は1層中より、17世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、19世紀代の大塚相馬産、堤産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在産の瓦質土器、瓦片、煙管などが出土し、この内20点を図示した。

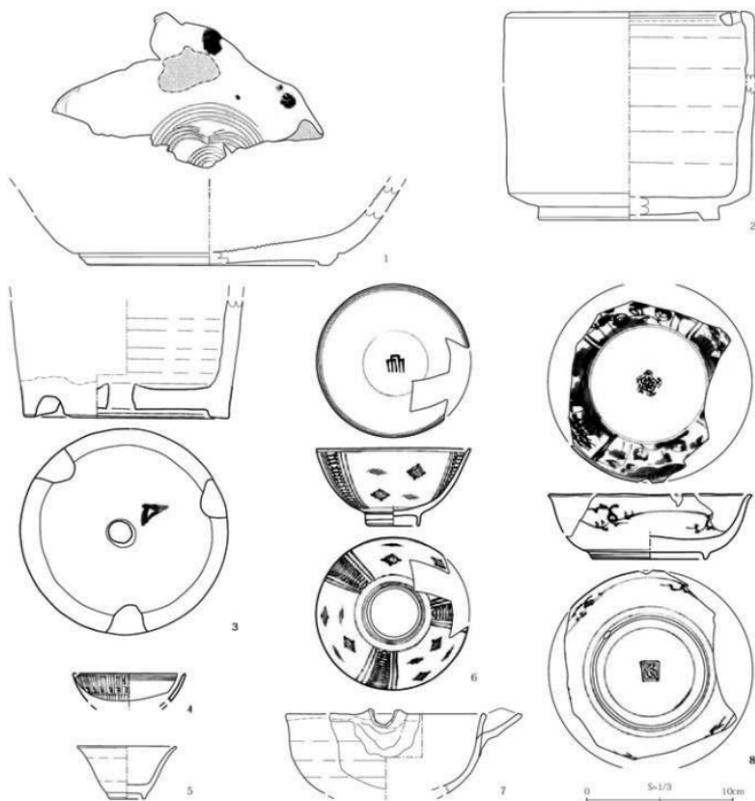


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1	砂質シルト	なし	あり	鉄粒・炭化物多量、遺物多量
2	10YR3/4	暗褐色	なし	あり	径2～3cmの礫・砂多量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上口径	底径	器高				
1	61-1	2層	陶器	碗	口縁～底部	南	11	4.5	5.8	大塚相馬	18世紀後半		I-46
2	61-2	2層	陶器	皿	体部～底部	南	110.89	5.8	11.8	大塚相馬	18世紀後半	疑込に鉄粒 遺物?	I-47
3	61-3	2層	陶器	碗	体部～底部	南	110.69	7.3	13.1	在産	19世紀以降		I-48
4	61-6	2層	陶器	碗	体部～底部	南	11.1	8.9	13.9	瀬戸・美濃	17世紀後半		I-49
5	61-3	2層	陶器	向付	体部	南	-	-	66.9	瀬戸・美濃	17世紀後半	型押し 鉄粒跡付	I-50

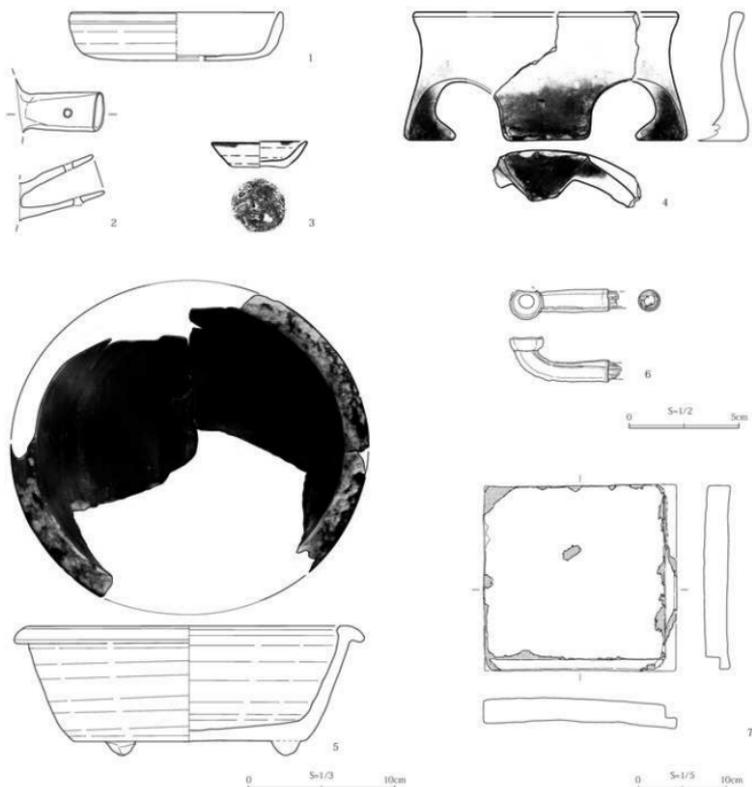
第75図 SK1土坑平面図・断面図・出土遺物(1)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	径・高さ (cm)			所在地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	62-1	2層	陶器	皿	残部～底部	赤	26	16.7	5.5	瀬戸・瓦遺	17世紀後半	惣押し一部に織部輪	I-51
2	61-7	2層	陶器	鉢	口縁～底部	赤	11.7	112.0	14.5	堀	19世紀以前	鉄軸	I-52
3	61-10	2層	陶器	椀木鉢	残部～底部	赤	15.8	14.1	8.1	堀	19世紀以後	高台に唐書「八」	I-53
4	62-3	2層	磁器	小鉢	口縁～体部	赤	7.7	-	5.7	肥前	18世紀後半	染付(内面) 唐文 内面)二重唐輪	J-22
5	62-4	2層	磁器	小鉢	口縁～底部	赤	6.8	2.4	3.7	瀬戸・瓦遺	18世紀前半～19世紀前半	18世紀前半～19世紀前半	J-23
6	62-5	2層	磁器	鉢	口縁～底部	赤	10.7	4.1	6.2	肥前	18世紀前半	染付(内面) 唐文 唐文 内面)見込に唐文	J-24
7	61-4	2層	陶器	片口	口縁～体部	赤	13.7	-	9.5	大塚畑馬	19世紀以前	鉄軸	I-54
8	62-2	2層	磁器	皿	口縁～底部	赤	11.8	7.8	4.7	肥前	18世紀後半	染付(内面) 唐文 唐文 内面)染付草花紋見込に五弁花 高台に二重唐輪(内) 唐輪	J-25

第76図 SK1土坑出土遺物(2)

第1節 駅部



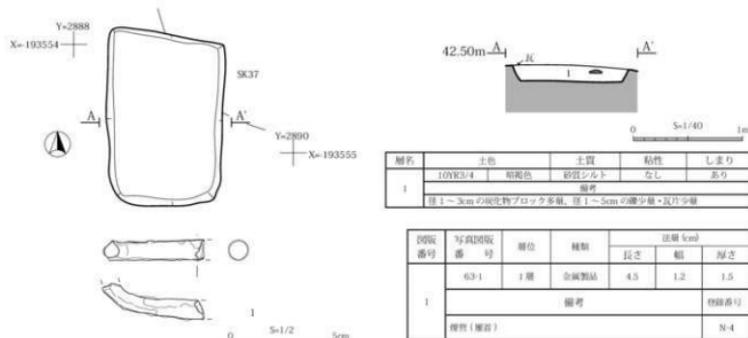
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	61-9	2層	陶器	楕円	口縁～底部	甬	14.6	10.3	3.4	肥	19世紀以後	箱輪	I-55
2	61-8	2層	陶器	楕円	口縁～底部	甬	2.7	-	5.8	肥	19世紀以後	箱輪	I-56
3	62-6	2層	土師器	灯明部	口縁～底部	甬	6.0	3.8	1.8	在肥	18世紀後半		I-230
4	62-8	2層	土師器	楕円	口縁～底部	甬	18	19.2	8.9	在肥	19世紀以後		I-231
5	62-7	2層	瓦葺土器	丸入形	口縁～底部	甬	24.2	16	9	在肥	19世紀以後		I-278
図版番号	写真図版番号	層位	種別	法量 (cm)			備考			登録番号			
				長さ	幅	厚さ							
6	62-9	2層	金属製品	4.5	1.2	1.9	埋物(埋首)一部扁平視存			N-3			
7	127-9	2層	平瓦	20.9	21	3				G-2			

第77図 SK1土坑出土遺物(3)

2) SK2 土坑 (第78図 図版15-1・2)

S16-E59 グリッドに位置する。SK37と重複し、SK2が古い。規模は長軸1.62m、短軸1.05m、深さ14cmを測る。平面形は主軸方向N-0°Eを示す不整形長方形で、底面は平坦をなす。断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の磁器、土師質土器、瓦、煙管等が出土し、この内、煙管を1点を図示した。

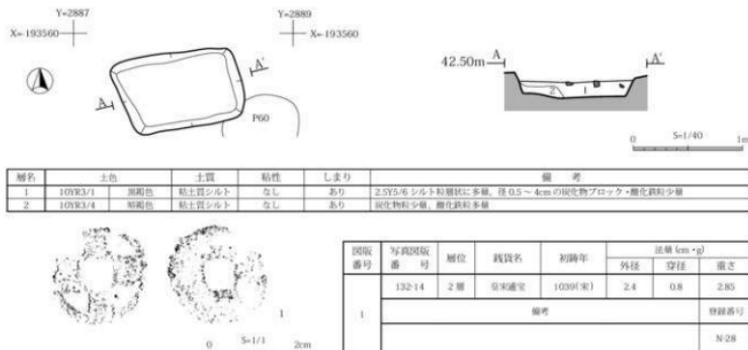


第78図 SK2土坑平面図・断面図・出土遺物

3) SK3 土坑 (第79図 図版15-3・4)

S17-E59 グリッドに位置する。P60と重複しており、SK3が古い。規模は長軸1.12m、短軸71cm、深さ20cmを測る。平面形は主軸方向N-79°Eを示す不整形長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は粘土質シルトの2層からなる。

遺物は18世紀代の肥前産の磁器の小片、古銭が出土し、この内、古銭を1点を図示した。

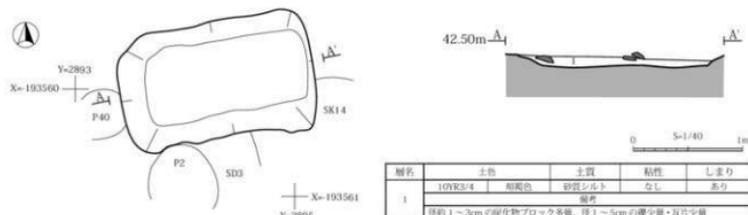


第79図 SK3土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

4) SK4 土坑 (第80図 図版15-5・6)

S17-E60～S16-E60グリッドに位置する。P40、SK14、SD3より新しく、P2より古い。規模は長軸1.78m、短軸1.14m、深さ12cmを測る。平面形は主軸方向N-78°-Eを示す長方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



第80図 SK4土坑平面図・断面図

5) SK5 土坑 (第81図 図版15-7・8)

S17-E59グリッドに位置する。P83と重複しており、SK5が新しい。規模は長軸1.6m、短軸99cm、深さ28cmを測る。平面形は主軸方向N-68°-Eを示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は3層からなる。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、金属製品等が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第81図 SK5土坑平面図・断面図

6) SK6 土坑 (第82図 図版16-1)

S15-E58グリッドに位置し、北側は調査区外に展開する。規模は長軸1.09m、短軸38cm、深さ19cmを測る。平面形は不明である。底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



第82図 SK6土坑平面図・断面図

7) SK7 土坑 (第83図 図版16-2・3)

S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸96cm、短軸50cm、深さ21cmを測る。平面形は主軸方向N-80°-Wを示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土はオリーブ褐色砂の単層である。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/3	オリーブ褐色砂	なし	なし	径2~10cmの礫少量

第83図 SK7 土坑平面図・断面図

8) SK9 土坑 (第84図 図版16-4・5)

S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸96cm、短軸50cm、深さ12cmを測る。平面形は主軸方向N-20°-Wを示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、瓦片、土師質土器、在産の瓦質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



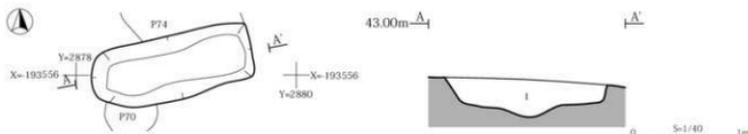
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	径2~5cmの礫と砂少量

第84図 SK9 土坑平面図・断面図

9) SK10 土坑 (第85図 図版16-6・7)

S16-E58 グリッドに位置する。P70、P74と重複しており、SK10が新しい。規模は長軸1.49m、短軸60cm、深さ36cmを測る。平面形は主軸方向N-76°-Eを示す隅丸長方形で、底面は中央部に深さ10cmほどの窪みをもつ。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は大塚相馬産の陶器、土師質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



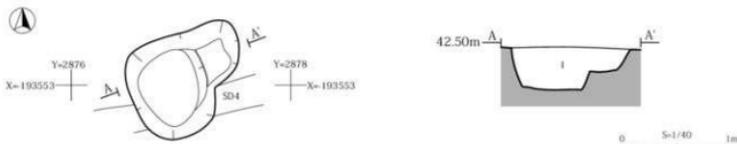
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	径2~5cmの礫と砂少量

第85図 SK10 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

10) SK11 土坑 (第86図 図版16-8)

S16-E58 グリッドに位置する。SD4と重複しており、SK11が新しい。規模は長軸1.1m、短軸94cm、深さ36cmを測る。平面形は主軸方向N-68°Eを示す不整形で、検出面から深さ20cmほどの北東部に、底面幅39cm、奥行き23cmのテラス状を呈する箇所がある。断面形は階段状である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



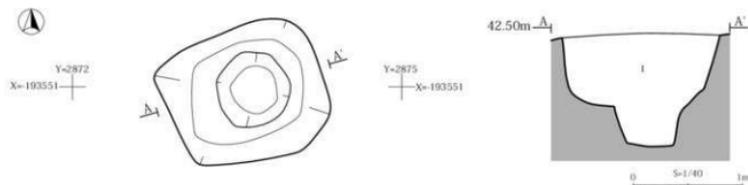
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径2~10cmの遺物層

第86図 SK11 土坑平面図・断面図

11) SK12 土坑 (第87図 図版17-1・2)

S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸1.43m、短軸1.27m、深さ1.01mを測る。平面形は主軸方向N-67°Eを示す隅丸方形で、底面は中心に向かって緩やかに傾斜し、中央部は径約70cm、深さ約40cmのビット状をなす。断面形は漏斗形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、在地産の瓦質土器・瓦片、古銭が出土している。古銭以外は細片のため図示しなかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径2~11cmの遺物層



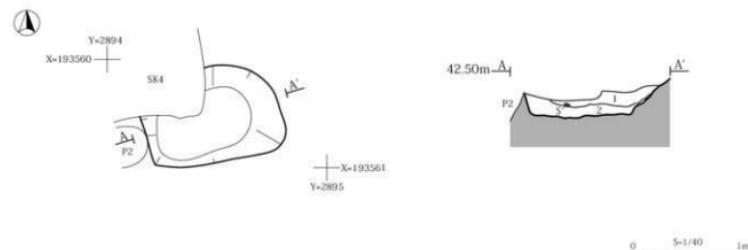
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鋳年	法量 5cm・g			備考	包録番号
					外径	穿径	高さ		
1	131-13	2層	寛永通宝	1636	2.0	0.8	2.3		N29
2	131-4	2層	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.8		N30

第87図 SK12 土坑平面図・断面図・出土遺物

12) SK14 土坑 (第88図 図版17-3・4)

S17-E60 グリッドに位置する。SK4と重複しており、SK14が古い。規模は長軸1.24m、短軸88cm、深さ28cmを測る。平面形は主軸方向N-72°Eを示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は粘土質シルトの2層からなる。

遺物は、19世紀代の大堀相馬産の陶器 18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在産の瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



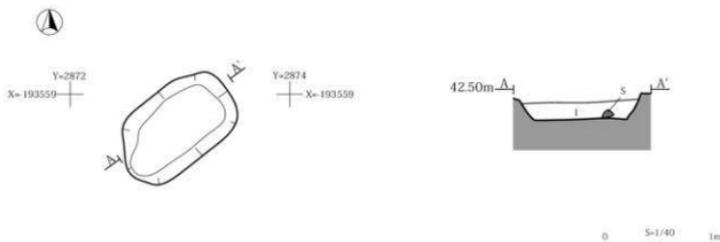
層名	土色	土質	粘性	しまり	備 考	
1	10YR3/4	黄褐色	粘土質シルト	なし	あり	径2～10cmの礫、上部に多量
2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり	炭化物粒多量

第88図 SK14土坑平面図・断面図

13) SK15 土坑 (第89図 図版17-5・6)

S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸1.16m、短軸71cm、深さ19cmを測る。平面形は主軸方向N-52°Eを示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は19世紀代の大堀相馬産の陶器、瓦片、金属製品等が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備 考	
1	5YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径2～10cmの礫、2.0Y5.0/6.0砂多量

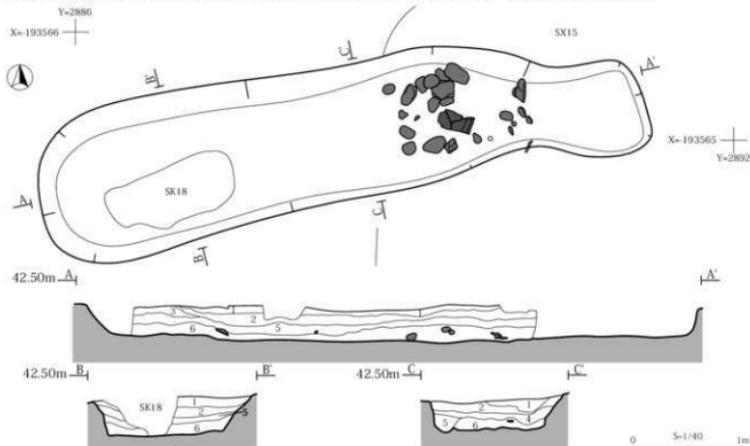
第89図 SK15土坑平面図・断面図

第1節 駅部

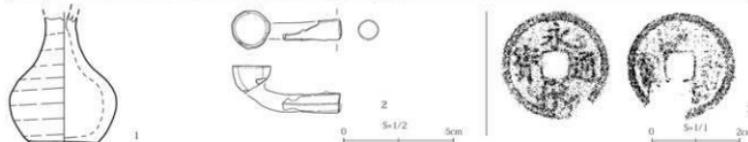
14) SK17土坑（第90図 図版18-1～3）

S17-E60～S17-E59グリッドに位置する。SK17は、東側のSX15より新しく、西側のSK18より古い。規模は長軸5.58m、短軸1.44m、深さ27～35cmを測る。平面形は主軸方向N-79°-Eを示す長楕円形で、底面は平坦であり、断面形は逆台形である。堆積土は炭化物を多量に含むシルトの6層からなる。

遺物は6層より18世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、在産産の瓦質土器、御神酒徳利と思われる土師質土器の胴部～底部片、瓦片、煙管、古銭が出土し、この内3点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	N-3	暗灰色	シルト	なし	あり	炭化物層
2	5YR3/1	黒褐色	シルト	なし	あり	径2～5cmの焼土ブロック 炭化物層多量
3	N-3	暗灰色	シルト	ややあり	あり	径1～2cmの塊の炭。層状に多量
4	10YR2/1	黒色	シルト	ややあり	あり	径1～3cmの炭化物ブロック。層状に多量
5	N-2	黒色	シルト	ややあり	なし	炭化物層多量
6	N-3	暗灰色	シルト	ややあり	なし	炭化物層



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	出土	法量 (cm)		産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径				
1	63-3	6層	土師質土器	徳利	胴部～底部	割	3.1	6.1	在産	19世紀以後	御神酒徳利	I/232
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号				
				長さ	幅	厚さ						
2	63-2	6層	金属製法	4.9	1.8	1.9	煙管(瀬戸)	N-5				
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初周年	法量 (cm・g)			備考	登録番号			
					外径	穿径	重さ					
3	132-7	6層	永楽通宝	1808(天明)	2.4	0.8	2.68	N/31				

第90図 SK17土坑平面図・断面図・出土遺物

15) SK18 土坑 (第91図 図版17-7・8・18-2)

S17-E59 グリッドに位置する。SK17と重複しており、SK18が新しい。規模は長軸1.16m、短軸54cm、深さ37cmを測る。平面は主軸方向N-65°Eを示す不整形形で、底面は平坦をなし、断面形は階段状である。底面に炭化した木片を多量に含む。堆積土は黒褐色砂質シルトの3層からなる。遺物は出土していない。



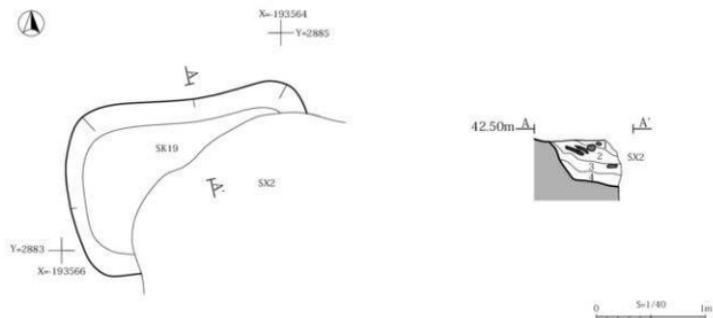
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5YR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	炭化物粒少量、径5～10cmの礫多量
2	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	炭化物粒多量、径5～10cmの礫多量
3	7.5YR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	炭化物粒多量、10～20cmの木片含む

第91図 SK18土坑平面図・断面図

16) SK19 土坑 (第92図 図版18-4・5)

S17-E59 グリッドに位置する。SX2と重複しており、SK19が古い。規模は長軸2.22m、短軸1.57m、深さ39cmを測る。平面形は主軸方向N-77°Eを示す隅丸長方形と考えられる。底面は平坦をなし、南側に向かって緩やかに傾斜する。断面形は不明である。堆積土は砂質シルト・粘土の4層からなる。

遺物は19世紀の大瀬相馬産の陶器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量、径5～10cmの礫少量
2	7.5YR4/3 褐色	粘土	なし	なし	10YR3/3粘土が散在する。炭化物粒少量
3	7.5YR2/1 黒色	砂質シルト	なし	なし	炭化物粒 径5～10cmの礫少量
4	5YR2/1 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	

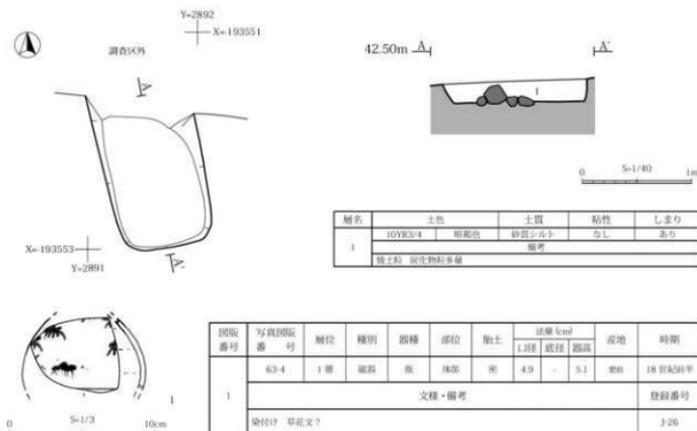
第92図 SK19土坑平面図・断面図

第1節 駅部

17) SK22 土坑 (第93図 図版19-1・2)

S16-E60 グリッドに位置し、北側は調査区外に広がる。規模は長軸1.21m、短軸92cm、深さ20cmを測る。平面形は主軸方向N-10°-Wを示す長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層で、底面付近に長さ10～20cm、幅5～10cm、厚さ5～10cmの自然礫を含む。

遺物は19世紀代の大堀相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、石製品、土製品、瓦片、金属製品等の細片が出土し、この内1点を図示した。

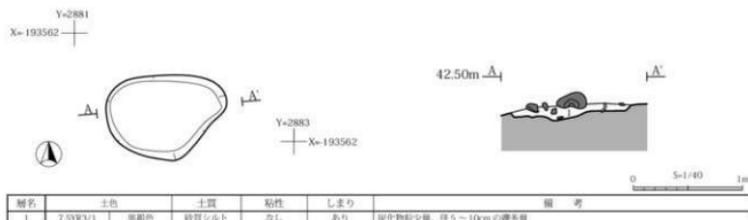


第93図 SK22 土坑平面図・断面図・出土遺物

18) SK23 土坑 (第94図 図版19-3・4)

S17-E59 グリッドに位置する。規模は長軸1.1m、短軸0.79m、深さ0.13mを測る。平面形は主軸方向N-84°Eを示す不整な楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は浅いすり鉢状である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層で礫を多量に含む。

遺物は19世紀代の大堀相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示しなかった。

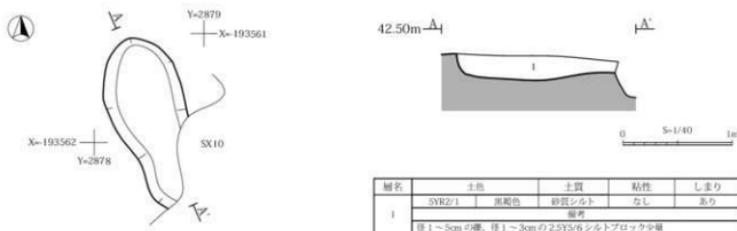


第94図 SK23 土坑平面図・断面図

19) SK25 土坑 (第95図 図版19-5・6)

S17-E58 グリッドに位置する。SX10と重複しており、SK25が古い。規模は長軸1.56m、短軸71cm、深さ20cmを測る。平面形は主軸方向N-17°-Wを示す不整形円形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物 19世紀代の大瀬相馬産の陶器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

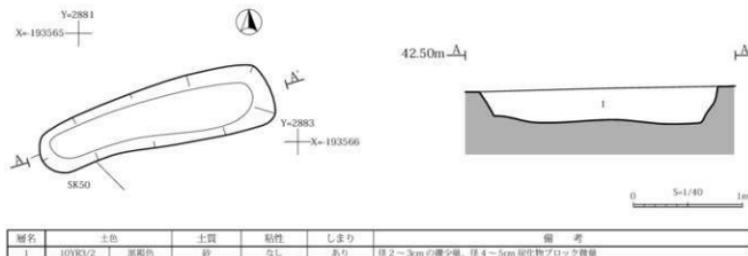


第95図 SK25 土坑平面図・断面図

20) SK27 土坑 (第96図 図版19-7・8)

S17-E59 グリッドに位置する。SK50と重複しており、SK27が古い。規模は長軸2.18m、短軸62cm、深さ34cmを測る。平面形は主軸方向N-72°-Eを示す長楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂の単層である。

遺物は19世紀代の大瀬相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、金属製品が出土し、この内1点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			高地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	409-6	1層	磁器	虹皿	口縁~底面	南	4.7	1.5	1.5	肥前	19世紀20年代	整理し	J27

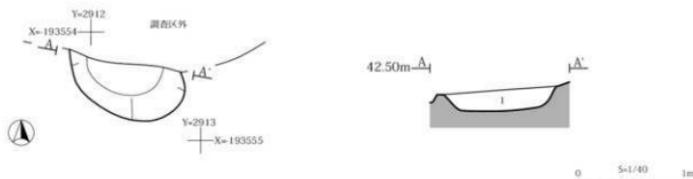
第96図 SK27 土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

21) SK28 土坑 (第97図 図版20-1)

S16-E62 グリッドに位置し、北側は調査区外に広がる。規模は長軸 1.12m、短軸 53cm、深さ 20cm を測る。平面形は主軸方向 N-69°-W を示す不整形楕円形と推定され、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦片が出土し、この内 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5R3/1 黒褐色	シルト	なし	なし	径 2～5cm の遺少量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	散土	流量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	63-7	1層	磁器	鉢	体部	密	-	-	3	肥前	18世紀前半	染付け 菊花散らし・水取文	J28

第97図 SK28 土坑平面図・断面図・出土遺物

22) SK30 土坑 (第98図 図版20-2・3)

S16-E62～S16-E61 グリッドに位置する。規模は長軸 1.12m、短軸 77cm、深さ 32cm を測る。平面形は主軸方向 N-16°-W を示す楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は極暗赤褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は 18 世紀代の肥前産の磁器、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5YR2/4 極暗赤褐色	粘土質シルト	なし	あり	径 1～2cm の磁化物ブロッコ多量。下部に径 5～10cm の礫多量

第98図 SK30 土坑平面図・断面図

23) SK31 土坑 (第99図 図版20・4・5)

S16-E60 グリッドに位置し、規模は長軸 1.45m、短軸 1.24m、深さ 28cm を測る。平面形は主軸方向 N-54°E を示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒色砂質シルトの単層である。

遺物は土師質土器、瓦片、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

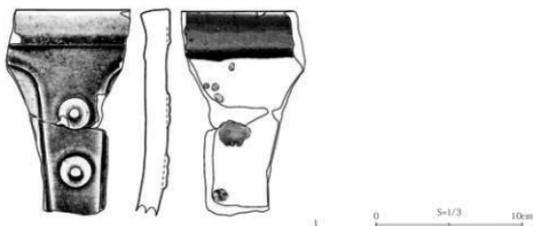


第99図 SK31 土坑平面図・断面図

24) SK32 土坑 (第100図 図版20・6・7)

S17-E59～S16-E59 グリッドに位置する。規模は長軸 97cm、短軸 62cm、深さ 38cm を測る。平面形は主軸方向 N-23°E を示す隅丸長方形で、底面は南側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は 18 世紀代の瀬戸・美濃系陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦片が出土し、この内 1 点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	63-8	1層	陶器	体部	柄	-	-	13.3	瀬戸・美濃	18世紀代		157	

第100図 SK32 土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

25) SK33 土坑 (第101図 図版21-1・2)

S17-E58～S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸62cm、短軸47cm、深さ14cmを測る。平面形は主軸方向N-81°-Wを示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	径2～4cmの礫多量、砂粒多量、炭化物粒少量

第101図 SK33 土坑平面図・断面図

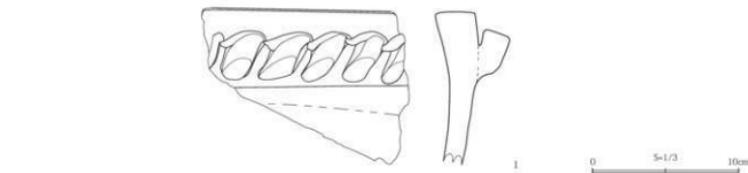
26) SK34 土坑 (第102図 図版21-3・4)

S17-E60 グリッドに位置し、規模は長軸2.1m、短軸82cm、深さ26cmを測る。平面形は主軸方向N-20°-Wを示す不整の長楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は19世紀代の堤産の陶器、土師質土器、在地産の瓦質土器の火鉢、瓦片、金属製品が出土し、この内1点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり
1	炭化物粒多量、粘土粒少量、径5～40cmの礫混入、瓦片入				

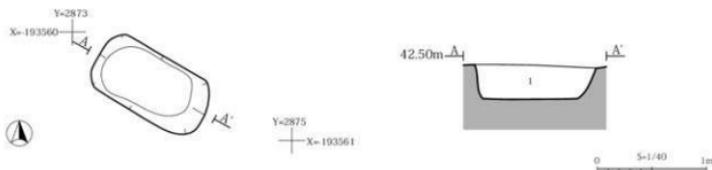


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	土質	法量 (cm)		産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径				
1	43-9	1層	瓦質土器	火鉢	口縁部	赤	-	10.6	在地	19世紀	口縁部に粘土質の盛り付け 指跡あり	1-279

第102図 SK34 土坑平面図・断面図・出土遺物

27) SK35 土坑 (第103図 図版21-5・6)

S17-E58 グリッドに位置する。規模は長軸1.11m、短軸58cm、深さ32cmを測る。平面形は主軸方向N-59°-Wを示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。



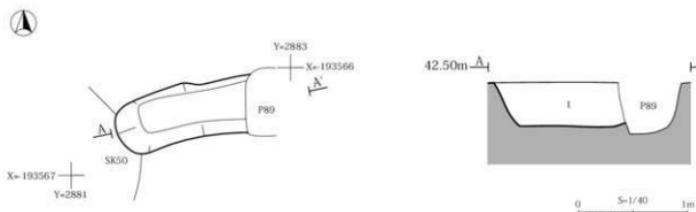
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	7.5B/C/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり	径2~3cmの礫多量、焼土粒・炭化物和雜質

第103図 SK35 土坑平面図・断面図

28) SK36 土坑 (第104図 図版21-7・8)

S17-E59 グリッドに位置する。SK36はSK50より新しく、P89より古い。規模は長軸1.19m、短軸52cm、深さ42cmを測る。平面形は主軸方向N-77°-Eを示す隅丸方形と考えられる。底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は平瓦の小片が2点出土しているが、細片のため、図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	7.5B/C/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり	径2~3cmの礫多量、焼土粒・炭化物和雜質

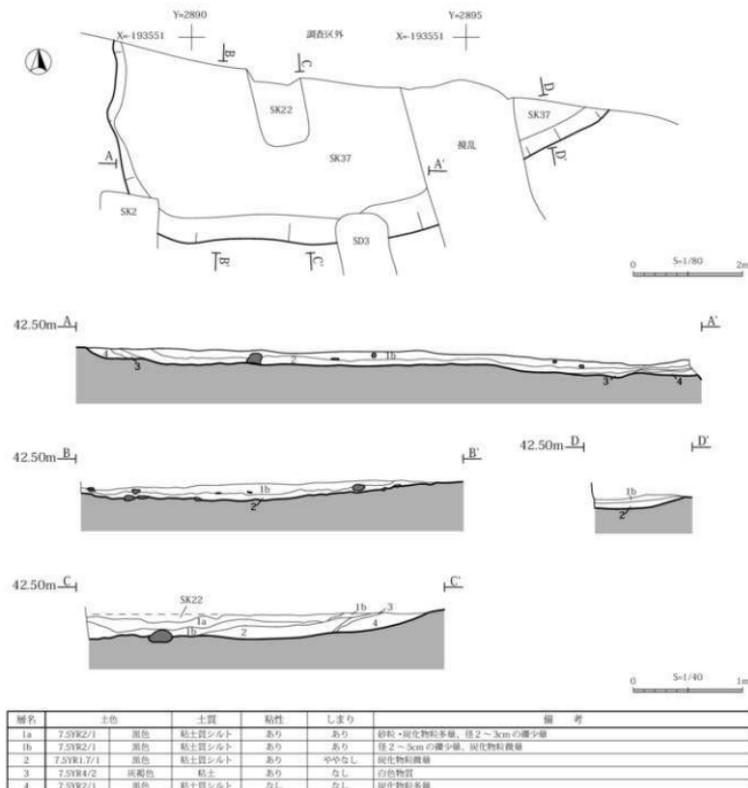
第104図 SK36 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

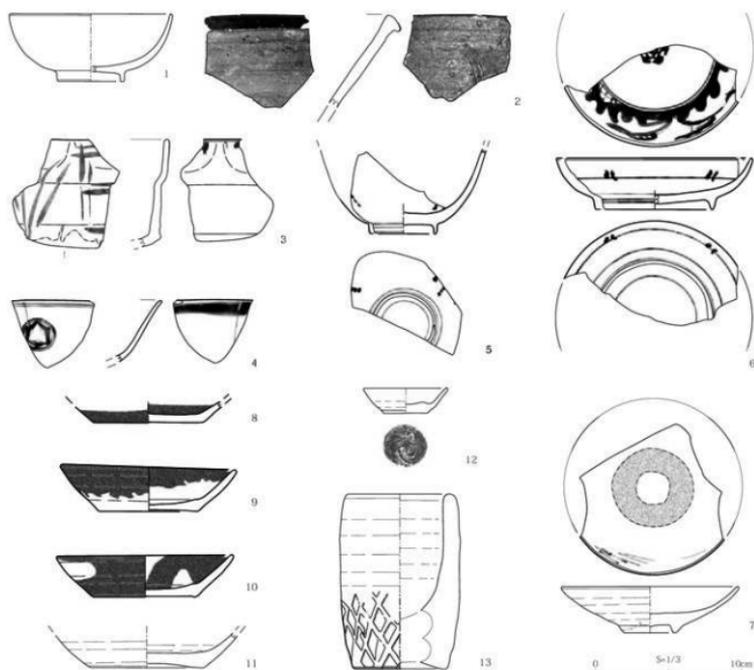
29) SK37 土坑 (第 105～107 図 図版 22-1～4)

S16-E59～S16-E58 グリッドに位置し、北側は調査区外に広がる。SD3、SK2、SK22と重複しており、SK37が古い。東側を一部覆乱されている。規模は長軸8.97m、短軸3.16m、深さ15～20cmを測る。平面形は不明であるが、底面はやや起伏をもち、壁は南側に向かって緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は大別4層、細別5層からなり、1・2層は堆積土、3・4層は構築土と考えられる。

遺物は1a、1b層中より17世紀代の絵唐津向付陶器、岸産の播鉢、17世紀～18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、石製品、土製品、煙管、飾金具が出土し、この内17点を図示した。なお、18世紀代の磁器には焼痕による補修痕の見えるものがあり、廃棄年代は19世紀代以降と思われる。



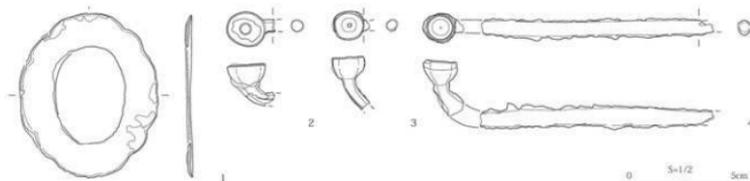
第105図 SK37土坑平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	64-1	2層	陶器	甕	口縁～ 体部	南	11.2	4.5	4.7	肥前	17世紀後半		I-58
2	64-2	2層	陶器	磁鉢	口縁～ 体部	南	28	-	6.9	伊	17世紀	黒絵 草文	I-59
3	64-3	2層	陶器	向付	口縁～ 底部	南	-	-	7.4	唐津	18世紀前半～ 19世紀前半	黒絵 草文	I-60
4	64-4	2層	磁器	碗	口縁～ 体部	南	10.4	-	4.4	肥前	18世紀後半	染付け 丸文 焼痕あり	J29
5	64-7	2層	磁器	碗	体部～ 底部	南	11.3	4.5	5.8	肥前	18世紀前半	染付け 草花文?	J30
6	64-5	2層	磁器	皿	口縁～ 底部	南	13.5	8.1	3.5	肥前	18世紀前半	染付け 外周(草文 内周)草花文 見込に5弁花	J31
7	64-6	2層	磁器	皿	口縁～ 底部	南	12.2	3.6	3.3	肥前	17世紀後半	染付け 見込(肥)目輪刺 焼野原	J32
8	64-9	2層	土師器 土器	砂わらひ	体部～ 底部	南	10	7.5	1.5	在地	18世紀前半～ 19世紀前半	油煙付着	I-233
9	65-1	2層	土師器 土器	砂わらひ	口縁～ 底部	南	12.1	6.8	3.1	在地	18世紀前半～ 19世紀前半	煤煙付着あり	I-234
10	65-3	2層	土師器 土器	砂わらひ	口縁～ 底部	南	12.2	7	2.9	在地	18世紀前半～ 19世紀前半	煤煙付着あり	I-235
11	64-10	2層	土師器 土器	砂わらひ	体部～ 底部	南	12.4	7.7	2.3	在地	18世紀前半～ 19世紀前半		I-236
12	65-2	2層	土師器 土器	灯明皿	口縁～ 底部	南	5.8	3	1.8	在地	18世紀前半～ 19世紀前半		I-237
13	64-8	2層	土師器 土器	焼飯甕	口縁～ 底部	南	7.7	6.4	12.2	在地	17世紀	格子状刺目	I-238

第106図 SK37土坑出土遺物(1)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	65-4	2層	金属製品	7.5	6.5	0.5	鎌金具	N-6
2	65-5	2層	金属製品	0.5	1.5	2	埋管(断面)	N-7
3	65-6	2層	金属製品	0.5	1.5	2	埋管(断面)	N-8
4	65-7	2層	金属製品	0.5	1.5	3	埋管	N-9

第107図 SK37土坑出土遺物(2)

30) SK40土坑 (第108図 図版23-1・2)

S17-E58～S16-E58グリッドに位置する。SB4を構成するP12と重複しており、SK40が新しい。規模は長軸1.08m、短軸48cm、深さ31cmを測る。平面形は主軸方向N-72°Eを示す楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層で礫を多量に含む。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	なし	砂粒多量、径5～20cmの礫多量

第108図 SK40土坑平面図・断面図

31) SK46土坑 (第109図 図版23-3・4)

S17-E58グリッドに位置する。P21と重複しており、P21が新しい。規模は長軸82cm、短軸44cm、深さ45cmを測る。平面形は主軸方向N-76°Wを示す長方形と思われる、底面は平坦をなし、断面形はU字形である。堆積土は2層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5YR2/1	褐色	砂質シルト	なし	埋作物多量、径2～5cmの礫少量
2	7.5YR4/3	褐色	砂質シルト	なし	径2～5cmの礫多量

第109図 SK46土坑平面図・断面図

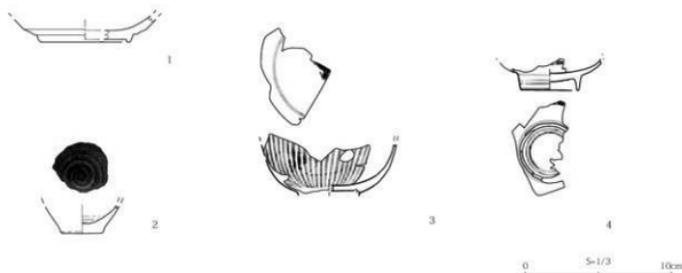
32) SK47 土坑 (第110図 図版23-5)

S16-E59 グリッドに位置する。規模は長軸97cm、短軸48cm、深さ20cmを測る。平面形主軸方向はN-3°-Wを示す楕円形で、底面はすり鉢状に中央に向かって緩やかに傾斜しており、断面形は皿形である。堆積土は1・2層が砂質シルトで、3層が黒褐色粘土質シルトである。底面付近で横木が確認されており、地中梁の可能性も考えられ、なんらかの建物を構成する柱穴と思われるが、明確に頼む柱穴は見つからなかった。

遺物は17世紀前半の志野産の陶器、19世紀代の大塚相馬産の豆麩、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦片が出土し、この内4点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備 考	
1	7.5R3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径2~2cmの2.5Y5.6粘土ブロック多量、径5~10cmの礫多量、炭化物少量
2	7.5R2/1	黒色	砂質シルト	なし	あり	炭化物粒、径3~10mmの礫少量
3	7.5R3/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり	2.5Y5.6粘土粒多量、炭化物粒微量



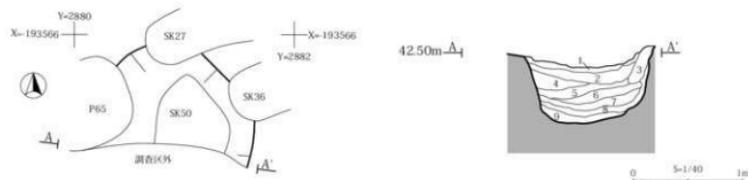
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	60-8	2層	陶器	皿	体部~底面	滑	0.5	6.1	1.8	志野	17世紀前半	白磁輪	J41
2	60-9	2層	陶器	豆麩	底面	滑	4.9	2.8	1.9	大塚相馬	19世紀前半	鉄輪印付成し	J42
3	66-1	2層	磁器	碗	体部	滑	0.3	4.1	4.4	肥前	18世紀前半	染付け 外面・染短文 内面・見込に龍	J33
4	66-2	2層	磁器	碗	体部~底面	滑	7	3.9	2.2	肥前	18世紀前半	染付け 圓輪	J34

第110図 SK47土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

33) SK50 土坑 (第111図 図版23-6)

S17-E59 グリッドに位置し、南側は調査区外に広がる。P65、SK27、SK36 と重複し、SK50 が古い。規模は長軸 1.34m、短軸 90cm、深さ 70cm を測る。平面形は不整楕円形と考えられ、底面は中心に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。堆積土は径 1～5cm の小礫を少量含む粘土質シルトなど 9 層からなる。遺物は出土していない。

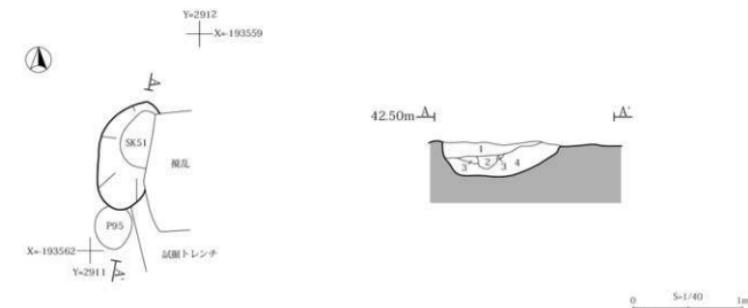


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	SPR3/1 暗青灰色	粘土質シルト	あり	あり	10YR3/3 のブロック多量
2	3YR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量
3	10YR4/2 灰茶褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 5mm 程度の礫少量
4	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	あり	あり	径 5mm 程度の礫少量、径 1mm 程度材を少量含む
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	なし	なし	径 3mm 程度の礫少量、径 5mm 程度の礫多量、白色粘土多量、径 1mm 程度の 10YR3/3 のブロックを極微量
6	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	あり	あり	径 5mm 程度の炭化物多量、自然シルト粘土多量
7	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 5mm 程度の炭化物少量、10YR3/3 のブロック極微量
8	10YR4/2 灰茶褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 2mm 程度の礫多量、白色シルト粘土多量
9	10YR3/1 黒褐色	粘土	あり	なし	径 3cm 程度の炭化材断面

第111図 SK50 土坑平面図・断面図

34) SK51 土坑 (第112図 図版23-7)

S17-E62 ～ S16-E62 グリッドに位置し、東側は掘乱で削平されている。P95 と重複し、SK51 が新しい。規模は長軸 1.12m、短軸 35cm、深さ 24cm を測る。平面形は主軸方向 N-12°E を示す楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は砂質シルト・シルトの 4 層からなる。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5～10mm の炭化物多量、径 1～2mm 程度の礫少量
2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	炭化物粒多量、径 5～10mm の礫少量
3	10YR3/6 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5～10mm の 10YR3/3 粘土質シルトブロック多量
4	10YR3/1 黒褐色	シルト	なし	あり	

第112図 SK51 土坑平面図・断面図

35) SK52 土坑 (第113図 図版23-8)

S17-E61 グリッドに位置する。規模は長軸83cm、短軸77cm、深さ14cmを測る。平面形は不整楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。



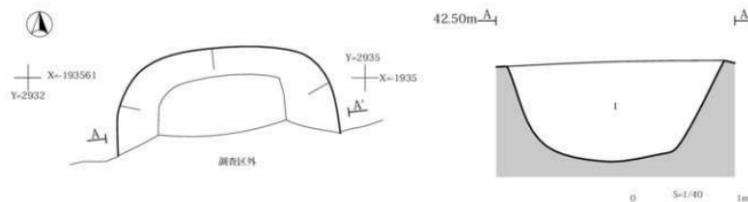
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5YR2/1	黒灰色 粘土質シルト	なし	あり	径約5cmの遺少物

第113図 SK52 土坑平面図・断面図

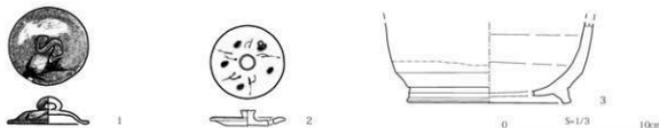
36) SK75 土坑 (第114～119図 図版24-1)

S17-E64 グリッドに位置し、南側は調査区外に広がる。規模は長軸1.98m、短軸78cm、深さ86cmを測る。平面形は主軸方向 N-84°-E を示す隅丸方形と推定され、底面は中心に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。

遺物は19世紀代の大堀相馬産、堤産の陶器、17～19世紀代の肥前産磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、金属製品、土製品が出土し、この内33点を図示した。



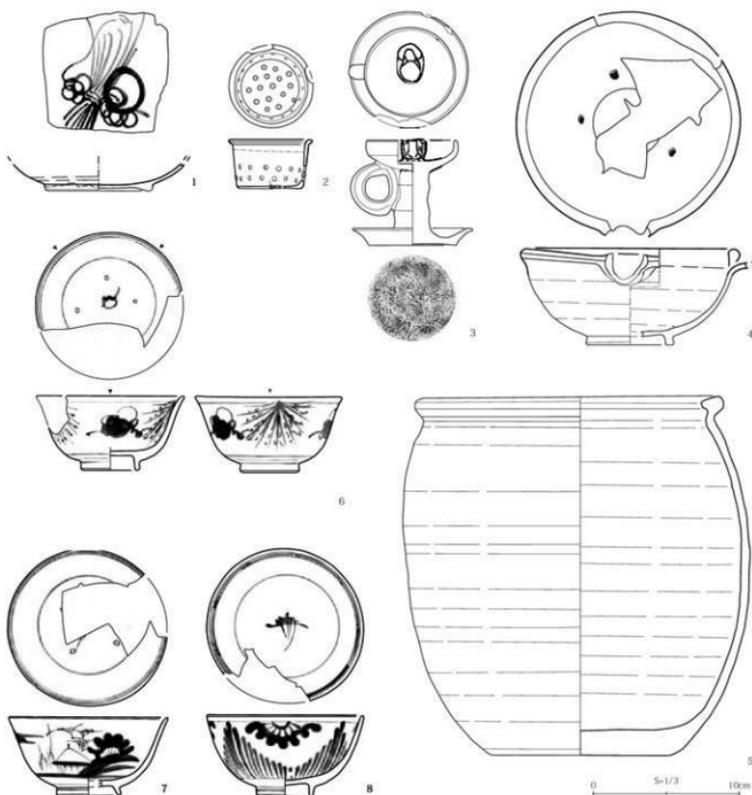
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/1	褐灰色 粘土質シルト	なし	なし	2～5cmの遺少物、出土遺物多量(近世～近代)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	66-4	1層	陶器	土器(蓋)	体部	附	5.5	3	1.9	大堀相馬	19世紀前半	鉄絵 秋草 瓦軸	143
2	66-5	1層	陶器	土器(蓋)	体部	附	5.2	2.9	10.1	大堀相馬	18世紀前半～19世紀前半	色絵	144
3	66-8	1層	陶器	鉢	体部～底面	附	14.2	11.2	0.7	在地	18世紀前半～19世紀前半	鉄絵	145

第114図 SK75 土坑平面図・断面図・出土遺物(1)

第1節 駅部



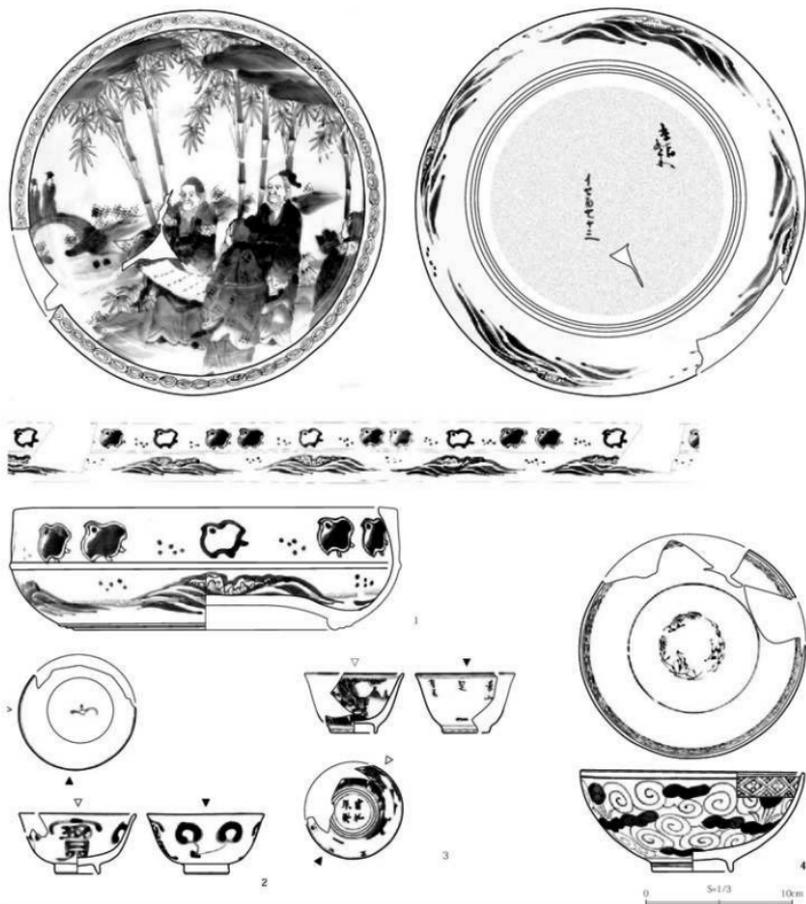
図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法線 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	66-7	1層	陶器	皿	底部	密	11.6	7.3	1.8	大塚和馬	18世紀後半	鉄絵 宝物 稲成	1466
2	66-9	1層	陶器	茶碗シ	口縁～ 底部	密	5.7	4.5	4.5	大塚和馬	18世紀後半	底面と壁面に穿孔あり	1467
3	66-6	1層	陶器	茶碗	口縁～ 底部	密	6.2	6	7.4	在野	18世紀前半	鉄絵	1468
4	68-8	1層	陶器	片口	口縁～ 底部	密	14.5	6	6.7	在野	18世紀後半～ 19世紀前半	鉄絵	1469
5	66-10	1層	瓦質土 器	甕	口縁～ 底部	密	20.8	12.4	24.5	在野	19世紀以降		1280
6	68-5	1層	磁器	碗	口縁～ 底部	密	11	4.5	5.7	瀬戸・美濃	18世紀前半～ 19世紀前半	染付付 外面)宝物 内面)舞獅 見込に大文字	J35
7	67-2	1層	磁器	碗	口縁～ 底部	密	10.9	4.3	5.6	肥前	18世紀前半～ 19世紀前半	染付付 外面)山水文 裏面)論山 内面) 見込に文様	J36
8	68-4	1層	磁器	碗	口縁～ 底部	密	10.8	3.8	5.6	瀬戸・美濃	18世紀後半	染付付 外面)草花文 内面)口縁部に菱形した 雲文、見込に希字文	J37

第115図 SK75土坑出土遺物(2)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	67-4	1層	磁器	碗	口縁~ 底部	所	36	8.5	6.9	肥前	19世紀以後	染付け 外面から内部にかけて一帯分りの雲竜 機軸画あり	J-38
2	68-1	1層	磁器	碗	口縁~ 底部	所	11.6	4.2	4.6	瀬戸・美濃	18世紀前半~ 19世紀前半	染付け 外面に草花文 内部に鳥	J-39
3	68-2	1層	磁器	碗	口縁~ 底部	所	11.7	4.3	4.3	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 外面に草花文(牡丹?) 内部に鳥	J-40
4	69-6	1層	磁器	碗	口縁~ 底部	所	7.6	3.4	3.6	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 外面に山水文(山中無野日) 内部に熊鷹 冠込に羽波	J-41
5	67-3	1層	磁器	小鉢	縁部~ 底部	所	6.4	2.8	4.6	瀬戸・美濃	19世紀以後	浮輪裏による染付け 外面に山水文 裏「西山 之「工」」 高竹内 (成化半製)	J-42
6	68-3	1層	磁器	碗	縁部~ 底部	所	4.3	3	3.6	肥前	19世紀以後	染付け 文字?	J-43
7	70-1	1層	磁器	小鉢	口縁~ 底部	所	6.7	2.4	3.3	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 外面に建井文(口縁有り) 内部に冠込に染付け鳥	J-44

第116図 SK75土坑出土遺物(3)



図版番号	写真図取番号	斛位	種別	器種	部位	敷土	法層 (cm)			時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高			
1	67-1	1層	鏡部	皿	口縁~底部	密	26.6	17.5	8.7	肥前	19世紀以前 染付(内面)人物図案「竹林の七賢」(外面)流し字鳥文 底面に文様「九千七百九十五 イ七百七十二」 鉄線画あり	J-45
2	69-5	1層	鏡部	碗	口縁~底部	密	8.3	3.2	4.3	瀬戸・美濃	19世紀前半 染付(外面)「龍」字(口縁有り)内面)見込に編織	J-46
3	68-7	1層	鏡部	小杯	口縁~底部	密	6.8	3.2	4.1	瀬戸・美濃	19世紀以後 染付(外面)山水文 裏(内面)是「口」高台に「成化半製」	J-47
4	68-6	1層	鏡部	碗	口縁~底部	密	15.3	5.6	7.1	肥前	19世紀以後 染付(外面)唐草(内面)口縁に四方唐文 見込に模写松竹梅文	J-48

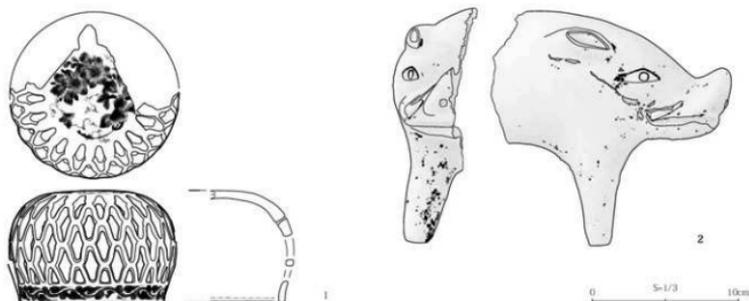
第117図 SK75土坑出土遺物(4)



図版 番号	写真図版 番号	部位	種類	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	69-1	1層	磁器	皿	口縁～ 底部	密	14.9	8	2.5	肥前	18世紀前半～ 19世紀前半	染付汁 外面)梅文 内面)雲電	J49
2	69-2	1層	磁器	輪花皿	口縁～ 底部	密	14	9.1	3.3	肥前	18世紀前半	染付汁 外面)草花文 高台)二重障子 高台)花(豆倉半割)	J50
3	70-6	1層	磁器	碗	体部～ 底部	密	10.1	7.8	14.8	肥前	19世紀前半	染付汁 輪宝文	J51
4	69-4	1層	磁器	鼻先碗口	口縁～ 底部	密	6.5	4.7	5.2	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付汁 外面)山水文 内面)朝顔付舟 内面)見立(宮波)	J52
5	70-2	1層	磁器	瓦角皿	口縁～ 底部	密	18.5	14.1	3.8	肥前	18世紀前半	染付汁 外面)七宝文 胎)「藤南白」 内面)草花文・山水文 焼締磁器丸	J53
6	70-4	1層	磁器	鉢	体部	密	-	-	8.6	肥前	18世紀前半	染付汁 草花文	J54
7	70-9	1層	土師質 土器	皿	体部～ 底部	密	15	11	3.3	在郷	19世紀以後		I-239
8	70-3	1層	磁器	蓋	口縁部	密	10	-	12.5	肥前	19世紀前半	染付汁 駒 羽子板 羽 扇	J55
9	69-3	1層	磁器	瓶	体部～ 底部	密	1.7	3.5	10.7	肥前	18世紀前半	染付汁 草花文 西松	J56

第118図 SK75土坑出土遺物(5)

第1節 駅部



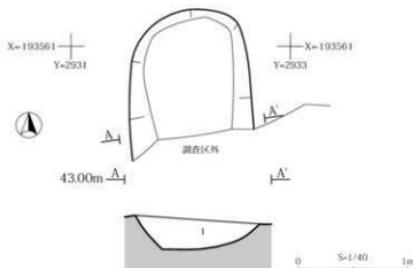
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	70-5	1層	磁器	香炉	鉢部~底部	南	10	5	7.8	肥前	17世紀後半	染付け 草文	J-57
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考					登録番号	
2	70-11	1層	土製品	16.1	5	17.2	土人形 猪 灰化物が付着					P-3	

第119図 SK75土坑出土遺物(6)

37) SK76土坑 (第120図 図版24-2)

S17-E64グリッドに位置し、南側は調査区外に広がる。規模は長軸1.16m、短軸1.13m、深さ31cmを測る。平面形は主軸方向N-7°-Wを示す長楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。

遺物は18世紀代の小野相馬産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、在産地の植木鉢、瓦質土器が出土し、この内3点を図示した。



編名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	なし	なし	層2~5cmの層少量。出土遺物多量(図版1図版1~図版1)



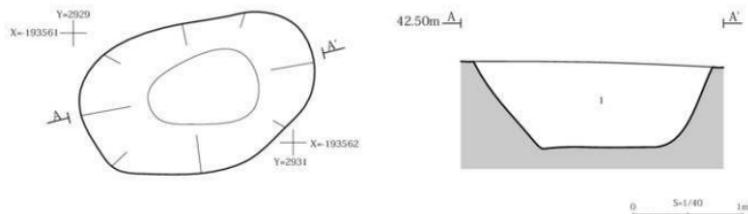
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	71-3	1層	土質瓦土器	鉢	鉢部~底部	南	11.5	8	6.2	在産	19世紀5以後	植木鉢に転用	J-240
2	71-2	1層	陶器	仏花器?	鉢部~底部	南	7.2	5.5	2.8	小野相馬	18世紀後半		J-70
3	71-1	1層	磁器	小鉢	口縁~底部	南	6.7	2.7	4.2	瀬戸・美濃	19世紀5以後	染付け 團扇 磁反	J-58

第120図 SK76土坑平面図・断面図・出土遺物

38) SK77土坑 (第121～123図 図版25-1・2)

S17-E64～S17-E63グリッドに位置する。規模は長軸2.18m、短軸1.39m、深さ83cmを測る。平面形は主軸方向N-74°-Eを示す楕円形で、底面は平坦、断面形は逆台形である。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。

遺物は18～19世紀代の大塚相馬産、在地産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産、切込産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器火鉢、金属製品が出土し、この内21点を図示した。なお、図121-4の切込産徳利の外底面には墨書で「宮」と記されている。



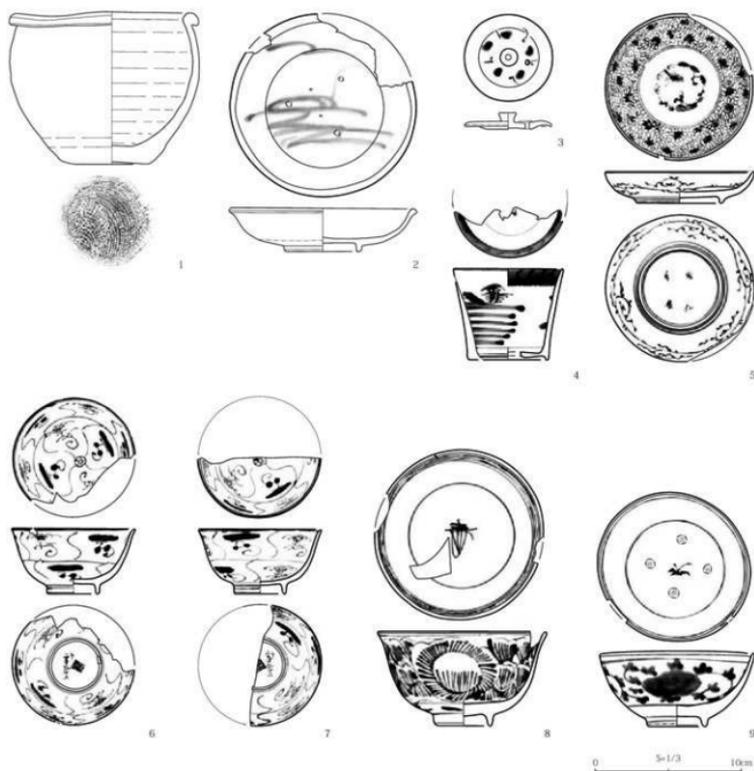
編号	土器	土質	粘性	しまり	備考
1	18世紀代	褐灰色 粘土質シルト	なし	なし	厚2～5cmの薄少量、出土遺物多数(18世紀～近代)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	72-4	1層	陶器	徳利	体部～底部	南	3.8	7.2	14.8	大塚相馬	18世紀後半	蒔絵 桜 扇形文	171
2	72-1	1層	陶器	徳利	体部～底部	南	3.5	6.7	15.9	大塚相馬	18世紀後半	色絵 山水文 扇形 帆掛け舟 底部墨書	172
3	72-3	1層	陶器	徳利	口縁～底部	南	2.9	6.3	21.1	大塚相馬	18世紀後半	蒔絵 二重柳 杏	173
4	72-2	1層	磁器	徳利	口縁～底部	南	3.7	5.7	18.2	切込	19世紀初葉	草花文 高竹内「宮」	179

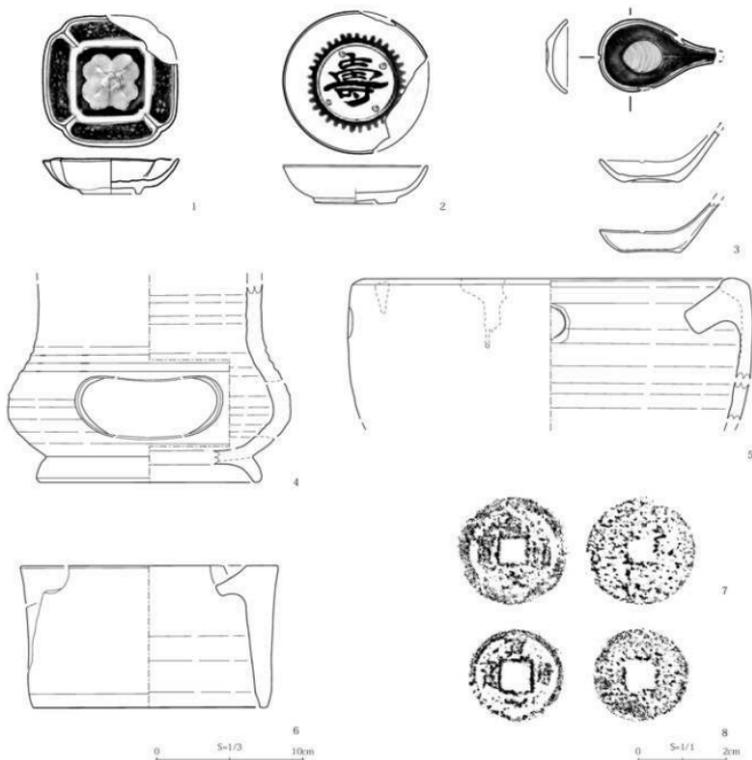
第121図 SK77土坑平面図・断面図・出土遺物(1)

第1節 聚部



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			所在地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	71-5	1層	陶器	甕	口縁~底部	甕	13	5.3	10.4	在池	18世紀前半	素胎	I-74
2	73-2	1層	陶器	皿	口縁~底部	甕	12.9	4.8	3	大塚町西	18世紀前半	素胎 黒紙文?	I-75
3	71-4	1層	陶器	土瓶	口縁~底部	甕	6	3	1.2	大塚町西	18世紀後半	色絵	I-76
4	72-8	1層	陶器	鉢	口縁~底部	甕	7.5	5.5	6.3	肥前	18世紀後半	染付(外) 外面「風雲文 東屋 内面」口縁部に建築する雲 見込に付	I-60
5	72-5	1層	陶器	皿	口縁~底部	甕	10.2	5.8	2.2	肥前	18世紀後半	染付(外) 外面「草花文 内面」花散らし赤飯文 横置松竹梅文 赤台に「成化半製」	I-61
6	71-6	1層	陶器	碗	口縁~底部	甕	8.2	3.5	4.6	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付(外) 雲芝花文 口縁有り 内) 雲芝花文 高台に黒 朱書き「ト二千五十二」 焼痕あり	I-62
7	71-8	1層	陶器	碗	口縁~底部	甕	8.4	3.5	4.4	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付(外) 雲芝花文 口縁有り 内面) 雲芝花文 朱書き「ト二千五十二」 焼痕あり	I-63
8	73-4	1層	陶器	碗	口縁~底部	甕	11.6	4	6.6	瀬戸・美濃	9世紀後半	染付(外) 外面「草花文 秋草文 内面」見込に寿字文	I-64
9	1-7	1層	陶器	碗	口縁~底部	甕	10.5	4.1	5.3	切込	19世紀後半	染付(外) 外面「草花文 牡丹 内面」見込に編織ハタキ文 4箇所	I-65

第122図 SK77土坑出土遺物(2)



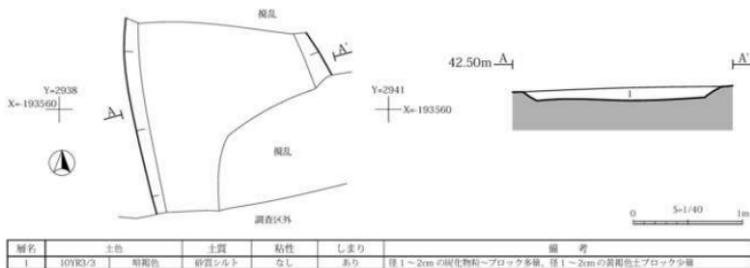
図取番号	写真図取番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華 cm			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	72-6	1層	磁器	小皿	口縁～底面	青	9.3	4.1	2.5	肥前	18世紀前半～19世紀前半	帯蓋取付。内部に草花文。縁込に四片瓦の編み。鉄線痕あり	J466
2	72-7	1層	磁器	皿	口縁～底面	青	9.9	5.6	2.7	肥前	18世紀前半～19世紀前半	縁込に「壽」	J467
3	73-1	1層	磁器	座卓	口縁～底面	青	5.1	2.2	3.6	肥前	19世紀前半	内部に木製の留押し	J468
4	73-3	1層	瓦葺土器	杖渡	口縁～底面	青	15.3	14.8	13.8	在肥	18世紀前半		I281
5	73-5	1層	瓦葺土器	椀	口縁～底面	青	27.4	25.4	9.6	在肥	18世紀後半		I282
6	73-6	1層	瓦葺土器	椀	口縁～底面	青	17.6	16	10	在肥	18世紀前半		I283
図取番号	写真図取番号	層位	銭貨名	初鋳年	法華 cm・g			備考	登録番号				
					外径	厚径	重さ						
7	130-7	1層	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.71		N-32				
8	130-15	1層	寛永通宝	1636	2.42	0.9	2.81		N-33				

第123図 SK77土坑出土遺物(3)

第1節 駅部

39) SK78 土坑 (第124図 図版26-1)

S17-E65～S16-E64 グリッドに位置し、北側と南東側は攪乱で削平され、南側は調査区外に広がる。規模は長軸1.88m、短軸1.78m、深さ10cmを測る。平面形は不明である。底面は平坦で、断面形は皿形である。主軸方向はN-67°Eを示す。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



第124図 SK78 土坑平面図・断面図

(3) 祭祀遺構

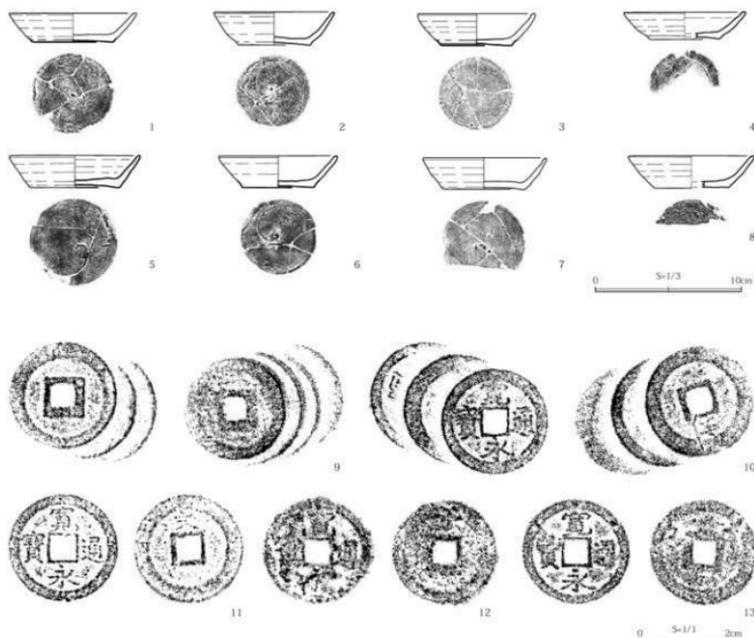
1) SN1 祭祀遺構 (第125・126図 図版26-2～4)

S16-E55 グリッドに位置し、土師質土器と古銭が出土した。遺構上部は攪乱により削平されており、遺構の掘り方はないが、祭祀を行った痕跡と考え、遺構として認定した。出土した土師質土器は、ほぼ同じ規格のもので平均口径8.4cmを測る。2枚の土師質土器が合わせ口の状態で、4組8枚が1列に並んで検出された。土師質土器の閉じ紐等は残存していない。古銭は一箇所にまとめられ、「寛永通宝」が10枚出土した。遺物は40×23cmの範囲で、まとめて検出されている。合わせ口に閉じられている土師質土器の内側から他の遺物は検出されなかった。



写真9 SN1 祭祀遺構かわらけ・古銭出土状況(南から)

第125図 SN1 祭祀遺構かわらけ・古銭出土状況図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	744	-	土師四土器	かわらけ	口縁～底面	削	8.8	5.3	2	在地	19世紀前半	2と合わせ目(上)	I241
2	745	-	土師四土器	かわらけ	口縁～底面	削	8.5	4.5	2.3	在地	19世紀前半	1と合わせ目(下)	I242
3	741	-	土師四土器	かわらけ	口縁～底面	削	7.8	4.7	2.2	在地	19世紀前半	4と合わせ目(上)	I243
4	747	-	土師四土器	かわらけ	口縁～底面	削	8.3	4.6	1.9	在地	19世紀前半	3と合わせ目(下)	I244
5	748	-	土師四土器	かわらけ	口縁～底面	削	8.7	6.7	2.2	在地	19世紀前半	6と合わせ目(上)	I245
6	746	-	土師四土器	かわらけ	口縁～底面	削	8.2	4.8	2.3	在地	19世紀前半	5と合わせ目(下)	I246
7	742	-	土師四土器	かわらけ	口縁～底面	削	8.8	5.7	2.2	在地	19世紀前半	8と合わせ目(上)	I247
8	743	-	土師四土器	かわらけ	口縁～底面	削	8.7	5.1	2.3	在地	19世紀前半	7と合わせ目(下)	I248
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初繰年	法量 (cm・g)			備考	登録番号				
					外径	穿径	重量						
9	749	-	寛永通宝	1636	-	-	-	4枚・背文	N-34				
10	7410	-	寛永通宝	1636	-	-	-	3枚	N-35				
11	7413	-	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.85	背文	N-36				
12	7412	-	寛永通宝	1636	2.4	0.7	2.81		N-37				
13	7411	-	寛永通宝	1636	2.45	0.65	2.68		N-38				

第126図 SN1 祭祀遺構出土遺物

第1節 駅部

2)SN2 祭祀遺構 (第127図 図版27-1・2)

S16-E56 グリッドに位置し、遺構上部は攪乱により削平されており、遺構としての掘り方はないが、祭祀を行った痕跡と考え、遺構として認定した。出土した土師質土器は、ほぼ同じ規格のもので平均口径20.6cmを測る。2枚の土器が合わせ口の状態で、2組4枚が近接して出土した。土師質土器の閉じ紐等は残存していない。合わせ口になった2枚の土師質土器の内側より19世紀代の焙烙の把手片が出土している。周辺より水晶の小片が2点出土している。また、4枚の土器のうち2枚の底面には「FO」と墨書されている。また、周辺からは、19世紀代の在地産の播鉢、在地産の瓦質土器、瓦片、砥石片が出土しているが、細片のため図示しなかった。

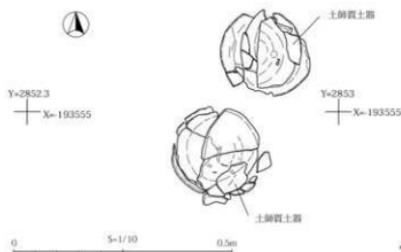
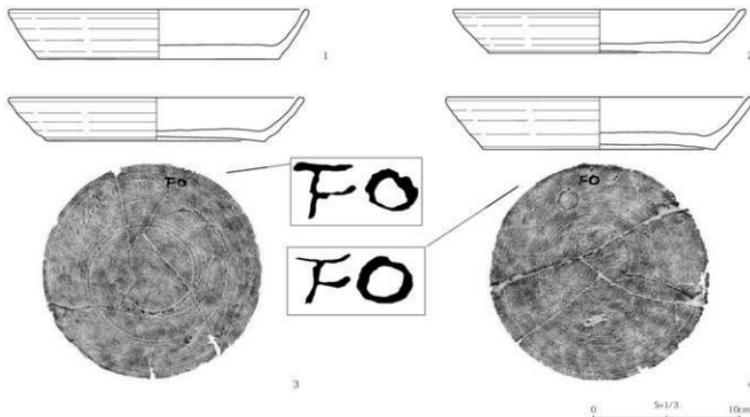


写真10 SN2 祭祀遺構かわらけ出土状況(東から)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	形状	法量 (cm)			所在地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	75-3	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底面	南	20.9	16.1	3.7	在地	19世紀前半	4とあ合わせ口(下)	1249
2	75-4	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底面	南	20.3	15	3.4	在地	19世紀前半	3と合わせ口(上)	1250
3	75-6	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底面	南	20.2	15	3.4	在地	19世紀前半	墨書で「FO」の文字 2と合わせ口(下)	1251
4	75-5	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底面	南	21.1	16	3.4	在地	19世紀前半	墨書で「FO」の文字 1と合わせ口(上)	1252

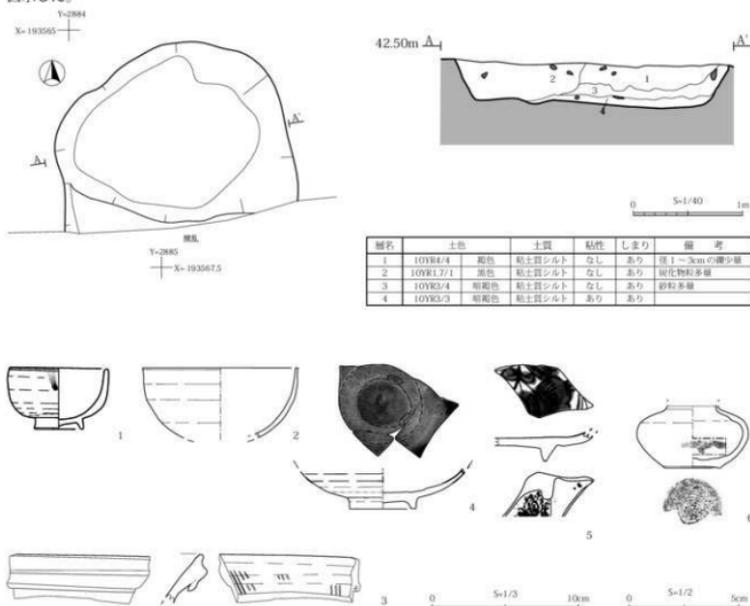
第127図 SN2 祭祀遺構遺物出土状況・出土遺物

(4) 性格不明遺構

1) SX2 性格不明遺構 (第128図 図版28-1)

S17-E59グリッドに位置し、遺構の南側は擾乱により削平されている。規模は長軸2.5m、短軸2.1m、深さ42cmを測る。平面形は主軸方向N-79°Eを示す不整楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は径約1~3cm程度の礫や砂礫・炭化物粒を多量に含む粘土質シルトの4層からなる。

遺物は17世紀前半の肥前産の輪壳皿、19世紀代の大塚相馬産の陶器、19世紀代の在地産の播鉢、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、土製品、石製品、漆器の被膜片が出土し、この内6点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号	
						口径	底径	器高					
1	77-2	3層	陶器	碗	口縁~底部	密	6.8	3.4	4.3	大塚相馬	19世紀前半	高台内に発見あり	177
2	77-4	3層	陶器	碗	口縁~体部	密	10.7	-	5	大塚相馬	19世紀前半		178
3	76-7	3層	陶器	播鉢	口縁部	密	28.8	-	3.3	在地	19世紀		179
4	77-1	3層	陶器	皿	体部~底部	密	11.1	4.5	2.8	肥前	17世紀前半	乾の目輪赤差	180
5	77-3	3層	磁器	皿	底部	密	-	-	2	肥前	18世紀前半	染付け 草花文	169
6	77-5	3層	土師質土器	壺	体部~底部	密	3.5	3.8	4.3	在地	19世紀?	ニニチュア	1253

第128図 SX2 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

2) SX4 性格不明遺構 (第129図 図版28-2)

S17-E60～61 グリッドに位置し、遺構の南側は基本土層確認用のトレンチで削平されている。規模は長軸 87cm、短軸 44cm、深さ 27cm を測る。平面形は不明である。底面は植物根による攪乱のため、やや起伏をもち、断面形は血形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5393/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり 径 3mm の粘土粒・炭化物少量、径 10～15cm の樹根入

第129図 SX4 性格不明遺構平面図・断面図

3) SX5 性格不明遺構 (第130図 図版28-3)

S17-E61 グリッドに位置し、遺構の南側は基本土層確認用のトレンチで削平されている。規模は長軸 66cm、短軸 61cm、深さ 28cm を測る。平面形は南北 N-14°W を示す不整楕円形で、底面はやや起伏をもち、東側に向かって緩やかに傾斜する。断面形は血形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。

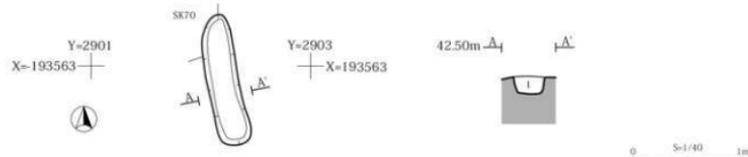


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5392/2	黒褐色	砂質シルト	あり	あり 径 2mm の粘土粒少量、径約 1cm のシルトストーン(10枚)付少量、径約 5cm の樹根少量

第130図 SX5 性格不明遺構平面図・断面図

4) SX6 性格不明遺構 (第131図 図版28-4)

S17-E61 グリッドに位置する。SK70と重複し、SX6が新しい。規模は長軸 1.22m、短軸 30cm、深さ 15cm を測る。平面形は主軸方向 N-9°W を示す長楕円形である。底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土はオリーブ黒色砂質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。

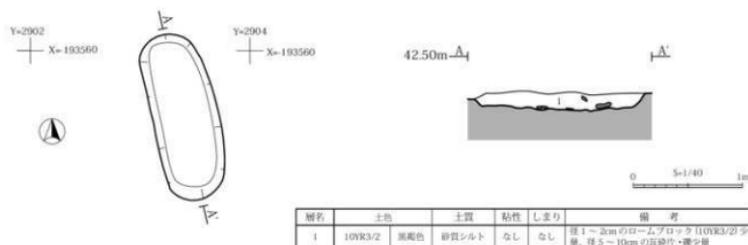


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.533/1	オリーブ黒色	砂質シルト	なし	あり 径 3mm の粘土粒・炭化物少量、径 10～15cm の樹根入

第131図 SX6 性格不明遺構平面図・断面図

5) SX7 性格不明遺構 (第132図 図版28-5)

S17-E61 グリッドに位置する。規模は長軸 1.56m、短軸 60cm、深さ 14cm を測る。平面形は主軸方向 N-13°-W を示す長楕円形で、底面は起伏をもつ。壁面は緩やかに傾斜し、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層からなる。遺物は 18 世紀代の肥前産の磁器、在地産の瓦質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

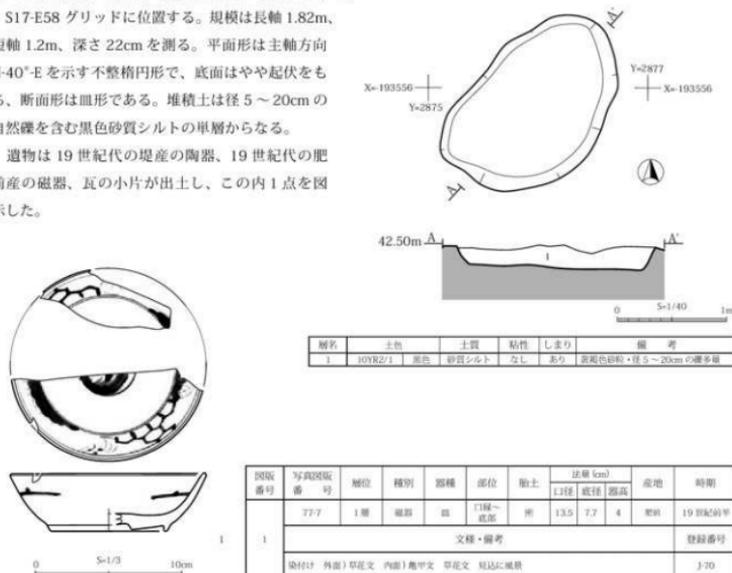


第132図 SX7 性格不明遺構平面図・断面図

6) SX9 性格不明遺構 (第133図 図版29-1・2)

S17-E58 グリッドに位置する。規模は長軸 1.82m、短軸 1.2m、深さ 22cm を測る。平面形は主軸方向 N-40°-E を示す不整楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は径 5 ~ 20cm の自然礫を含む黒色砂質シルトの単層からなる。

遺物は 19 世紀代の堤産の陶器、19 世紀代の肥前産の磁器、瓦の小片が出土し、この内 1 点を図示した。



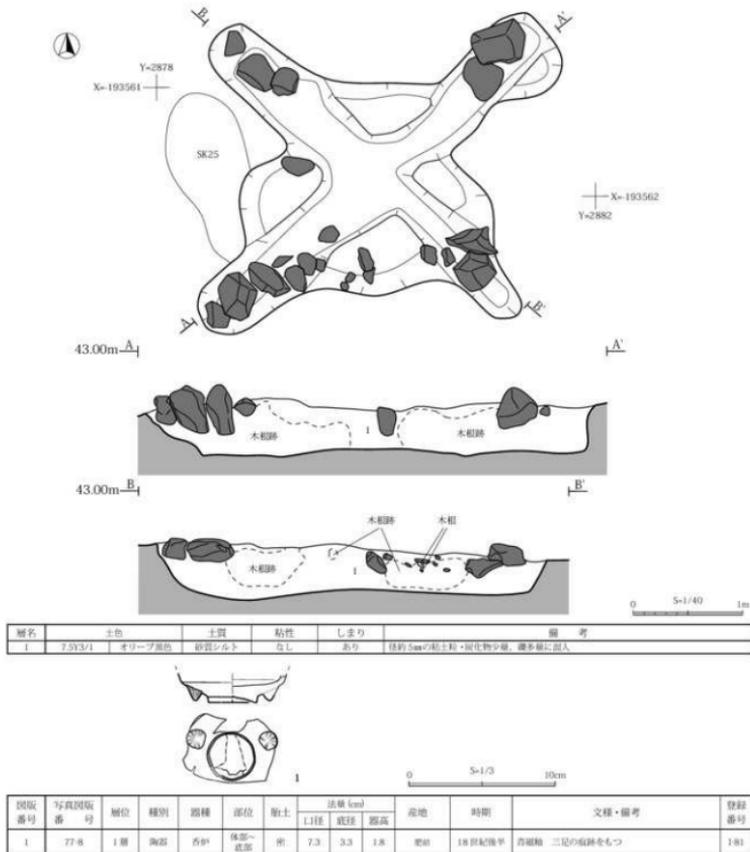
第133図 SX9 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

7) SX10 性格不明遺構 (第134図 図版29-3~5)

S17-E58~59 グリッドに位置し、遺構上部を樹木の根により削平されている。SB4、SB6、SX25と重複しており、SX10が新しい。規模は長軸4.12m、短軸3.78m、深さ41cmを測る。平面形は「X」字で、底面はやや起伏をもつ。また、検出面から深さ15~25cmの位置で東西南北の各方向4ヶ所にテラス状の面を確認した。断面形は逆台形である。「X」字の端部4か所に長さ15~45cm、幅25~40cm、厚さ25~30cmの自然礫が突きこまれていた。堆積土は植物根により著しく攪乱されているが、1~3cmの小礫を少量含むオリープ黒色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦片が出土し、この内1点を図示した。

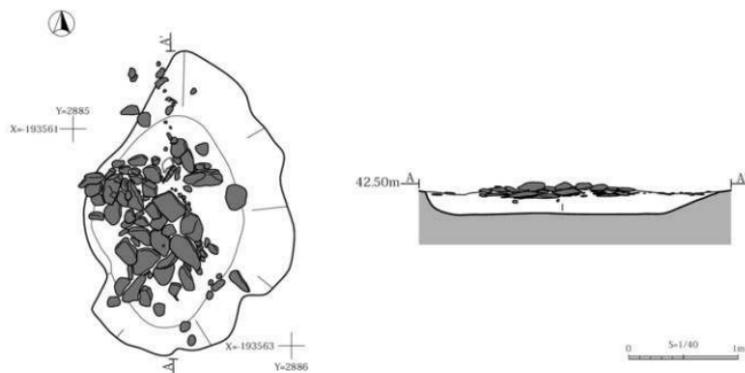


第134図 SX10 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

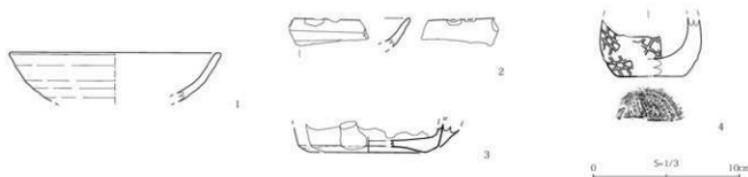
8) SX12 性格不明遺構 (第135図 図版30-1・2)

S17-E59 グリッドに位置する。規模は長軸 2.81m、短軸 1.9m、深さ 19cm を測る。平面形は主軸方向 N-3°E を示す不整形である。底面は平坦をなし、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。堆積土は上面に径 3～10cm の礫を大量に含む黒色粘土質シルトの単層である。

遺物は 17 世紀代の志野産の陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、17 世紀代の在地産の焼塩壺、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内 4 点を図示した。



種名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	あり	変し	層 1～2cm の灰化物ブロック少量、層 3～10cm の礫多量、層 1～5cm の 0.1～1mm 間径砂質シルトブロックが下部に少量



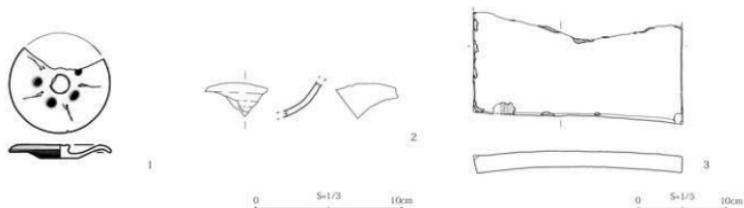
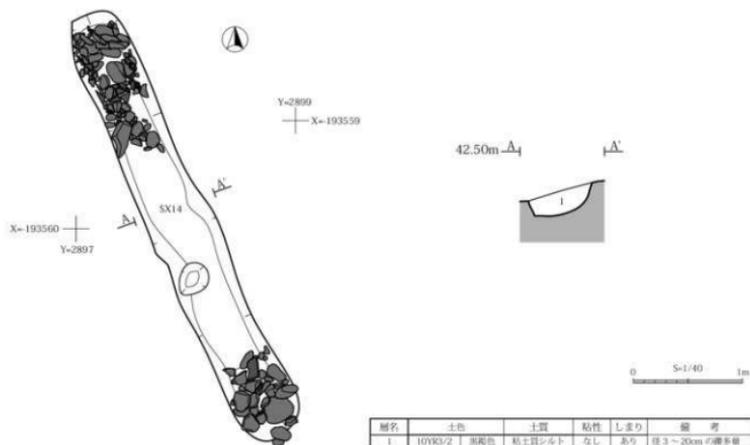
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号	
							上径	底径	器高					
1	78-1	1層	陶器	皿	口縁～底部	滑	14.6	-	3.4	志野	17世紀後半		182	
2	78-3	1層	陶器	輪花器	口縁部	滑	14.8	-	2	志野	17世紀		183	
3	78-2	1層	陶器	不明	底部～底面	滑	10.2	7.8	2.2	在地	19世紀?		184	
4	78-4	1層	土師質土器	焼塩壺	底部～底面	滑	6.6	4.4	4.2	在地	17世紀	獅子甲斐目		1254

第135図 SX12 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

9) SX14 性格不明遺構 (第136図 図版30-2~4)

S17-E60 グリッドに位置する。規模は長軸4.26m、短軸64cm、深さ28cmを測る。平面形は主軸方向N-25°-Wを示す溝状で、断面形は皿形である。遺構両端部に大量の自然礫(長さ10~25cm、幅5~20cm、厚さ5~15cm)と瓦の小片が突きこまれている。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は17世紀代の志野産の陶器片、19世紀代の大塚相馬産の土瓶の蓋、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内3点を図示した。



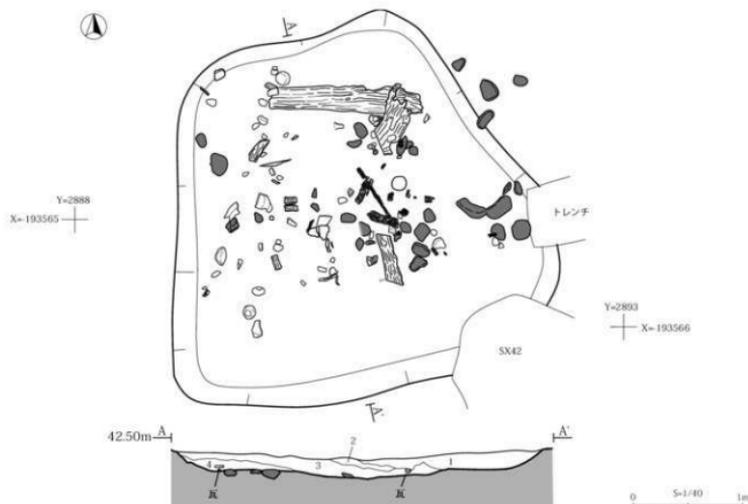
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	78-5	1層	陶器	土瓶(蓋)	蓋	7	2.5	1	大塚相馬	19世紀前半	色絵	145	
2	78-6	1層	陶器	皿	底部	-	-	3	志野	17世紀		146	
図版番号	写真図版番号	層位	種別	法量 (cm)			備考					登録番号	
				長さ	幅	厚さ							
3	129-5	1層	平瓦	11.0	23	1.2	平瓦					G-3	

第136図 SX14 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

10) SX15 性格不明遺構 (第137～139図 図版30-6・7・31-1)

S17-E59 グリッドに位置する。SX42と重複しており、SX15が古い。東側をトレンチに削平される。規模は長軸3.55m、短軸3.4m、深さ19cmを測る。平面形は主軸方向N-3°Eを示す不整形形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は粘土質シルトと砂質シルトの4層からなる。底部付近で径約5cm～20cmの炭化ブロックを多量に検出した。

遺物は19世紀代の大塚相馬産、小野相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、土製品、鉄製品、古銭、著しく腐食した木皮片等が出土し、この内16点を図示した。



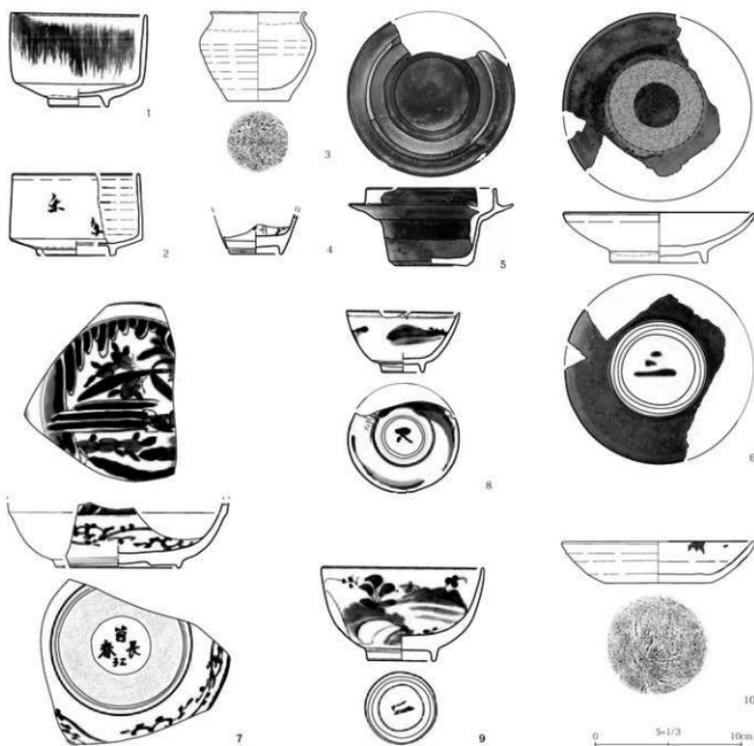
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.59R3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径2～4cmの炭化物ブロック・径1cm以下の塵土
2	7.59R2/1 黒色	粘土質シルト	あり	あり	炭化物は多量
3	2.59R2/1 赤褐色	粘土質シルト	なし	あり	黒褐色砂質シルト粒多量、径2～10cmの塵土、径0.5～2cmの炭化物ブロック混入
4	7.59R2/1 黒色	砂質シルト	なし	あり	径5～20cmの炭化物ブロック多量、径1～2cmの塵土



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	78-7	3層	陶器	碗	口縁～底面	南	11.1	4.7	5.7	大塚相馬	19世紀前半	鉄輪跡付焼し	187
2	78-8	4層	陶器	碗	口縁～底面	南	12.8	4.7	6.8	大塚相馬	19世紀前半	鉄輪と炭灰跡の掛け分け	188
3	78-12	3層	陶器	碗	口縁～底面	南	12.8	5	5.7	大塚相馬	19世紀前半	鉄輪と炭灰跡の掛け分け	189

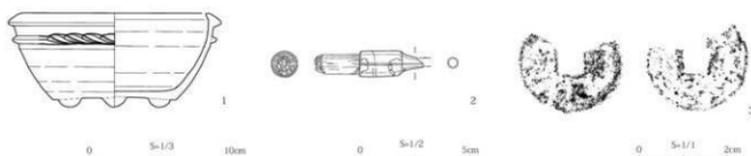
第137図 SX15 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)

第1節 駅部



図説 番号	写真図説 番号	層位	種別	器種	部位	取土 方法	往量 km			高地	時期	文様・備考	図説 番号
							口縁	底縁	器高				
1	78-9	4層	陶器	碗	口縁～ 底部	密	9.4	3.8	6.4	大塚相馬	19世紀前半	御付遺し	190
2	78-10	3層	陶器	碗	口縁～ 底部	密	-	-	5.7	大塚相馬	19世紀前半	鉄絵 文字文	191
3	79-1	4層	陶器	豆鉢	口縁～ 底部	密	6.6	4.3	6.1	大塚相馬	19世紀前半	鉄絵 基茨飾	192
4	79-6	3層	磁器	湯受器口	体部～ 底部	密	5.6	3.7	2.8	肥前	18世紀後半	染付け 外面ノ側面 草花文	J-71
5	78-13	3層	陶器	油受器	口縁～ 底部	密	9	5	5.4	在席	19世紀以後		193
6	79-3	3層	陶器	皿	口縁～ 底部	密	13.2	6.8	3.5	小塚相馬	10世紀以後	藍の目輪裏 高台内「三」	194
7	79-8	3層	磁器	皿	体部～ 底部	密	14.1	8.6	4.5	肥前	18世紀後半	染付け 外面ノ草文 藍の目輪高台 内面ノ草 花文 魚 高台内「百景森」	J-72
8	79-5	3層	磁器	碗	口縁～ 底部	密	7.7	3	4.3	肥前	18世紀後半	染付け 外面ノ山水文 高台内ノ雲虫文	J-73
9	79-4	3層	磁器	碗	口縁～ 体部	密	11.1	4.7	6.4	肥前	18世紀前半	染付け 外面ノ草花文 體部ノ山水文 高台内 に藍	J-74
10	80-1	3層	土師器 土器	かわらけ	口縁～ 底部	密	5.3	7.2	2.9	在席	19世紀?		I-255

第138図 SX15 性格不明遺構出土遺物(2)



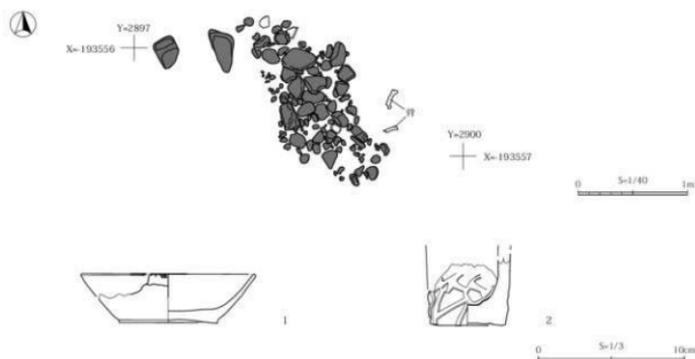
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 cm			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	80-4	3層	瓦葺土器	火鉢	口縁～底部	赤	13	8.5	6.6	在野	18世紀後半～19世紀前半	取付痕し	I-284
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 cm			備考	登録番号					
				長さ	幅	厚さ							
2	80-2	3層	金属製品	5	1.2	1.2	埋物(瓶口)一部腐字残存	N-10					
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鋳年	法量 cm・g			備考	登録番号				
					外径	穿径	重さ						
3	132-9	3層	永安通宝	(1408明)	2.4	0.8	2.68	N-20					

第139図 SX15 性格不明遺構出土遺物(3)

11) SX19 性格不明遺構 (第140図 図版31-2)

S16-E60 グリッドに位置する。範囲は長軸1.94m、短軸96cmを測る。主軸方向はN-36°-Wを示す。長さ2～20cm、幅2～15cm、厚さ3～20cmの自然礫の集石遺構である。遺構は近現代の擾乱の影響で周囲が削平されていたため、掘り方は確認できなかった。

遺物は19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器片、土師質土器が出土し、この内2点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 cm			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	80-6	-	土師質土器	皿	口縁～底部	赤	12	6.7	3.4	在野	19世紀?	油煙付着	I-285
2	80-7	-	土師質土器	焼磁器	体部～底部	赤	6.8	5.1	5.1	在野	19世紀前半	格子甲斐目	I-256

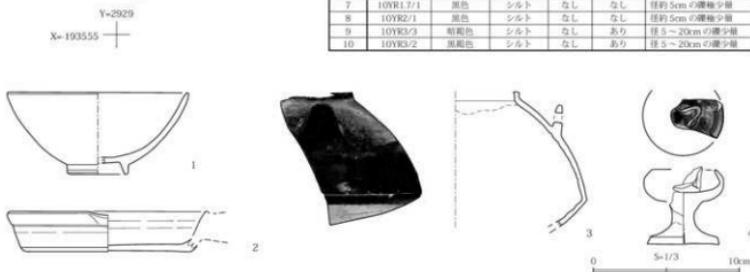
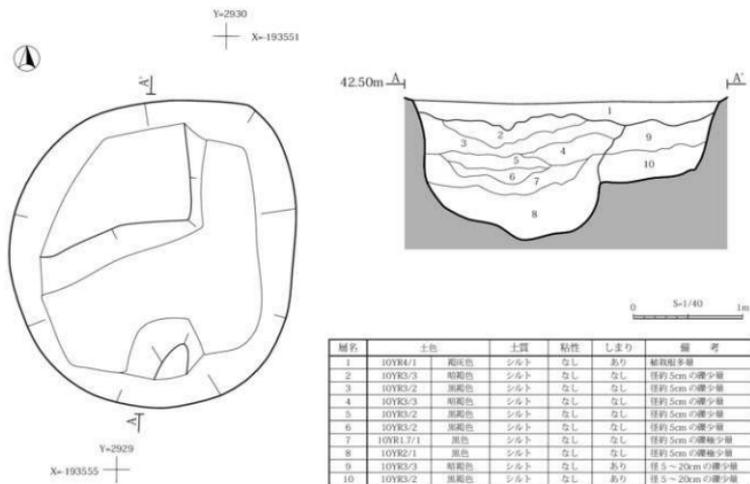
第140図 SX19 性格不明遺構平面図・出土遺物

第1節 駅部

12) SX26 性格不明遺構 (第141・142図 図版32-1・2)

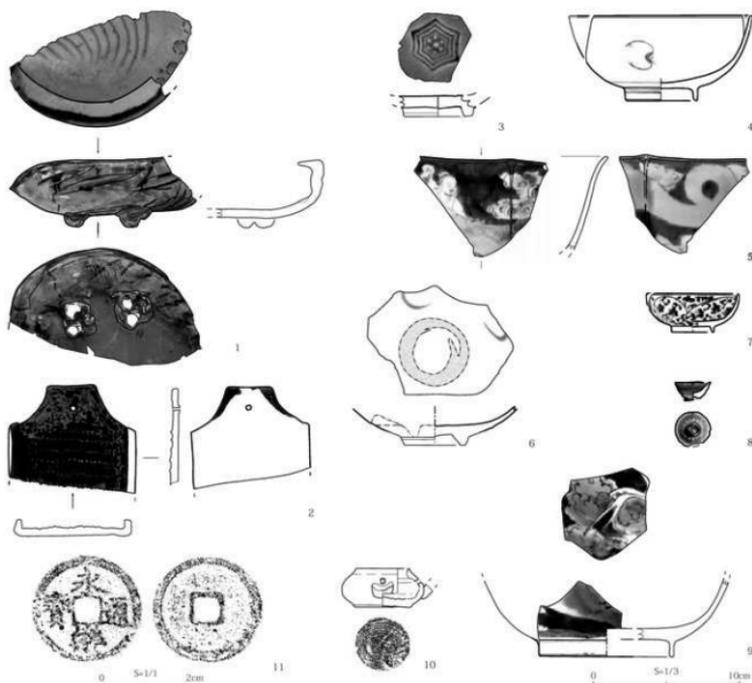
S16-E63～64グリッドに位置する。規模は長軸2.83m、短軸2.6m、深さ1.3mを測り、平面形は主軸方向N-0°-Wを示す楕円形で、断面形は北側にテラスを有するU字状である。検出面から深さ70cm程で、北西辺に底面幅1.8m、奥行き1m程のテラス状を呈する場所が確認された。テラス部分の底面は平坦である。主体部の底面には深さ20cm程の窪みがみられる。堆積土は径5～20cmの礫を少量含むシルトの10層からなる。

遺物は19世紀代の大塚相馬産、堤産の陶器、18～19世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、金属製品、土製品、銅銭が出土し、この内15点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	80-8	9層	陶器	碗	口縁～底面	密	12.5	4.2	5.8	大塚相馬	18世紀後半～19世紀前半		195
2	80-9	9層	陶器	短瓶	口縁～底面	密	13.7	11.3	2.8	肥前	19世紀3/4頃	筋輪	196
3	81-2	9層	陶器	土甕	口縁～底面	密	9	-	⑨.51	大塚相馬	18世紀後半～19世紀前半	鉄輪跡付残し	197
4	80-10	8層	陶器	土甕	口縁～底面	密	(4.5)	5	5.4	肥前	19世紀前半	鉄輪	198

第141図 SX26 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法庫 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	81-1	8層	陶器	香炉	口縁~ 底部	密	12.8	-	4.7	在池	19世紀以後	鉄輪 内面白濁層	J99
2	81-3	9層	陶器	おろし皿	上半	密	8	80	1.2	在池	19世紀	鉄輪	I-100
3	81-4	9層	陶器	皿	底部	密	90	4.6	11.40	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	型押し 鉄輪	I-101
4	81-8	9層	陶器	碗	口縁~ 底部	密	12.5	5	5.8	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 外面(鉄輪)染文?	J75
5	81-10	9層	磁器	両付	口縁~ 体部	密	-	-	60.80	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 唐字文	J76
6	81-7	9層	磁器	皿	体部~ 底部	密	11.3	4.1	2.7	肥前	17世紀	染付け 肥の目輪調子	J77
7	81-9	9層	磁器	碗	口縁~ 体部	密	6.4	3	2.7	肥前	18世紀前半	染付け 外面(鉄輪)在唐平文	J78
8	81-5	9層	磁器	缸皿	口縁~ 底部	密	2.4	1.4	1.3	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	型押し	J79
9	81-6	9層	磁器	碗	体部~ 底部	密	116.70	19.23	15.53	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 蟹? 鉄輪痕あり	J80
10	81-11	9層	土師器 土器	香	口縁~ 底部	密	3.8	3.8	2.7	在池	19世紀?		I-257
図版 番号	写真図版 番号	層位	銭貨名	初鋳年	法庫 (cm・g)			備考	登録 番号				
					外径	厚径	重量						
11	132-6	3層	本高徳安	140(明)	2.4	0.8	2.68		N-40				

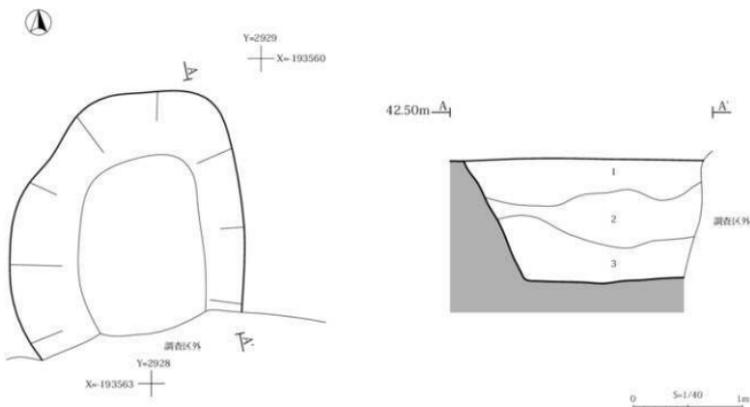
第142図 SX26 性格不明遺構出土遺物(2)

第1節 駅部

13) SX27 性格不明遺構 (第143図 図版32-3)

S16-E63 グリッドに位置し、南側が調査区外に広がる。規模は長軸2.22m、短軸2.15m、深さ1.1mを測る。平面形は主軸方向N-8°-Wを示す楕円形、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの3層からなる。

遺物は19世紀代の大塚相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦片が出土し、この内2点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径10~20cmの礫多量
2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	
3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径10~20cmの礫多量



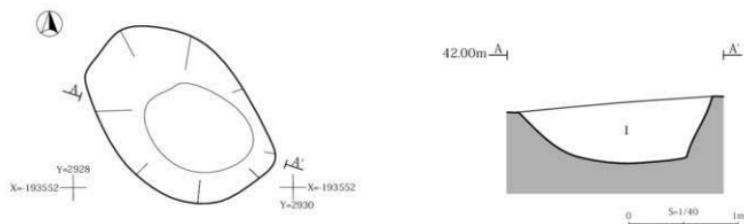
図版番号	写真図版番号	層位	種別	図種	部位	出土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	82-2	2層	陶器	鉢形?	縁部~底部	密	7	6.5	5.5	大塚相馬	19世紀前半	鉄軸	I-102
2	82-1	2層	土師質土器	かわらけ	口縁~底部	密	7.8	4	1.5	在産	19世紀?		I-258

第143図 SX27 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

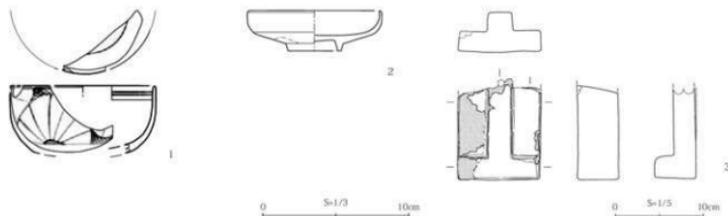
14) SX28 性格不明遺構 (第144図 図版32-4)

S16-E63 グリッドに位置する。規模は長軸 1.86m、短軸 1.29m、深さ 58cm を測る。平面形は主軸方向 N-38°-W を示す不整楕円形で、底面は平坦をなす。北西壁は緩やかに立ち上がり、南東壁は鋭角的に立ち上がる。断面形は逆台形である。堆積土は径 10～20cm の礫を多量に含む黒褐色砂質シルトの単層からなる。

遺物は 19 世紀代の大塚相馬産の陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、瓦片・土師質土器片が出土し、この内 3 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/2	黒褐色 砂質シルト	なし	なし	径 10～20cm の礫多量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			発地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	82-4	1層	磁器	碗	口縁一体部	南	10	-	5.1	肥前	18 世紀前半	染付? 外面? 水雲化文 内面? 團扇 焼跡相馬市	J-81
2	82-3	1層	陶器	皿	口縁~ 底部	南	9.2	3.7	2.8	大塚相馬	19 世紀前半		I-103
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考					登録番号	
3	127-8	1層	不明	口径	径	厚さ	瓦片					H-1	

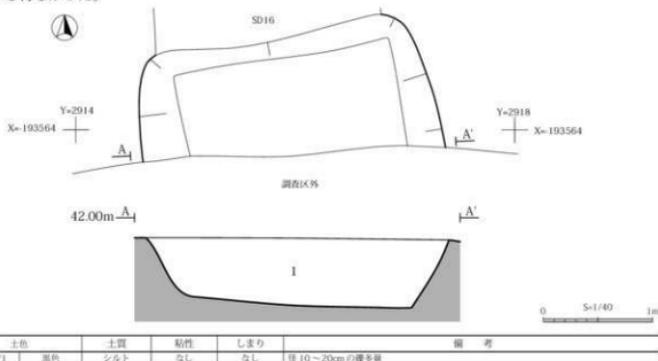
第144図 SX28 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

15) SX35 性格不明遺構 (第145図 図版32-5)

S16-E62 グリッドに位置し、南側が調査区外に広がる。SD16 と重複しており、SX35 が古い。規模は長軸 2.75m、短軸 1.22m、深さ 63cm を測る。平面形は主軸方向 N-87°E を示す隅丸方形で、断面形は逆台形である。堆積土は径約 10～20cm の礫を多量に含む黒色シルトの単層からなる。

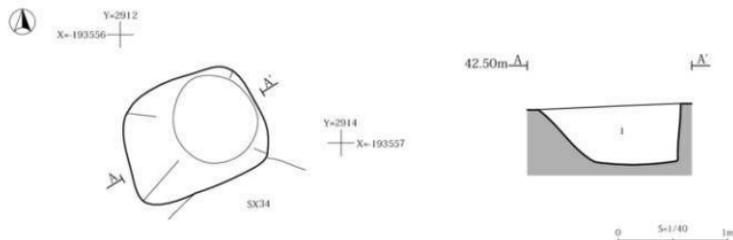
遺物は 19 世紀代の大塚相馬産、堤産の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第145図 SX35 性格不明遺構平面図・断面図

16) SX36 性格不明遺構 (第146図 図版33-1)

S17-E62 グリッドに位置する。SX34 と重複しており、SX36 が新しい。規模は長軸 1.32m、短軸 1.02m、深さ 53cm を測る。平面形は主軸方向 N-63°E を示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、西壁は緩やかに立ち上がるが、東壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は瓦片を多量に含む黒褐色粘土質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。



第146図 SX36 性格不明遺構平面図・断面図

17) SX38 性格不明遺構 (第147図 図版33-2)

S16-E62 グリッドに位置する。規模は長軸1.92m、短軸63cm、深さ36cmを測る。平面形は主軸方向N-63°-Eを示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、壁はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形である。堆積土は径2～10cmの礫を多量に含む黒褐色砂質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。

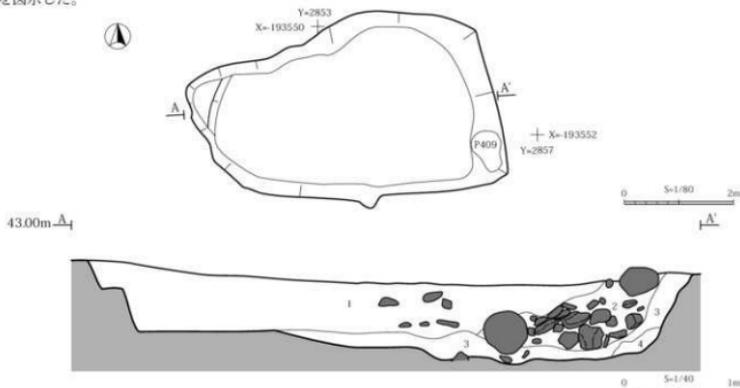


第147図 SX38 性格不明遺構平面図・断面図

18) SX39 性格不明遺構 (第148～154図 図版33-4)

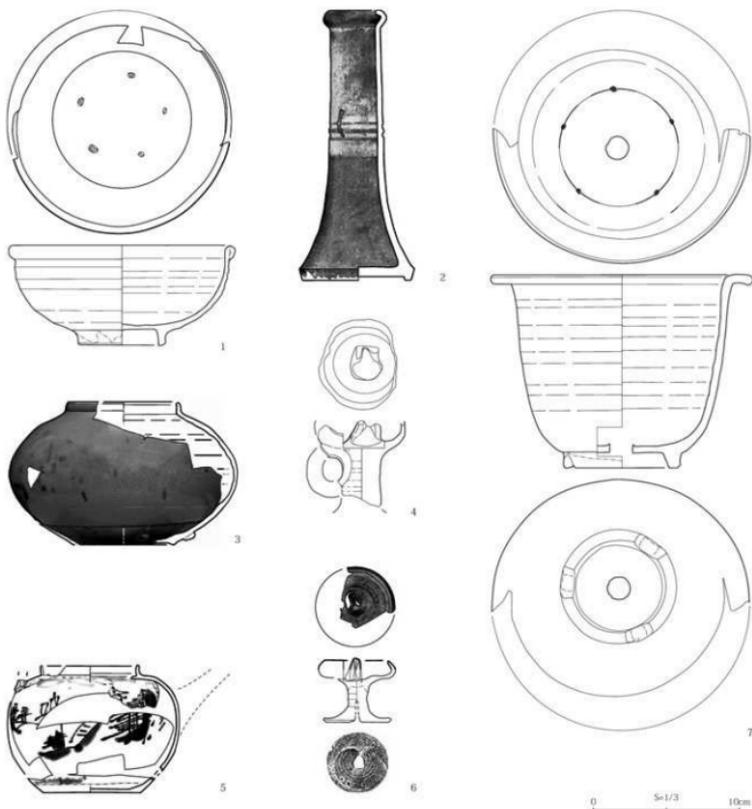
S16-E56 グリッドに位置する。P409と重複しており、SX39が古い。遺構上面は大きく攪乱されている。規模は長軸5.51m、短軸3.29m、深さ74cmを測る。平面形は主軸方向N-8°-Wを示す不整形で、底面は起伏をもち、西側から東側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。また、検出面から深さ約30cmの西辺に、底面幅約90cm、奥行40cmのテラス状を呈する場所がある。堆積土はシルト・粘土質シルトの4層からなり、2層には長さ20～40cm、幅5～35cm、厚さ5～40cmの礫を大量に含む。

遺物は、1～2層より17世紀代の京産の陶器、19世紀代の大塚相馬産、堤産、在地産の陶器、19世代の肥前産、瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、石製品、金属製品、土製品が出土し、この内45点を図示した。



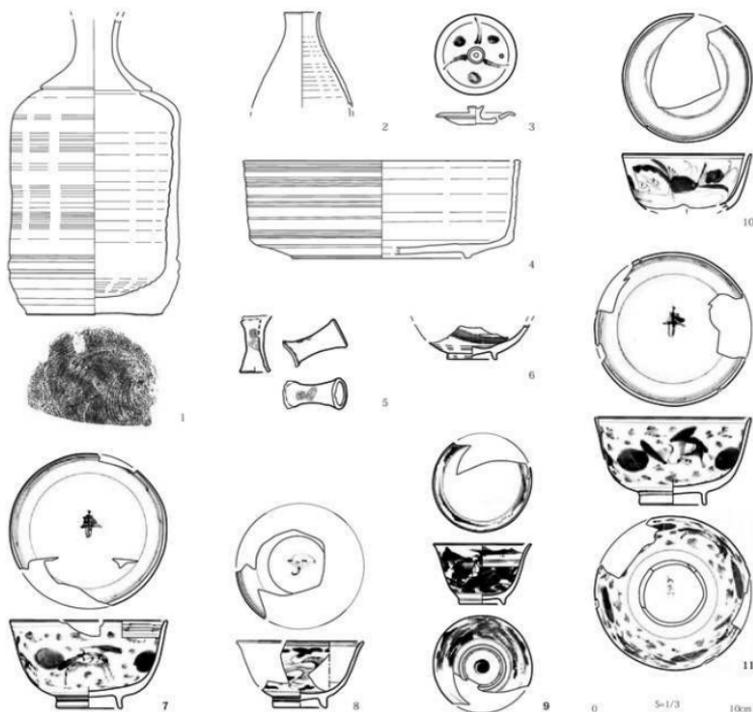
第148図 SX39 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	胎位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	83-10	2層	陶器	片口	口縁~底部	密	1.5	6	7	大塚相馬	19 弥紀前半	尾込に目取有り	I-104
2	83-1	2層	陶器	花生	口縁~底部	密	3.5	7.5	18.8	在席	19 弥紀前半		I-105
3	84-3	2層	陶器	土瓶	口縁~底部	密	7.8	6.9	10	大塚相馬	19 弥紀前半		I-106
4	80-2	2層	陶器	茶碗	口縁~体部	密	6.2	2.6	6.2	程	19 弥紀前半	鉄軸	I-107
5	84-1	2層	陶器	土瓶	口縁~底部	密	6.8	6.7	8.8	大塚相馬	19 弥紀前半	色刷付け 山水様漢文 帆掛け舟 瀧山	I-108
6	82-5	2層	陶器	茶碗	口縁~底部	密	4.5	4.6	5	程	19 弥紀前半		I-109
7	83-9	2層	陶器	楠木鉢	口縁~底部	密	口径	8	13.4	程	19 弥紀前半		I-110

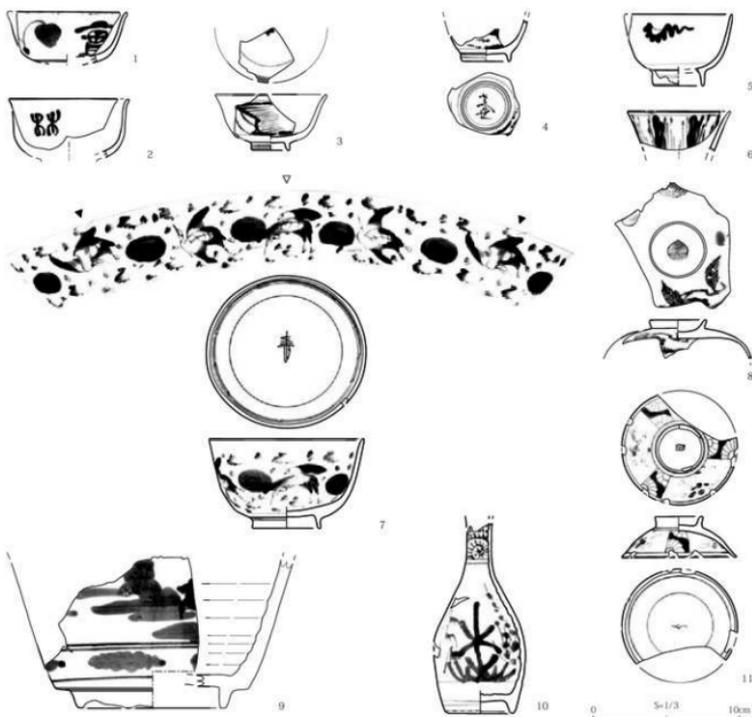
第149図 SX39 性格不明遺構出土遺物(1)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	寸法 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	82-8	2層	陶器	甕	口縁～底部	赤	3.4	9.2	20.1	有期	19世紀前半	鉄輪	I-111
2	83-8	2層	陶器	椀	口縁～体部	赤	2.5	-	9.6	大塚野馬	19世紀前半		I-112
3	82-6	2層	陶器	土瓶(蓋)	体部	赤	5.4	2.5	1.3	大塚野馬	19世紀前半	鉄輪	I-113
4	84-2	2層	陶器	鉢	口縁～底部分	赤	18	12.2	7.5	大塚野馬	19世紀前半	沈輪 ロウ口目	I-114
5	83-4	2層	陶器	急須	取手	赤	2.2	2	3.9	豆	17世紀前半	首分境?「器」の押印	I-115
6	82-7	2層	陶器	碗	体部～底部分	赤	7.9	2.5	6.5	大塚野馬	18世紀後半～19世紀前半	鉄輪 灰輪跡付残し	I-116
7	84-5	2層	磁器	碗	口縁～底部分	赤	10.8	4.5	6.2	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付(外)牡丹 雲 内面)見込に寿字文	I-83
8	85-2	2層	磁器	碗	口縁～底部分	赤	8.7	3.8	4.8	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付(外)牡丹 雲? 内面)圓縁 見込に景	I-82
9	86-5	2層	磁器	小鉢	口縁～底部分	赤	6.7	3.2	4.2	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付(外)牡丹 山水 内面)見込に山水 朝顔(舟) 湖山	I-84
10	86-1	2層	磁器	碗	口縁～体部分	赤	8.9	-	14	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付(外)宝物 扇 内面)圓縁	I-85
11	85-6	2層	磁器	碗	口縁～底部分	赤	10.5	4.5	6	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付(外)牡丹 雲 内面)見込に「寿」字文 底面)美濃「必日一」 磨縁起布	I-86

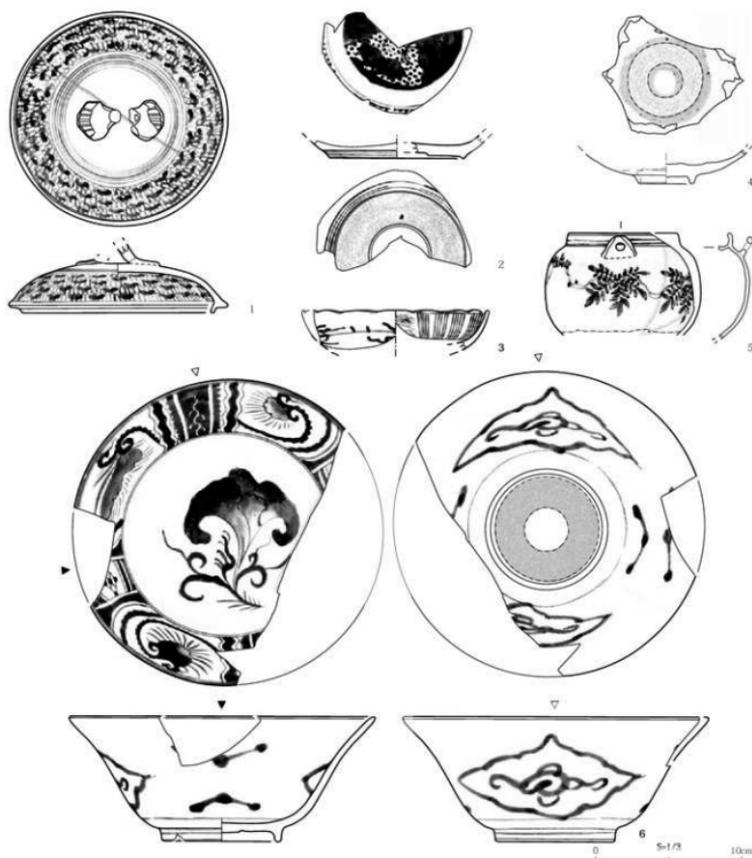
第150図 SX39 性格不明遺構出土遺物(2)

第1節 駅部



図版 番号	写真図版 番号	部位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	85-5	2層	碗類	碗	口縁- 体部	赤	8.3	3.8	(3.6)	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付付 口縁有り「冢」字文	J87
2	85-4	2層	碗類	碗	口縁- 体部	赤	8.3	5	(4.2)	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付付 口縁有り「冢」源氏杏文	J88
3	86-2	2層	碗類	碗	口縁- 底部	赤	7.7	2.5	3.9	肥前	18世紀後半	染付付 外面(組屋)組屋文	J89
4	85-3	2層	碗類	蕎麦鉢口	体部- 底部	赤	-	3.3	(3)	肥前	18世紀後半	染付付 高台内に「左へ造」	J90
5	86-8	2層	碗類	碗	口縁- 底部	赤	7.5	3.7	3.5	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付付	J91
6	87-4	2層	碗類	小鉢	口縁- 体部	赤	7	-	(2.7)	肥前	19世紀前半	染付付 よろけ縁文?	J92
7	88-5	2層	碗類	碗	口縁- 底部	赤	10.7	4.7	6.2	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付付 外面(牡丹) 裏 内面に「寿」字文	J93
8	86-4	1層	碗類	盃	体部- 底部	赤	10.3	3.8	2.8	肥前	18世紀後半- 19世紀前半	包刷付付 草花文 高台内に果	J94
9	87-6	1層	碗類	盃	体部- 底部	赤	19.6	10.3	10.5	肥前	18世紀後半- 19世紀前半	染付付 草花文	J95
10	88-4	2層	碗類	瓶	体部- 底部	赤	1.7	4.7	(13.2)	肥前	18世紀前半	染付付 鶴唐草文 松竹梅文	J96
11	88-3	1層	碗類	盃	口縁- 底部	赤	7.8	3.2	2.9	肥前	18世紀後半- 19世紀前半	包刷付付 草花文 菊 梅	J97

第151図 SX39 性格不明遺構出土遺物(3)



図取 番号	写真図取 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							上口径	底径	器高				
1	87-5	2層	磁器	蓋	体部	密	14	13	4.8	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 雑蓮唐草 蜻蛉風志力	J98
2	86-3	1層	磁器	皿	体部~ 底部	密	32	9.2	(1.7)	肥前	18世紀後半	染付け 肥の目印高台 草花文	J99
3	84-8	2層	磁器	小皿	口縁~ 体部	密	12.9	8.9	(2.0)	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 外面)草花文 内面)格子文	J100
4	88-6	2層	磁器	皿	体部~ 底部	密	11	3.7	(2.3)	肥前	18世紀後半	肥の目印高台	J101
5	87-8	2層	磁器	土皿	口縁~ 体部	密	7.5	7.5	(7.5)	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 蔓草 蜻蛉風志力	J102
6	85-1	2層	磁器	鉢	口縁~ 体部	密	21	8.2	8.6	肥前	18世紀後半	染付け 外面)宝物? 草花? 内面)草花文 刺面	J103

第152図 SX39 性格不明遺構出土遺物(4)



図取番号	写真図取番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (mm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	87-2	2層	磁器	鉢	口縁～底部	密	15.4	5.5	8.5	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付付 山形文 十字 短足に花 底部に土着金で「八景二」発願銘あり	J-104
2	87-1	2層	磁器	鉢	口縁～底部	密	19.2	8.5	10.1	肥前	19世紀以後	染付付 外面) 早花文 梅 高台に建群文 内面) 口縁に雲文 山水 人物 東屋 桃樹庭	J-105
3	87-7	2層	陶器	瓶	口縁～底部	密	3.3	-	(5.1)	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付付	J-287
4	84-9	2層	磁器	蓋	口縁～底部	密	9.2	3.8	3.5	瀬戸・美濃	19世紀前半	口縁有付	J-106
5	86-6	2層	磁器	蓋	底部	密	8.6	3.7	2.7	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付付 蘭目文	J-107
6	84-4	1層	磁器	皿	底部	密	-	-	(1.2)	肥前	18世紀前半	染付付 早花文 雛繪	J-108
7	84-6	2層	陶器	皿	底部	密	-	-	(1.1)	京	18世紀後半～19世紀前半	色絵付 紅葉 高台内に「竜山」	J-117
8	84-7	2層	磁器	花子付	口縁～底部	密	4.9	4.9	9.9	肥前	18世紀後半	梅花形の透かし 染付付 花散らし朱紫文	J-109

第153図 SX39 性格不明遺構出土遺物(5)



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	88-7	3層	軒丸瓦	0	116.50	12	瓦面に凹文	F-6

図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	径深	重さ		
2	130-12	3層	寛永通宝	1636	2.42	0.8	2.8		N-41

第154図 SX39 性格不明遺構出土遺物 (6)



写真11 SX39 性格不明遺構堆積状況 (南から)

19) SX41 性格不明遺構 (第155図 図版33-5)

S17-E60 グリッドに位置する。規模は長軸 1.58m、短軸 1.27m、深さ 33cm を測る。平面形は主軸方向 N-72°-E を示す楕円形で、底面は中央部に向かって緩やかに隆起し、断面形は逆台形である。堆積土は径 10cm ほどの礫を多量に含む粘土質シルトの単層からなる。遺物は産地不明の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片が出土したが、細片のため図示し得なかった。



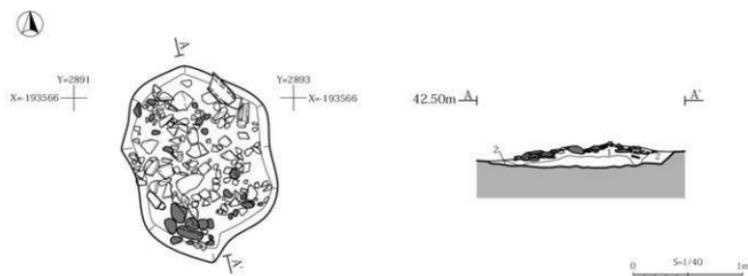
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	10YR4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	あり	瓦片・径 10cm の礫多量

第155図 SX41 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部

20) SX42 性格不明遺構 (第156図 図版34-1)

S17-E60 グリッドに位置する。規模は長軸1.83m、短軸1.36m、深さ14cmを測る。平面形は主軸方向N-8°-Wを示す不整形で、底面は起伏を持ち、断面形は浅い皿形である。堆積土は黒褐色粘土質シルト・黒色シルトの2層からなり、1層に長さ5~20cm、幅3~5cm、厚さ3~5cmの礫を多量に含む。遺物は、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土したが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	瓦片・径5~20cm程度の礫多量
2	10YR2/1	黒色	シルト	なし	あり	細かい黒褐色土少量

第156図 SX42 性格不明遺構平面図・断面図

21) SX43 性格不明遺構 (第157図 図版34-2)

S17-E61 グリッドに位置する。規模は長軸1.54m、短軸61cm、深さ30cmを測る。平面形は主軸方向N-80°-Eを示す楕円形で、底面は中央部に向かって摺り鉢状に緩やかに傾斜し、断面形は皿形である。堆積土は灰黄褐色シルトの単層からなる。遺物は19世紀代の堤産の陶器、瓦片が出土したが、細片のため図示し得なかった。

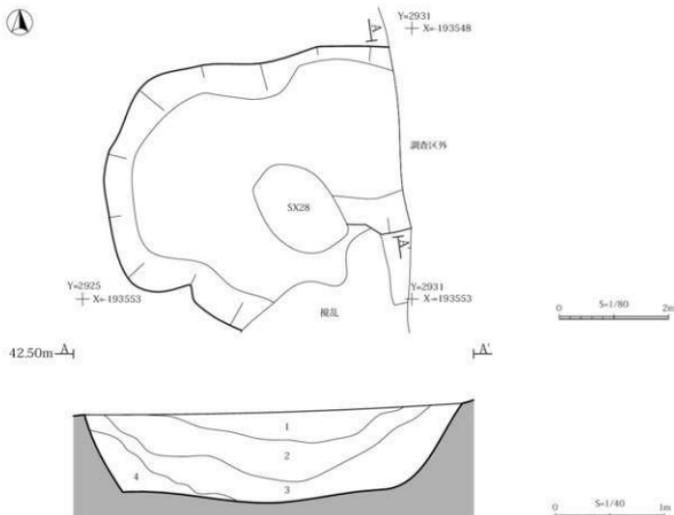


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径2cm程度の礫・細かい灰褐色土・炭化物少量

第157図 SX43 性格不明遺構平面図・断面図

22) SX49 性格不明遺構 (第158～164図 図版49-3～5)

S15-E630～S16-E64 グリッドに位置する。SX28と重複しており、SX49が古い。南側を攪乱で削平される。また、東側は調査区外に広がる。規模は長軸5.48m、短軸4.93m、深さ86cmを測る。平面形は主軸方向N-79°Eを示す不整形で、底面は東側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。堆積土は砂質シルトの4層からなる。遺物は3層から、17世紀代の唐津産の陶器、19世紀代の大塚相馬産、堤産、在地産の陶器、18～19世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、金属製品、土製品、瓦、古銭の小片が出土し、この内61点を図示した。



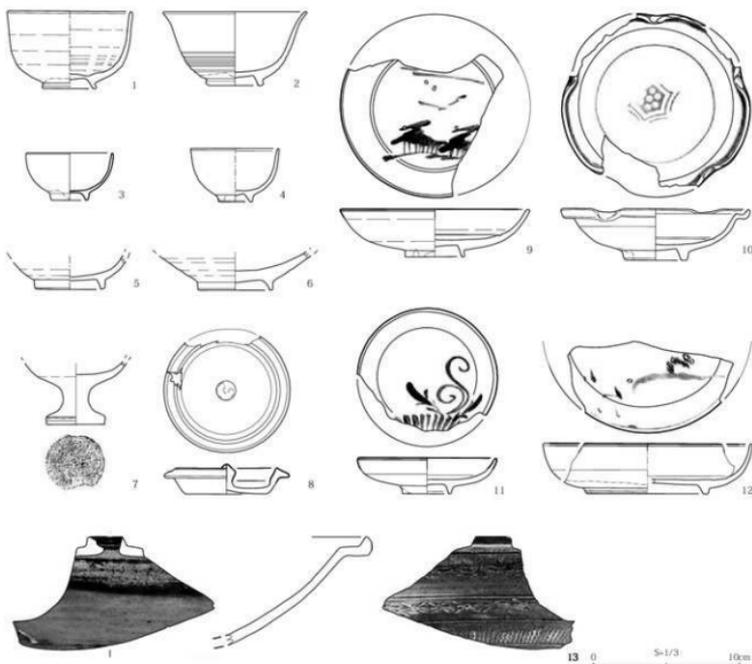
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径約5cmの鎌多層
2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	なし	あり	径2～3cmの遺物多層
3	10YR2/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径2～3cmの遺物多層
4	10YR2/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径2～3cmの鎌多層



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号	
						口径	底径	器高					
1	89-3	3層	陶器	碗	口縁～底部	南	10.1	4	3.6	大塚相馬	18世紀後半～19世紀前半	I-118	
2	89-2	3層	陶器	碗	口縁～底部	南	12.3	4.7	6.2	大塚相馬	19世紀前半	鉄絵 唐?	I-119
3	90-7	3層	陶器	碗	口縁～底部	南	9.7	3.8	5.4	大塚相馬	19世紀前半		I-120

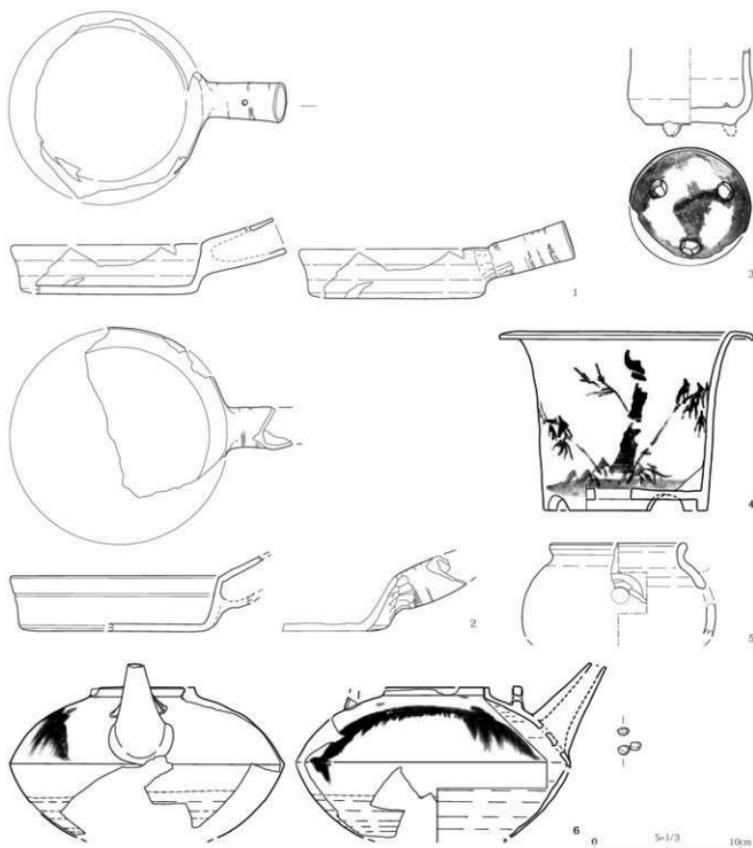
第158図 SX49 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	取土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	90-5	3層	陶器	碗	口縁~ 底部	密	8.6	3.6	5.4	大塚郡馬	19 世紀前半		I-121
2	89-7	3層	陶器	碗	口縁~ 底部	密	10	3.5	5.2	大塚郡馬	18 世紀後半~ 19 世紀前半		I-122
3	89-1	3層	陶器	碗	口縁~ 底部	密	6	2.5	3.3	大塚郡馬	19 世紀前半		I-123
4	90-6	3層	陶器	碗	口縁~ 底部	密	6	2.3	3.8	大塚郡馬	19 世紀前半		I-124
5	90-4	3層	陶器	碗	体部~ 底部	密	7.4	4.6	12.3	御津	17 世紀	刷毛目	I-125
6	89-8	3層	陶器	碗	体部~ 底部	密	10.2	5.1	12.8	大塚郡馬	19 世紀前半		I-126
7	89-11	3層	陶器	仏飯器	体部~ 底部	密	6.8	4	14.4	小野郡馬	19 世紀前半		I-127
8	89-5	3層	陶器	蓋	体部~ 底部	密	8.5	5.7	2.2	大塚郡馬	18 世紀後半~ 19 世紀前半	曜硝釉	I-128
9	89-4	3層	陶器	皿	口縁~ 底部	密	13	4.1	3.3	大塚郡馬	19 世紀前半	鉄絵 松皮 雁	I-129
10	89-9	3層	陶器	皿	口縁~ 底部	密	13	4.5	3.5	大塚郡馬	19 世紀前半	切押L	I-130
11	89-6	3層	陶器	皿	口縁~ 底部	密	9.5	3.5	2.5	大塚郡馬	18 世紀後半	鉄絵 蟹草	I-131
12	90-3	3層	陶器	皿	口縁~ 底部	密	14.3	8.2	3.5	大塚郡馬	19 世紀前半		I-132
13	90-14	3層	陶器	皿	口縁~ 体部	密	-	-	17.6	御津	17 世紀後半	切押L	I-133

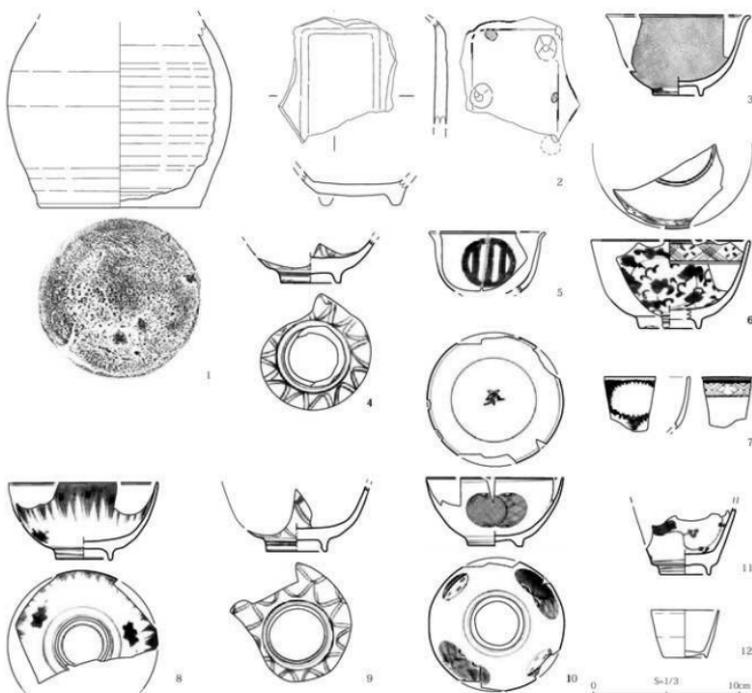
第159図 SX49 性格不明遺構出土遺物(2)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	91-2	3層	陶器	畑焼	口縁～ 底部	赤	13.3	11.5	3.5	畑	18世紀後半～ 19世紀前半	煎粉	I-134
2	91-4	3層	陶器	畑焼	口縁～ 底部	赤	14.5	12.5	3.9	畑	18世紀後半～ 19世紀前半	煎粉	I-135
3	91-1	3層	陶器	火入れ	体部～ 底部	赤	8	5.8	6.0	畑	19世紀前半		I-136
4	90-11	3層	陶器	植木鉢	口縁～ 底部	赤	16.3	11.2	13	在野	18世紀後半～ 19世紀前半	赤褐色 鉄絵? 洗	I-137
5	90-12	3層	陶器	土器	口縁～ 体部	赤	9.2	-	8.6	在野	19世紀?		I-138
6	89-10	3層	陶器	土器	口縁～ 体部	赤	7.1	6.7	10.4	大塚野馬	19世紀前半	煎粉陶器 土器? 洗	I-139

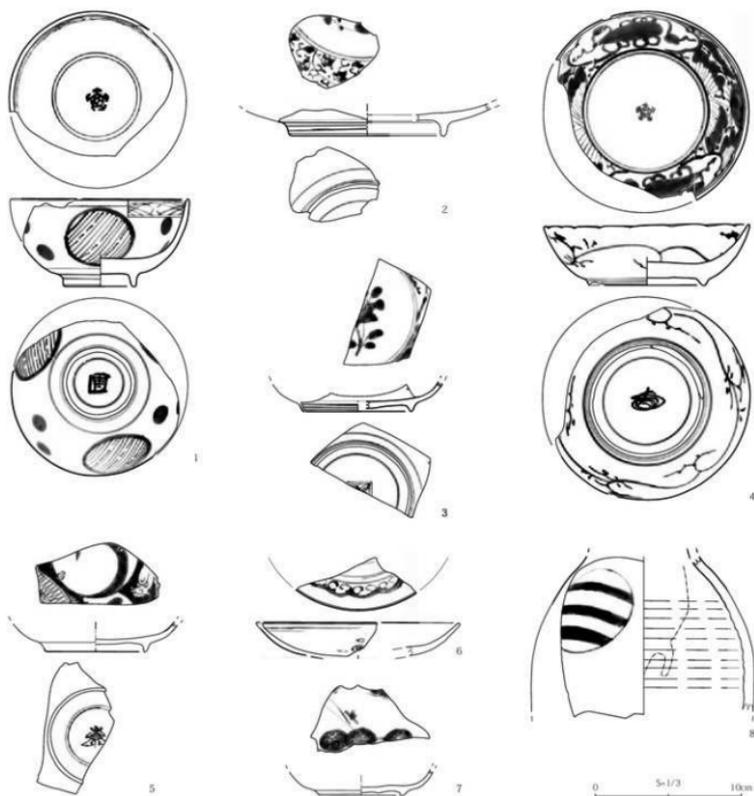
第160図 SX49 性格不明遺構出土遺物(3)

第1節 駅部



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			底地	時期	文様・備考	登録 番号	
						口径	底径	器高					
1	91-3	3層	陶器	鉢	体部~ 底部	密	-	10.8	(13.1)	大瀬川西	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	鉄胎	J-140
2	90-9	3層	陶器	瓦皿	体部~ 底部	密	-	-	2.7	瀬戸・美濃	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	脚部3面に残存	J-141
3	93-9	3層	陶器	碗	口縁~ 底部	密	9.9	3.4	5.5	大瀬川西	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	曜文	J-142
4	92-1	3層	磁器	碗	口縁~ 底部	密	8.7	4	4.8	肥前	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	染付付 耀目文	J-110
5	92-9	3層	磁器	碗反碗	口縁~ 底部	密	7.9	-	4.2	瀬戸・美濃	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	染付付 三引高 燧燧点赤点	J-111
6	91-5	3層	磁器	碗	口縁~ 底部	密	10.9	4.2	6.2	肥前	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	染付付 外面に花唐草文 内面口縁部に四方唐文	J-112
7	92-5	3層	磁器	碗	口縁~ 底部	密	-	-	4.8	肥前	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	染付付 外面に雪輪文 内面四方唐文	J-113
8	92-2	3層	磁器	碗	口縁~ 底部	密	10.2	3.8	5.3	肥前	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	染付付 燧燧 印判 燧	J-114
9	91-7	3層	磁器	碗	口縁~ 底部	密	8.8	4	4.8	肥前	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	染付付 外面に耀目文	J-115
10	91-10	3層	磁器	碗	口縁~ 底部	密	9.5	3.8	4.8	肥前	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	染付付 外面に丸文 内面に燧燧 見込に雲母?	J-116
11	92-11	3層	陶器	碗	体部~ 底部	密	-	3.5	(4.7)	肥前	18 伊紀後平~ 19 伊紀前平	染付付 草花文	J-288
12	92-8	3層	磁器	溝衣唐口	口縁~ 底部	密	8.2	5.3	6.3	瀬戸・美濃	19 伊紀前平		J-117

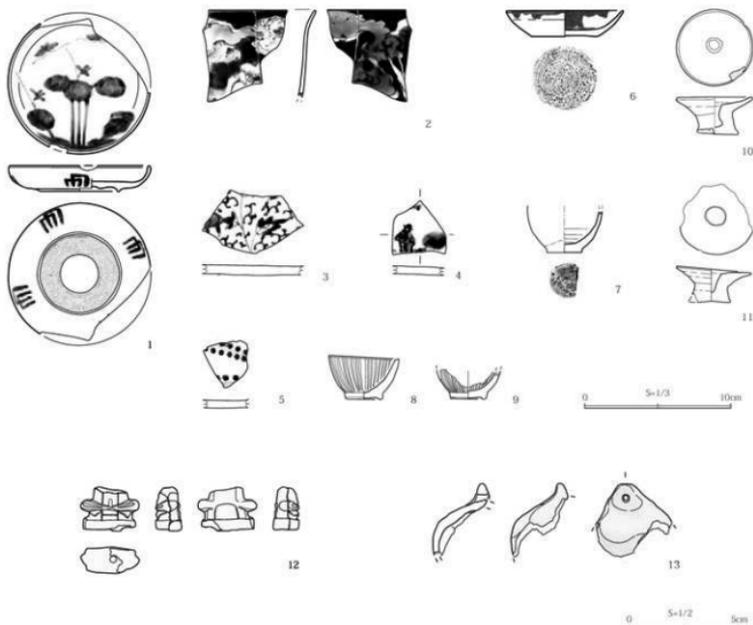
第161図 SX49 性格不明遺構出土遺物(4)



図取番号	写真図取番号	層位	種別	器種	部位	取土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	91-8	3層	磁器	碗	口縁-底部	密	12.5	4.8	6	肥前	18世紀前半	染付付 外面に丸文、内部に口縁部に四方舞文、高台内角部	J-118
2	92-12	3層	磁器	皿	体部-底部	密	16.8	10.4	12.3	肥前	18世紀前半	染付付 花鳥草文	J-119
3	92-13	3層	磁器	皿	体部-底部	密	11.6	7.5	12	肥前	18世紀前半	染付付 外面に菊瓣、高台に題?、内部に草化文	J-120
4	92-3	3層	磁器	皿	口縁-底部	密	14.2	7.8	4.2	肥前	18世紀後半	染付付 外面に草文、内部に草化文、見込に五作花、高台に渦部	J-121
5	92-4	3層	磁器	皿	体部-底部	密	10.7	6.9	12.1	肥前	18世紀前半	染付付 外面に高台内に鼠文、内部に亀	J-122
6	92-14	3層	磁器	皿	口縁-底部	密	14	-	12.3	肥前	18世紀前半	染付付	J-123
7	93-1	3層	磁器	皿	体部-底部	密	9.6	6.7	1.8	肥前	18世紀前半	染付付 草化文、側縁部赤布	J-124
8	92-6	3層	磁器	鉢形	体部	密	15.4	-	11.1	肥前	18世紀前半	染付付 丸文	J-125

第162図 SX49 性格不明遺構出土遺物(5)

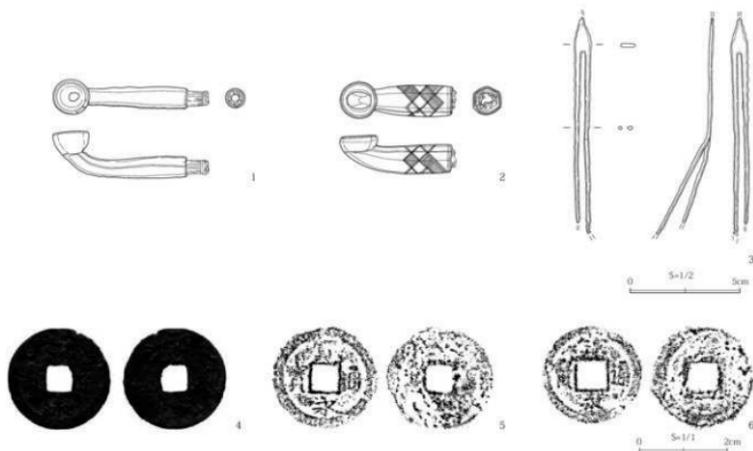
第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			窯地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	91-9	3層	磁器	皿	口縁~ 底部	密	9.8	5.3	1.8	肥前	18世紀前半	染付け 肥の目四角台 (外周) 唐氏赤文 内面) 存在確文	J-126
2	91-6	3層	磁器	碗付	口縁~ 体部	密	-	-	9.0	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 桃緑斑赤少	J-127
3	93-2	3層	磁器	皿	口縁~ 体部	密	-	-	(4.5)	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 花繪草文	J-128
4	92-7	3層	磁器	皿	体部	密	-	-	(3.8)	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 風唐?	J-129
5	92-10	3層	磁器	皿	体部	密	-	-	(3.3)	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 蓮草?	J-130
6	93-3	3層	土師瓦 土器	かわらけ	口縁~ 底部	密	8	4.4	1.8	在野	19世紀?		I-259
7	90-10	3層	陶器	豆鉢	体部~ 底部	密	-	2.4	(2.7)	大塚相馬	19世紀前半		I-143

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
8	93-10	3層	土製品	-	3.5	2	紅瓦	P-4
9	93-6	3層	土製品	-	3.2	1.5	紅瓦	P-5
10	93-4	3層	土製品	-	3.1	1.8		P-6
11	93-5	3層	土製品	-	3.4	1.8		P-7
12	93-11	3層	土製品	1.2	2.8	(2.2)	土人形 天冲	P-8
13	93-7	3層	土製品	-	(3.5)	(3.4)	土鈴	P-9

第163図 SX49 性格不明遺構出土遺物(6)



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号	
				長さ	幅	厚さ			
1	93-14	3層	金属製品	7.2	1.5	2.2	(層首) 鍔字一部残存)	N-11	
2	93-13	3層	金属製品	5.5	1.7	1.8	(層首) 鍔字一部残存)	N-12	
3	93-12	3層	金属製品	10.1	1.2	1.4	片	N-13	
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重量		
4	130-2	3層	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.71		N-42
5	130-13	3層	寛永通宝	1636	2.35	0.8	2.8		N-43
6	130-11	3層	寛永通宝	1636	2.4	0.75	2.8		N-44

第164図 SX49 性格不明遺構出土遺物 (7)



写真12 SX49 性格不明遺構遺物出土状況 (北から)

第1節 駅部

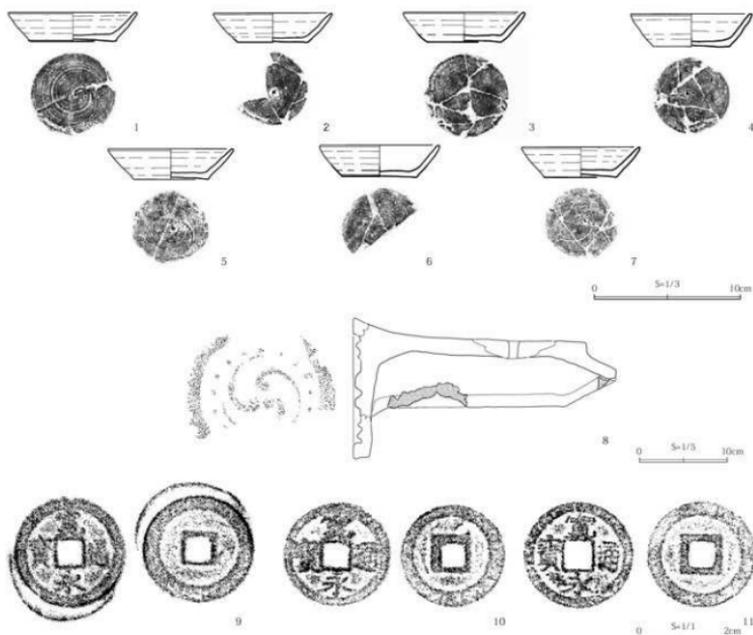
23) SX56 性格不明遺構 (第165図～166図 図版35-1・2)

S16-E55 グリッドに位置し、周囲を複乱により削平される。規模は長軸6.1m、短軸4.7m、深さ48cmを測る。平面形は主軸方向N-79°Eを示す不整形で、底面は東側に向かって緩やかに傾斜しており、断面形は皿形であると考えられる。堆積土は黒褐色シルトの6層からなり、長さ10～45cm、幅5～15cm、厚さ3～16cmの自然礫を多量に含む。遺物は19世紀代の埴産、大堀相馬産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在産の瓦質土器、瓦片、古銭が出土し、この内11点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/2	黒褐色シルト	なし	なし	径2cm程度の礫多量
2	10YR2/2	黒褐色シルト	なし	なし	径10～40cmの礫多量
3	10YR2/2	黒褐色シルト	なし	なし	径10～40cmの礫多量
4	10YR2/2	黒褐色シルト	なし	なし	径10～40cmの礫多量
5	10YR2/2	黒褐色シルト	なし	なし	径約5cmの礫多量
6	10YR2/2	黒褐色シルト	なし	なし	径約5cmの礫少量

第165図 SX56 性格不明遺構平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	図種	部位	出土	法量 (cm)			所在地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	94-8	3層	土師瓦土器	かわらけ	口縁～底部	密	88	5.8	2	在埋	不明		I-259
2	94-7	3層	土師瓦土器	かわらけ	口縁～底部	密	8.3	4.8	2.1	在埋	不明		I-261
3	94-9	3層	土師瓦土器	かわらけ	口縁～底部	密	8.3	5	2	在埋	不明		I-262
4	94-4	3層	土師瓦土器	かわらけ	口縁～底部	密	8.4	5.3	2.3	在埋	不明		I-263
5	94-5	3層	土師瓦土器	かわらけ	口縁～底部	密	8.6	5.2	2.2	在埋	不明		I-264
6	94-6	3層	土師瓦土器	かわらけ	口縁～底部	密	8.2	5.2	2.2	在埋	不明		I-265
7	94-10	3層	土師瓦土器	かわらけ	口縁～底部	密	8.2	4.8	2.2	在埋	不明		I-266
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号					
				長さ	幅	厚さ							
8	129-12	3層	軒丸瓦	30	17	11	瓦中に巴文	F-7					
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初繰年	法量 (cm・g)			備考	登録番号				
					外径	穿径	重さ						
9	134-1	3層	寛永通宝	1636	2.4	0.75	2.85		N-45				
10	134-8	3層	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.8		N-46				
11	134-12	3層	寛永通宝	1636	2.5	0.81	2.8		N-47				

第166図 SX56 性格不明遺構出土遺物

第1節 駅部

24) SX57 性格不明遺構 (第167図 図版36-1)

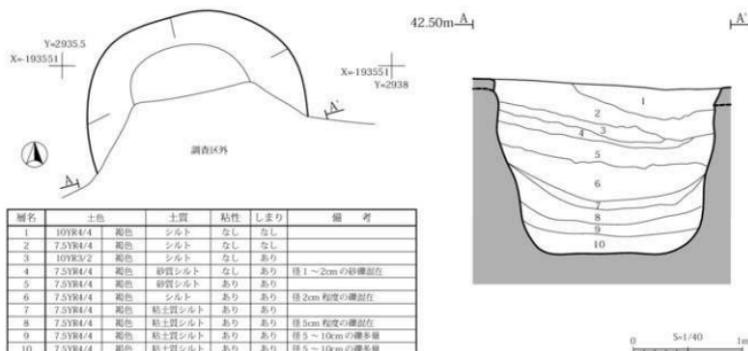
S16-E54 グリッドに位置し、北側は調査区の外側に広がり、遺構の西側、南側を視岳で削平されている。規模は長軸 3.36m、短軸 1.38m、深さ 0.55m を測る。平面形は不明である。底面は起伏をもち、壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトの単層で、多量の瓦片と、長さ 10～20cm、幅 5～10cm、厚さ 5～10cm の自然礫を含む。遺物は産地不明の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第167図 SX57 性格不明遺構平面図・断面図

25) SX64 性格不明遺構 (第168図 図版36-2・3)

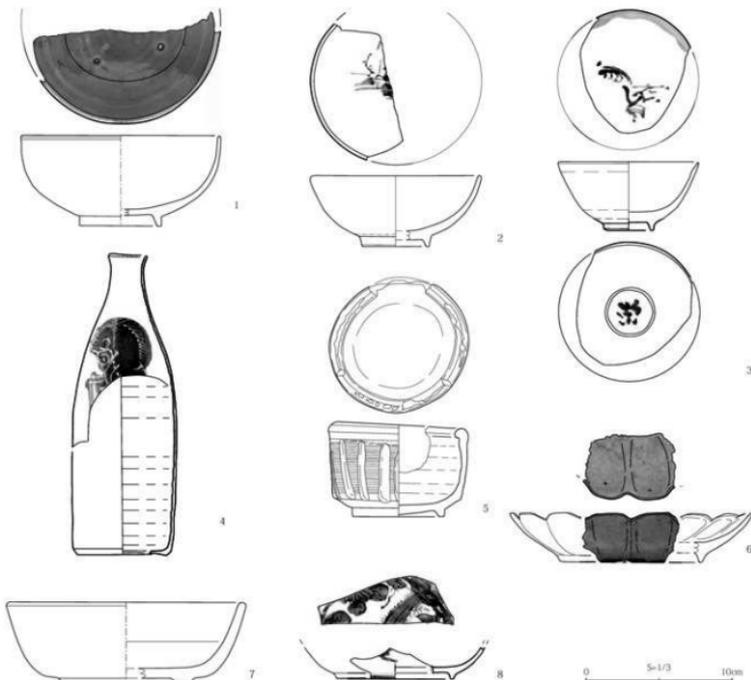
S16-E64 グリッドに位置し、南側は調査区の外側に広がる。規模は長軸 2.1m、短軸 86cm、深さ 1.64m を測る。平面形は不明で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は褐色粘土質シルト・褐色砂質シルト・褐色シルトによる 10 層からなる。遺物は産地不明の陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第168図 SX64 性格不明遺構平面図・断面図

(5) II層遺構外出土遺物（第169図～180図）

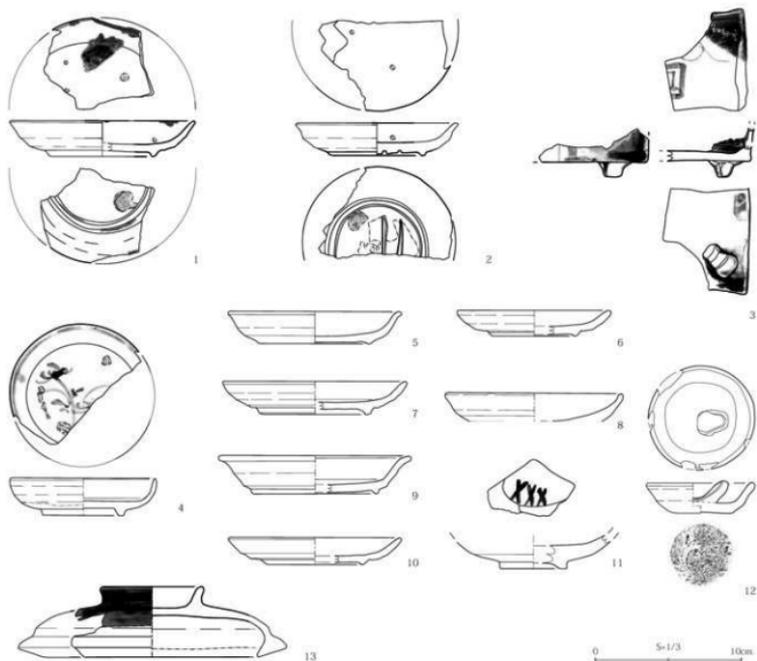
II層遺構外の出土遺物は、種別内訳で陶器片1881点、磁器片2597点、土師質土器片571点、瓦質土器190点、石製品29点、瓦片2172点、土製品5点、金属製品（古銭含む）84点、その他33点となり、総数で7562点である。ここでは、図示可能な116点を抽出し図示した。



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号	
						口径	底径	器高					
1	94-11	S16-E59	陶器	鉢	口縁～ 底部	密	13.6	5.6	6.3	大塚相馬	19世紀前半	目黒	I-144
2	96-8	S16-E59	陶器	碗	口縁～ 底部	密	11.7	4.6	4.9	大塚相馬	19世紀前半	鉄絵	I-145
3	95-9	S16-E59	陶器	碗	口縁～ 底部	密	9.6	3.2	4.9	大塚相馬	18世紀後半～ 19世紀前半	鉄絵	I-146
4	94-12	S16-E59	陶器	徳利	口縁～ 底部	密	3.8	8.4	28	大塚相馬	19世紀前半	鉄絵・イッチン書による駒 透明釉	I-147
5	94-14	S16-E59	陶器	碗	口縁～ 底部	密	9	6.3	6.5	瀬戸・美濃	18世紀後半	鉄絵 矢輪御流し	I-148
6	99-1	S16-E59	陶器	輪花皿	口縁～ 底部	密	16.7	9.7	3.4	志野	17世紀後半		I-149
7	96-10	S16-E59	陶器	碗	口縁～ 底部	密	15.4	8.8	5.1	不明	不明		I-150
8	96-2	S16-E59	陶器	皿	口縁～ 底部	密	12.3	7.9	2.1	肥前	19世紀前半	染付け 草花文	I-151

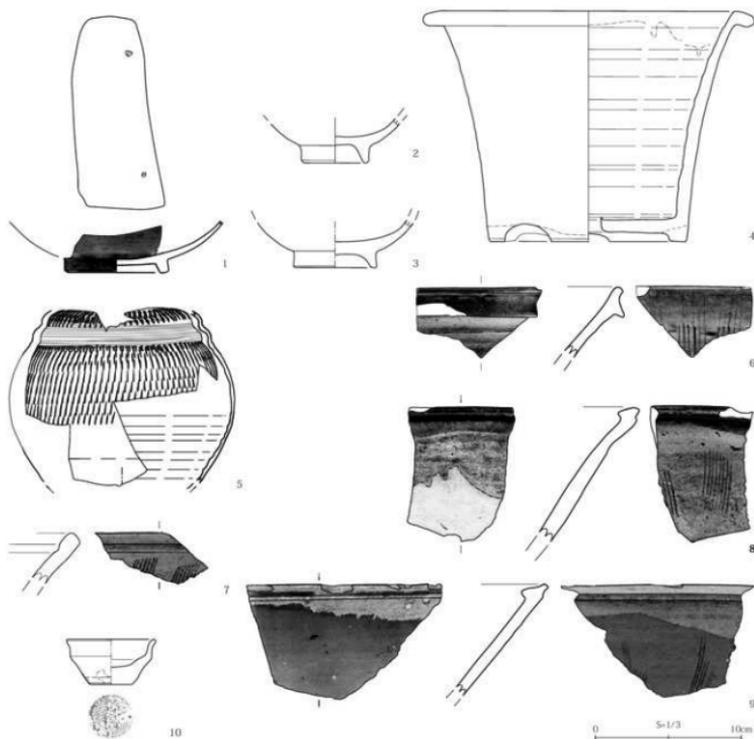
第169図 II層遺構外出土遺物(1)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	原種	部位	寸法 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号	
						口径	底径	器高					
1	96-1	S16-E59	陶器	皿	口縁~ 底部	密	(12.7)	(7.2)	2.5	志野	17世紀後半	二次焼熱調査	I-152
2	96-5	S16-E59	陶器	皿	口縁~ 底部	密	(11.1)	6.5	2.3	志野	17世紀後半		I-153
3	95-8	S16-E59	陶器	皿	体部~ 底部	密	-	-	(3.4)	瀬戸・美濃	17世紀後半~ 18世紀前半	鉄絵 織部輪	I-154
4	96-6	S16-E59	陶器	皿	口縁~ 底部	密	9.8	5.5	2.6	大塚相馬	19世紀前半	鉄絵 草文	I-155
5	96-4	S16-E59	陶器	皿	口縁~ 底部	密	11.9	7.4	2.3	志野	17世紀後半	灰釉	I-156
6	95-3	S16-E59	陶器	皿	口縁~ 底部	密	(10.5)	(5.7)	-	志野	17世紀後半	灰釉	I-157
7	95-5	S16-E59	陶器	皿	口縁~ 底部	密	12.6	7.6	2.3	志野	17世紀後半	灰釉	I-158
8	97-2	S16-E59	陶器	皿	口縁~ 底部	密	12.2	4.6	2.6	志野	17世紀後半	灰釉	I-159
9	95-2	S16-E59	陶器	皿	口縁~ 底部	密	(13.2)	8.5	2.7	志野	17世紀後半	灰釉	I-160
10	95-11	S16-E59	陶器	皿	口縁~ 底部	密	(11.8)	6.5	1.9	志野	17世紀後半	灰釉	I-161
11	94-13	S16-E59	陶器	皿	底部	密	-	(4.6)	(2.4)	大塚相馬	18世紀後半~ 19世紀前半	鉄絵	I-162
12	96-13	S16-E59	陶器	灯明皿	口縁~ 底部	密	7.4	4.2	2.1	大塚相馬	18世紀後半~ 19世紀前半	鉄絵	I-163
13	97-3	S16-E59	陶器	蓋	口縁~ 底部	密	(18.4)	-	4.9	大塚相馬	19世紀前半	鉄絵	I-164

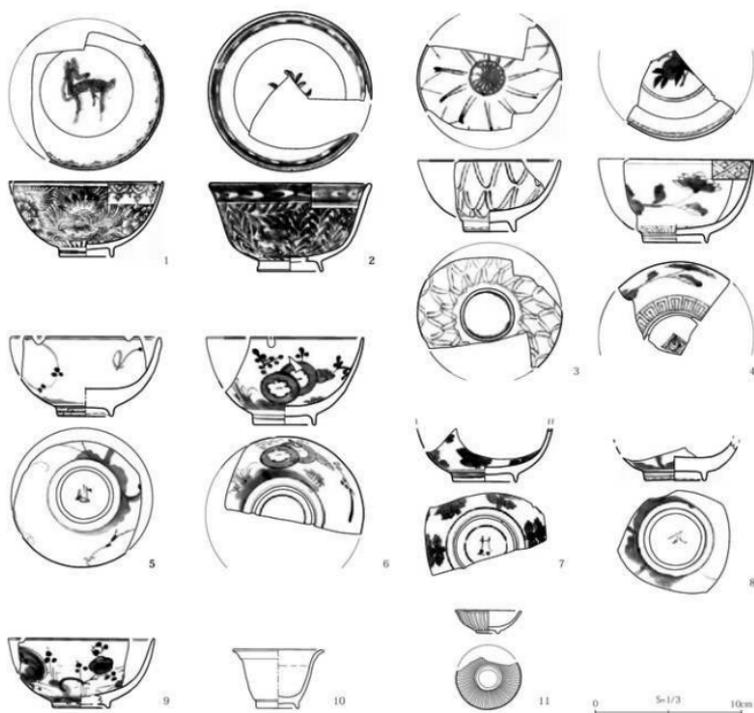
第170図 II層遺構外出土遺物(2)



図版 番号	写真図版 番号	グロッド	類別	器種	部位	崖土	寸法 cm			発地	時期	文様・備考	図版 番号
							口径	底径	高さ				
1	96-3	S16-E59	陶器	鉢	口縁～ 底部	密	14.7	7	3.5	溝戸・文通	18世紀後半～ 19世紀前半		I-165
2	103-3	S16-E59	陶器	碗	体部～ 底部	密	8.7	4.7	3.2	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半		I-166
3	96-9	S16-E59	陶器	碗	体部～ 底部	密	10.7	5.7	3.3	肥前	17世紀後半	貝殻手	I-167
4	94-15	S16-E59	陶器	桶木鉢	口縁～ 底部	密	22.8	18.6	16.1	堀	19世紀以降	鉄軸	I-168
5	97-4	S16-E59	陶器	土器	口縁～ 底部	密	9.7	10.6	12.5	大塚相馬	19世紀前半	鉄軸 とびおんな	I-169
6	97-7	S16-E59	陶器	磁鉢	口縁～ 体部	密	-	-	5	岸	17世紀後半	口縁から口縁部に濃灰釉	I-170
7	97-6	S16-E59	陶器	磁鉢	口縁部	密	-	-	3.6	岸	17世紀後半	口縁から口縁部に濃灰釉	I-171
8	97-4	S16-E59	陶器	磁鉢	口縁～ 体部	密	-	-	9.4	岸	17世紀後半	口縁から口縁部に濃灰釉	I-172
9	97-8	S16-E59	陶器	磁鉢	口縁～ 体部	密	15.7	-	7.8	岸	17世紀後半	口縁から口縁部に濃灰釉	I-173
10	96-11	S16-E59	陶器	小鉢	口縁～ 底部	密	6.1	2.8	3.2	堀	19世紀以降	鉄軸跡付残し	I-174

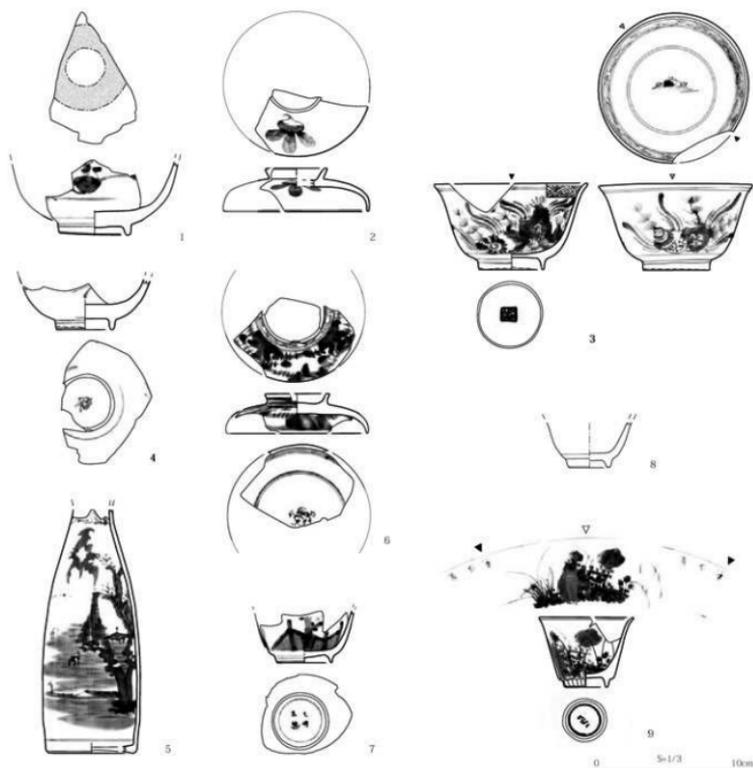
第171図 II層遺構外出土遺物(3)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	101-3	S16-E59	磁器	碗	口縁~ 底部	赤	10.7	3.8	5.2	瀬戸・美濃	19世紀以後	染付け 外面) 草花文(牡丹) 蓮弁文 内面) 紅土に刺繍	J131
2	104-3	S16-E59	磁器	碗	口縁~ 底部	赤	11.2	4.5	6.1	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 草花文	J132
3	98-10	S16-E59	磁器	碗	口縁~ 底部	赤	9.7	3.6	5	肥前	18世紀後半	染付け 草花文	J133
4	101-1	S16-E59	磁器	碗	口縁~ 底部	赤	10.7	4.4	5.8	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 草花文 蓮弁文 高台内に刺繍 内面) 草花文	J134
5	98-8	S16-E59	磁器	碗	口縁~ 底部	赤	10.4	3.8	5.5	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 草花文 高台内に昆虫文	J135
6	100-4	S16-E59	磁器	碗	口縁~ 底部	赤	10.8	4.3	6	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	染付け 草花文	J136
7	102-9	S16-E59	磁器	碗	口縁~ 底部	赤	9.3	4.4	(3.7)	肥前	18世紀後半	染付け 外面) コシニヤ印判 外面) 若草文 高台 内) 「大明草製」	J137
8	100-2	S16-E59	磁器	碗	口縁~ 底部	赤	8.5	4.2	(2.7)	肥前	18世紀後半	染付け 草花文 高台内に昆虫文?	J138
9	104-5	S16-E59	磁器	小鉢	口縁~ 底部	赤	10	4	4.8	肥前	18世紀後半	染付け 草花文	J139
10	102-10	S16-E59	磁器	小鉢	口縁~ 底部	赤	6.3	2.9	4.2	瀬戸・美濃	19世紀以後		J140
11	98-4	S16-E59	磁器	紅磁	口縁~ 底部	赤	4.5	1.5	2.6	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	磨研し	J141

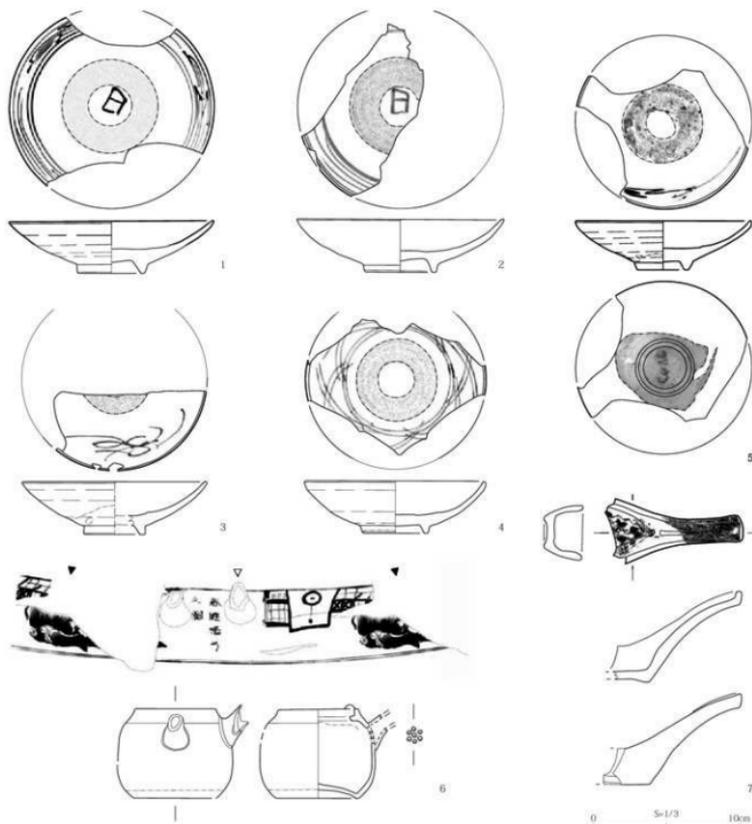
第172図 II層遺構外出土遺物(4)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	出土		産地	時期	文様・備考	登録 番号	
						口径	底径					
1	99-10	S16-E59	磁器	碗	体部～ 底部	密	11.4 5	5.2	肥前	17 伊紀後半～ 18 世紀前半	染付け 肥の白輪刺草 草花文	J-142
2	101-5	S16-E59	磁器	蓋	口縁～ 底部	密	10 4	3	肥前	18 世紀後半	染付け 藤	J-143
3	103-2	S16-E59	磁器	碗	口縁～ 底部	密	11.1 4.9	6.3	瀬戸・美濃	19 世紀以後	染付け 外面) 目 扇刺 高台内に基 内面) 口縁に四方縁文 見込に唐蓮文	J-144
4	100-3	S16-E59	磁器	碗	体部～ 底部	密	8.8 3.9	13.4	肥前	18 世紀後半	染付け 高台内に渦脚	J-145
5	98-5	S16-E59	磁器	徳利	体部～ 底部	密	2.8 5.8	116.0	瀬戸・美濃	19 世紀以後	染付け 山水 扇刺 帆掛け舟 唐文	J-146
6	100-5	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	10.7 14.4	2.8	肥前	18 世紀後半	染付け 外面) 草花文 内面) 五片花	J-147
7	100-1	S16-E59	磁器	小杯	体部～ 底部	密	6.8 3.7	13.6	肥前	18 世紀前半	染付け 草花文 高台内に「大明神製」	J-148
8	99-11	S16-E59	磁器	小杯	体部～ 底部	密	5.3 2.9	3.1	瀬戸・美濃	19 世紀前半		J-149
9	98-7	S16-E59	磁器	小杯	口縁～ 底部	密	6.6 3	4.9	瀬戸・美濃	19 世紀前半	染付け 外面) 草花文 高台内に基	J-150

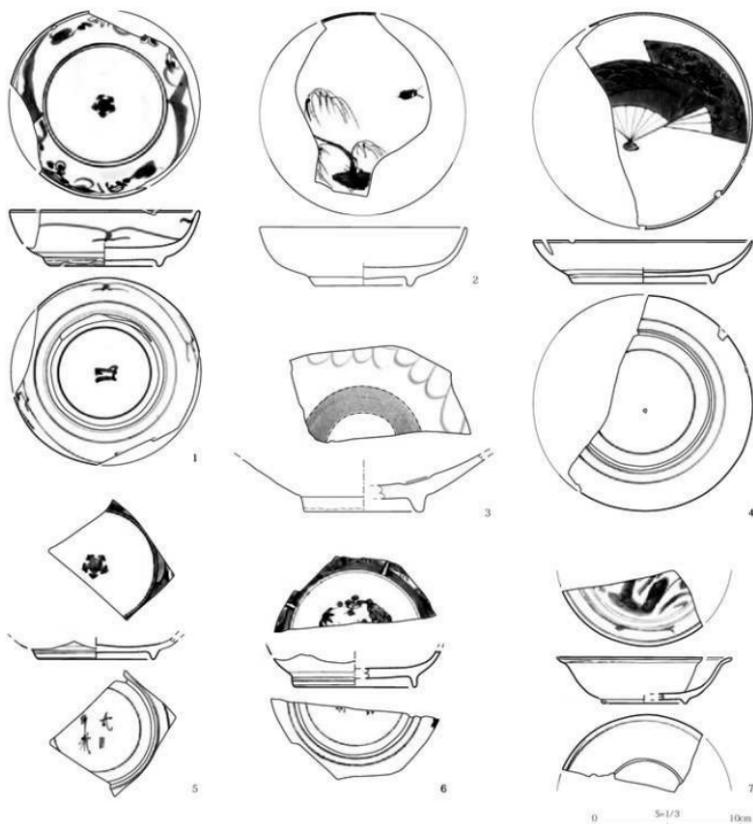
第173図 II層遺構外出土遺物(5)

第1節 駅部



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	土質	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	103-5	S16-E59	磁器	輪花皿	「縁」 底部	密	14	4.8	3.6	肥前	17世紀	染付け「日の字風文」	J-151
2	104-2	S16-E59	磁器	皿	「縁」 底部	密	14.2	4.8	3.7	肥前	17世紀	染付け「日の字風文」	J-152
3	100-6	S16-E59	磁器	皿	「縁」 底部	密 (12.4)	4.2	3.6	肥前	17世紀後半 ~18世紀前半	染付け 蛇の目輪刺ぎ	J-153	
4	100-7	S16-E59	磁器	皿	「縁」 底部	密 (12.3)	4.6	3.6	肥前	18世紀後半	染付け 内面「格子文」	J-154	
5	99-5	S16-E59	磁器	皿	「縁」 底部	密	12.2	3.5	3.4	肥前	17世紀後半 ~18世紀前半	染付け 蛇の目輪刺ぎ	J-155
6	98-2	S16-E59	磁器	土瓶	「縁」 底部	密	5.5	5.8	6.1	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 人物図案「春遊輪廻之図」	J-156
7	104-6	S16-E59	磁器	燗筆	「縁」 底部	密	3.8	2.3	6.4	瀬戸・美濃	19世紀以後	染付け 麒麟刺写	J-157

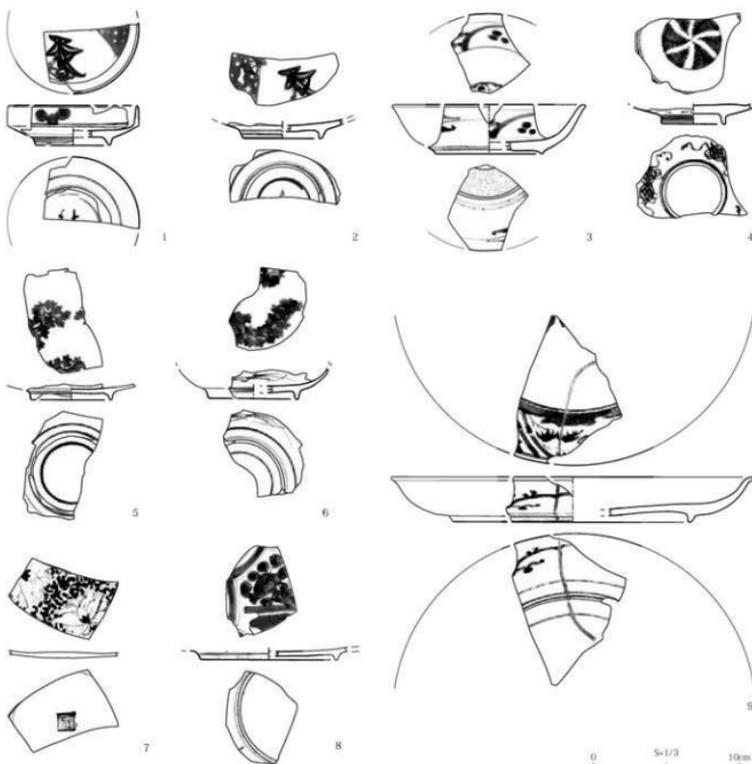
第174図 II層遺構外出土遺物(6)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	径 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号		
						口径	底径	器高						
1	102-5	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	13.1	7.8	3.9	肥前	18世紀後半	染付け(外縁)草文 高台内に文字文 内面)草花文 五弁花	J-158	
2	99-1	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	14.3	16.7	4.1	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 口縁有り 柳	J-159	
3	102-7	S16-E50	磁器	皿	縁部～ 底部	密	-	18.2	13.0	肥前	17世紀後半	青磁胎 蛇の目輪刺さ 型押し	J-160	
4	99-7	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	15.1	9.7	3	肥前	17世紀後半	染付け 冠込に器	J-161	
5	102-1	S16-E59	磁器	皿	底部	密	-	3.9	11.2	肥前	19世紀後半～ 19世紀前半	19世紀後半～ 19世紀前半	染付け 冠込に五弁花 高台内に大明神製	J-162
6	100-9	S16-E59	磁器	皿	縁部～ 底部	密	-	8.5	12.3	肥前	18世紀後半	染付け 高台内(「工」印製?) 内面)草花文 松竹梅文	J-163	
7	100-8	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	11.2	15.7	3.3	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付け 草花文	J-164	

第175図 II層遺構外出土遺物(7)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	指土	法庫 cm			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	99-3	S16-E59	磁器	皿	口縁-底部	密	9	5.2	2.8	肥前	18世紀後半	染付け コニヤク印判 外面) 梅花 内面) 具溝 罎	J-165
2	103-4	S16-E59	磁器	皿	底部	密	8.3	5.4	0.40	肥前	18世紀後半	染付け コニヤク印判 外面) 磨擦 高台内にて 内面) 具溝 罎	J-166
3	104-4	S16-E59	磁器	皿	口縁-底部	密	13.2	7.2	3.4	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 草文 内面) 草花文	J-167
4	101-6	S16-E59	磁器	皿	体部-底部	密	-	4.4	0.30	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 七宝文 内面) 干葉文	J-168
5	104-1	S16-E59	磁器	皿	底部	密	-	5.5	0.11	肥前	18世紀後半	染付け コニヤク印判 草文	J-169
6	102-2	S16-E59	磁器	皿	体部-底部	密	-	6	0.28	肥前	18世紀後半	染付け コニヤク印判 草文	J-170
7	101-4	S16-E59	磁器	皿	体部	密	7.5	-	-	肥前	18世紀後半	染付け 草花文 高台内に角罎	J-171
8	99-4	S16-E59	磁器	皿	底部	密	-	9.4	0.60	肥前	18世紀後半-19世紀前半	染付け 草花文	J-172
9	99-6	S16-E59	磁器	皿	口縁-底部	密	24.0	15.2	3.1	肥前	17世紀後半-18世紀前半	染付け 外面) 草文 内面) 風景文 竹棘 後継品あり	J-173

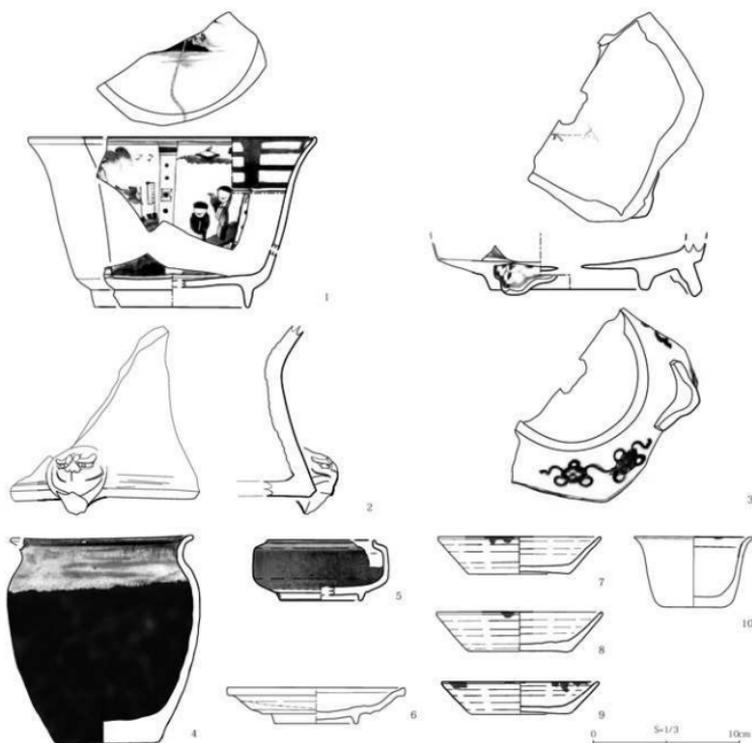
第176図 II層遺構外出土遺物(8)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	器種	部位	胎土	径長 cm			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	99-2	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	赤	114.80	65.11	3.4	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付汁 團扇 蝶絵	J-174
2	101-2	S16-E59	磁器	皿	口縁～体部	赤	115.71	88.80	12.53	肥前	18世紀後半	染付汁 外面1草花文 鳥? 内面1草花文 團扇文	J-175
3	99-8	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	赤	133.3	8.8	11.80	肥前	19世紀以後	染付汁 動物転写 内面1鳥? 高台内「門型」内面1草花文 仏具?	J-176
4	98-1	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	赤	15.4	6.7	2.5	肥前	17世紀	染付汁 草花文	J-177
5	100-10	S16-E59	磁器	皿	体部～底部	赤	16	112.00	120	肥前	18世紀後半	染付汁 外面1團扇 内面1草花文 見込に五弁花 高台内に文字	J-178
6	99-9	S16-E59	磁器	火入れ	口縁～体部	赤	10.4	-	140	肥前	18世紀中頃	染付汁	J-179
7	98-3	S16-E59	磁器	輪花皿	口縁～底部	赤	6.5	2.9	3	肥前	18世紀後半	管押し	J-180
8	98-9	S16-E59	磁器	蓋	口部	赤	4.1	1.7	120	肥前	17世紀後半～18世紀前半	染付汁 五弁花	J-181
9	102-8	S16-E59	磁器	皿	体部～底部	赤	-	4.7	14.40	肥前	18世紀後半	染付汁 草花文	J-182
10	102-6	S16-E59	磁器	椀	体部～底部	赤	5.3	4.3	17.80	瀬戸・美濃	18世紀後半～19世紀前半	染付汁 草花文	J-183

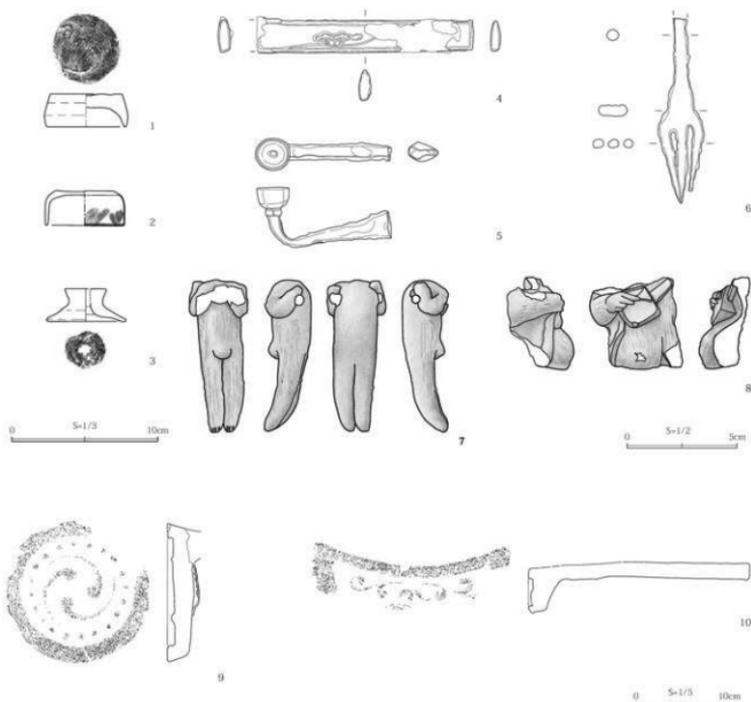
第177図 II層遺構外出土遺物(9)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	グロッド	器種	部位	取土	寸法 (cm)			発地	時期	文様・備考	登録番号	
						口径	底径	器高					
1	98-6	S16-E59	磁器	向付 口縁～ 体部	黒	19.6	10.6	11.8	瀬戸・美濃	19世紀以後	染付け 外蓋1餅子? 内面(口縁部)に八卦文	J-184	
2	105-7	S16-E59	瓦葺土器	絞漉り 体部～ 底部	黒	-	-	13.2	左地	19世紀以後		I-286	
3	103-1	S16-E59	磁器	火入れ	黒	-	11	63.0	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付け 七宝文	J-185	
4	95-4	S16-E59	陶器	蓋	口縁～ 底部	黒	12.6	6.9	14.3	尾	19世紀以後	なまこ彫	I-175
5	97-5	S16-E59	陶器	皿	口縁～ 底部	黒	7.4	5.7	4.2	小野相馬	18世紀後半～ 19世紀前半		I-176
6	96-14	S17-E59	陶器	皿	口縁～ 底部	黒	12.2	5.7	2.5	大層相馬	18世紀後半～ 19世紀前半		I-177
7	104-10	S16-E59	土器瓦土器	かわらけ	口縁～ 底部	黒	11.2	6.8	3	左地	19世紀以後	油漉付着	I-267
8	104-12	S16-E59	土器瓦土器	かわらけ	口縁～ 底部	黒	11.4	7.1	2.7	左地	19世紀以後	油漉付着	I-268
9	104-11	S17-E59	土器瓦土器	かわらけ	口縁～ 底部	黒	11.7	6.8	2.3	左地	19世紀以後	油漉付着	I-269
10	105-3	S16-E59	土器瓦土器	ミニチュア	口縁～ 底部	黒	8.2	4.2	5	左地	19世紀以後		I-270

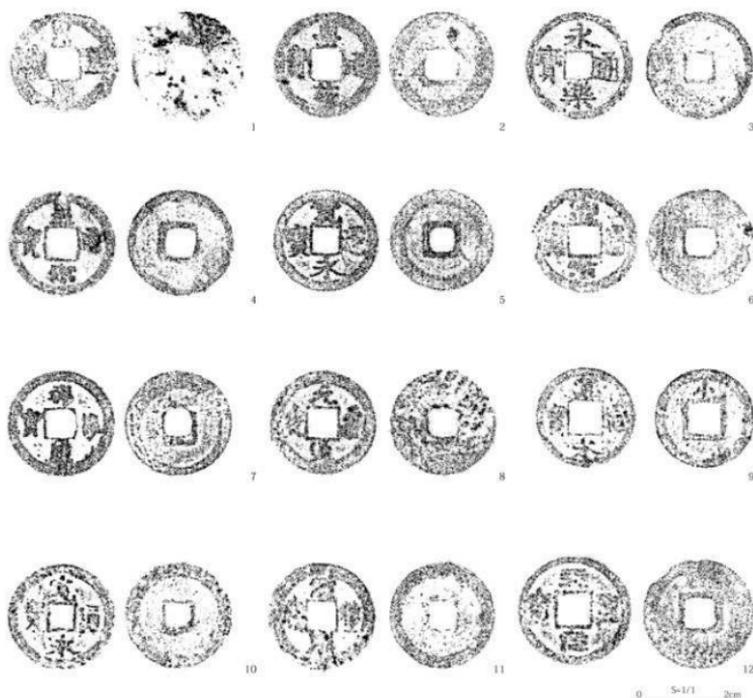
第178図 II層遺構外出土遺物(10)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	出土	法庫 C04			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	105-2	S16-E50	土師瓦土器	不明	口縁～底部	甕	5.4	4.9	2.3	不明	10世紀以後		I-271
2	105-1	S16-E50	土師瓦土器	投擲器	口縁～底部	甕	5.5	4.3	2.5	在野	18世紀後半	蓋	I-272
3	104-9	S16-E50	土師瓦土器	不明	口縁～底部	甕	2.9	3.4	2.3	不明	19世紀以後		I-273
図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法庫 C04			備考						登録番号
				長さ	幅	厚さ							
4	106-2	S16-E59	金属製品	9.8	1.6	0.6	刀子						N-14
5	106-4	S16-E59	金属製品	6.2	.3	1.5	押針(鎌首)						N-15
6	106-8	S16-E59	金属製品	8.8	2.2	0.5							N-16
7	106-1	S16-E59	土製品	7.2	2.8	2	土人形 脇?						P-10
8	106-3	S16-E59	土製品	4.5	4.2	-	土人形 三味線押巻						P-11
9	129-3	S17-E59	軒丸瓦	4	16.2	16.2	瓦当に巴文						F-8
10	129-2	S16-E59	軒平瓦	8	26.2	25.3	瓦頭に刺巴文						G-4

第179図 II層遺構外出土遺物(11)

第1節 駅部



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	銭貨名	初鋳年	法量 (mm・g)			備考	登録 番号
					外径	厚径	重量		
1	133-5	S16-E59	不明	-	2.4	0.75	2.8		N-48
2	133-1	S16-E59	藤原鎌足	1056(宋)	2.4	0.8	2.7		N-49
3	132-4	S16-E59	末築鎌足	1408(明)	2.4	0.8	2.68		N-50
4	134-6	S16-E59	崇光鎌足	1039(宋)	2.4	0.8	2.85		N-51
5	131-6	S16-E59	寛永鎌足	1636	2.35	0.8	2.8		N-52
6	132-11	S16-E59	崇光鎌足	1039(宋)	2.4	0.8	2.85		N-53
7	131-2	S16-E59	祥政鎌足	1008(宋)	2.4	0.75	2.68		N-54
8	131-8	S16-E59	元徳鎌足	1078(宋)	2.42	0.8	2.8		N-55
9	132-13	S16-E59	寛永鎌足	1636	2.35	0.8	2.8		N-56
10	132-5	S16-E59	寛永鎌足	1636	2.35	0.8	2.8		N-57
11	131-23	S16-E59	元徳鎌足	1078(宋)	2.4	0.8	2.8		N-58
12	131-9	S16-E59	聖徳元宝	1101(宋)	2.35	0.8	2.8		N-59

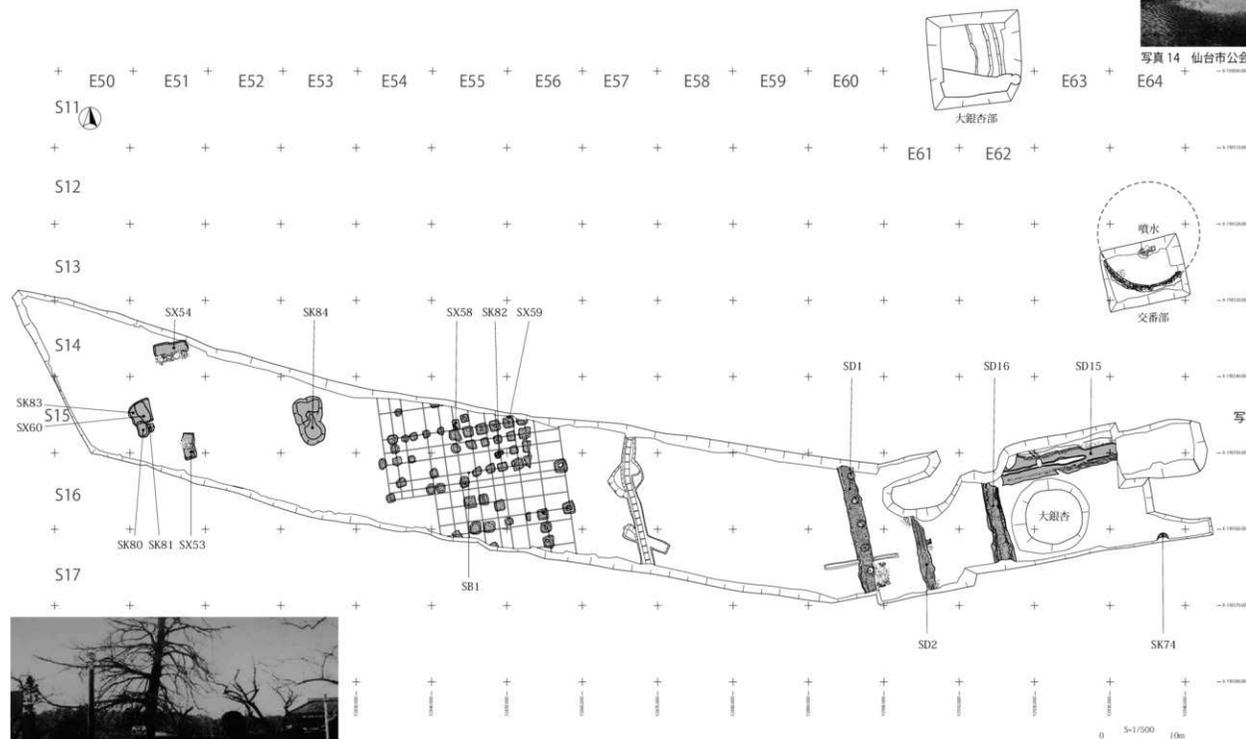
第180図 II層遺構外出土遺物(12)

4 | b層上面検出遺構と| b層出土遺物

| b層上面で検出された遺構は、近代建物1棟、溝4条、土坑6基、性格不明遺構4基である。遺構はいずれも、近代以降に造成されたもので、堆積土中には、近代陶磁器、ガラス片等が多く見られる。SB1は検出した位置、規模等から明治19年に建てられた和洋料亭「懸翠館」と考えられる。SX54は、この「懸翠館」に付属する厨房施設とも考えられる。また、SD1・2・16は長軸方向が一致し、SD15の長軸方向はこれらと直交する。なお、SD15、16は「大銀杏」を囲む様な配置にある。



写真14 仙台市公会堂と桜ヶ岡公園の噴水 (仙台市民俗資料館所蔵)



第181図 | b層上面遺構配置図

写真15 大銀杏周辺の遺構検出状況 (西から)



写真13 桜ヶ岡公園と大銀杏 (昭和初期 仙台市民俗資料館所蔵)



(1) 近代建物跡

1) SB1 近代建物跡(第182図・183図 図版36-4)

S15～16-E54～56グリッドに位置する。1b層上面で検出された50基以上の基礎坑から構成される近代建物跡である。検出した規模は東西に20m、南北に15mである。それぞれの基礎坑は上面形が約0.6～1.2m×0.6～1.2mの方形規格で、深さは40～90cmを測る。内部は、径10～20cmの自然礫と山砂を交互に重ね上げた構造を持つ。最下面の中央には要石となる径30～50cmの自然礫を設置し、その周囲には径10～20cmの自然礫を突きこみ全体の安定を図る工夫が見られる。いずれの基礎坑も建築物の上部構造(上屋構造)を支持するために強固に造成されている。これらの礫中からは、ガラスの小片や、近代の磁器の小片が出土している。また、この基礎坑は約50cmの間隔で設けられており、江戸従来の尺間法と異なる基準が採用されていたと考えられる。このことから当遺構は、明治19年(1886)に板ヶ岡公園地内に建てられた和洋料亭「挹翠館」の跡と考えられる。

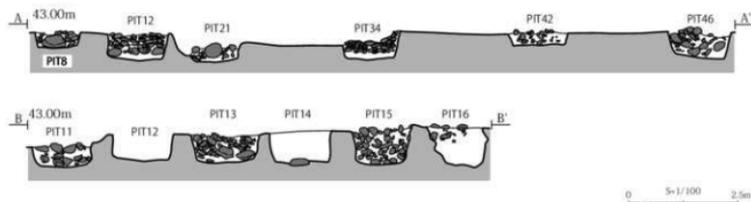
挹翠館について

挹翠館は、明治19年(1886)に針生惣助によって建てられた和洋料亭で、当時、園遊会やビアホールとしても使用されており、明治35年(1902)には板垣退助らによる演説会にも利用された。明治42年(1909年)に仙台市が買収し、仙台市公会堂としたが、昭和20年(1945)戦災により焼失した。



第182図 SB1 近代建物跡平面図

第1節 駅部



第183図 SB1近代建物跡断面図

PIT No	径 (m)	深さ (m)	断面形状	土色
PIT1	1.05	0.24	皿状	10YR2/3 黒褐色
PIT2	1.23	0.26	皿状	10YR2/2 黒褐色
PIT3	1.36	0.28	皿状	10YR3/2 黒褐色
PIT4	1.42	0.26	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT5	1.1	0.41	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT6	1	0.18	皿状	10YR3/2 黒褐色
PIT7	1	0.43	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT8	1.04	0.34	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT9	1.2	0.34	U字部	10YR3/2 黒褐色
PIT10	0.97	0.6	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT11	1.72	0.44	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT12	1.39	0.6	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT13	1.37	0.59	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT14	1.41	0.78	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT15	1.46	0.88	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT16	1.51	0.74	U字部	10YR3/2 黒褐色
PIT17	1.37	0.45	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT18	1.2	0.3	皿状	10YR3/2 黒褐色
PIT19	0.97	0.6	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT20	1.29	0.32	皿状	10YR3/2 黒褐色
PIT21	1.28	0.28	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT22	1.13	0.44	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT23	1.14	0.39	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT24	1.28	0.52	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT25	1.54	0.92	U字部	10YR3/2 黒褐色
PIT26	1.35	0.39	皿状	10YR3/2 黒褐色

PIT No	径 (m)	深さ (m)	断面形状	土色
PIT27	1.22	0.58	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT28	1.13	0.34	皿状	10YR3/2 黒褐色
PIT29	1.63	0.76	U字部	10YR3/2 黒褐色
PIT30	1.15	0.34	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT31	1.37	0.45	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT32	1.26	0.46	皿状	10YR3/2 黒褐色
PIT33	1.47	0.36	皿状	10YR3/2 黒褐色
PIT34	1.34	0.62	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT35	1.23	0.48	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT36	1.33	0.39	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT37	1.39	0.79	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT38	1.88	0.88	U字部	10YR3/2 黒褐色
PIT39	2	0.72	逆行部	10YR3/3 暗褐色
PIT40	1.34	0.62	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT41	1.88	0.92	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT42	1.5	0.45	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT43	1.42	0.26	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT44	1.23	0.49	U字部	10YR3/2 黒褐色
PIT45	1.64	0.8	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT46	1.59	0.6	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT47	1.11	0.24	皿状	10YR3/2 黒褐色
PIT48	1.11	0.42	皿状	10YR3/2 黒褐色
PIT49	1.81	0.63	逆行部	10YR3/2 暗褐色
PIT50	1.97	0.53	逆行部	10YR3/2 黒褐色
PIT51	1.7	0.32	皿状	10YR3/4 暗褐色
PIT52	1.78	0.47	皿状	10YR3/2 黒褐色

第8表 SB1近代建物跡基礎坑観察表



写真16 創業当時の掘塚館（明治19年撮影 戦災復興資料館所蔵）

(2) 溝跡

1) SD1 溝跡(第184図・185図 図版37-1～4)

S16-E60～S17-E60 グリッドに位置する。両端は調査区の外側に伸び、調査区を南北に縦断する石組を有する溝である。溝の中心軸より、やや東側に約160cm間隔で打たれている現代建物の基礎杭により部分的に削平されている。また、南端部側は攪乱により大規模に削平されている。検出長は約17mで主軸方向はN-13°-Wを示す。

石組は上端幅は0.96～1m、下端幅は0.9～0.95mを測る。石組を構築する石材は、片端を平坦に調整した自然礫(長さ20～40cm、幅20～50cm、厚さ20～30cm)で、面を内側に揃え、2段組でほぼ、直線的に乱石積みざれている。底面は、扁平な自然礫(長さ20～40cm、幅20～50cm、厚さ8～15cm)の平坦面を上揃え、底面全体に敷き詰められている。流水の痕跡は見られなかった。

裏込は石組の安定のため、石材を一段積む毎に自然礫(長さ5～15cm、幅5～10cm、厚さ3～10cm)を詰め込んである。

掘り方は上端幅は1.9～2.0m、下端幅は1.8～1.9m、深さは0.48～0.55mを測り、南側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は近代のガラス片、レンガ片や、鉄屑などを含む黒色シルトの単層である。

遺物は、17世紀～19世紀代の肥前・瀬戸・美濃産の磁器、17世紀代の志野産、大堀相馬産、堤産の陶器が出土し、この内13点を図示した。



写真17 SD1 溝跡検出状況(北から)

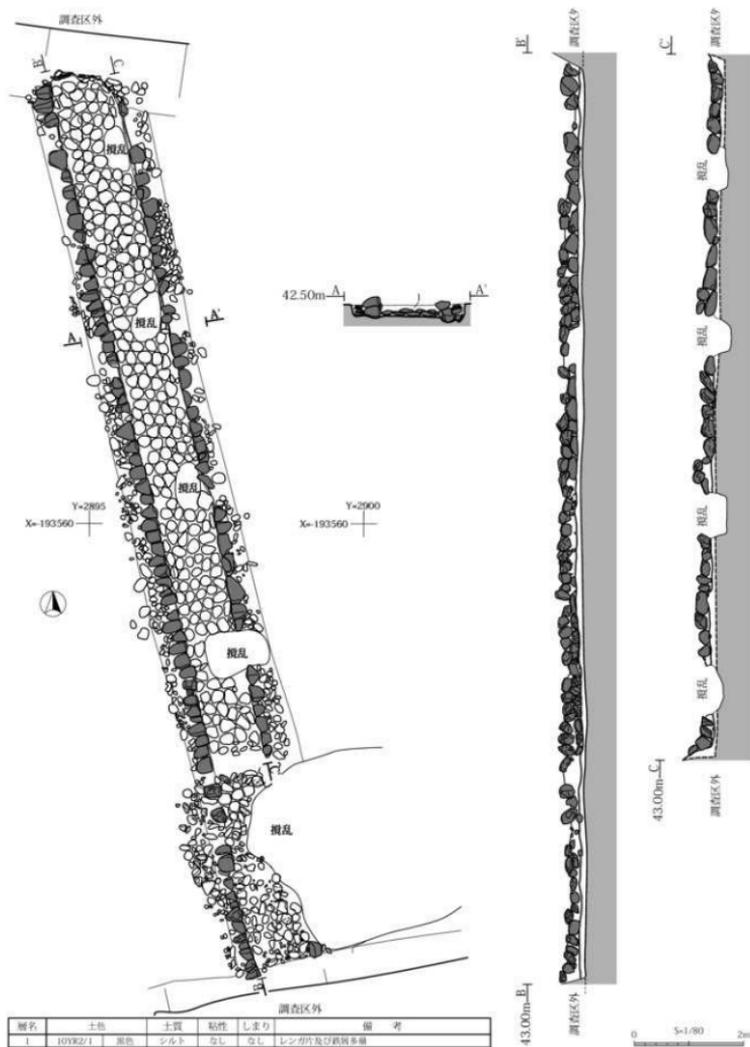


写真18 SD1 溝跡検出状況(南東から)

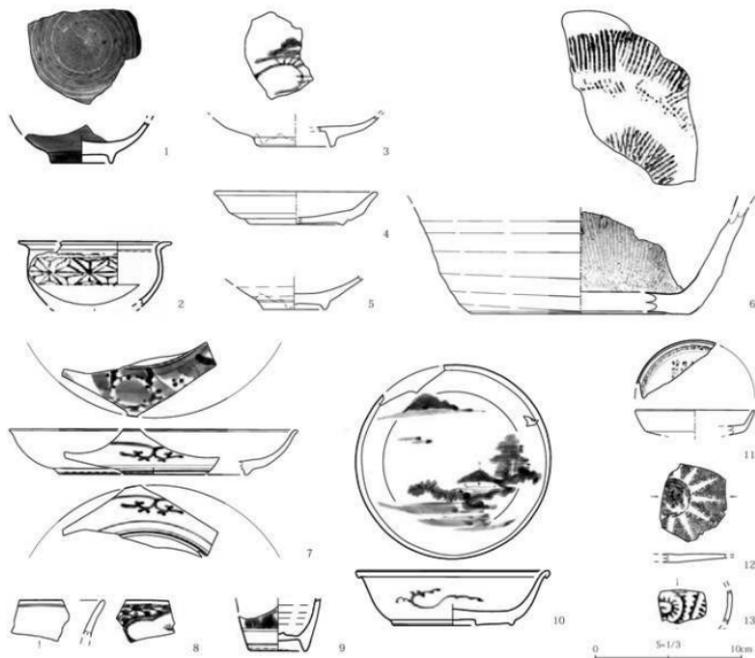


写真19 SD1 溝跡検出状況(南東から)

第1節 駅部



第184図 SD1 溝跡平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	方位	種別	器種	部位	取土	法量 (cm)			高地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	106-7	1層	陶器	甕	体部~底部	南	9.1	4.3	2.7	肥前	17世紀	刷毛目文	J178
2	106-10	1層	磁器	火入れ	口縁~体部	南	10.5	6.1	5.1	肥前	18世紀後半		J186
3	106-8	1層	陶器	皿	体部~底部	南	11.2	5.4	2.3	大塚相馬	19世紀前半	踏絵 靴	J179
4	106-6	1層	陶器	皿	口縁~底部	南	11.2	6.5	2.3	志野	17世紀後半		J180
5	106-9	1層	磁器	皿	体部~底部	南	9.3	4.5	2.3	肥前	18世紀前半	蛇の目軸差	J187
6	106-5	1層	陶器	鉢鉢	体部~底部	南	22.8	15	7.1	埴	19世紀前半		J181
7	106-11	1層	磁器	皿	口縁~底部	南	19.7	12.8	3.1	肥前	18世紀後半~19世紀前半	梁付付 外面「草文」内面「草花文」	J188
8	106-12	1層	磁器	皿	口縁部	南	-	-	2.5	肥前	18世紀後半~19世紀前半	染付付 波文	J189
9	107-2	1層	磁器	鉢	体部~底部	南	5.8	3.8	3.7	肥前	18世紀後半	染付付 草花文	J190
10	107-1	1層	磁器	鉢	口縁~底部	南	13.4	8.2	3.8	肥前	18世紀後半~19世紀前半	染付付 外面「草文」内面「山水文」東屋 滝山	J191
11	107-3	1層	磁器	小皿	口縁部	南	8	-	2	肥前	19世紀以後	口縁部に雷文 柱込に文字	J192
12	106-13	1層	磁器	皿	鉢部	南	-	-	4.4	瀬戸・美濃	19世紀以後	染付付 雲龍柄	J193
13	106-14	1層	磁器	徳利?	体部	南	-	-	2.4	肥前	18世紀後半	染付付 蜻蛉草	J194

第185図 SD1 溝跡出土遺物

第1節 駅部

2) SD2 溝跡(第186図・187図 図版37-5・38-1)

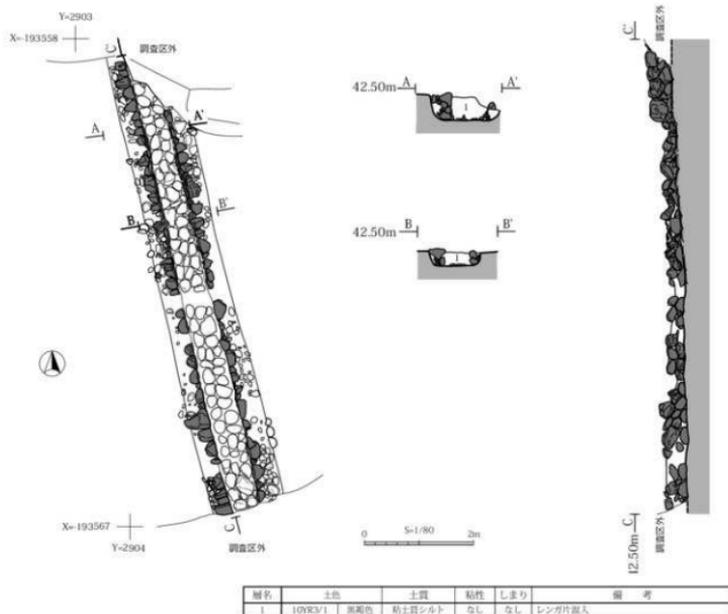
S16-E61～S17-E61 グリッドに位置する。SD1 から約8m 側を並走し、両端は調査区の外側に伸び、調査区を南北に縦断する石組を有する溝である。検出長は8m で主軸方向はN-13°-Wを示す。

石組は上端幅は48～55cm、下端幅は45～50cmを測る。石組を構築する石材は、片端を平坦に調整した自然礫(長さ20～30cm、幅20～30cm、厚さ20～25cm)で、面を内側に揃え、3段組でほぼ、直線的に乱石積みされている。なお、3段目の石組は大部分が削平され、両端側のみ残存する。底面は、扁平な自然礫(長さ20～40cm、幅20～35cm、厚さ8～15cm)の平坦面を上揃え、底面全体に敷き詰められている。

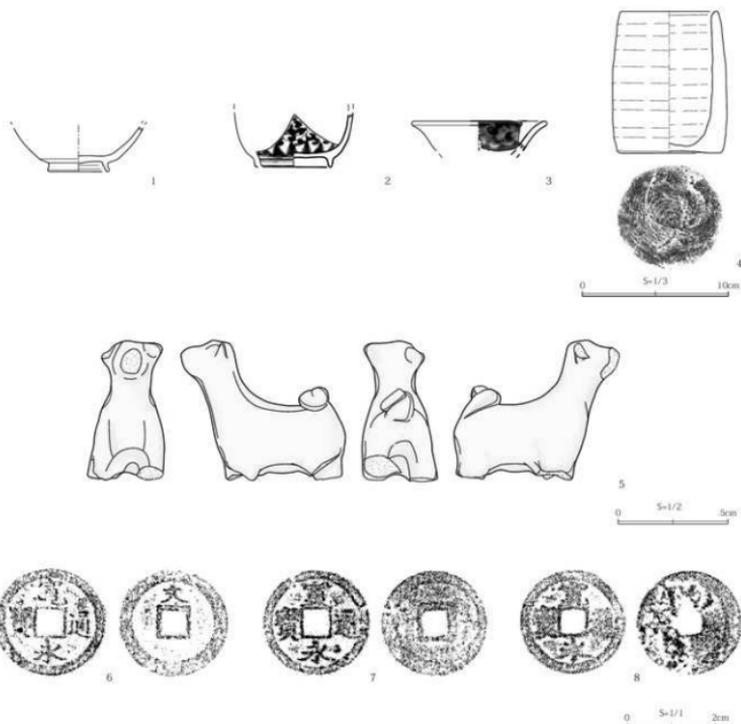
裏込は石組の安定のため、石材を一段積む毎に自然礫(長さ5～15cm、幅5～10cm、厚さ3～10cm)を詰め込んでいる。

掘り方は上端幅は1.28～1.44m、下端幅は0.8～0.96m、深さは0.48～0.64mを測り、南側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は近代のガラス片、レンガ片や、鉄屑などを含む黒色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、17世紀～18世紀代の肥前産の磁器、17世紀代の土師質土器、在地産の瓦質土器、19世紀代の土製品、古銭が出土し、この内8点を図示した。



第186図 SD2 溝跡平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	107-6	1層	陶器	甕	体部～底部	赤	8.7	4.2	3.3	肥前	18世紀後半		J-182
2	107-8	1層	磁器	甕	体部～底部	赤	8.1	5.3	3.7	肥前	17世紀後半～18世紀前半	染付 唐草文 蓮弁文	J-195
3	107-7	1層	磁器	小鉢	口縁～体部	赤	9.3	5.8	2.1	肥前	18世紀後半		J-196
4	107-9	1層	土師器 土器	焼塀	口縁～底部	赤	6.7	7	9.8	在野	17世紀		J274
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号					
				長さ	幅	厚さ							
5	108-1	1層	土製品	7.5	6.5	3.5	土人形 犬	P-12					
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号				
					外径	穿径	重さ						
6	132-8	1層	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.8		N-60				
7	131-12	1層	寛永通宝	1636	2.35	0.8	2.8		N-61				
8	130-3	1層	寛永通宝	1636	2.38	0.78	2.75		N-62				

第187図 SD2 溝跡出土遺物

第1節 駅部

3) SD15 溝跡 (第188図・189図 図版38-2・39-2)

S15-E62～S16-E64 グリッドに位置する。両端は調査区の外側に伸び、調査区を東西に縦断する石組を有する溝である。中央部、西端部、および北辺の石組が裏込石のみを残し、攪乱に削平されている。検出長は12.5mで、主軸方向はN-77°-Wを示す。

石組は北辺の石材が失われているために、石組の上端幅、下端幅は不明である。なお、石組を構築する石材はいずれも平坦な面を内側に揃えて配置され、以下の3種類に分類できる。

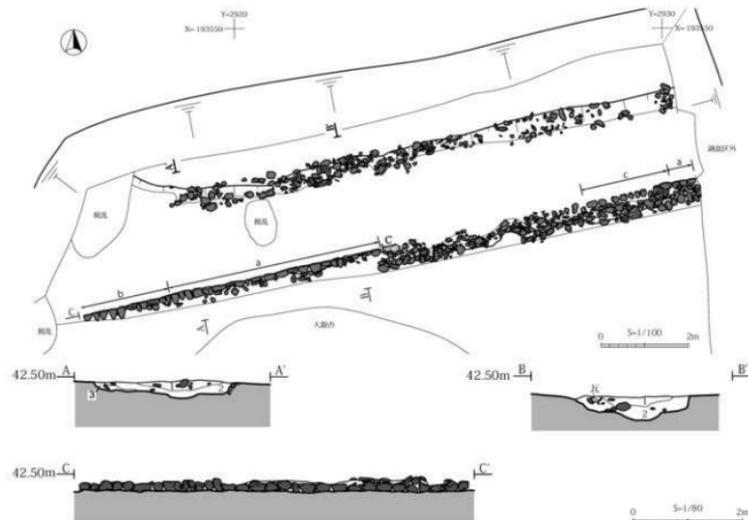
a) 「自然礫の片端部を平坦に打ち欠いたもの」	長さ15～24cm、幅20～30cm、厚さ15～31cm
b) 「割製石」	小径丸長15～30cm、小径横15～20cm、小径縦15～20cm
c) 「加工痕跡のない自然礫」	長さ10～13cm、幅15～30cm、厚さ10～20cm

第9表 SD15 溝跡石材分類表

裏込は石組の安定のため、石材を一段積む毎に自然礫(長さ5～15cm、幅5～10cm、厚さ3～10cm)を詰め込んでいる。

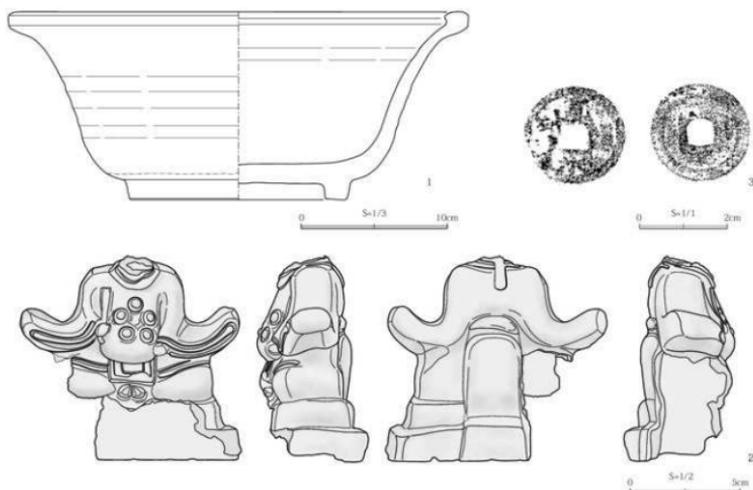
掘り方は上端幅は2.8～3.2m、下端幅は2.6～2.8m、深さは0.4cmを測る。底面はやや、起伏をもつ。堆積土は砂質シルトの3層からなる。

遺物は2層中より19世紀代の大塚相馬産、在地産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、土製品、金属製品、古銭が出土し、この内3点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	2.5Y3/3	灰オリーブ褐色	砂質シルト	なし	なし	径1～2cmの礫混入、縦張した裏込め・右側の礫を含む
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	径2～30cmの礫多量、径1～5cmの炭化物ブロック少量、縦張した裏込め・右側の礫を含む
3	10YR4/3	濃い黄褐色	砂質シルト	なし	なし	炭化物粒少量、縦張した裏込め・右側の礫を含む

第188図 SD15 溝跡平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 cm ³			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	108-2	2	陶器	鉢	口縁-底部	甬	31.4	14.9	13.1	在処?	19世紀以後		I-183
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 cm ³			備考	登録番号					
				長さ	幅	厚さ							
2	108-4	2	土製品	4.5	10	9.5	土人形 天神	P-13					
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号				
					外径	穿径	重量						
3	130-1	1	寛永通宝	1636	2.38	0.8	2.75	N-63					

第189図 SD15 溝跡出土遺物



写真 20 SD15・16 溝跡検出状況(北から)

第1節 駅部

4) SD16 溝跡 (第190図 図版39-1・2)

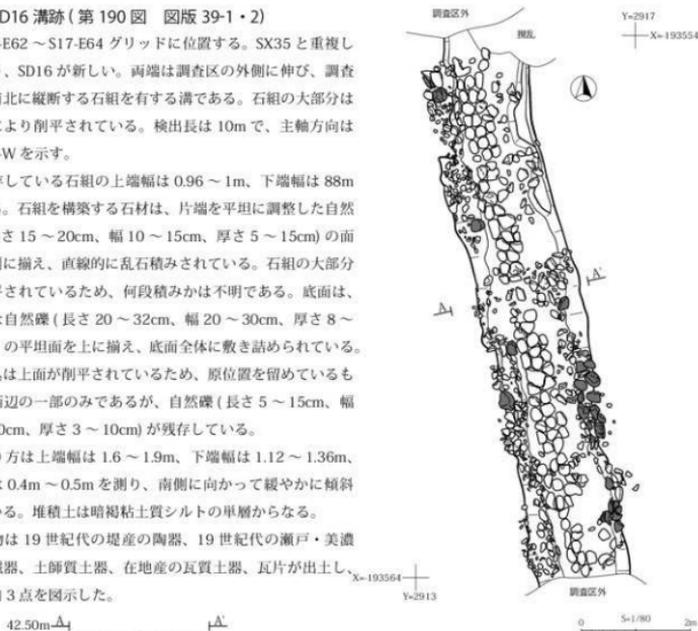
S16-E62～S17-E64 グリッドに位置する。SX35と重複しており、SD16が新しい。両端は調査区の外側に伸び、調査区を南北に縦断する石組を有する溝である。石組の大部分は攪乱により削平されている。検出長は10mで、主軸方向はN-13°-Wを示す。

残存している石組の上端幅は0.96～1m、下端幅は88cmを測る。石組を構築する石材は、片端を平坦に調整した自然礫(長さ15～20cm、幅10～15cm、厚さ5～15cm)の面を内側に揃え、直線的に乱石積みされている。石組の大部分が削平されているため、何段積みかは不明である。底面は、扁平な自然礫(長さ20～32cm、幅20～30cm、厚さ8～15cm)の平坦面を上揃え、底面全体に敷き詰められている。

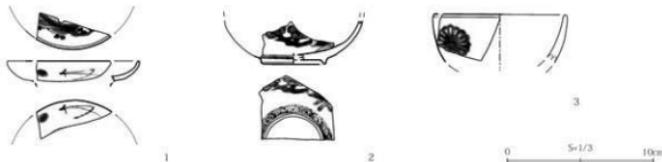
裏返は上面が削平されているため、原位置を留めているものは西辺の一部のみであるが、自然礫(長さ5～15cm、幅5～10cm、厚さ3～10cm)が残存している。

掘り方は上端幅は1.6～1.9m、下端幅は1.12～1.36m、深さは0.4m～0.5mを測り、南側に向かって緩やかに傾斜している。堆積土は暗褐粘土質シルトの単層からなる。

遺物は19世紀代の埴産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内3点を図示した。



種名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	10YR5/4	暗褐色	粘土質シルト	なし	なし	灰生土粒・径5～30μmの塵多量。経土(崩壊した裏込め・石組含む類)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号	
						口径	底径	器高					
1	109-7	1層	磁器	小皿	口縁-体部	南	9.1	-	1.6	肥前	18世紀前半	染付け	J-197
2	109-6	1層	磁器	皿	体部-底部	南	9.4	4.4	3	肥前	18世紀前半	染付け 菊文	J-198
3	109-5	1層	磁器	皿	口縁-体部	南	9.1	7.3	3.4	肥前	18世紀前半	染付け 菊文	J-199

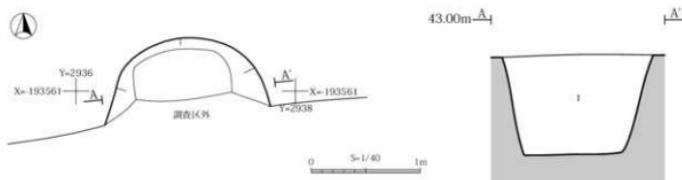
第190図 SD16 溝跡平面図・断面図・出土遺物

(3) 土坑

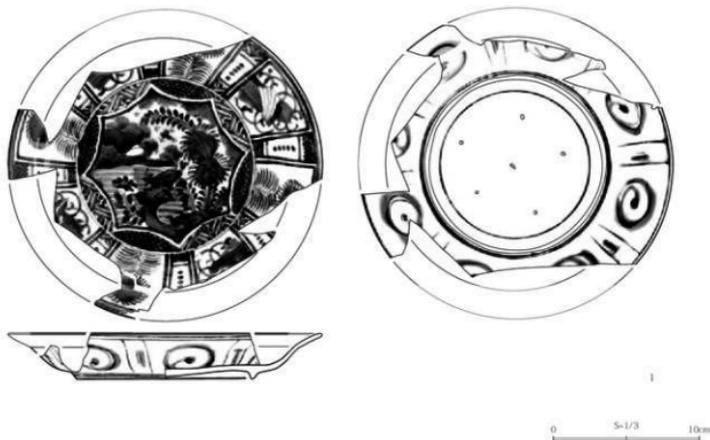
1) SK74 土坑 (第 191 図・192 図 図版 40-1・2)

S17-E64 グリッドに位置する。SX51 と重複しており、SK74 が新しい。南側が調査区の外に広がる。規模は、長軸 1.5m、短軸 57cm、深さ 1m を測る。平面形は長軸方向 N-83°E を示す楕円形で、断面形は逆台形である。底面は平坦をなし、堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は 19 世紀代の大堀相馬産の陶器、17～18 世紀代の肥前産の磁器、19 世紀代の瀬戸・美濃産、切込産の磁器、瓦片、土師質土器が出土し、この内 6 点を図示した。

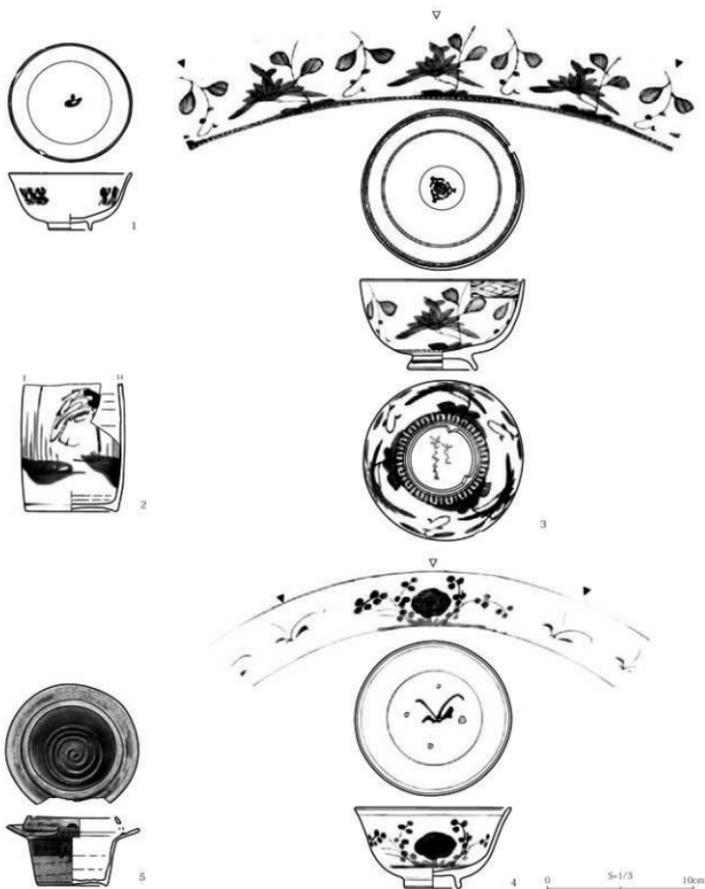


編号	土物	土質	粘性	しまり	備考
1	10183/3	卵形角	砂質シルト	なし	なし



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	109-1	1層	磁器	皿	口縁~底面	陶	21.6	12.2	3.2	肥前	17世紀後半	芙蓉半草花織文 高台内(1/3)前後(器底)	J200

第 191 図 SK74 土坑平面図・断面図・出土遺物 (1)



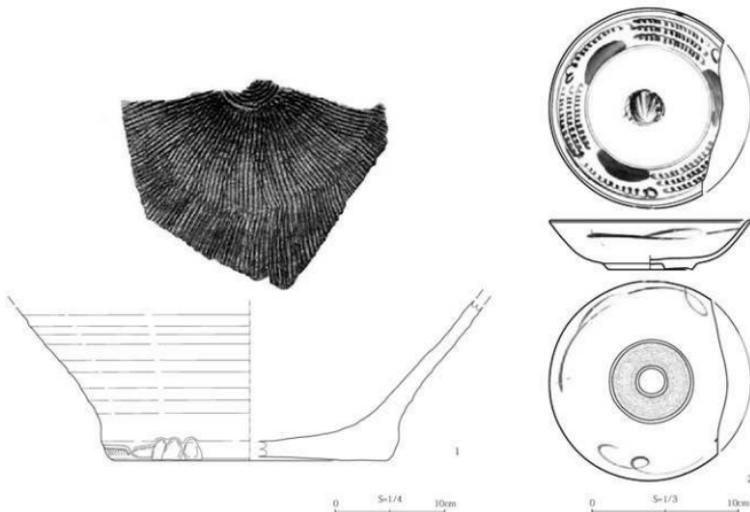
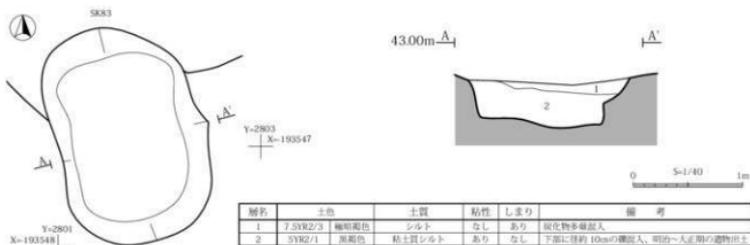
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	土質	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	109-6	1層	碗形	碗反碗	口縁~底部	赤	8.3	3	4	瀬戸・美濃	19世紀	源氏香文・口縁有字	J-201
2	109-4	1層	碗形	楕円碗	体部~底部	赤	6.8	6.3	8.0	肥前	18世紀前半	染付付 風船文	J-202
3	109-3	1層	碗形	碗	口縁~底部	赤	11.3	4.6	6.3	肥後	19世紀以後	染付付 外面)草花文 蓮草 内面)口縁部に四方棒文 見込)三弁花 輪縁飾あり	J-203
4	109-2	1層	碗形	碗	口縁~底部	赤	10.7	3.8	5.7	肥後	19世紀前半	染付付 外面)草花文 内面)見込)雲雀文	J-204
5	109-5	1層	碗形	油受皿	口縁~底部	赤	6.1	4.7	4.8	肥後	19世紀前半	鉄輪染付流し	I-184

第192図 SK74土坑出土遺物(2)

2) SK80 土坑 (第193図 図版40-3・4)

S15-E51 グリッドに位置する。SK81、SK83 と重複しており、SK80 が新しい。規模は、長軸 2.2m、短軸 2.2m、深さ 41cm を測る。平面形は長軸方向 N-16°-W を示す楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は極暗褐色シルト、黒褐色粘土質シルトの 2 層からなる。

遺物は 2 層より 19 世紀代の堤産の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片が出土し、この内 2 点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			発地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	130-1	1層	陶器	皿鉢	底	密	41.6	12.6	17.5	堤	19世紀前半	真粘	I-185
2	130-2	1層	磁器	皿	口縁-底部	密	14	5.8	3.4	瀬戸・美濃	19世紀以降	洋風画による染付け 内面)みじみ唐草 見込に唐蓮文 外面)翠文	J205

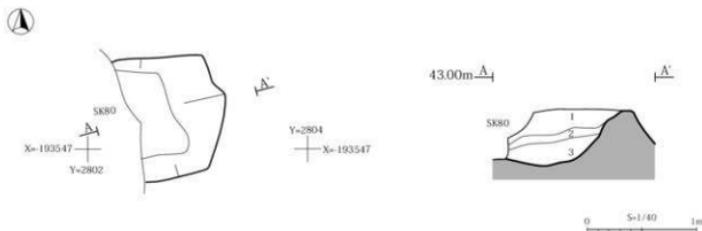
第193図 SK80 土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

3) SK81 土坑 (第194図 図版40-5)

S15-E51 グリッドに位置する。SK80と重複しており、SK81が古い。規模は、長軸1.16m、短軸0.84m、深さ50cmを測る。平面形は大半が削平されており不明である。底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土はシルト、粘土質シルトの3層からなる。

遺物は3層より19世紀代の埴産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

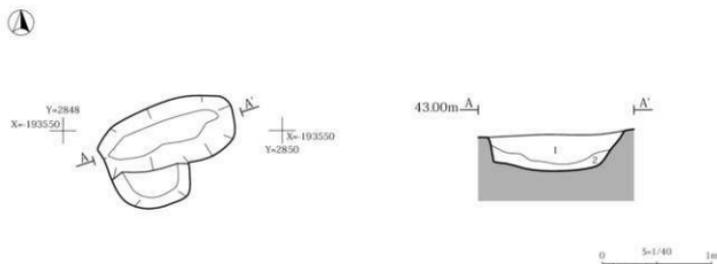


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	J0YR3/2	黒褐色	シルト	ややあり	なし	径約5cmの礫少量混入、炭化物少量混入
2	7.5YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	炭化物少量混入
3	5R3/1	暗赤褐色	シルト	ややあり	なし	径5~10cmの礫多量

第194図 SK81 土坑平面図・断面図

4) SK82 土坑 (第195図 図版41-1)

S15-E55～S16-E55 グリッドに位置する。規模は、長軸1.27m、短軸88cm、深さ34cmを測る。平面形は長軸方向N-70°Eを示すが、不整形で、南西側に0.35mほど張り出した部分がある。この箇所は検出面より深さ15cmほどの位置で底面幅56cm、奥行き24cmを測りテラス状を呈する。底面は弧状に緩やかに内湾し、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの2層からなる。遺物は出土していない。



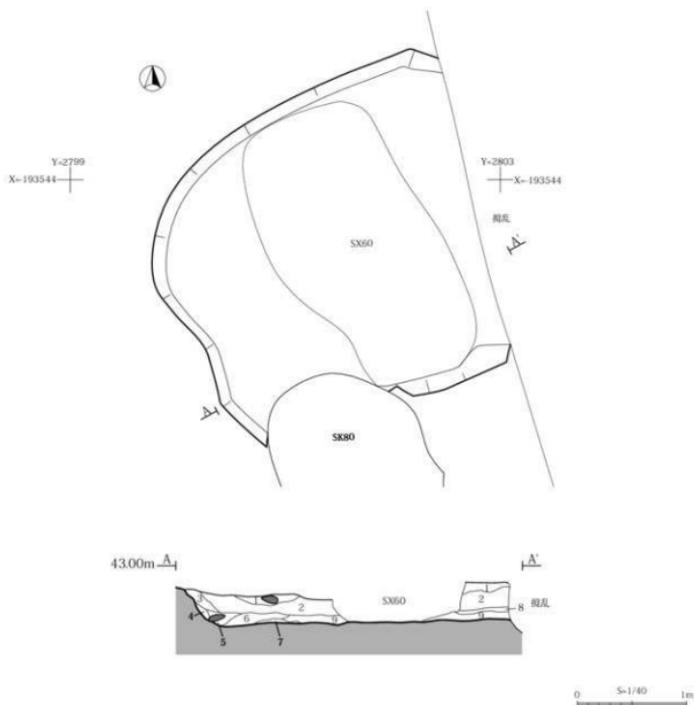
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	7.5YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	径約5cmの礫少量混入、炭化物少量混入
2	7.5YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	炭化物少量混入

第195図 SK82 土坑平面図・断面図

5) SK83 土坑 (第 196 図 図版 41-2)

S15-E51 グリッドに位置する。SK80、SX60 と重複しており、SK83 が古い。東側を植栽により削平される。規模は、長軸 3.12m、短軸 3.06m、深さ 33cm を測る。平面形は主軸方向 N-15°-W を示す隅丸方形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は砂質シルトの 9 層からなる。

遺物は 2 層より 19 世紀代の埴産の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	7.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	5YR/3(灰黄)粘土粒少
2	10YR2/1	黒色	砂質シルト	あり	あり	炭化物多量
3	7.5YR2/2	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	炭化物多量
4	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	
5	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径 5 ~ 10cm の礫多量
6	7.5YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	
7	7.5YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径 1 ~ 3cm の礫多量
8	7.5YR2/2	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	炭化物粒人少
9	7.5YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	炭化物少、5YR/3(灰黄)粘土粒少

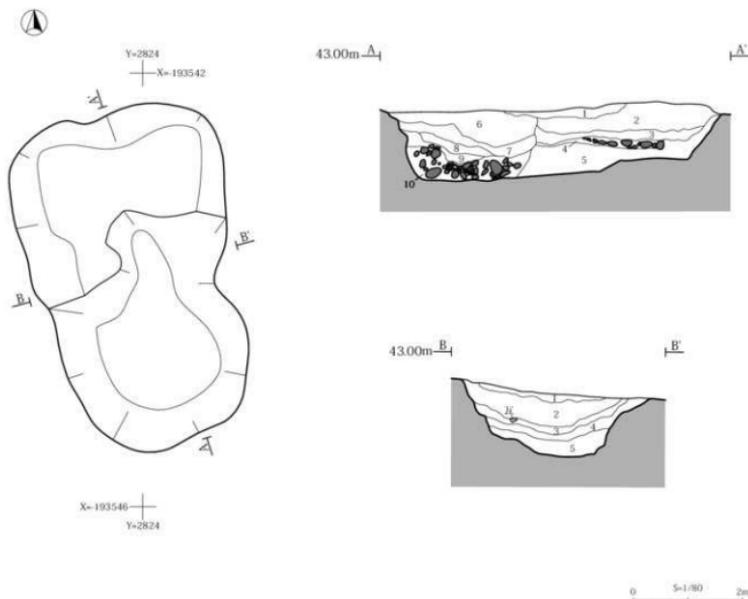
第 196 図 SK83 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

6) SK84 土坑 (第 197 図 図版 41-3・4)

S15-E53 グリッドに位置する。規模は、長軸 6.34m、短軸 3.97m、深さ 64cm を測る。平面形は主軸方向は N-15°-W を示す不整形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。北側の深さ 44cm のところに、底面幅 1.44m、奥行き 0.6 ~ 1.36m の不整形のテラス状を呈する場所を確認した。堆積土は粘土質シルトを主とする 10 層からなる。4 層・10 層より長さ 20 ~ 25cm、幅 10 ~ 20cm、厚さ 3 ~ 10cm の自然礫が多量に出土した。

遺物はガラス片、性格不明の金属小片、19 世紀前代の産地不明の陶磁器と瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	SPR3/1	暗青灰色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 1mm 以下のローム粒子を多量に含む。径約 1cm の硬化ブロック少量
2	SPR3/1	暗青灰色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 1mm 以下の礫粒。径約 5cm の礫多量
3	10R2/3	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 1mm 以下の礫粒。ロームブロック多量。径 1 ~ 5cm の礫多量
4	10R2/3	黒褐色	粘土質シルト	なし	なし	粘土質シルト径 1 ~ 3cm の礫を多量に含む
5	10R2/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	あり	径約 1cm のロームブロックを少量。径約 1mm のローム粒子を多量に含む
6	7.5V2/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	あり	径約 5mm の焼土ブロックを少量。径 5 ~ 10cm の礫を少量含む
7	10R2/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	あり	径約 5cm の焼土ブロックを多量に含む
8	10R1/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 5 ~ 1cm の焼土ブロックを多量に含む(焼土の分布多い)
9	10R2/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 1mm 以下のローム粒子。径 1 ~ 3cm の礫少数
10	10R2/2	黒褐色	粘土質シルト	なし	なし	粘土質シルトに幅 10 ~ 20cm、長さ 20 ~ 25cm、厚さ 3 ~ 5cm の扁平な礫と、5 ~ 10cm の小礫を多量に含む

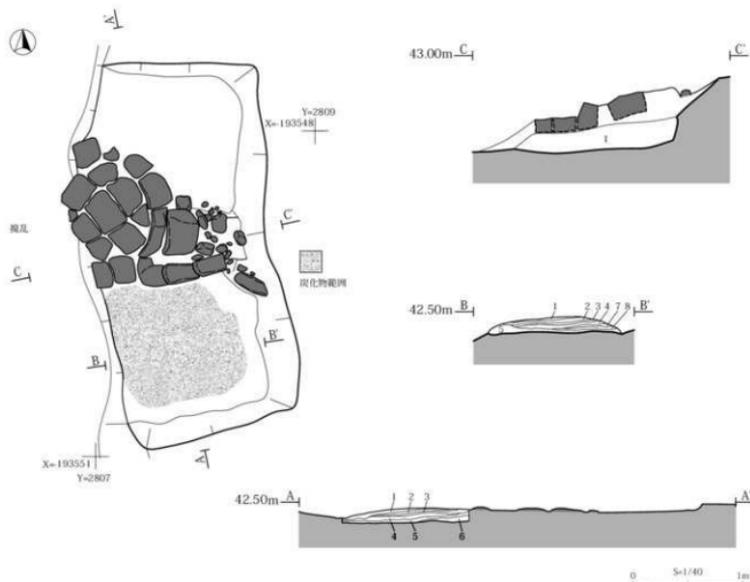
第 197 図 SK84 土坑平面図・断面図・出土遺物

(4) 性格不明遺構

1) SX53 性格不明遺構 (第198図 図版41-5・42-1・2)

S15-E51～S16-E51グリッドに位置する。遺構上部と西側を擾乱により削平されている。規模は、長軸3.58m、短軸2.04m、深さ10～16cmを測る。平面形は方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。また、遺構中央に石組、南側には炭化物を多量に含んだ堆積土が見られる。

石組は各面を扁平に加工した石材(長さ10～15cm、幅20～24cm、厚さ12～15cm)で構築されている。扁平により上部構造、全体像は不明な部分が多いが、残存している石組は、石材の面を上に乗せて平坦に敷き詰められている。なお、配置された石には1～3cm程度の隙間が見られる。石材はいずれも被熱しており赤色化している箇所も見られ、脆くなっている。堆積土は粘土質シルト層と炭化物を含む粘土質シルトが交互に積層状にみられる。遺物は出土しなかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
1	N-2	黒色	粘土質シルト	なし	中々あり	焼土層被覆層入
2	10YR8/1	灰白色	粘土質シルト	中々あり	なし	径1mm以下の浮遊片・焼土片・炭化物層被覆層入
3	10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	なし	中々あり	焼土層被覆層入
4	10YR8/1	灰白色	粘土質シルト	中々あり	なし	径1mm以下の浮遊片・焼土片・炭化物層被覆層入
5	10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	中々あり	中々あり	焼土層被覆層入
6	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	中々あり	中々あり	焼土層被覆層入
7	10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	中々あり	中々あり	焼土層被覆層入
8	10YR8/1	灰白色	粘土質シルト	あり	なし	径1mm以下の浮遊片・焼土片・炭化物層被覆層入

第198図 SX53 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部

2) SX54 性格不明遺構(第199～200図 図版42-3～5)

S14-E51 グリッドに位置する。レンガと自然礫を組み合わせたカマドを4基持つ。規模は、長軸4.65m、短軸2.52m、深さ60～68cmを測る。平面形は長軸方向N-77°Eを示す剛丸長方形である。カマドは4基で、袖は5本を備え、南辺に配置される。いずれのカマドも燃焼効率を高めるために15～20cmほど、南側に向かって、レンズ状になだらかに掘られている。また、各カマドは奥壁面、底面ともに長期間の被熱により赤色化し、脆くなっている。各袖はレンガ(長さ21cm、幅10.1cm、厚さ5.1cm)、自然礫(長さ15～40cm、幅10～30cm、厚さ15～25cm)、加工された自然礫(長さ20～45cm、幅10～30cm厚さ15～25cm)を組み合わせ、隙間に白色粘土を充填し強固に築造されている。東西両端の2基のカマドは、平面形がアーチ状になるように作られている。北側範囲(4.65×2.3m)には、カマドから掻き出したと考えられる炭化物が3～5cmの厚さで堆積している。

遺物は産地不明の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示しなかった。

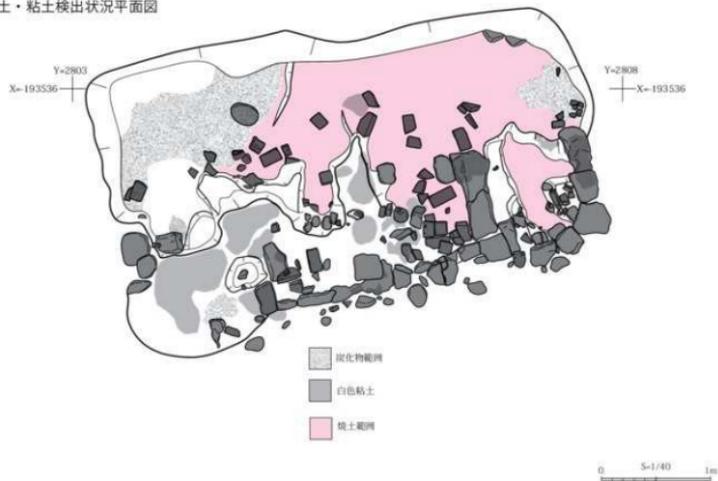


写真21 SX54 性格不明遺構東側検出状況(東から)

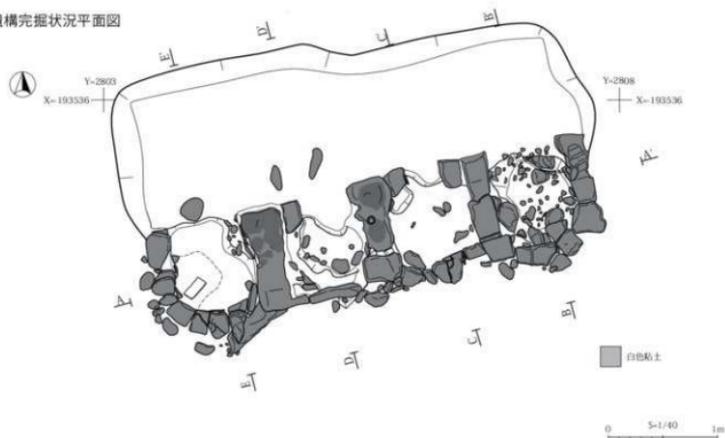


写真22 SX54 性格不明遺構検出状況(北から)

焼土・粘土検出状況平面図

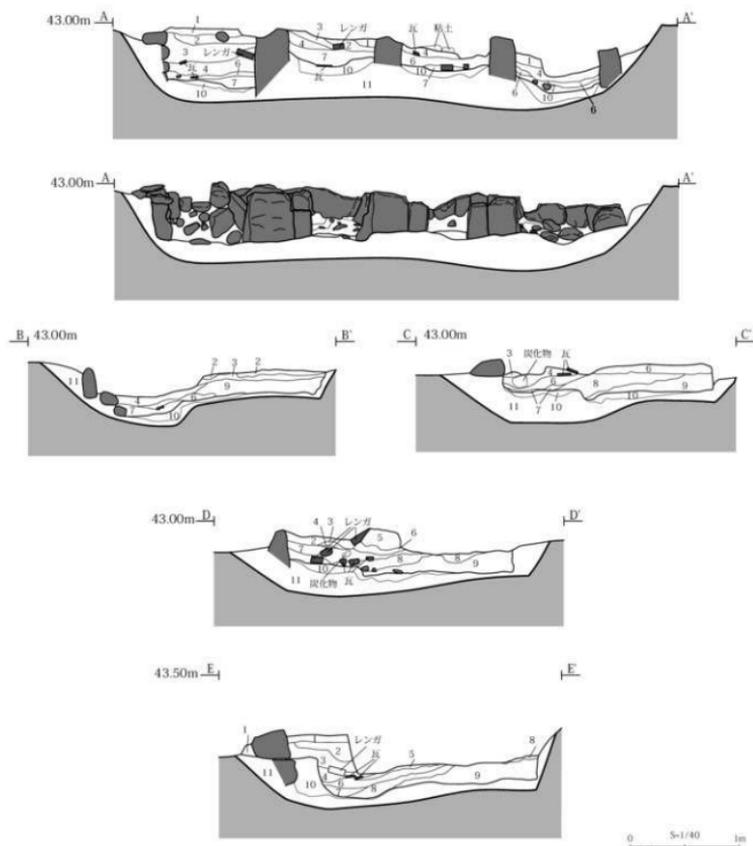


遺構完掘状況平面図



第199図 SX54 性格不明遺構平面図

第1節 駅部



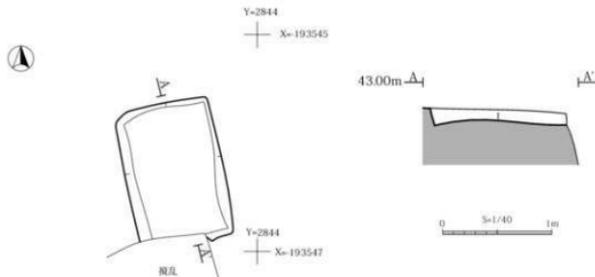
層名	土色	土質	粘性	しまり	備 考
1	2.5Y3/4	黄褐色 粘土質シルト	ややあり	あり	粘土(SY)層と炭化物層(砂)多量
2	5Y8/8	褐色 粘土	なし	あり	粘土層が固まったもの
3	2.5Y3/4	黄褐色 粘土質シルト	ややあり	あり	炭化物層を覆うように存置
4	N-2	黒色 炭化物層	なし	なし	明治期の遺物少量
5	10Y8/2	黄褐色 砂質シルト	ややあり	あり	
6	10Y8/4	褐色 砂質シルト	なし	あり	
7	2.5Y3/4	黄褐色 粘土質シルト	ややあり	あり	炭化物少量
8	5Y7/4	黄褐色 砂質シルト	なし	なし	係り～20cmの薄多量
9	N-2	黒色 炭化物層	なし	なし	粘土多量
10	2.5Y3/4	黄褐色 粘土質シルト	ややあり	あり	粘土多量
11	N-2	黒色 炭化物層	なし	なし	粘土質シルト多量

第 200 図 SX54 性格不明遺構断面図

3) SX58 性格不明遺構(第201図 図版43-1・2)

S15-E55 グリッドに位置する。南側を掘乱により削平されている。規模は、長軸 1.33m、短軸 90cm、深さ 15cm を測る。平面形は主軸方向 N-12°-W を示す方形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は産地不明の陶磁器と瓦の小片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	S12/2	オリーブ褐色	砂質シルト	あり	径1-5mmの炭分子を多数、径約5mmの焼土粒子・径約1cmの焼土ブロックを少量

第201図 SX58 性格不明遺構平面図・断面図

4) SX60 性格不明遺構(第202図 図版43-3・4)

S15-E51 グリッドに位置する。南側を掘乱で削平されている。SK83と重複しており、SX60が新しい。規模は、長軸 1.33m、短軸 90cm、深さ 15cm を測る。平面形は主軸方向 N-12°-W を示す隅丸長方形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層からなる。

遺物は 19 世紀代の堤産の陶器と瓦片が出土しているが細片のため、図示し得なかった。



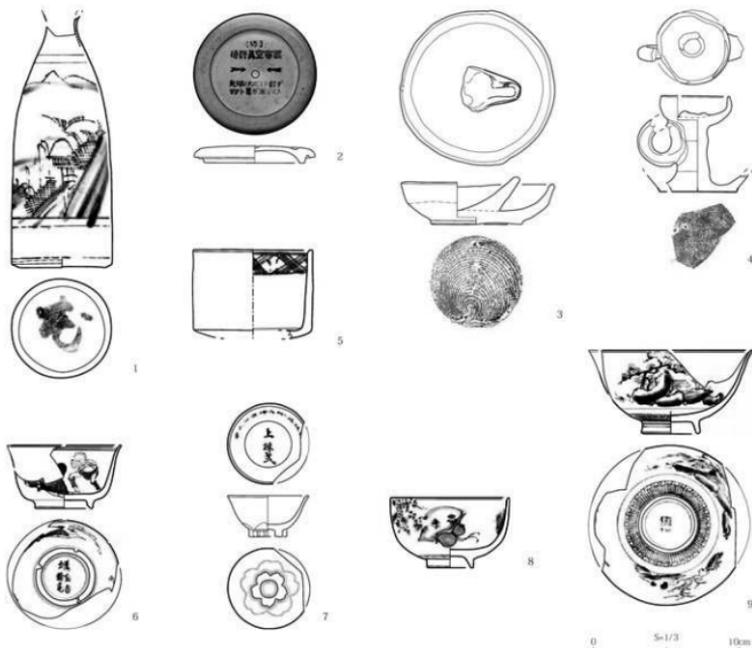
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	T.35R2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	径10-20mmの焼土と磁器、瓦の碎片が少量

第202図 SX60 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部

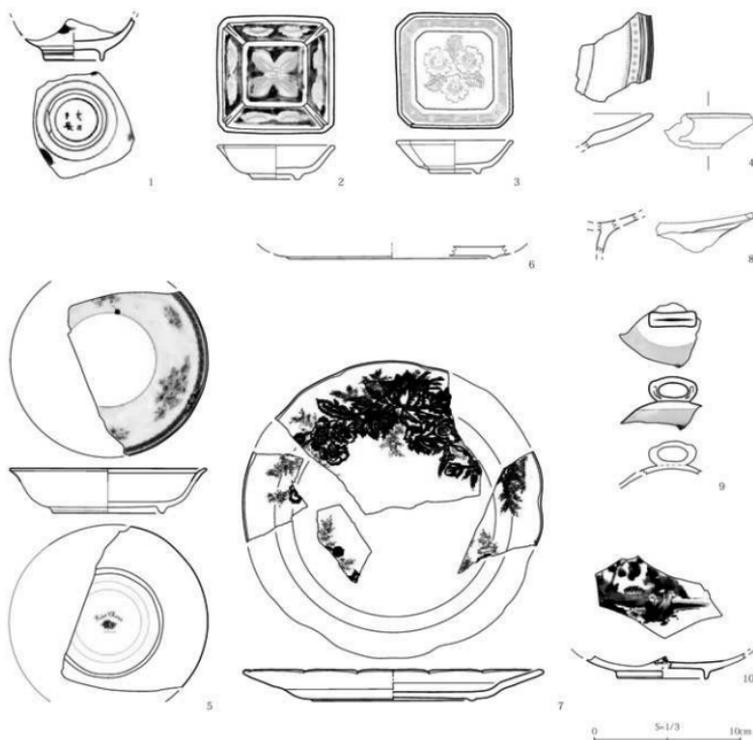
(5) 1層遺構外出土遺物(第203～第209図)

1層遺構外での出土遺物は、種別内訳で、陶器片1787点、磁器片3661点、土師質土器350点、瓦質土器168点、石製品15点、土製品6点、その他60点、瓦片2240点、金属製品(古銭含む)91点となり、総数で8378点を数える。ここでは、図化可能な49点を抽出し図示した。



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	出土	法量 (mm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	111-1	S16-E50	陶器	楕円	胴部～底部	甍	2	6.7	17.0	大塚相馬	18世紀前半～19世紀前半	色絵付け 山水文 菊屋 桃屋 竹屋 通山	J-186
2	110-6	S16-E50	陶器	蓋	「縁」～底部	甍	8.4	7.8	1.2	在野	20世紀以後	「鳥」動物図典空図録 矢野ノケボミ字野ヅツケト器有(シマ)	J-187
3	111-4	S16-E50	陶器	有明皿	「縁」～底部	甍	10.5	5.2	3	在野	19世紀前半		J-188
4	111-5	S17-E50	陶器	茶碗	「縁」～底部	甍	4.7	5.4	6.7	野	19世紀後半	鉄軸	J-189
5	114-1	S16-E50	陶器	碗	「縁」～底部	甍	8.2	-	16.3	肥前	18世紀後半	青磁軸	J-190
6	111-8	S16-E50	磁器	小杯	「縁」～底部	甍	7.2	4	4.4	瀬戸・美濃	19世紀以後	染付け 動物転写 宝物 鬼 高台内「唐洞」口通	J-206
7	112-3	S16-E50	磁器	小杯	「縁」～底部	甍	5.5	2.5	2.8	瀬戸・美濃	19世紀以後	染付け 「桜」四人神官御座置」「上様式」高台は磁器	J-207
8	111-9	S16-E50	磁器	碗	「縁」～底部	甍	3.2	3.2	4.0	瀬戸・美濃	20世紀以後	染付け 動物転写 鳥「出茅」 鷹草 楓 葉 丹	J-208
9	111-7	S16-E50	磁器	碗	「縁」～底部	甍	11.3	4	5.8	瀬戸・美濃	20世紀以後	染付け 動物転写 山水 東屋 蓮弁	J-209

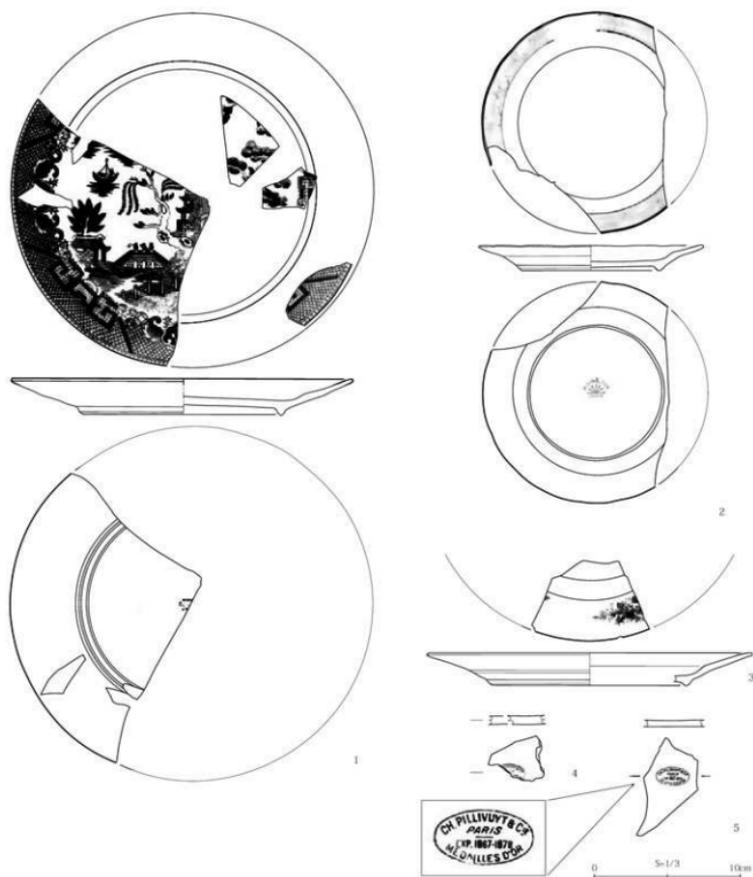
第203図 1層遺構外出土遺物(1)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	取土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	114-4	S16-E59	磁器	碗	体部～ 底部	密	-	4.1	2.0	肥前	18 徳政後半	染付け 高台内に「大明年製」	J210
2	112-2	S16-E59	磁器	小皿	口縁～ 底部	密	8.2	3.3	2.3	肥前	18 徳政後半～ 19 徳政前半	型押し 牡丹?	J211
3	112-1	S16-E59	磁器	小皿	口縁～ 底部	密	8.2	3.7	2.3	肥前	19 徳政前半	型押し 雲文 桜	J212
4	114-6	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 体部	密	-	-	12.4	海外	19 徳政以後	洋食器	J213
5	114-7	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	13.5	7.6	3.1	海外	19 徳政以後	洋食器	J214
6	115-2	S16-E59	磁器	皿	体部～ 底部	密	-	14.1	0.8	海外	19 徳政以後	洋食器	J215
7	115-3	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	20.0	(11)	2.2	海外	19 徳政以後	刺繍転写 植物 洋食器	J216
8	115-1	S16-E59	磁器	7	体部	密	-	-	2.5	海外	19 徳政以後	洋食器	J217
9	115-4	S16-E59	磁器	蓋	上部	密	-	-	3.6	海外	19 徳政以後	洋食器 取手	J218
10	114-5	S16-E59	磁器	皿	体部～ 底部	密	-	6.2	11.5	肥前	19 徳政以後	染付け 龍雲文	J219

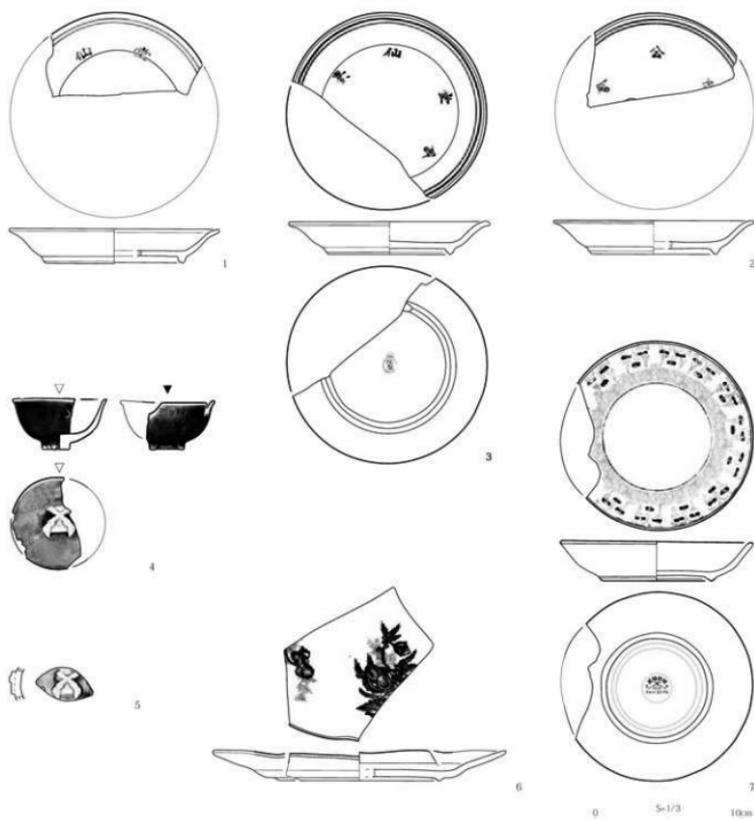
第204図 1層遺構外出土遺物(2)

第1節 駅部



図録 番号	写真図録 番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	寸法 mm			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	115-5	S16E59	磁器	皿	口縁～ 底部	紫	230	13(7)	13.6	海外	19世紀20歳	銅版転写 風景 ウェローバターン 洋食器	J-220
2	113-5	S16E59	磁器	皿	口縁～ 底部	紫	15.4	8(4)	2.7	海外	19世紀20歳	洋食器	J-221
3	113-6	S16E59	磁器	皿	口縁～ 底部	紫	20.0	13.6	2.3	海外	19世紀20歳	洋食器	J-222
4	114-3	S16E59	磁器	皿	底部	紫	-	-	30.0	海外	19世紀20歳	仏、ゼリゼイ社の露「パリ博覧会 1867・1878 金銀」洋食器	J-223
5	114-2	S16E59	磁器	皿	底部	紫	-	-	30.4	海外	19世紀20歳	仏、ゼリゼイ社の露「パリ博覧会 1867・1878 金銀」洋食器	J-224

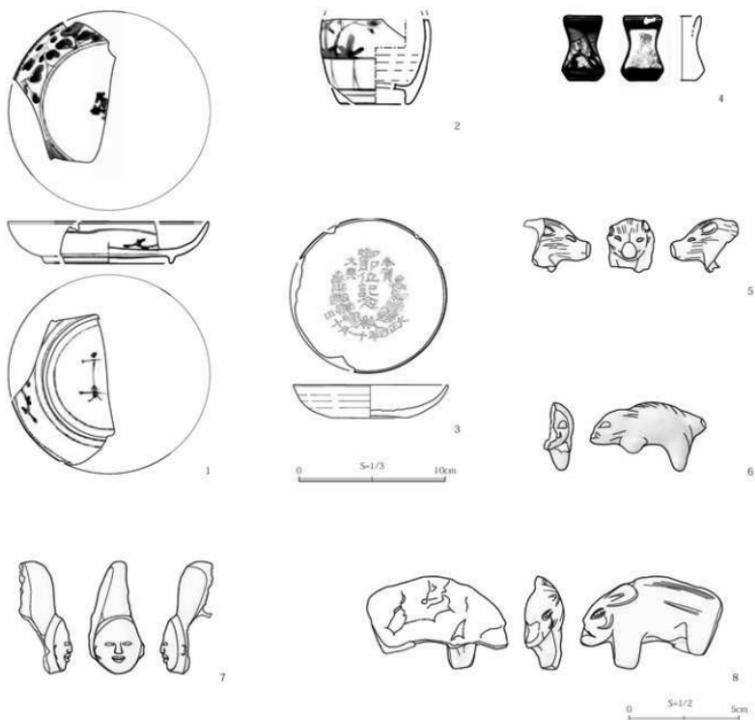
第205図 1層遺構外出土遺物(3)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法庫 cm			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	113-7	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	14.5	89.30	2.5	瀬戸・美濃	20世紀以後	「仙工」窯。仙台市公会堂か。洋食器	J-225
2	113-3	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	13.7	8.5	2.3	瀬戸・美濃	20世紀以後	「仙工」窯。仙台市公会堂か。洋食器	J-226
3	113-1	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	13.8	8.7	2.4	瀬戸・美濃	19世紀以後	「市公会」。「仙台市公会堂」か。洋食器	J-227
4	111-3	S16-E59	磁器	小杯	口縁～ 底部	密	5.4	1.6	2.7	瀬戸・美濃	20世紀以後	鉄箱?。旧陸軍の鉄兜形 高台は文様なしの素台	J-228
5	110-3	S16-E59	磁器	小杯	底部	密	4	1.5	2.3	在産	20世紀以後	文様なしの素台	J-230
6	113-4	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	20	11	2	海外	19世紀以後	銅版転写洋食器	J-229
7	113-2	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	13.2	7.7	2.7	瀬戸・美濃	19世紀以後	メーカー「貝目SEITO」洋食器	J-231

第206図 Ⅰ層遺構外出土遺物(4)

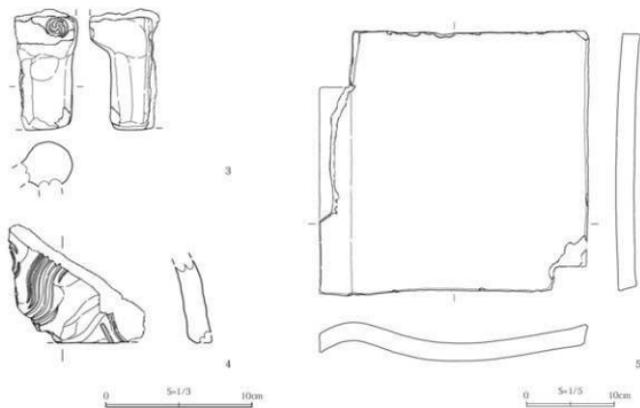
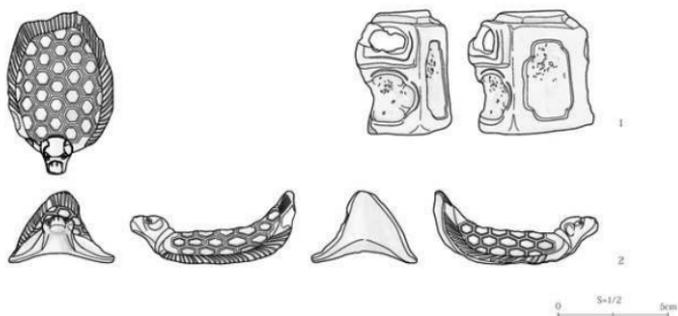
第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	原種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	114-8	S16-E39	甕形	皿	口縁～底部	密	13.7	8.8	2.8	肥前	18世紀後半	染付 白磁 外面1草文 高台内「口」長森(内部)草文 易島に五弁花	J-232
2	114-9	S16-E39	甕形	甕	体部～底部	密	7.3	4.7	5.8	肥前	19世紀前半	染付 草文 風雲文	J-233
3	112-5	S16-E39	土器皿	かわかけ	口縁～土部	密	10.7	5.4	2.3	不明	20世紀以降	「奉賀 御即位記念 大祝」(大正四年十一月十日)	I-275
4	115-6	S16-E39	甕形	ミニチュア	口縁～底部	密	1.8	1.4	3	不明	19世紀?	色絵 熊・桜	J-234

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
5	112-7	S16-E39	土製皿	0.0	2.2	2.4	土人形 葉	P-14
6	112-8	S16-E39	土製皿	5.5	0.20	3.1	土人形 葉	P-15
7	112-9	S16-E39	土製皿	0.80	2.5	5	土人形	P-16
8	112-10	S16-E39	土製皿	6.4	0.00	2	土人形 葉	P-17

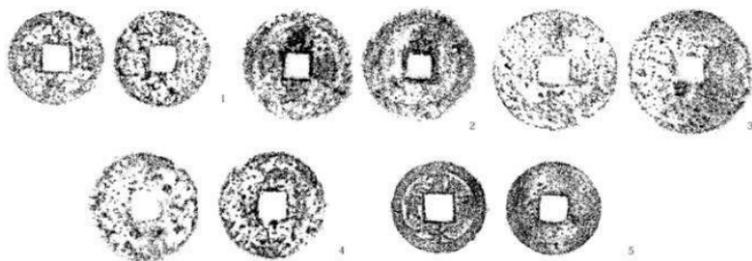
第207図 1 層遺構外出土遺物(5)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種類	法量 (cm)			備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ		
1	112-11	S10-E59	土製品	5.5	14.9	5.8	土人形	P-18
2	115-7	S10-E59	土製品	7.8	5	3.4	土人形 亀	P-19
3	129-13	S10-E59	瓦	114.2)	7	8.5		H2
4	129-6	S10-E59	瓦	15.2	位.0	14	復瓦の一部か?	H3
5	129-14	S10-E59	瓦瓦	31	30.3	3.1		G-5

第208図 1層遺構外出土遺物(6)

第1節 駅部



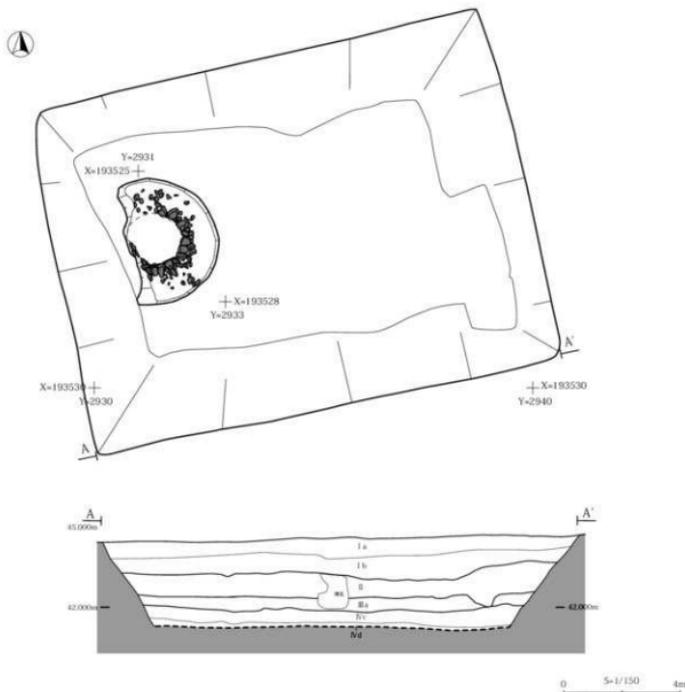
図版 番号	写真図版 番号	グリッド	銭貨名	初鋳年	法量 $\text{cm} \cdot \text{g}$			備考	図録 番号
					外径	厚径	重量		
1	130-5	S16-E59	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.75		N-64
2	130-4	S16-E59	寛永通宝	1636	2.5	0.81	2.75	背文	N-65
3	132-3	S16-E59	不明	-	2.4	0.8	2.68		N-66
4	130-8	S16-E59	不明	-	2.4	0.8	2.8		N-67
5	130-16	S16-E59	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.8		N-68

第209図 1層遺構外出土遺物(7)

第2節 交番部

1 II a 層上面検出遺構(第210図)

本調査区は大町交番の移設予定地として発掘調査が行われた。S13-E64 グリッドに位置し、調査区として8×5m、面積40㎡の長方形トレンチを設定した。II a 層上面で、石組の井戸跡を1基検出した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I a	2.5Y/4	オリーブ褐色 砂質シルト	なし	なし	瓦礫・レンガ等多量、近現代土層
I b	2.5Y/4	オリーブ褐色 砂質シルト	なし	なし	瓦礫・レンガ等多量、近現代土層、焼土含む
II	10YR3/1	黒褐色 砂質シルト	なし	あり	径 5 ~ 10mm の風化物多量、径 1 ~ 2cm 程度の礫少量
III a	10YR2/1	黒色 粘土質シルト	あり	あり	径 1mm 以下の 2.5Y3/3 シルト粒少量
IV c	10YR2/1	黒色 粘土質シルト	あり	あり	径 1mm 以下の 10YR3/3 暗褐色シルト粘粒少量、粘性強い
IV d	10YR2/1	黒色 粘土質シルト	あり	あり	10YR3/3 暗褐色土が連続して存在する層

*土層目録表の内容は、12頁の基本順序に同じ。

第210図 II 層上面遺構配置図・基本土層図

第2節 交番部

(1) 井戸跡

1) SE1 井戸跡 (第 211 図・212 図 図版 47-2・48-1・2)

S13-E64 グリッドに位置し、石組を有する井戸である。西側は調査区外に広がる。平面形はほぼ円形を呈し、検出した堀り方の上部径推定約 3m、最下部径は推定約 2.92m を測る。検出面より約 0.9m まで確認したが、調査区壁際で検出されたため、安全を考慮して底面検出まで調査は行わなかった。底面が検出されていないため全体の形状は不明な部分が多いが、検出部分においては上部が緩やかに広がる円筒形である。

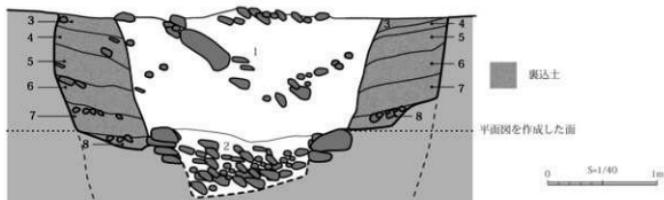
井戸側は石組のもので、検出した上部径は推定約 1.17m、下部径は推定約 0.95m を測る。石材を円筒形に積んで構築され、検出面より 0.9m の箇所で検出された。

石組は扁平な自然礫 (長さ 20 ~ 32cm、幅 12 ~ 25cm、厚さ 8 ~ 17cm) 構築され、積み方は石材を放射状に並べた、いわゆる乱石積みであり、大形の石材の間隙には小形の石材を詰め込んでいる。確認した部分においては積み方に変化は見られない。上面部分は崩れ落ちたものと考えられる。

裏込は石材を 1 段あるいは 2 段積む毎に石の高さだけ埋められている。3 ~ 8 層まで確認し、各層ともに、5 ~ 10cm 程の楕円形の自然礫を含む。

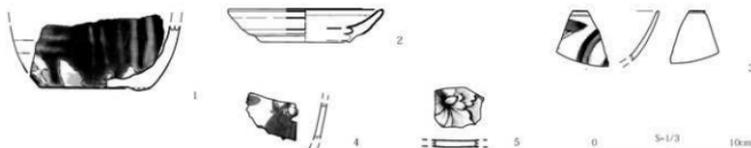
堆積土は砂質シルト層からなり、2 層中に崩れた石組の石材が多量に検出された。

遺物は 1 層中より 18 世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、瓦質土器が出土し、この内 5 点を図示した。
42.00m-A₁



層名	土色	土質	粘性	しまり	備 考
1	10YR3/1	黒褐色 砂質シルト	あり	なし	径 1 ~ 5cm の砂礫を多量、径 10 ~ 25cm の礫を中量に含む
2	10YR3/1	黒褐色 砂質シルト	あり	なし	径 1 ~ 5cm の砂礫を多量、径 10 ~ 25cm の礫を多量に含む
3	10YR3/1	黒褐色 砂質シルト	あり	あり	径 1 ~ 5cm の砂礫を多量、径約 10cm の堀り内の小礫を多量に含む、裏込土
4	10YR3/6	明灰褐色 砂質シルト	あり	あり	径 1 ~ 5cm の砂礫を多量、径約 10cm の堀り内の小礫を多量に含む、裏込土
5	10YR3/1	黒褐色 砂質シルト	あり	あり	径 1 ~ 5cm の砂礫を多量、径約 10cm の堀り内の小礫を多量に含む、裏込土
6	2.5Y5/4	灰褐色 砂質シルト	あり	あり	径 1 ~ 5cm の砂礫を多量、径約 10cm の堀り内の小礫を多量に含む、裏込土
7	10YR3/1	黒褐色 砂質シルト	あり	あり	径 1 ~ 5cm の砂礫を多量、径約 10cm の堀り内の小礫を多量に含む、裏込土
8	10YR3/1	黒褐色 砂質シルト	あり	あり	径 1 ~ 5cm の砂礫を多量、径約 10cm の堀り内の小礫を多量に含む、裏込土

第 211 図 SE1 井戸跡平面図・断面図



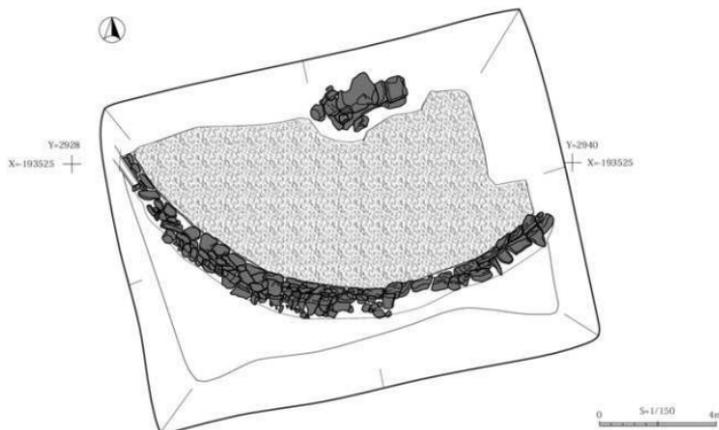
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	取土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	117-3	1層	陶器	甕	体部～底部	密	11.6	7.7	4.7	瀬戸・美濃	18世紀前半	鉄釉	I-191
2	117-7	1層	陶器	皿	口縁～底部	密	10.6	6.2	2.3	志野	17世紀後半		I-102
3	117-4	1層	磁器	碗	口縁～体部	密	-	-	(3.5)	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付け 黒	J-235
4	117-5	1層	磁器	不明	体部	密	-	-	(2.6)	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け	J-236
5	117-6	1層	磁器	皿	体部	密	-	-	(3.3)	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 牡丹	J-237

第212図 SE1井戸跡出土遺物

2 | 層上面検出施設跡(近・現代)(第213図 図版46-1・2・47-1)

S13-E64 グリッドに位置し、調査区全域から検出された噴水施設の一部と思われる遺構である。

確認された規模は全長9.6m、最大幅5.4m、地表面から約1.9m下で、コンクリート打設による平らな面を検出した。検出状況から水盤の径は約13mと推定することができる。また、この水盤は一辺45～50cm程の切石を積み重ねて作られた高さ1.2～1.3mの壁を有する。なお、この壁は補強か、あるいは水漏れを防ぐために、各切石の間隙にはコンクリートが充填されている。底面に打設されたコンクリートの直下は、自然礫(長さ10～15cm、幅5～10cm、厚さ5～10cm)を突き込み強固に基礎固めされていた。調査区の北壁には噴水装置の台と考えられるコンクリートの塊が露出していたが、安全を考慮して調査は行わなかった。

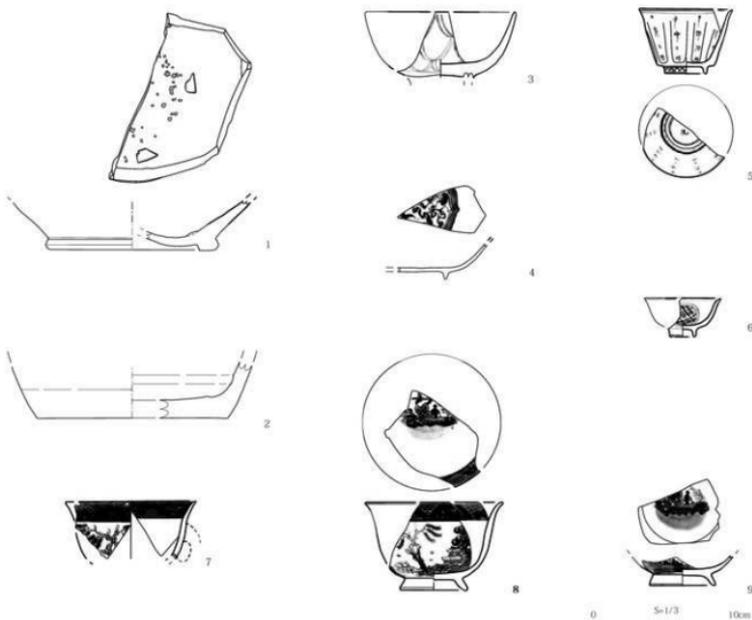


第213図 | 層上面検出施設跡

第2節 交番部

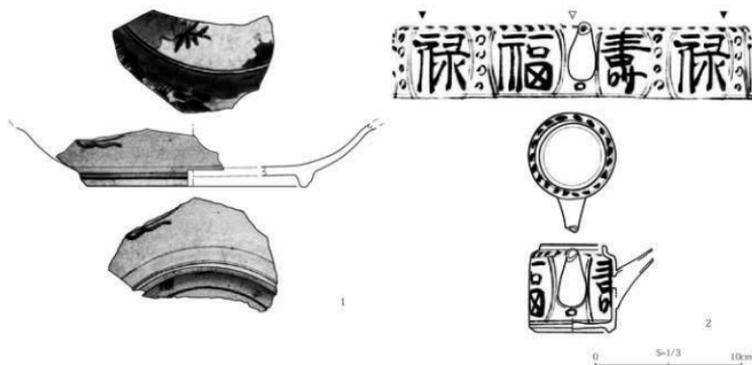
3 遺構外出土遺物(第214図・215図)

交番部遺構外の出土遺物は、種別別訳で陶器片199点、磁器片404点、土師質土器片17点、瓦質土器40点、瓦片733点、金属製品(古銭含む)9点、その他18点となり、総数で1420点を数える。ここでは、図化可能な11点を抽出し図示した。



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			所在地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	116-1	S13464	陶器	鉢	体部～底部	密	-	(11.4)	(3.3)	瀬戸・文遺	17世紀	付籠あり(胎土目)	J193
2	116-2	S13464	陶器	簍	体部～底部	密	-	(3.1)	(3.6)	肥前	18世紀後半		J194
3	116-9	S13464	磁器	碗	口縁～体部	密	10.4	4.7	4.6	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付け 網目文	J238
4	116-4	S13464	磁器	皿	体部～底部	密	-	-	(2.5)	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付け 内面)草花文	J239
5	116-8	S13464	磁器	小鉢	口縁～底部	密	6.4	3	4.5	瀬戸・文遺	19世紀前半	染付け 文字文	J240
6	116-6	S13464	磁器	小鉢	口縁～底部	密	5.3	1.8	2.7	瀬戸・文遺	19世紀前半	染付け 丸文	J241
7	116-3	S13464	磁器	碗	口縁～体部	密	9	-	10	海外	19世紀以後	刷染転写 ウィローパターン(緑文)	J242
8	116-7	S13464	磁器	碗	口縁～底部	密	9.5	4.8	6.3	海外	19世紀以後	刷染転写 ウィローパターン(緑文)	J243
9	117-2	S13464	磁器	碗	体部～底部	密	-	4.5	(2.2)	海外	19世紀以後	刷染転写 ウィローパターン(緑文)	J244

第214図 交番部遺構外出土遺物(1)



図版番号	写真図版番号	グロッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	110-5	S13-464	陶器磁器	皿	体底～ 底部	滑	-	(16)	4.5	肥前	18世紀前半	染付け(外面)草文(内面)草花文(裏面?)	J-289
2	117-1	S13-464	磁器	注口	口縁～ 底部	滑	4.7	5	6.2	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け(器縁)	J-245

第215図 交番部遺構外出土遺物(2)



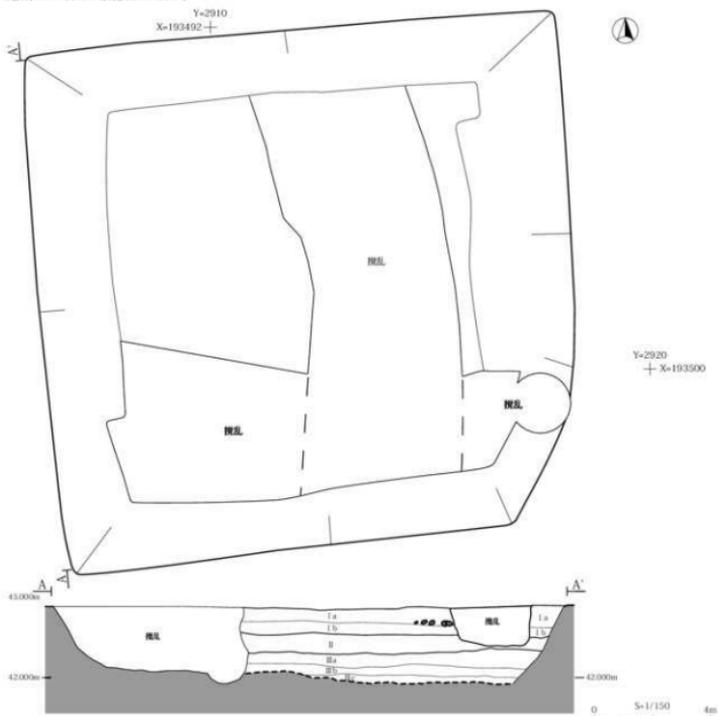
写真23 公会堂と噴水(当時の絵葉書)

第3節 大銀杏部

1 大銀杏部調査区（第216図）

本調査区は大銀杏の移設予定地として発掘調査が行われた箇所であり、S10・11-E61・62 グリッドに位置する。調査区は8.2×9.3m、面積76.2㎡の方形の竪坑を設定した。調査区のほぼ大半が擾乱により削平されている。遺構は検出されなかったが、基本土層中より17～19世紀代の遺物が多量に出土した。

調査区の中央を南北に縦断する擾乱は「権臺區及近傍村落之圖」（本書第5図-11）に描かれている中央に小島を持つ池跡の一部の可能性がある。



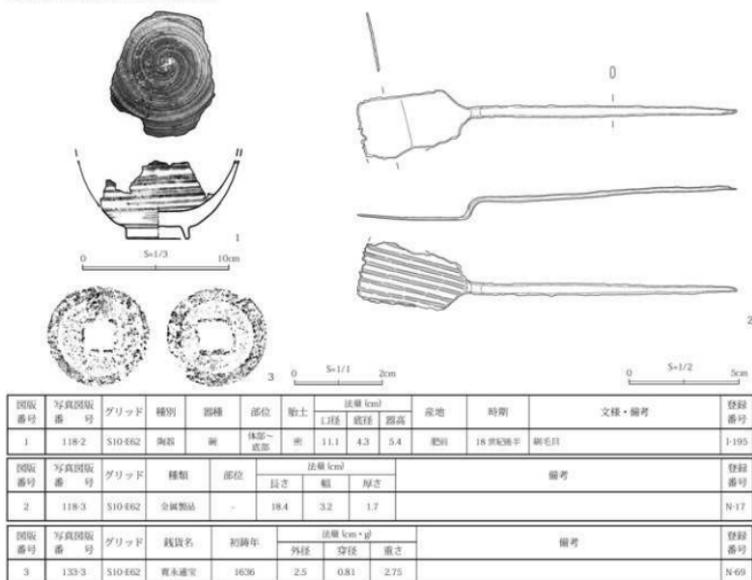
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I a	2.5Y4/4	オリーブ褐色 砂質シルト	なし	なし	瓦礫・レンガ等多量、現代盛土層
I b	2.5Y4/4	オリーブ褐色 砂質シルト	なし	なし	瓦礫・レンガ等多量、近代盛土層、焼土含む
II	10YR3/1	黒褐色 砂質シルト	なし	あり	径0.5～1cmの炭化物多量、径1～2cm程度の礫少量
III a	10YR2/1	黒色 粘土質シルト	あり	あり	径1mm以下の2.5Y3/3シルト少量
III b	5Y2/2	オリーブ褐色 粘土質シルト	あり	あり	径0.5～1cmの2.5Y3/3シルト少量
III c	10YR3/3	暗褐色 砂質シルト	あり	あり	2.5Y2/1 黒色シルトとの混合土

*土層記表の内容は、12頁の基本順序に同じ。

第216図 大銀杏部調査区平面図・基本土層図

2 III b層出土遺物(第217図)

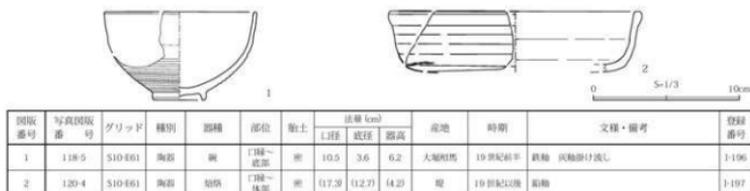
III層の出土遺物は、種別内訳で陶器片267点、磁器片329点、土師質土器片41点、瓦質土器17点、瓦片225点、金属製品(古銭含む)29点、石製品3点、その他の遺物7点となり、総数で918点を数える。ここでは、図化可能な3点を抽出し図示した。



第217図 III b層出土遺物

3 II層出土遺物(第218図)

II層の出土遺物は、種別内訳で陶器片1038点、磁器片1051点、土師質土器片196点、瓦質土器92点、瓦片315点、金属製品(古銭含む)64点、石製品21点、土製品11点、その他8点となり、総数で2796点を数える。ここでは、図化可能な73点を抽出し図示した。



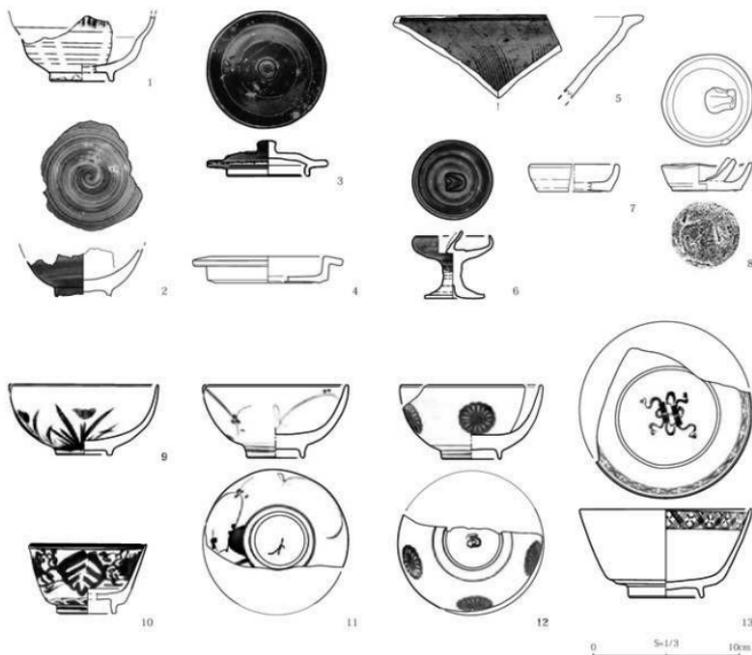
第218図 II層出土遺物(1)

第3節 大銀杏部



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	寸法 (mm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	118-7	S10-E61	陶器	碗・灰碗	口縁～ 底部	赤	13	5	8.4	在野	18世紀後半～ 19世紀前半		I-198
2	118-8	S10-E61	陶器	碗	口縁～ 底部	赤	12.4	4.4	4.8	瀬戸・美濃	19世紀前半	草花文	I-199
3	119-1	S10-E61	陶器	皿	口縁～ 底部	赤	-	-	-	大瀬相馬	19世紀前半	踏絵 山水文 楽屋	I-200
4	119-5	S10-E61	陶器	皿	口縁～ 底部	赤	12	8.5	2.3	志野	17世紀	踏絵 秋草?	I-201
5	118-9	S10-E61	陶器	皿	口縁～ 底部	赤	10.2	5.9	2.3	大瀬相馬	18世紀後半	踏絵 草文	I-202
6	119-3	S10-E61	陶器	皿	口縁～ 底部	赤	9.8	6.5	2.3	大瀬相馬	19世紀前半	踏絵	I-203
7	119-2	S10-E61	陶器	皿	口縁～ 底部	赤	-	-	-	大瀬相馬	18世紀後半	踏絵 草花文	I-204
8	119-9	S10-E61	陶器	瓶	体部～ 底部	赤	2.9	8.2	16.5	肥前	18世紀前半	刷毛目	I-205

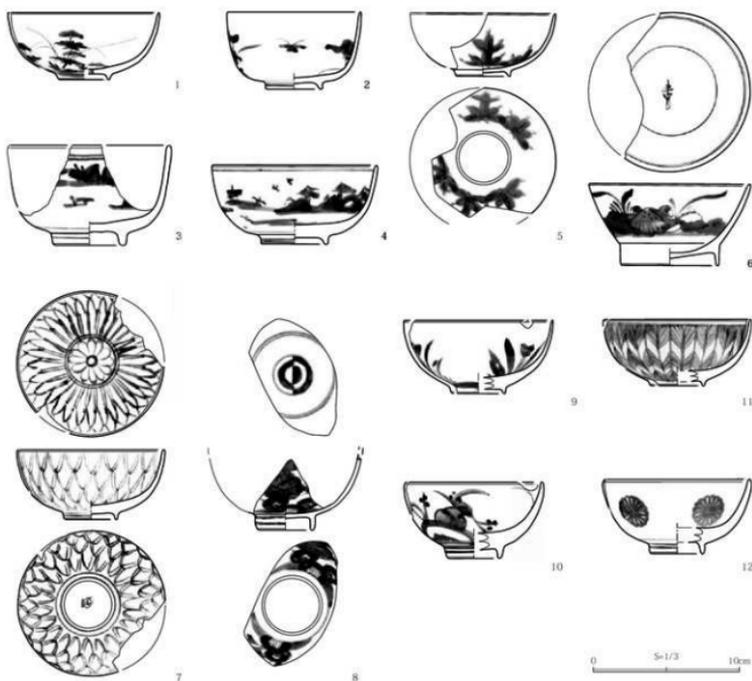
第219図 II層出土遺物(2)



図録 番号	写真図録 番号	グリッド	種別	器種	部位	出土	基準 6cm			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	118-6	S10-E61	陶器	胴	体部～ 底部	焼	9.9	4.4	4.6	大塚町馬	17世紀後半		J-206
2	121-3	S10-E61	陶器	胴	体部	焼	-	-	-	豊前	17世紀後半	新毛目文	J-207
3	119-6	S10-E61	陶器	蓋	口縁～ 底部	焼	8.3	5.7	2.5	大塚町馬	19世紀前半	鉄軸	J-208
4	119-8	S10-E61	陶器	蓋	口縁～ 底部	焼	10.3	7.2	1.9	大塚町馬	19世紀前半	鉄軸	J-209
5	120-6	S10-E61	陶器	器体	口縁部	焼	-	-	5.8	堺	17世紀		J-210
6	121-2	S10-E61	陶器	口縁 突輪	口縁～ 底部	焼	-	-	-	堺	19世紀前半	鉄軸	J-211
7	120-3	S10-E61	陶器	灯明皿	口縁～ 底部	焼	6.2	4.8	1.9	堺	19世紀前半	鉄軸	J-212
8	119-7	S10-E61	陶器	灯明皿	口縁～ 底部	焼	6.3	4.8	1.9	堺	19世紀前半	鉄軸	J-213
9	122-7	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	焼	10.3	3.8	4.0	豊前	18世紀前半	染付け 草花文 水軸	J-246
10	124-4	S10-E61	磁器	小鉢	口縁～ 底部	焼	-	-	-	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 草花文 籠菊? 羅紗文	J-247
11	125-5	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	焼	10	4	5.2	豊前	18世紀前半	染付け 草花文 露草 高台内に黒虫文	J-248
12	122-1	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	焼	9.8	4.1	5.2	豊前	18世紀前半	染付け コシニヤク目肌 外面に菊 高台内に 黒虫	J-249
13	125-2	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	焼	11.7	5.2	6.2	豊前	18世紀前半	青磁釉 内面口縁部に西方摩文 見込に宝 物	J-250

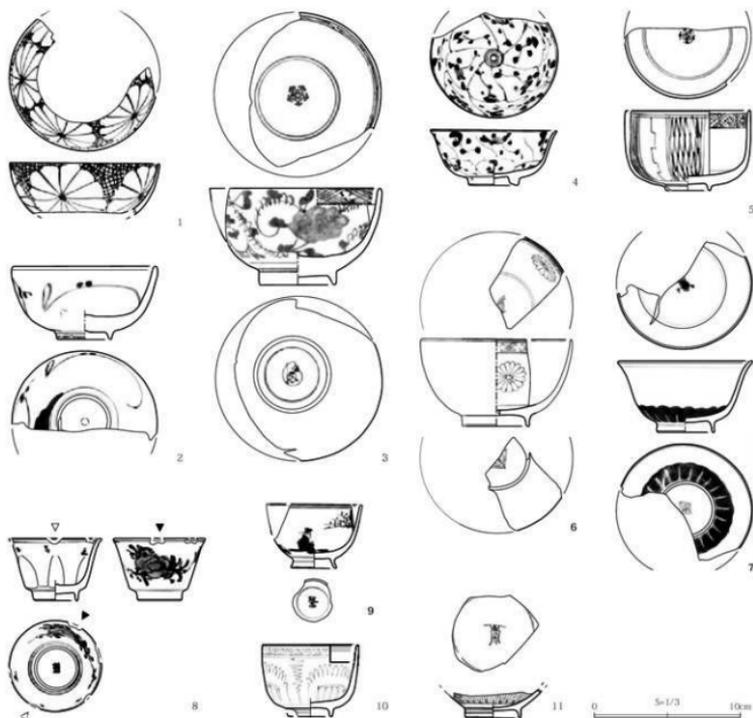
第220図 II層出土遺物(3)

第3節 大銀杏部



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	出土	法量 (cm)			所在地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	118-4	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	10.5	3.3	-	肥前	18世紀後半	染付付 草花文	J-251
2	123-8	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	9.2	3.9	5.4	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付付 草花織文	J-252
3	123-5	S10-E61	陶器	碗	口縁～ 底部	附	11.1	5	7	大塚相馬	19世紀前半	鉄絵 蓮山 柳掛け舟	J-214
4	122-5	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	11.4	4.6	5.5	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付付 山水文 雁	J-253
5	123-4	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	10	3.7	4.4	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付付 若菜	J-254
6	122-9	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	11	6.7	5.7	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付付 外面 草花文 内面 寿字文	J-255
7	123-9	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	10.2	3.7	4.9	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付付 蘭文字 高台内 高脚	J-256
8	124-8	S10-E61	磁器	碗	縁部～ 底部	附	10.4	4	5.3	肥前	18世紀後半	染付付 外面 草花文 内面 見込に割目	J-257
9	123-2	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	10.3	3.7	5.1	肥前	18世紀後半	染付付 草花文 赤絵	J-258
10	124-3	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	9.6	3.7	5.3	肥前	18世紀後半	染付付 草花文 露草	J-259
11	122-6	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	10.2	3.7	4.6	肥前	18世紀後半	染付付 矢羽根	J-260
12	125-3	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	附	10	3.7	5.2	肥前	18世紀後半	染付付 コンニャク酢割 菊	J-261

第221図 II層出土遺物(4)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	出土	造庫 (cm)			発地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	124-6	S10-F61	磁器	碗	口縁～ 体部	南	10.2	6.6	3.6	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付け 菊花 水取文	J262
2	123-7	S10-F61	磁器	碗	口縁～ 底部	南	10	3.8	5.1	肥前	18世紀後半	染付け 草文 露草	J263
3	121-6	S10-F61	磁器	碗	口縁～ 底部	南	11.8	5.3	6.8	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 草花文 内面) 見込に五弁花 牡丹 高台内に露草	J264
4	124-5	S10-F61	磁器	福足碗	口縁～ 底部	南	8.7	3.4	3.8	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 雲芝	J265
5	123-10	S10-F61	磁器	碗	口縁～ 底部	南	8.6	3.1	5.6	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 蘭目・蘭形開文 内面) 口縁部 に四方唐文	J266
6	125-7	S10-F61	磁器	碗	口縁～ 底部	南	10.4	4.5	5.1	肥前	18世紀前半	青磁釉 染付け 内面) 口縁部に四方唐文 菊花	J267
7	125-1	S10-F61	磁器	小杯	口縁～ 底部	南	9.2	3.9	5.2	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 蓮竹文	J268
8	124-9	S10-F61	磁器	小杯	口縁～ 底部	南	6.4	3	4.3	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 草花文 牡丹	J269
9	123-3	S10-F61	磁器	小杯	口縁～ 底部	南	-	2.9	4.2	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 風見文 高台内に露	J270
10	124-2	S10-F61	磁器	碗	口縁～ 底部	南	6.6	2.9	5.1	肥前	18世紀前半	磁器 四方唐文	J271
11	121-5	S10-F61	磁器	碗	体部～ 底部	南	6.4	3.9	1.8	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付け 外面) 唐文 内面) 見込に寿字文 高 台内に露	J272

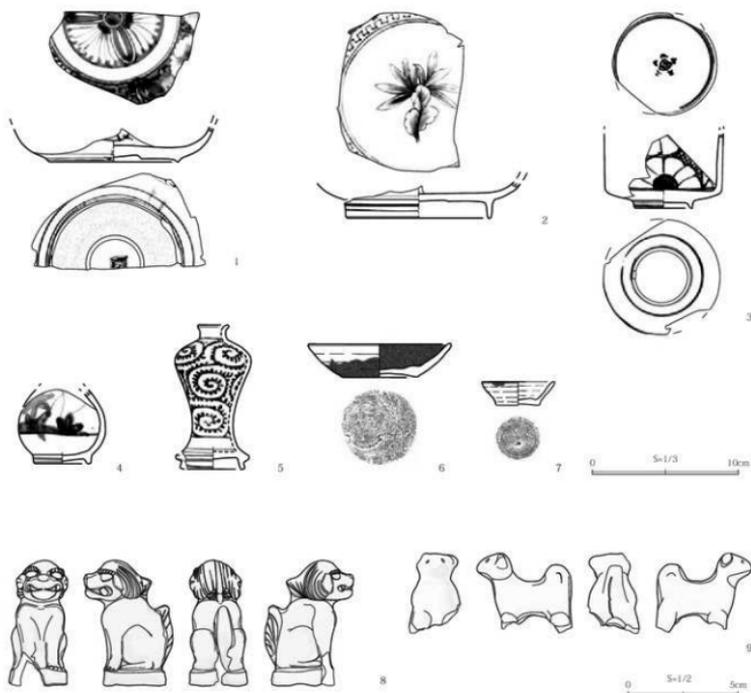
第222図 II層出土遺物(5)

第3節 大銀杏部



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	粘土	法華 (cm)		器高	器底	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径					
1	122-8	S10-461	磁器	輪花田	口縁～ 体部	赤	16.2	-	3.8	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付17 外面1草文 内面1研草文	J-273
2	123-6	S10-461	磁器	皿	体部～ 底部	赤	21.6	10.5	4.4	肥前	18世紀後半	染付19 草花文	J-274
3	121-7	S10-461	磁器	皿	体部～ 底部	赤	-	-	-	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付17 外面1草文 内面1草花文	J-275
4	122-2	S10-461	磁器	甗	口縁～ 底部	赤	9.7	3.7	3.1	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	青磁輪 高台内に黒線	J-276
5	122-4	S10-461	磁器	皿	口縁～ 体部	赤	18.4	-	3.5	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付19 草花文	J-277
6	122-3	S10-461	磁器	皿	底部	赤	13.2	9.7	0.8	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付19 草花文	J-278
7	124-1	S10-461	磁器	長内皿	体部～ 底部	赤	-	-	-	肥前	18世紀後半	染付17 外面1高台に雲文 内面1横線草文 通?	J-279

第223図 II層出土遺物(6)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	出土	法庫 (cm)			発地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	124-10	S10-861	磁器	皿	体部～ 底部	所	13.7	8.8	2.4	肥前	18 興記後半～ 19 興記前半	袋付け 草文 肥の目人高台 高台内溝 跡	J-280
2	123-11	S10-861	磁器	皿	体部～ 底部	所	13.5	10	2.5	肥前	19 興記以後	袋付け 草文 肥の目人高台	J-281
3	125-6	S10-861	磁器	碗	体部～ 底部	所	8.2	3.8	5.1	肥前	18 興記後半～ 19 興記前半	袋付け 菊花 水袋文	J-282
4	124-7	S10-861	磁器	皿	体部～ 底部	所	4	4	5.2	肥前	18 興記後半～ 19 興記前半	袋付け 草文 若松?	J-283
5	123-1	S10-861	磁器	御神酒器内 かわらけ	口縁～ 底部	所	2.2	4.5	10	肥前	18 興記後半～ 19 興記前半	袋付け 鶴唐草文 梅瓶形	J-284
6	125-10	S10-861	土製瓦 土器	かわらけ	口縁～ 底部	所	9.8	5.2	2.3	在野	18 興記後半～ 19 興記前半	湯椀行首	I-276
7	125-9	S10-861	土製瓦 土器	有明田	口縁～ 底部	所	3	3	1.7	在野	18 興記後半～ 19 興記前半	湯椀行首	I-277
図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	法庫 (cm)			備考	登録 番号					
				長さ	幅	厚さ							
8	128-1	S10-861	土製品	3.8	2.6	5.7	土人形 蜀犬	P-20					
9	126-5	S10-861	土製品	4.2	2.2	4.1	土人形 犬	P-21					

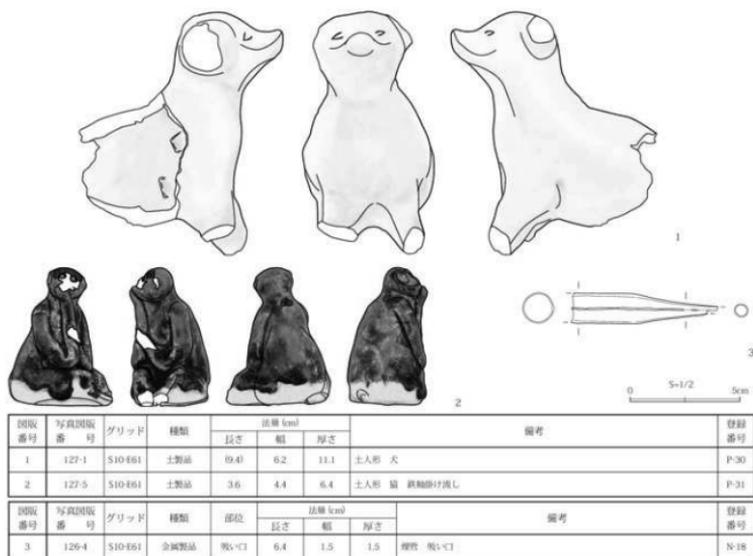
第 224 図 II 層出土遺物 (7)

第3節 大銀杏部



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種類	法庫 (cm)			備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ		
1	126-9	S10-E61	土製品	2.8	2.9	2.5	土鈴	P-22
2	126-8	S10-E61	土製品	4.9	(1.4)	3.4	土人形 犬	P-23
3	126-7	S10-E61	土製品	1.8	5.4	3.2	土人形 天神	P-24
4	126-6	S10-E61	土製品	3	3.6	4	土人形 人物	P-25
5	127-2	S10-E61	土製品	1.5	4.4	4.5	土人形 大黒天	P-26
6	127-3	S10-E61	土製品	1.5	2.5	3.5	土人形 人物	P-27
7	127-4	S10-E61	土製品	4	5.8	9.8	土人形 子守	P-28
8	127-6	S10-E61	土製品	6	3.9	8.9	土人形 甕	P-29

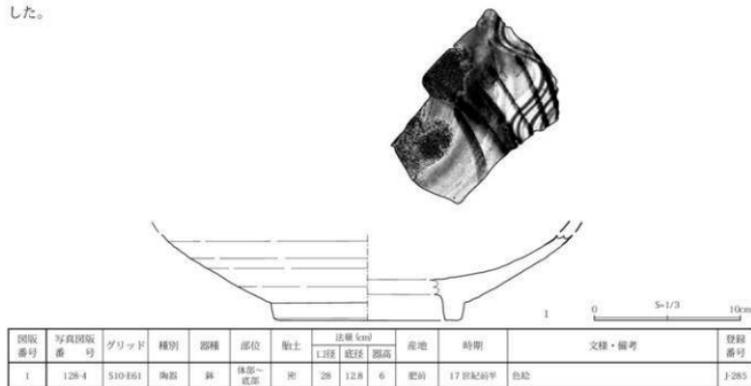
第 225 図 II 層出土遺物 (8)



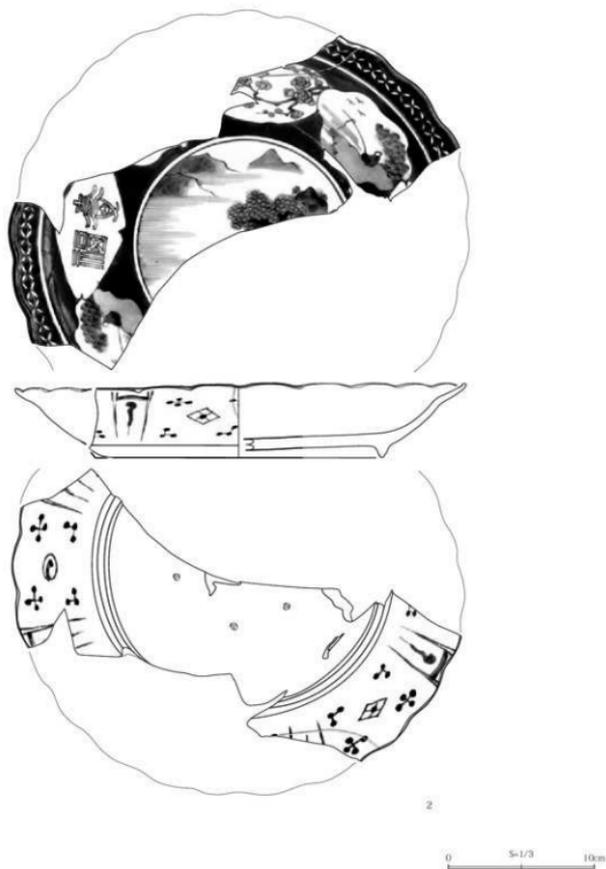
第 226 図 II 層出土遺物 (9)

4 | b 層出土遺物 (第 227 図・228 図)

1 b 層の出土遺物は、種別内訳で陶器片 56 点、磁器片 93 点、土師質土器片 13 点、瓦質土器 1 点、瓦片 64 点、金属製品 (古銭含む) 2 点、土製品 10 点となり総数で 239 点を数える。ここでは、図化可能な 2 点を抽出し図示した。



第 227 図 | b 層出土遺物 (1)



図版 番号	写真図版 番号	グッド 番号	種別	器種	部位	出土 層	法庫 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	128-3	S10461	甕	甕	口縁一 体部	第	330.22	119.80	5.1	肥前	17世紀後半	梅花 山水文 七宝文 高台内いり底3ヶ所 部破損あり	J285

第228図 1 b層出土遺物(2)

第6章 出土遺物と検出遺構について

第1節 出土遺物について

1 遺物数量表

本調査で出土した遺物の数量は以下の第10～12表の通りである。

出土遺物集計表

地区	縄文土器	丸瓦・軒丸瓦	平瓦・軒平瓦	その他の瓦	陶器	土師質土器	瓦質土器	磁器	石器・石製品	木製品類	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計
野部	44	3230	11820	244	6606	2063	671	9456	115		532	47	42	230	35100
交番部		92	652	7	208	21	43	409			9			18	1459
大畑内部		114	617	4	1579	279	128	1880	24		118		21	33	4797
総計	44	3436	13089	255	8393	2363	842	11745	139		659	47	63	281	41356

駅部Ⅳ層上面遺構出土遺物

遺構名	縄文土器	丸瓦・軒丸瓦	平瓦・軒平瓦	その他の瓦	陶器	土師質土器	瓦質土器	磁器	石器・石製品	木製品類	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計
SD9			1		2	2		1				3		2	11
SD14															
SX29			2		13	1	2	11						1	30
SX31		6	6	1	41	40	2	32	5			1	2	1	137
SX32					2	1									3
SX33															
SX30			1		1			1							3
SX51		3	5		5	9									22
合計		9	15	1	64	53	4	45	5			4	2	4	206

駅部Ⅲ層上面遺構出土遺物

遺構名	縄文土器	丸瓦・軒丸瓦	平瓦・軒平瓦	その他の瓦	陶器	土師質土器	瓦質土器	磁器	石器・石製品	木製品類	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計
SA1															
SB2					1										1
SB3															
SB4															
SB5															
SB6															
SD10															
SD12			2		1										3
SK48					5	1	1	5							12
SK54		1	14		16	6	4	2						3	46
SK55						1									1
SK56															
SK57		1	7		9	1		15							33
SK58															
SK59															
SK60															
SK62															
SK63			3		1	9	1	1							15
SK65			5		1	13									19
SK66															
SK67								2							2
SK68							2								2
SK69					1										1
SK70															
SK71															
SK72															
SK73															
SK85															
SX22															
SX23			133	1192	2	15	14	2	9		11				1378
SX25			6	22		2	1								31
SX34			3	18		11	28	2	2		10				74
SX37			1080	2832	10	89	5	5	93						4114
SX61			2	1	2	4	1								10
SX62															
SX63					3	3	2	3			2				13
合計		1224	4097	13	157	86	20	132			23			3	5755

第10表 出土遺物数量表(1)

第1節 出土遺物について

駅部II層上面遺構出土遺物

遺構名	縄文土器	丸瓦・軒丸瓦	平瓦・軒平瓦	その他の瓦	陶器	土師質土器	瓦質土器	磁器	石器・石製品	木製品類	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計
SD3		40	275	6	119	23	3	90	1		12		1		570
SD4		15	44		14	10	4	12							99
SD6															
SK1		90	137		132	15	16	115	4		13		1		523
SK2		1	5		9	6		5			1				27
SK3								2			1				3
SK4															
SK5		14	45		17	4	15	8			7				110
SK6															
SK7															
SK9		15	49		8	6	1	5	1						85
SK10		1	6		3	1									11
SK11															
SK12		1			1		1	3			3				9
SK14		7	40		3	2	3	3							58
SK15		1			2						1				4
SK17		7	34		26	26	6	18			16	3			136
SK18												11			11
SK19		21	38		2	7	2								70
SK22		7	35		87	15		30	2		4		2		182
SK23		8	11		1			1							21
SK25		2			2		1								5
SK27		8	27		14	36		9	2		10				106
SK28		2	1		2	2		2							9
SK30								1			3				4
SK31		3				6					7				16
SK32			1		9	4		3							17
SK33						1		1							2
SK34		24	66		8	17	1				5	2			123
SK35															
SK36			2												2
SK37		15	95		29	65	8	25	3		16	4	1		261
SK40															
SK46															
SK47			4		13	4		14							35
SK50															
SK51															
SK52															
SK75		6	5		37	4	5	62			8		2		129
SK76					16	1	2	1							20
SK77					39	8	7	33			2				89
SK78															
SN1						8					10				18
SN2		1	6	2	1	5	1	1	2						19
SN2		28	58		53	23	18	25	2			4	1	2	214
SN4															
SN5		1	1		1			1							4
SN6															
SN7			4				1	1							6
SN9		3	25		5										36
SN10		20	63		37	17		23							160
SN12		1	10		8	5	1	5	1						31
SN14		19	41		18	3	1	11							93
SN15		76	218		105	50	20	69	4		14	8	1	4	569
SN19						2		1							3
SN20		5	39	1	72	25	2	80	1		12		5		242
SN27		4	15		10	4	1	15							49
SN28			2		8			5							15
SN35			10		10			4			2				26
SN36															
SN38															
SN39		14	53	2	130	69	19	127	1		11	9	1	2	438
SN41		8	5		2			3							18
SN42		11	159			9	2								181
SN43			1	1	2										4
SN49		3	8	1	111	39	14	78	4		12		7	1	278
SN56		14	2		34	65	2	15			2				134
SN57		1			1			5							7
SN64			10		6			24							40
合計		494	1653	13	1207	587	157	939	28		172	41	22	9	5322

第11表 出土遺物数量表(2)

第6章 出土遺物と検出遺構について

駅部1層上面遺構出土遺物

遺構名	縄文土器	丸瓦・軒丸瓦	平瓦・軒平瓦	その他の瓦	陶器	土師質土器	瓦質土器	磁器	石器・石製品	木製品類	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計
SB1		21	73	1	21	9	10	23						2	168
SD1		186	605		281	67	3	305	4		5			28	1484
SD2		60	244	2	159	22	27	243	4		16	2	1	6	786
SD15		15	32	2	107	18	3	225	2		6		1		411
SD16		12	33		32	12	4	50	1		2				146
SB01															
SB74		2	5		5	6		19			2				39
SB80					1	19		5							25
SB81					12	15		36			1				64
SB82															
SB83															
SB84		4	15		5	1	2	23			1				51
SB85		4	39		1	6	2				4				56
SX24											1				1
SX25															
SX47															
SX48															
SX53								3			5				8
SX54			66		19		1	219	3		18			17	343
SX58			3		1			2			2				8
SX59															
SX60			2		2										4
合計		304	1130	5	667	141	52	1153	14		71	2	2	53	3594

駅部基本層出土遺物

遺構名	縄文土器	丸瓦・軒丸瓦	平瓦・軒平瓦	その他の瓦	陶器	土師質土器	瓦質土器	磁器	石器・石製品	木製品類	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計
IVc層	29		6			23			4					5	67
IVb層	11				1	14	3	4	3					13	41
III層		312	996	13	590	216	60	700	13		58		5	20	2983
II層		456	1643	73	1881	571	190	2597	29		84		5	33	8378
I層		320	1817	103	1787	350	168	3661	15		91		6	60	8378
掘戻中		4	108	460	23	252	21	16	225	4	33		0	20	1166
合計	44	1197	4922	212	4511	1195	437	7187	68		266		16	161	20216

交番部出土遺物

遺構名	縄文土器	丸瓦・軒丸瓦	平瓦・軒平瓦	その他の瓦	陶器	土師質土器	瓦質土器	磁器	石器・石製品	木製品類	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計
SE1		4	14		9	4	3	5							39
I層		88	638	7	199	17	40	404			9			18	1420
合計		92	652	7	208	21	43	409			9			18	1459

大銀吉部基本層出土遺物

遺構名	縄文土器	丸瓦・軒丸瓦	平瓦・軒平瓦	その他の瓦	陶器	土師質土器	瓦質土器	磁器	石器・石製品	木製品類	金属製品	自然遺物	土製品	その他	合計
III層		32	192	1	267	41	17	329	3		29			7	918
II層		36	276	3	1038	196	92	1051	21		64		11	8	2796
I層		21	43		56	13	1	93			2		10		239
掘戻中		25	106	0	218	29	18	407	0		23		0	18	844
合計		114	617	4	1579	279	128	1880	24		118		21	33	4797

第12表 出土遺物数量表(3)

第1節 出土遺物について

2 陶磁器の数的分析

出土した陶磁器の数量は20138点である。近現代の遺物を除き、産地・年代が判明している417点を対象にした、出土層位別の産地組成は以下の表(第13表)の通りとなる。I層の陶磁器に関してはサンプルが少数のため除外することとした。

陶器の産地組成を検討すると、IV層の段階では唐津産、瀬戸・美濃産および在産地が主体となっており、III層の段階で大堀相馬産が出現する。II層の段階に至ると大堀相馬産が主体を占めるようになり、堤産の出現も認められる。

磁器の産地組成は、IV層の段階では産地・年代の判明している製品が出土しておらず、III層の段階で肥前産が認められる。II層の段階では肥前産の大幅な増加に加え、瀬戸・美濃産磁器、切込産・在産地などの東北地方産磁器が出現している。

II層とIII・IV層の出土数量の差が大きく、なおかつサンプル数も少ないため一概には言えないが、上記に認められる傾向は、武家屋敷など周辺の近世遺跡の状況とも一致しているものと思われる。

陶器	唐津	肥前	志野	瀬戸・美濃	京	豊古	甲	大堀相馬	小野相馬	堤	在産地
I層	3	12	16	8	2	1	5	71	4	16	20
II層	3	3	4	5	-	-	7	2	2	-	-
III層	2	-	2	5	-	-	-	-	-	-	2

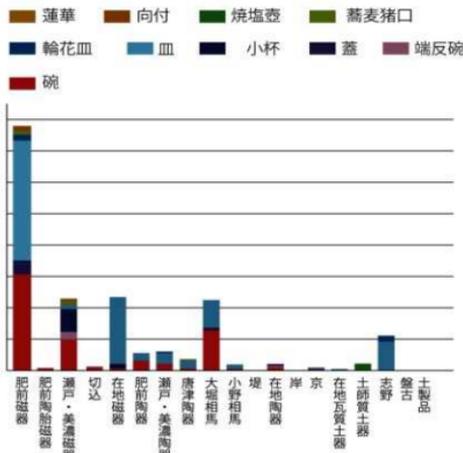
磁器	肥前	瀬戸・美濃	切込	在産地
I層	156	46	2	1
II層	17	-	-	-
III層	-	-	-	-

第13表 出土層位一産地別遺物数量表

本調査における出土遺物の機種別産地組成は次表(第14～17表)の通りである。

食膳具の産地別組成(第14表)では、肥前産磁器が最も多く出土しており、瀬戸・美濃産磁器、在産地磁器、大堀相馬産陶器がこれに次ぐ。特に食膳具の中でも主体をなすであろう磁器の碗・皿については、肥前産の数量が突出している。これは、仙台藩領

内での肥前産磁器の流通量を反映しているものと思われる。また、瀬戸・美濃産磁器には皿が少なく、在産地の磁器は碗が少なく皿が多くなるなど、19世紀代では機種別に産地に偏りが見られる。これは生産地の動向や、消費地側の選択によるものなど、さまざまな要因によって現出した状況と考えられるが、詳細については今後の資料の蓄積に期待したい。この他、陶器では大堀相馬産が多く出土しており、一定の需要があったものと思われる。器種組成としては、碗と皿がほぼ同量となっている。焼塩壺に関しては在産地のみであり、当遺跡において搬入品は見られなかった。

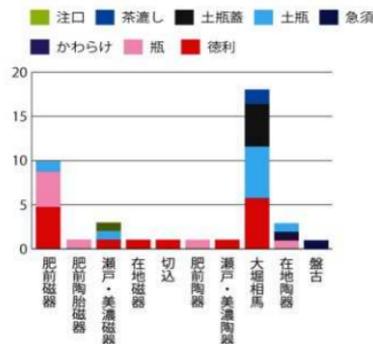


第14表 食膳具産地別グラフ

喫茶・飲酒具（第15表）としては肥前産の徳利・瓶、大塚相馬産の徳利・土瓶が多く出土している。特に大塚相馬の数量が顕著である。酒の容器として利用される徳利・瓶などは、その販売時において比較的蔵元に近い場所で焼かれた製品が、輸送コストなどの観点からも有用であったと考えられる。

暖房具（第16表）については在地の陶器・瓦質土器が出土数の大半を占める。元来、陶器・瓦質土器の類は長距離輸送には向いておらず、必然的に消費地に近い場所で生産する必要があったと思われる。糞などの大法量器種からなる貯蔵具の類、使用頻度が高く破損の機会が多いすり鉢などの調理具も、同じく近隣で生産されたものが使用されることが多かったと思われる。

その他の製品（第17表）については、器種ごとに産地の傾向が分かれている。化粧具である紅皿は肥前産が占めている。御神酒徳利も同様に肥前産のみである。豆甕は大塚相馬産となっており、植木鉢は堤産が主体を占め、その他に在地陶器、土師質土器が見られる。土人形・土鈴なども消費地近隣で生産されたもので占められる。



第15表 喫茶・飲酒具産地別グラフ

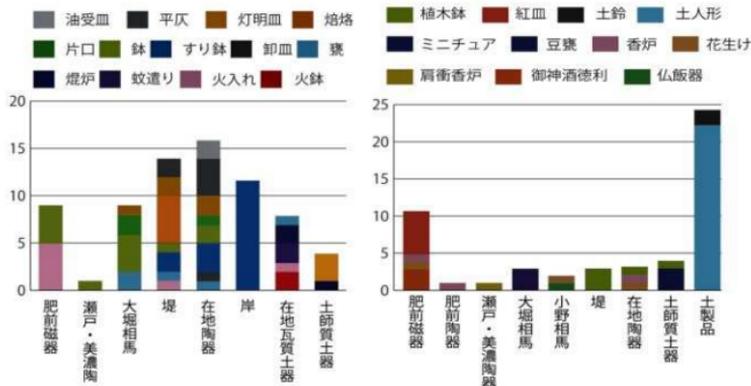


表16表 暖房具・貯蔵具・調理具・灯明具産地別グラフ

第17表 信仰・調理具・その他産地別グラフ

第1節 出土遺物について

3 乾山について

第229図はSX39から出土した乾山銘の京焼の皿である。見込み部分に赤絵で紅葉を描き、外底部に同様の赤絵により「乾山」の字を書いている。尾形乾山は寛文3年(1663年)に京都の呉服商、雁金屋の家に生まれ、兄の尾形光琳とともに当時の芸術界を牽引した人物である。乾山は元禄12年(1699年)に京都の鳴滝窯で本格的な作陶活動をはじめ、享保8年(1723年)には京都二条丁子屋町・聖護院門前において生産を続ける。その後享保17年(1732年)には江戸へ赴き、入谷村にて活動を続ける。

乾山の後継は分派し、二派が興った。入谷村では入谷村次郎兵衛が二世乾山を名乗り、三世宮崎富之助、四世酒井抱一、五世西村藪庵、六世三浦乾也、七世浦野乾哉へと「乾山譲状」が継承され、乾山の正統とされている。一方で養子の猪八(野々村仁清の子と伝えられる)が聖護院門前で乾山の活動を継続し(「聖護院窯」)、二世乾山を名乗り、宮田呉介が三世乾山を継いでいる。当遺跡出土の乾山銘京焼は、胎土は京焼のものであり、聖護院窯の可能性が高いが、江戸で京焼の土を使って作られる場合もあるため一概には言えない。仙台市内では初の出土例であり、今後の資料の蓄積を待ちたい。



(第153図 7)

第229図

SX39 出土の乾山銘の陶器

4 焼継について

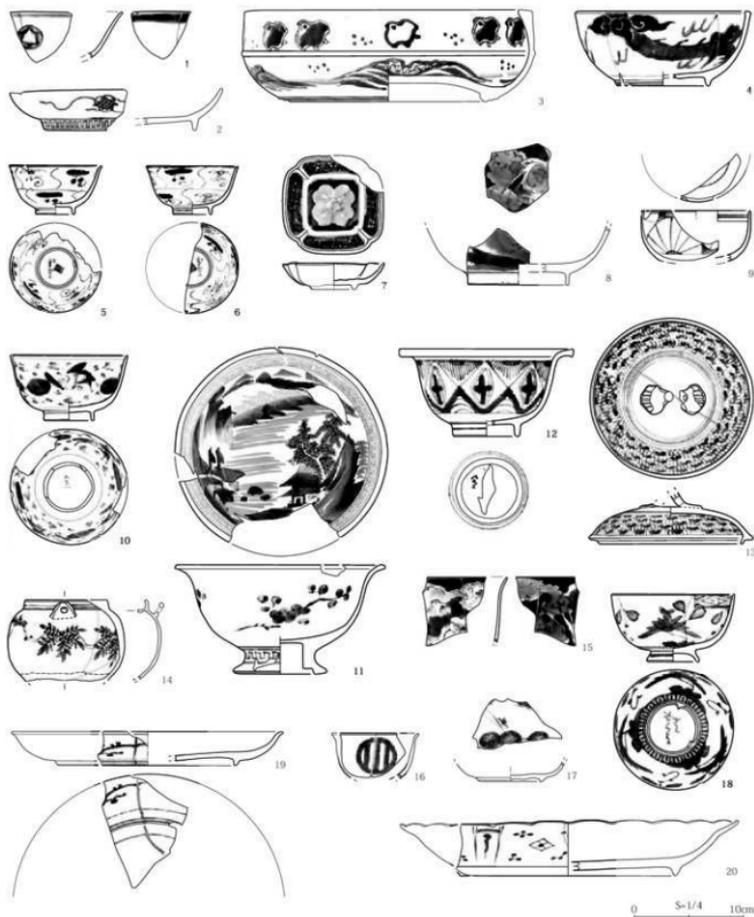
焼継による補修痕のある遺物は21点確認できた。内訳は肥前産磁器16点、瀬戸・美濃産磁器4点、切込産磁器1点である。これらのうち、底裏に補修剤で文字が書いてあるものは6点確認された(第230図3・5・6・10・12・18)。また、生産年代は17世紀後半～18世紀前半が1点、18世紀前半が2点、18世紀前半～19世紀前半が1点、18世紀後半が3点、18世紀後半～19世紀前半が4点、19世紀前半が5点、19世紀以降が4点であり、18世紀後半以降のものが大半をしめている。焼継ぎは江戸では1790年頃から普及し始めたといわれており、本調査における傾向も、磁器の耐用年数などを考慮に入れた場合、この年代観とほぼ一致する。このことから、18世紀末から19世紀にかけて、仙台藩領内においても焼継ぎが行われていたと考えられる。

また、朱を混ぜた補修剤によって底裏に文字が書かれている例が多く見られた。平成18年度の仙台城亀岡トンネル開削部の調査(仙台市2009)においても1点が確認されている。これは焼継ぎ師による注文者識別記号と推

番号	地区	出土遺物	産地	種類	年代	底裏跡の有無	本文器物番号	備考・別の図号
1	肥前	SK57	肥前	碗	18世紀後半	欠損	第106図-4	
2	肥前	SK75	肥前	長角皿	18世紀前半	なし	第118図-5	
3	肥前	SK75	肥前	皿	19世紀以降	あり	第117図-1	五千七百九十五(イ七百七十三)
4	肥前	SK75	肥前	碗	19世紀以降	なし	第116図-1	
5	肥前	SK77	瀬戸・美濃	超丸碗	19世紀前半	あり	第122図-6	二千五百二
6	肥前	SK77	瀬戸・美濃	超丸碗	19世紀前半	あり	第122図-7	二千五百二
7	肥前	SK77	肥前	小皿	18世紀前半～19世紀前半	なし	第123図-1	
8	肥前	SX26	肥前	碗	18世紀後半	なし	第142図-9	
9	肥前	SX28	肥前	碗	18世紀前半	欠損	第144図-1	
10	肥前	SX39	瀬戸・美濃	鉢	19世紀前半	あり	第150図-11	め廿一
11	肥前	SX39	肥前	鉢	19世紀以降	なし	第153図-2	
12	肥前	SX39	肥前	鉢	18世紀後半～19世紀前半	あり	第153図-1	八二(ハ廿二)
13	肥前	SX39	肥前	蓋	18世紀後半～19世紀前半	なし	第152図-1	
14	肥前	SX39	肥前	土瓶	18世紀後半～19世紀前半	欠損	第152図-5	
15	肥前	SX49	肥前	白鉢	18世紀後半～19世紀前半	欠損	第163図-2	
16	肥前	SX49	瀬戸・美濃	超丸碗	19世紀前半	欠損	第161図-5	
17	肥前	SX49	肥前	皿	18世紀後半	なし	第162図-7	
18	肥前	SK74	切込	碗	19世紀以降	あり	第162図-3	不明
19	肥前	上越産土	肥前	鉢	17世紀後半～18世紀前半	欠損	第176図-9	
20	大泉内郡	I4001&	肥前	鉢	17世紀以降	なし	第228図-1	

第18表 焼継のある出土遺物観察表

定されており、桜ヶ岡公園遺跡では、「九千七百九十五 イ七七七十三」、「ト二千五十二」、「め廿一」、「八能二（ハ廿二）」などの記路が認められた。これらの記号は、「イ、ト、め、ハなどの仮名文字による頭文字」+「漢数字」という形式をとっている。また、平成21年度の桜ヶ岡公園遺跡—西公園高架橋・広瀬川橋梁橋台部の調査でも80点以上の焼継ぎ痕のある陶磁器が確認されている。



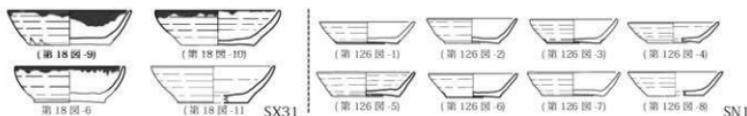
第230図 焼継ぎ痕のある出土遺物

第1節 出土遺物について

5 土師質土器

次に土師質土器について述べる。Ⅲ層上面で検出されたSX31からは17世紀後半の資料とともに土師質土器が出土している。これらの法量を集計すると、平均口径11.8cm、平均底径6.95cm、平均器高3.4cmとなる。Ⅱ層上面ではSN1出土のものが一括性が高く、平均口径8.45cm、平均底径5.1cm、平均器高2.17cmである。また、SX56からも土師質土器が一括で出土しており、こちらは平均口径8.4cm、平均底径4.5cm、平均器高2.14cmを計る。資料数の少なさはいぬないが、Ⅲ層段階とⅡ層段階で口径-底径-器高に変化が認められた。Ⅲ層段階からⅡ層段階にかけて、製品自体は小さくなっている。そのほかの比率を求めたところ、口-底比率（口径に対して底径が占める割合。高いほど口径と底径の差が小さい。）はⅢ層段階で58.9%、Ⅱ層段階で53%および60%となり、また、口-高比率（口径に対して器高が占める割合。高いほど深い器となる。）はⅢ層段階28.8%、Ⅱ層段階で25.6%および25.4%となっている。Ⅲ層段階からⅡ層段階にかけて、わずかに浅くなる傾向が認められる。

また、Ⅱ面SN2地鎮遺構から出土した黒書土師質土器は、口径20.1～21.1cm、底径15～16cm、器高3.4～3.7cm



第231図 SX31・SN1出土の土師質土器

を測る大きなもので、底部「FO」の墨書がある。このような墨書の類例としては豊島区染井遺跡加賀美家地区（豊島区1991）の出土土師質土器が挙げられる。染井遺跡出土例では、口径19cmの2枚を合わせた一組の上に、口径12.5cmの2枚を合わせた一組が配されていた。上下ともに、合わせた2枚の上皿に「上」、下皿に「下」を墨書している。「上」と「下」の造りが異なり、また「下」の字も書き順・形ともに本来の字とは異なる。東京都豊島区染井遺跡の例では、上下の区別のために上、下の字を書いたと推定されるのに対して、当調査の事例では上皿に対して「下」を書いている等、差異が認められる。

武家屋敷という性質上、江戸の習俗に接する機会も多くあったものと思われ、SN1出土の墨書土師質土器は、それらの習俗を部分的に、低い理解のまま取り入れた一例とも考えられる。

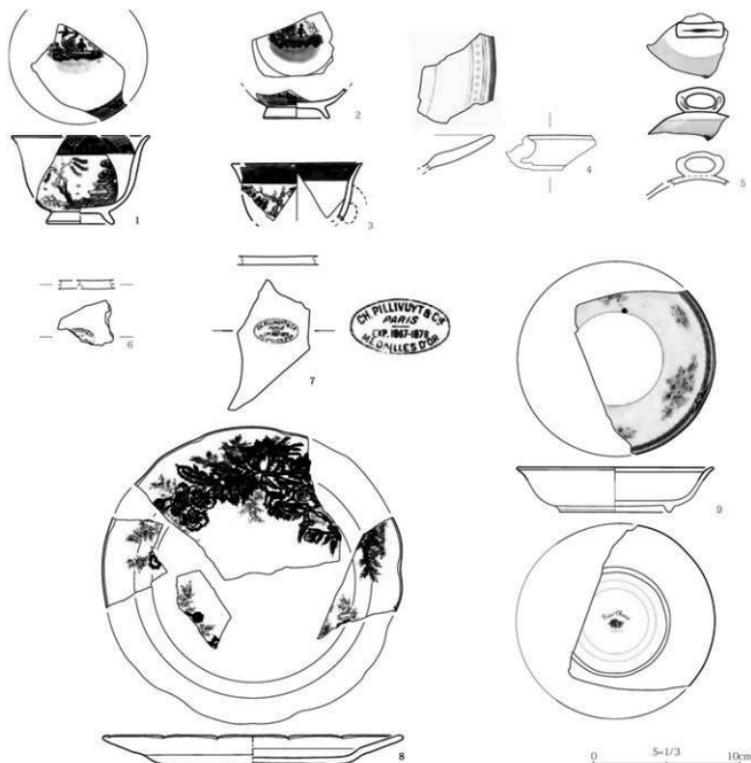


第232図
土師質土器高台「FO」の墨書

6 近・現代資料

最後に近代のやきものについて触れておきたい。桜ヶ岡公園遺跡は明治時代以降、挹翠館、仙台市公会堂などが建てられ、東北産業博覧会の会場としても使用されており、当時としては西洋文化の最先端に触れられる場所であったと考えられる。桜ヶ岡公園遺跡から出土している洋食器は、駒部盛土および交番部盛土より出土している。フランスピリビー社の皿底部、ボンチャイナのカップ、ローズチャイナの皿などが認められる。第233図・6・7はピリビー社（PILLIVUYT）の製品である。同社は1818年創業のフランスの磁器メーカーで、1867年および1878年にパリ万国博覧会で金賞を受賞しており、「PARIS EXP.1867-1878」"MEDAILLES D'OR"の記載は、この記念を記したものである。また、ウィローパターン（柳文様）と呼ばれる絵付け製品が複数出土している。銅版転写を用いる手法は18世紀後半にイギリスからはじまったものだが、1840年以降はオランダ製が主流となる。当遺

跡出土の銅版転写磁器については産地が判別できないものがほとんどだが、オランダ製の可能性が高い。また、第233図-9は“RoseChina JAPAN”の銘があり、太平洋戦争後の復興期にノリタケで製造された製品で、1946年頃の製品と考えられる。戦前の品質にいたらなかったため、Noritakeの文字は使わず、RoseChina という銘を入っていた時期の製品である。



番号	器状	出土遺構	産地	構成	年代	銘の有無	本文図録番号	備考
1	文系部	遺構内	海外	陶	19世紀以降	無	第214図-8	ワイローバターン(継文様)
2	文系部	遺構内	海外	陶	19世紀以降	無	第214図-9	ワイローバターン(継文様)
3	文系部	遺構内	海外	陶	19世紀以降	無	第214図-7	ワイローバターン(継文様)
4	脚部	1層	海外	器	19世紀以降	無	第204図-4	
5	脚部	1層	海外	器	19世紀以降	無	第204図-9	
6	脚部	SD3	内地	器	19世紀以降	有	第205図-4	セリビー社製“PARIS EXP 1867-1878”“MEDAILLES D'OR”の銘
7	脚部	1層	海外	器	19世紀以降	有	第205図-5	セリビー社製“PARIS EXP 1867-1878”“MEDAILLES D'OR”の銘
8	脚部	1層	海外	器	19世紀以降	無	第204図-7	
9	脚部	1層	内地	器	19世紀以降	有	第204図-5	Rose China

第233図 桜ヶ岡公園遺跡出土の洋食器

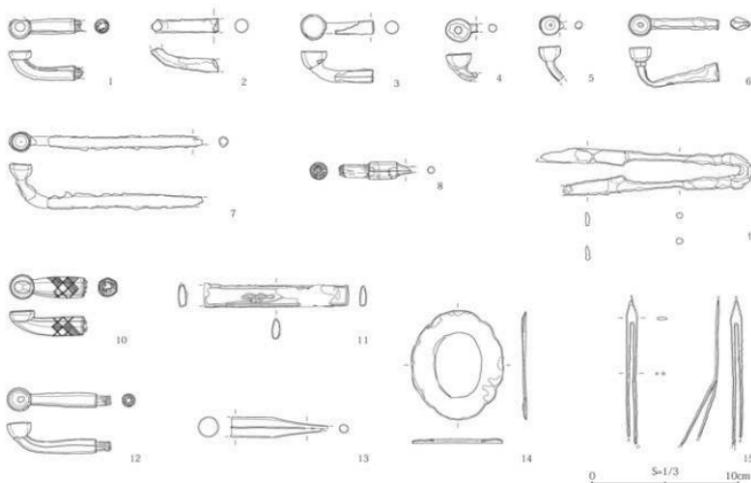
第1節 出土遺物について

7 金属製品

金属製品は大銀杏部 169 点、駅部 1184 点、交番部 9 点の合計 1362 点が出土している。はじめに煙管について記す。抽出した煙管は SK1 (第 234 図-1)、SK2 (第 234 図-2)、SK17 (第 234 図-3)、SK37 (第 234 図-4・5・7)、SX15 (第 234 図-8)、SX49 (第 234 図-10・12)、Ⅱ層盛土 (第 234 図-6)、大銀杏部Ⅱ層盛土 (第 234 図-13) の 11 点である。SK37 (第 234 図-7) は延べ煙管で、他は羅宇煙管である。羅宇部分が残存している製品もみられる (第 234 図-1・8)。

古泉弘氏の分類及び、年代観 (古泉 1987) に則り、当遺跡出土の煙管を分類したい。第 1 段階にあたるものは第 234 図-5 (SK37)、第 234 図-6 (Ⅱ層盛土) がある。また、第 234 図-4 (SK37) も古い時期に位置づけられる。また、肩の状態により第 234 図-8 (SX15) 出土例も 18 世紀前半以前のもので推定される。また、18 世紀後半以降の製品としては第 234 図-1 (SK1)、第 234 図-7 (SK37: 延べ煙管)、第 234 図-10 (SX49)、第 234 図-13 (大銀杏部Ⅱ層盛土) 出土例がある。

そのほかの金属製品は、鉄 (第 234 図-9: Ⅲ層盛土)、襷金具と思われる製品 (第 234 図-14: SK37)、簪 (第 234 図-15: SX49)、小柄 (第 234 図-11: Ⅱ層盛土) がある。第 234 図-14 は襷の引き手部分の部品と思われる。この製品については X 線撮影の結果、象嵌などの装飾は施されず、無紋であることが判明している。第 234 図-11 の小柄は柄の部分に松の陽刻が施されている。



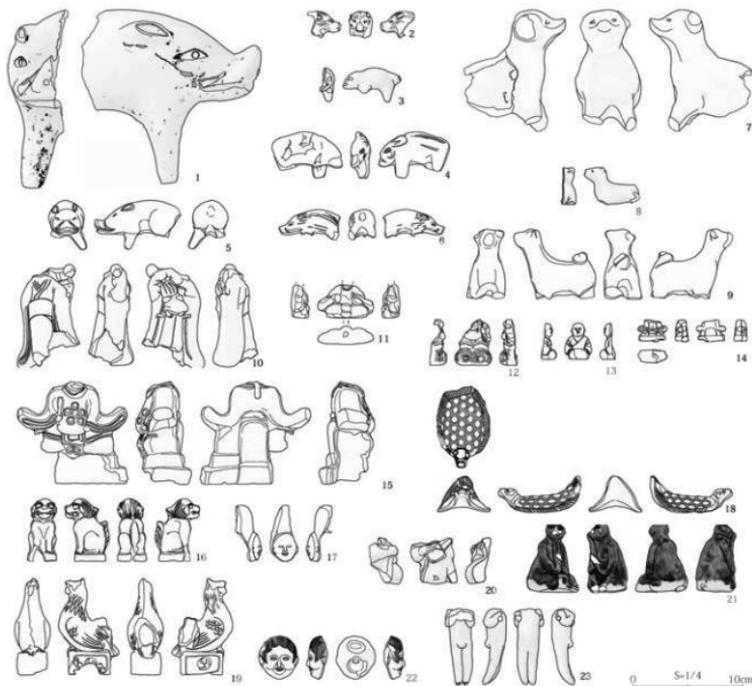
番号	地区	出土遺物	本文図番番号	備考
1	駅部	SK1	第 77 図-6	煙管 (羅宇)
2	駅部	SK2	第 78 図-1	煙管 (羅宇)
3	駅部	SK17	第 90 図-2	煙管 (羅宇)
4	駅部	SK37	第 107 図-2	煙管 (羅宇)
5	駅部	SK37	第 107 図-3	煙管 (羅宇)
6	駅部	Ⅱ層	第 179 図-5	煙管 (羅宇)
7	駅部	SK37	第 107 図-4	煙管
8	駅部	SX15	第 139 図-2	煙管 (羅宇・残口)

番号	地区	出土遺物	本文図番番号	備考
9	駅部	Ⅲ層	第 68 図-1	鉄
10	駅部	SX49	第 164 図-2	煙管 (羅宇)
11	駅部	Ⅱ層	第 179 図-4	刀子 (小柄)
12	駅部	SX49	第 164 図-1	煙管 (羅宇)
13	大銀杏部	Ⅱ層	第 226 図-3	煙管
14	駅部	SK37	第 107 図-1	襷金具
15	駅部	SX49	第 164 図-3	簪

第 234 図 桜ヶ岡公園遺跡出土の金属製品

8 土製品

土製品は大銀杏部 21 点、駅部 42 点の合計 63 点が出土している。猪、犬の出土が比較的多く、ついで土人形が目立つ。珍しいところでは西(第 235 図-19)、狛犬(第 235 図-16)、鬚亀(第 235 図-18)なども見られる。大型の猪型土製品(第 235 図-1)は顔の表現など細かく描出されている。猪は多産の象徴であり、犬は子供の守り神とされる。土製品の出土例は I 層および II 層に集中しており、江戸時代後半期にこれらの玩具類・お守りの種類が増加していると考えられる。



番号	地区	出土遺構	所在地	本文図版番号	形
1	駅部	SK75	在池	第 119 図-2	猪
2	駅部	I 層	在池	第 207 図-5	猪
3	駅部	I 層	在池	第 207 図-6	猪
4	駅部	I 層	在池	第 207 図-8	猪
5	駅部	SD3	在池	第 72 図-14	猪
6	駅部	II 層	在池	第 68 図-2	猪
7	大銀杏内部	II 層	在池	第 226 図-1	犬
8	大銀杏内部	II 層	在池	第 225 図-2	犬
9	駅部	SD2	在池	第 187 図-5	犬
10	大銀杏内部	II 層	在池	第 225 図-7	子守
11	大銀杏内部	II 層	在池	第 225 図-3	天狗
12	大銀杏内部	II 層	在池	第 225 図-5	大黒天

番号	地区	出土遺構	所在地	本文図版番号	形
13	大銀杏内部	II 層	在池	第 225 図-6	小僧
14	駅部	SK69	在池	第 163 図-1,2	天狗
15	駅部	SD15	在池	第 180 図-2	天狗
16	大銀杏内部	II 層	在池	第 224 図-8	狛犬
17	駅部	I 層	在池	第 207 図-7	—
18	駅部	I 層	在池	第 208 図-2	鬚亀
19	大銀杏内部	II 層	在池	第 225 図-8	熊
20	駅部	II 層	在池	第 179 図-8	二神御守
21	大銀杏内部	II 層	在池	第 226 図-2	熊
22	大銀杏内部	II 層	在池	第 225 図-4	熊
23	駅部	II 層	在池	第 179 図-7	猫

第 235 図 桜ヶ岡公園遺跡出土の土製品

第2節 検出遺構について

9 古銭

Ⅲ層盛土から出土した古銭は北宋銭7点、明銭1点である。Ⅲ層では寛永通宝が認められず、17世紀前半以前の流通様式を示しているようである。Ⅱ層では、SK3、SK12、SK17、SN1、SX15、SX26、SX49、SX56及び盛土中から出土しており、寛永通宝24枚、明銭4枚、北宋銭8枚、合計36枚がある。SN1からは比較的多くの古銭が一括で出土している。北宋銭は含まれず、古寛永9枚、新寛永古段階1枚が確認できる。Ⅰ層ではSD2、SD15及び盛土中から出土しており、北宋銭は出土しておらず、すべて寛永通宝が占めている。Ⅲ層は北宋銭のみの時期、Ⅱ層は北宋銭と寛永通宝の過渡期、Ⅰ層は寛永通宝の流通がすべてを占める時期とみられる。

10 出土遺物のまとめ

以上、桜ヶ岡公園遺跡の出土遺物について述べてきたが、近世の出土陶磁器の様相は周辺の武家屋敷と大きな差はなく、出土傾向も生産地と消費地の関係性を反映しているものと思われる。また、近代以降については、梶翠齋（かきいさむら）や仙台市公会堂があった土地の性格から、複数の洋食器が出土し、なおかつ舶来品が多く認められるところに特徴が見られた。

第2節 検出遺構について

今回の調査では、近世～近代の遺構が検出された。ここでは、これらの遺構群の変遷から、土地利用の実態について整理をしておきたい。

1 近世の遺構

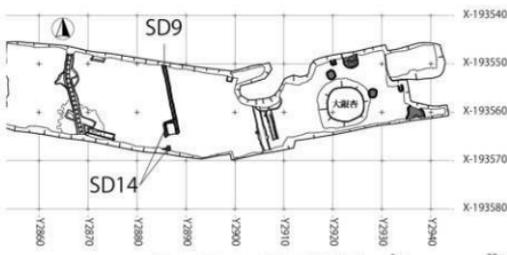
近世の遺構面はⅣa層上面、Ⅲa層上面、Ⅱ層上面の3面が検出されており、各遺構検出面から出土した遺物（主に陶磁器）の生産年代によって、以下のように時期区分することができる。（第19表）

時期区分	年代	遺構検出面	特徴的な遺構
I期	17世紀初頭～17世紀中頃	Ⅳa層上面	SD4・SD14・SX31
II期（武家屋敷前半）	17世紀中頃～18世紀中頃	Ⅲa層上面	SB2・SB3・SB4・SB5・SB6
III期（武家屋敷後半）	18世紀中頃～19世紀初頭	Ⅱ層上面	SD4・SD6

第19表 桜ヶ岡公園遺跡の時期区分表

(1) I期（第236図）

検出した遺構は、溝跡2条と性格不明遺構6基である。検出時の確認面の観察所見から、SD9、SD14の周辺及び、性格不明遺構が集中して分布する範囲には、樹木の抜根跡と考えられる凹凸が多く観察された。一方、Ⅳa層上面の遺構は、上位の生活面であるⅢa層から掘り込まれたものではなく、樹木（抜根跡）の



第236図 Ⅳa層上面検出遺構

間に掘り込んだ遺構、もしくは、土層観察からは確認されていないが、この抜根跡を埋め整地したⅢ層とⅣa層の間のもう一枚の生活面から掘り込まれた可能性もある。溝跡（SD9・SD14）の機能に関しては不明な点が多いが、

主軸方向は仙台城普請に伴う、片平丁の町割区画の方位とほぼ、一致している。これは屋敷内の施設も町割区画に沿って造成された可能性が考えられる。なお、後述するⅡ期の掘立柱建物、Ⅲ期の石組溝等の遺構の配置や方位もこれと同様である。SX31からは多量の土師質土器と少量の水晶片片が出土しており、なんらかの祭祀が行われた可能性を示唆するが、他の性格不明遺構の機能は明確にはできなかった。

(2) Ⅱ期 (第237図)

Ⅲa層上面で検出された遺構は柱列跡1条、掘立柱建物跡5棟、溝2条、土坑18基、性格不明遺構7基である。これらはいずれも、武家屋敷の家屋、施設の一部と考えられる。以下、各遺構の新旧関係、配置関係の性格について述べる。

遺構名	柱穴の平均径 (cm)	柱穴の平均深度 (cm)	検出した規模 (m×m)
SB2	76	45	(17.5) × (8.7)
SB3	44	14	1.8 × (3.8)
SB4	65	54	4.7 × (17.5)
SB5	53	46	(5.7) × (12)
SB6	43	40	3.9 × (12.5)

第20表 掘立柱建物跡の規模 ()は調査区内で確認できた寸法で、全体の規模は不明

1) 掘立柱建物と柱列

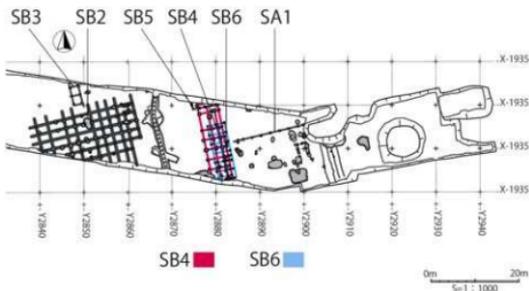
SB4、SB6、SA1の新旧関係と配置関係については、相互に柱穴の切り合いがなく不明であるが、SB4とSB6は建物跡の大部分が重複し、SA1も上記2棟と接近しすぎているため、同時存在は考えられない。しかし、SB4とSB6は主軸方向、位置関係から、どちらかが立替棟と考えられる。従って、建物跡の組み合わせは西側のSB2とSB3、東側のSB4とSB5、もしくはSB5とSB6及び、区画内に建物跡は見つけられなかったが、SA1に区画される調査区中央部の3組を想定することができる。

2) SB2とSB3

まず、SB2とSB3相互の主軸が直直し、近接するSB2とSB3は同一屋敷地内の建物跡であり、東西棟のSB2は確認された規模と東柱を有することなどから、母屋と考えられ、北側にあるSB3は小規模、側柱構造という点から、SB2に付随する納屋等のような施設と考えられる。

3) SB4、SB5、SB6

SB4とSB5は両者とも東西2間、南北6間以上で総柱構造に近く、両者の規模の比較から、拡大、縮小に伴う建て替の景観変化を想定することができる。また、その北側に隣接するSB5はSB4、SB6に伴う建物跡と考えられる。SA1に区画される範囲は、当該遺構の北側か南側に想定される。前述したように、ここには、建物跡と認定



第237図 Ⅲa層上面検出遺構

した遺構は見られないが、SK63及びSK67は、布屋構造の柱跡である可能性を考慮することができる。

他に留意すべき遺構はSX37、SX61などの瓦や礫を多量に堆積土内を含む遺構であり、重量のある上屋をもつ建物の柱の沈下を防ぐための基礎の可能性も考えられる。

第2節 検出遺構について

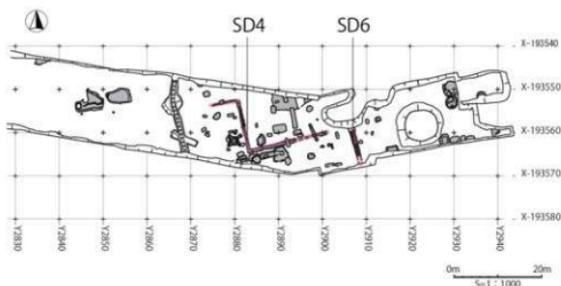
(3) III期(第238図)

II層上面で検出した遺構は、溝跡3条、土坑39基、祭祀遺構2基、性格不明遺構25基である。以上、上記の遺構のうち留意すべきいくつかの遺構について述べる。溝跡はクランク状に屈折走行するSD4と南北方向に直線的に走行するSD6の2条の石組溝である。これはIII期(武家屋敷後半)の武家屋敷の配置と境界を考える上で重要な要素となりうる。

SD4は機能時においては石組を両岸に備えた区画溝であったと考えられる。この石組は削平され、総延長の8パーセントのみの検出にとどまっている。18世紀以降に描かれた多くの絵図には、これにあたるクランク状の境界線は描かれておらず、武家屋敷の土地面積から考慮しても、屋敷境ではなく、屋敷地内の内部区画のために使用されたものと推定される。

建物の基礎跡と考えられるのはSD3b、SX10、SX12、SX14である。SD3はSD3a、3bと分けたが、南側のSD3bの底面に十字の木組跡が出土したことから、建物の基礎跡の可能性を考えた。SX10は樹木の抜根跡を部分的に生め、X字部の端部に比較的大きい自然礫を突き込み、基礎として利用した可能性がある。SX12、SX14についても、小～中程度の多量の自然礫を上層に含むことから、同様の機能を想定し得る。祭祀遺構SN1は8枚の土師質土器小皿と十枚の寛永通宝の埋納が行われた跡である。土師質土器は2枚一組の合わせ口にされていた。SN2は土師質土器大皿が4枚出土し、これも2枚一組で合わせ口状にされ、周囲から水晶片が2片出土している。SN1と同様に、近世後半の祭祀跡の事例として興味深い成果といえる。

II期の検出面については、II層(盛土)に覆われている箇所が見られる。このII層上面においては掘立柱建物跡は検出されていない。これは、礎石建物が建てられるようになったことが原因の一つと考えられるが、II層上面は攪乱で削平されている箇所が多く、礎石建物の存在を窺わせるような遺構は検出されなかった。



第238図 II層上面検出遺構

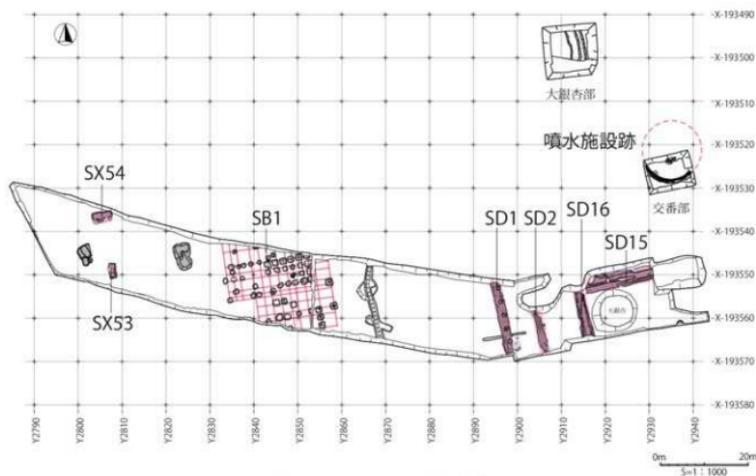
2 近代の遺構 (第 239 図)

近代(明治時代～戦前)の遺構は1b層上面で、建物跡1棟、溝跡4条、土坑6基、建性格不明遺構4基、噴水施設跡を検出した。溝跡はいずれも石組溝で、建物跡は挹翠館跡と考えられる。また、SX54は出土状況から近代の厨房施設と考えられる。

石組溝(SD1・SD2・SD15・SD16)、挹翠館跡(SB1)はいずれも近世の建物跡・溝と縦横の軸線方向が一致している。これは近世からの町割り区画が、近代の土地利用に対しても、なんらかの規制を与えていたということが考えられる。挹翠館跡(SB1)と厨房施設(SX54)の間隔は直線距離にして約30mを測り、また、周辺は現代建物基礎による削平が著しく、遺構の検出状況からは二つの遺構の関係を述べることは難しい。しかし、挹翠館は和洋料亭といったこともあり、当然、厨房施設も完備していたと考えられる。また、SX54以外に挹翠館の厨房施設と考えられる遺構が検出していないことや、SX54が4基ものカマドを備える遺構という状況から、この二つの遺構に何らかの関係性があったものと考えられる。

石組溝であるSD15とSD16は大銀杏を意識し、これを囲むように造成されている。当時の公園内における役割などは不明である。

いずれの遺構も、近代の桜ヶ岡公園を考えるうえで貴重な資料といえる。



第 239 図 | b 層上面検出遺構

第7章 まとめ

1. 桜ヶ岡公園遺跡は広瀬川左岸に形成された河岸段丘(仙台中町面)上に立地している。標高は43～45mである。
2. 本調査は、仙台市高速鉄道東西線建設に伴い、平成19年5月10日～平成20年7月17日に行われた。調査面積は2,282㎡である。
3. 調査区は仙台城の広瀬川を挟んだ東側に位置しており、近世を主な時期として遺構・遺物が検出された。また、近代以降の遺構も調査対象としている。
4. 駅部調査区では柱穴列跡1条、掘立柱建物跡5棟、溝跡16条、土坑84基、性格不明遺構63基、祭祀遺構2基が確認され、遺構総数は171基である。
5. 大銀杏部調査区では遺構は検出はされなかったが、基本層中より大量の17～19世紀陶磁器が出土した。
6. 交番部調査区では戦前の桜ヶ岡公園の施設であった噴水の水盤の一部が検出された。噴水施設の下層から井戸跡(SE1)を1基検出した。
7. 近世の遺構は出土遺物によりⅠ期、Ⅱ期(武家屋敷前半)、Ⅲ期(武家屋敷後半)と、3時期に区分される。Ⅰ期は17世紀初頭でⅣa層上面、Ⅱ期は17世紀中頃～18世紀中頃でⅢa層上面、Ⅲ期は18世紀中頃～19世紀初頭でⅡ層上面にそれぞれ相当する。近代の遺構はⅠb層上面で検出した。
8. 検出された主要な遺構と様相は、以下のとおりである。
 - Ⅰ期：溝跡と性格不明遺構を検出した。武家屋敷造成以前の記録は残されておらず、詳細は不明であるが、検出した溝跡(SD9・SD14)ともに、走行方向が、後世の区割りと一致する。遺物は唐津・瀬戸・美濃、岸、土師質土器が出土している。
 - Ⅱ期：武家屋敷の一部と考えられる5棟の掘立柱建物跡が5棟(SB2・SB3・SB4・SB5・SB6)検出されている。遺物は肥前磁器、唐津・瀬戸・美濃、土師質土器等が出土している。なお、この時期における当該地の居住者は片倉小十郎、津田民部と考えられる。
 - Ⅲ期：区画溝と考えられる石組溝(SD4)が検出された。この時期では、盛土をはじめとする大規模な土木工事が行われて、建物は礎石建物になるものと推測される。遺物は磁器、陶器ともに生活雑器が主体で、磁器は肥前から瀬戸・美濃への変遷がみられ、陶器は埴焼、小野相馬、大塚相馬焼などがみられる。幕末には古内左近介、大内縫殿が居住しているものと考えられる。
- 近代：抱家館(SB1)、石組溝(SD1・SD2・SD15・SD16)等が検出された。出土遺物はヨーロッパ産の磁器(フランスのビロビィ)等が見られる。明治時代以降、当該地は桜ヶ岡公園として利用された。
9. 出土遺物の総数は41356点である。遺物は、縄文土器片、丸瓦・軒丸瓦、平瓦・軒平瓦、その他の瓦、陶器、瓦質土器、土師質土器、磁器、石製品、金属製品、土製品等がみられた。Ⅰ期において磁器は肥前のみで、陶器は志野、織部、岸、肥前(唐津を含む)、瀬戸・美濃等がみられる。Ⅱ期においても磁器は肥前のみで、陶器は織部、岸、肥前(唐津を含む)、瀬戸・美濃、京等がみられる。Ⅲ期において磁器は肥前に加えて、瀬戸・美濃、切込等もみられる。陶器は大塚相馬、小野相馬、埴、在地産と見られる播磨、植木鉢なども確認した。また、海外で生産された磁器も少量であるが出土した。
10. 桜ヶ岡公園遺跡は17～19世紀の遺構や遺物が検出され、遺物の年代、検出面から4時期に区分することができた。検出した主要な遺構は、近世～近代を通して、いずれも同軸方向に配置されている。これは、近世の屋敷地開発時の区割り、および地形に大きく影響をうけているものと考えられる。また、近世の掘立柱建物、近代の抱家館の検出により、当該地の土地利用のおおよそその変遷が概観できた。

引用・参考文献

- 井上喜久男 1992 『尾張陶磁』 ニュー・サイエンス社
- 江戸遺跡研究会編 2001 『国説 江戸考古研究事典』 柏書房
- 大橋康二 1994 『古伊万里の文様 初期肥前磁器を中心に』 理工学社
- 大橋康二 編 2009 『そば猪口大辞典』 講談社
- 大橋康二・西田宏子監修 1988 『古伊万里』 平凡社
- 大橋康二構成 2002 『そば猪口事典』 平凡社
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』
- 九州近世陶磁学会 2002 『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通を探る 第1分冊』
- 九州近世陶磁学会 2002 『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通を探る 第2分冊』
- 古賀隆 1974 『切込焼』 雄山閣
- 坂田啓編 1995 『私本仙台藩土事典』 創栄出版
- 佐藤巧 1979 『近世武家住宅』 葦文社
- 汐留地区遺跡調査会 1996 『汐留遺跡』
- 芹沢長介ほか編 1981 『日本やきもの集成1 北海道 東北 関東』 平凡社
- 仙台市教育委員会 1985 『仙台城三ノ丸跡』 仙台市文化財調査報告書第76集
- 仙台市教育委員会 1986 『柳生』 仙台市文化財調査報告書第95集
- 仙台市教育委員会 1997 『養種園遺跡』 仙台市文化財調査報告書第214集
- 仙台市教育委員会 2000 『沼向遺跡第1～3次調査』 仙台市文化財調査報告書第241集
- 仙台市教育委員会 2002 『仙台城跡1 一平成13年度調査報告書一』 仙台市文化財調査報告書第259集
- 仙台市教育委員会 2003 『仙台城跡2 一平成14年度調査報告書一』 仙台市文化財調査報告書第264集
- 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡3 一平成15年度調査報告書一』 仙台市文化財調査報告書第270集
- 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡4 一平成15年度調査報告書一』 仙台市文化財調査報告書第271集
- 仙台市教育委員会 2005 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書』 仙台市文化財調査報告書第289集
- 仙台市教育委員会 2006 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書』 仙台市文化財調査報告書第302集
- 仙台市教育委員会 2007a 『川内A遺跡 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査1』 仙台市文化財調査報告書第312集
- 仙台市教育委員会 2007b 『桜ヶ岡公園遺跡-第2次調査報告書-』 仙台市文化財調査報告書第318集
- 仙台市教育委員会 2008 『桜ヶ岡公園遺跡-第3次調査報告書-』 仙台市文化財調査報告書第335集
- 仙台市教育委員会 2009 『仙台城跡 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査II』 仙台市文化財調査報告書第342集
- 仙台市教育委員会 2010 『桜ヶ岡公園遺跡-第4次調査報告書-』 仙台市文化財調査報告書第378集
- 仙台市史編さん委員会 1994 『仙台市史 特別編1 自然』
- 仙台市史編さん委員会 1995 『仙台市史 特別編2 考古資料』
- 仙台市史編さん委員会 2004 『仙台市史 通史編5 近世3』
- 高倉淳ほか編 1994 『絵図・地図で見る仙台第一輯』 今野印刷株式会社
- 高倉淳ほか編 2005 『絵図・地図で見る仙台第二輯』 今野印刷株式会社
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1993 『東北大学埋蔵文化財調査年報6』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報7』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大学埋蔵文化財調査年報8』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大学埋蔵文化財調査年報13』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2005 『東北大学埋蔵文化財調査年報18』
- 豊島区教育委員会 1991 『染井皿ー東京都豊島区・染井遺跡(加賀美家地区)発掘調査の記録』
- 兵庫埋蔵財調査会 1996 『日本出土銭総覧』
- 松本秀明・熊谷真樹 2010 『広瀬川中流部における完新世の河床高度変化に関する知見』
東北地理学会・北海道地理学会共催秋季学術大会発表要旨 『季刊地理学 Vol.63』
- 溝岡忠成ほか編 1981 『日本やきもの集成6 近畿(II)』 平凡社
- 宮城正俊 1982 『新説切込焼』 宝文堂
- 宮城姓氏家系大辞典編纂委員会 1994 『宮城姓氏家系大辞典』 角川書店
- 宮崎町文化財調査報告書第3集 1990 『切込遺跡』 宮城県文化財保護協会

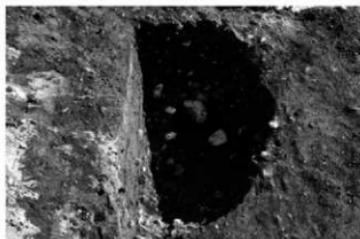
写真図版



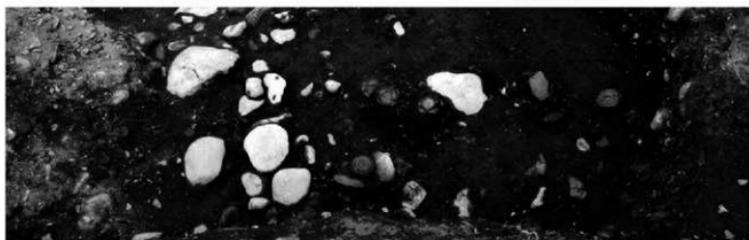
1.5D9 発掘 (北から)



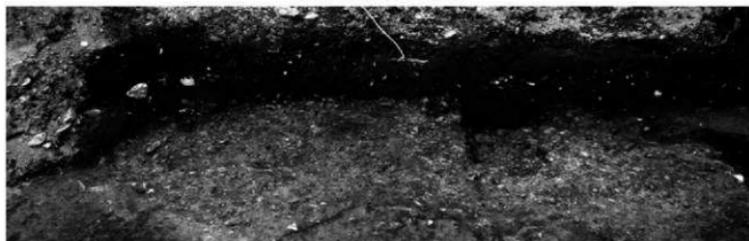
2.5D14 発掘 (北から)



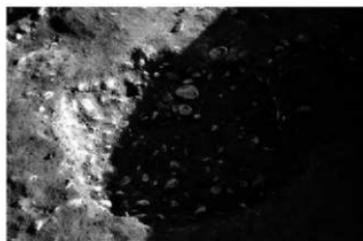
3.5X29 発掘 (西から)



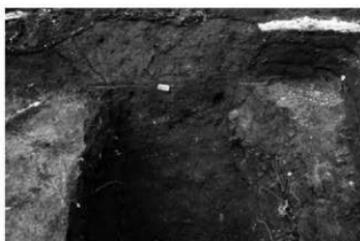
4.5X31 遺物出土状況 (西から)



5.5X32 発掘 (南から)



1.5X33 発掘 (南から)



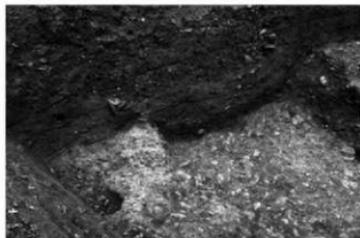
2.5X50 発掘 (南から)



3.5X51 発掘 (東から)



4.5X51 断面 (西から)



4.5X51 断面 (南から)



1.5A1 発掘 (北から)



2.5B2・5B3 発掘 (東から)



1.584・586 発掘 (北東から)

図版4 駅部Ⅲ層上面(2)



1SD10 完掘 (西から)



2SD10 断面 (西から)



3SD12 完掘 (西から)



4SD12 断面 (西から)



5SK48 完掘 (西から)



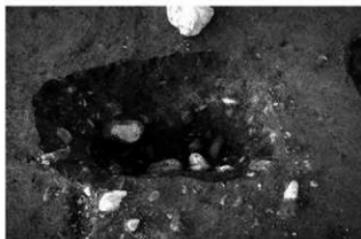
6SK48 遺物出土状況 (西から)



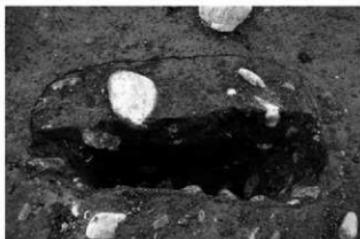
1.SK54 調査状況 (西から)



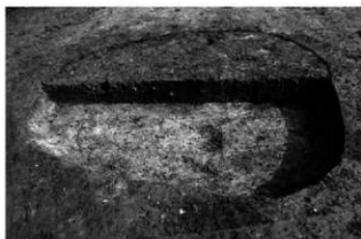
2.SK55 発掘 (西から)



3.SK56 発掘 (南から)



4.SK56 断面 (南から)



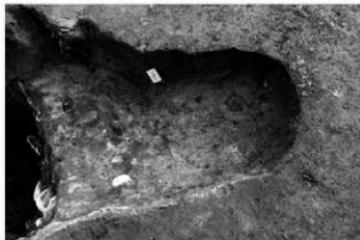
5.SK58 調査状況 (西から)



6.SK59 調査状況 (東から)



7.SK60 調査状況 (東から)



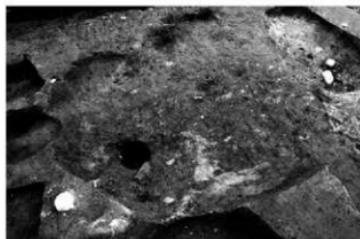
8.SK62 発掘 (北から)



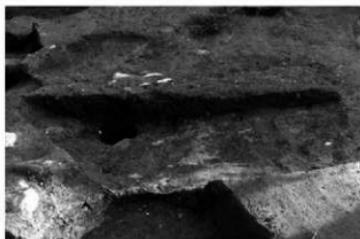
1.SK63 調査状況 (南西から)



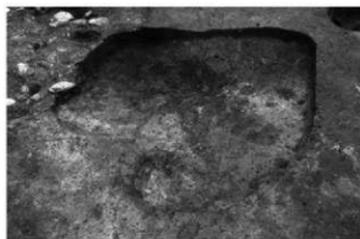
2.SK63 断面 (南から)



3.SK65 調査状況 (北から)



4.SK65 断面 (北から)



5.SK66 完掘 (北から)



6.SK66 断面 (北から)



7.SK68 完掘 (西から)



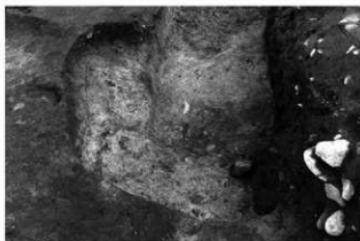
8.SK68 断面 (西から)



1.SK67 調査状況 (南から)



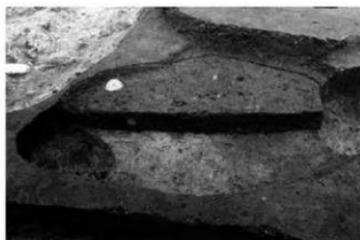
2.SK67 断面 (南から)



3.SK69 調査状況 (西から)



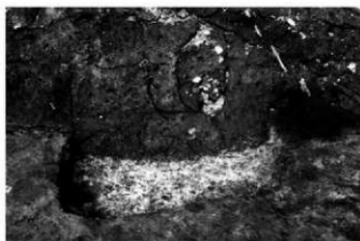
4.SK70 調査状況 (南から)



5.SK71 調査状況 (南から)



6.SK72 調査状況 (西から)



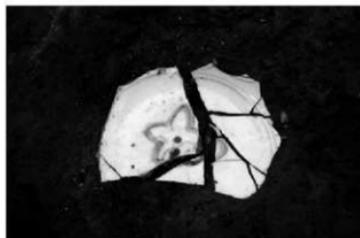
7.SK73 調査状況 (南から)



1.SX22 調査状況 (北西から)



2.SX22 断面 (東から)



3.SX22 遺物出土状況 (南から)



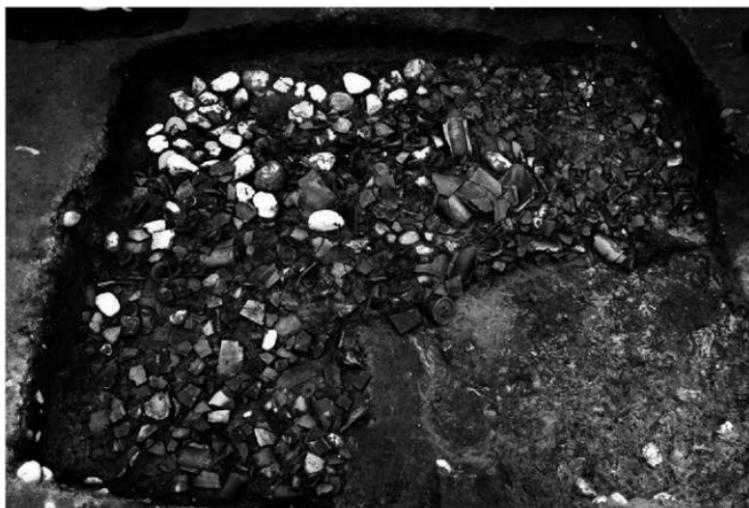
4.SX22 遺物出土状況 (南から)



1.SX23 調査状況 (東から)



2.SX34 調査状況 (南から)



3.SX37 遺物出土状況 (南から)



4.SX37 堆積状況 (南から)



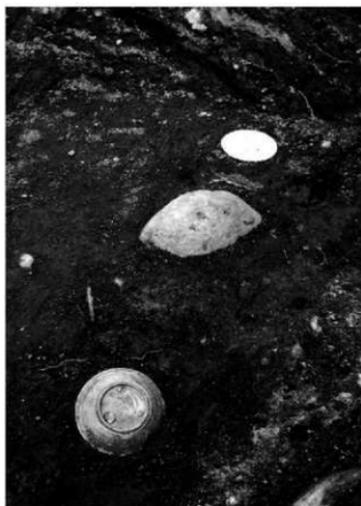
1.5X61 調査状況 (東から)



2.5X62 発掘 (南から)



3.5X63 発掘 (北から)



4.5X63 遺物出土状況 (東から)



5.5X63 断面 (東から)



6.5X63 遺物出土状況 (東から)



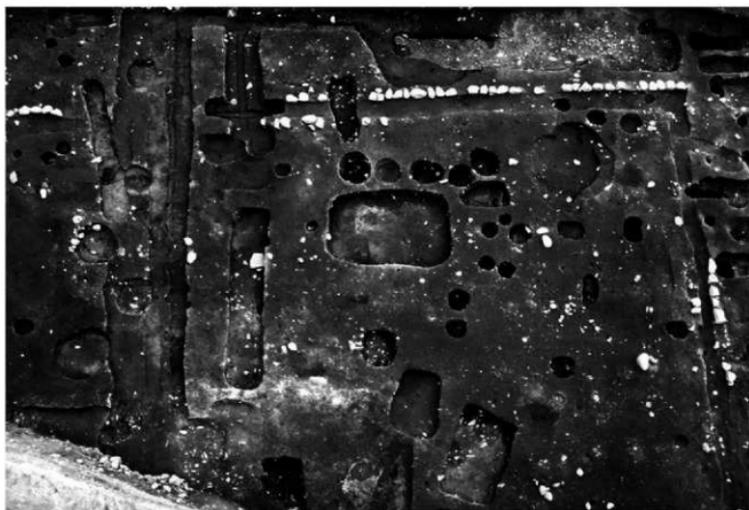
1.SD3 北側完掘 (南から)



2.SD3 南側完掘 (南から)



3.SD3 木材検出 (北から)



1.SD3・SD4 完掘 (北から)



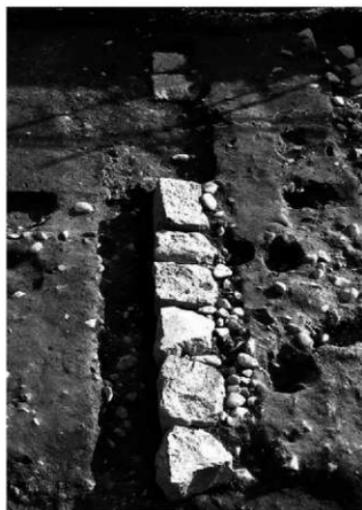
2.SD4 石組棟出 (南から)



3.SD4 断面 (南から)



4.SD4 断面 (東から)



1.SD6 完備 (北から)



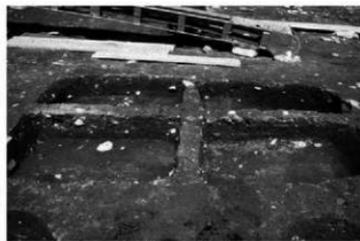
2.SD6 断面 (南から)



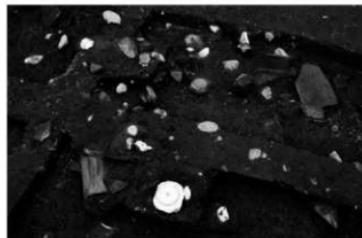
3.SD6 石組 (東から)



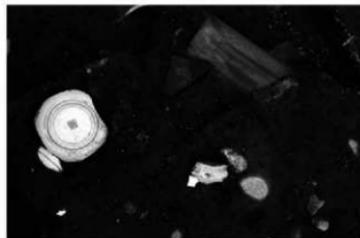
4.SK1 完備 (南から)



5.SK1 断面 (南から)



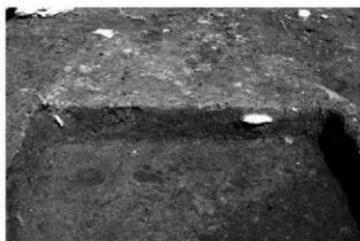
6.SK1 遺物出土状況 (南から)



7.SK1 遺物出土状況 (北から)



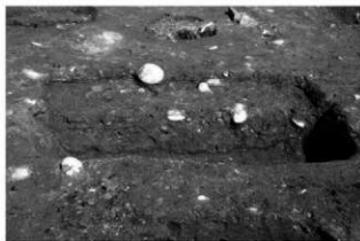
1.SK2 完備 (南から)



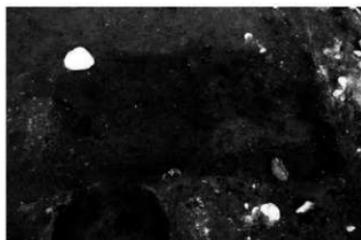
2.SK2 断面 (南から)



3.SK3 完備 (南から)



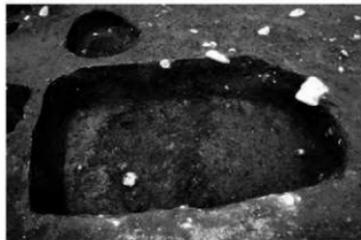
4.SK3 断面 (南から)



5.SK4 完備 (南から)



6.SK4 断面 (南から)



7.SK5 完備 (北から)



8.SK5 断面 (北から)

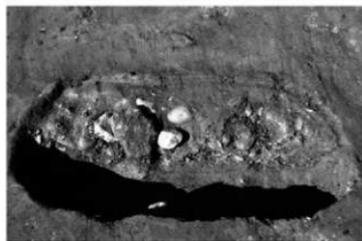
図版 15 駅部II層上面(4)



1SK6 完掘 (南から)



2SK7 完掘 (南から)



3SK7 断面 (南から)



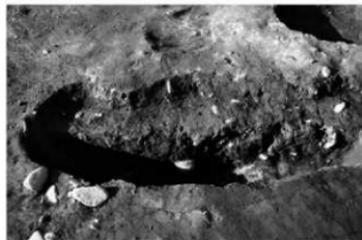
4SK9 完掘 (西から)



5SK9 断面 (西から)



6SK10 完掘 (南から)



7SK10 断面 (南から)



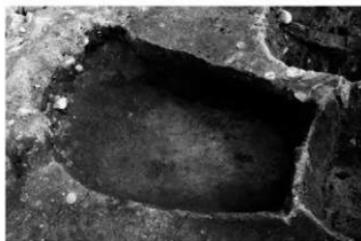
8SK11 完掘 (南から)



1.SK12 完照 (西から)



2.SK12 断面 (南から)



3.SK14 完照 (南から)



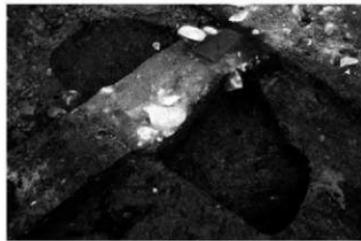
4.SK14 断面 (南から)



5.SK15 完照 (北から)



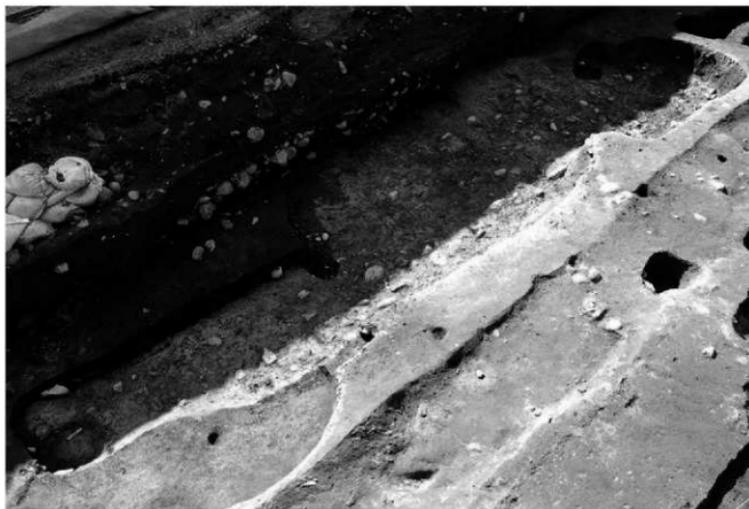
6.SK15 断面 (南東から)



7.SK18 完照 (北西から)



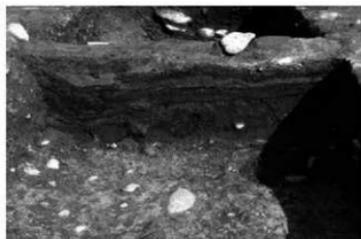
8.SK18 断面 (西から)



1.SK17 完掘 (南西から)



2.SK17・SK18 断面 (東から)



3.SK17 断面 (東から)



4.SK19 完掘 (南から)



5.SK19 断面 (西から)



1.SK22 完照 (西から)



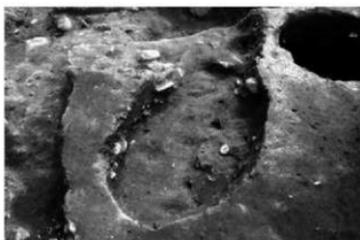
2.SK22 断面 (西から)



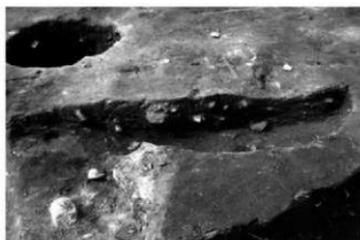
3.SK23 完照 (南から)



4.SK23 断面 (南から)



5.SK25 完照 (北から)



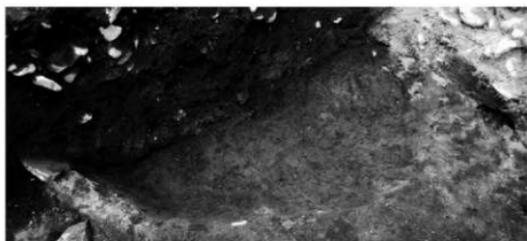
6.SK25 断面 (東から)



7.SK27 完照 (南東から)



8.SK27 断面 (西から)



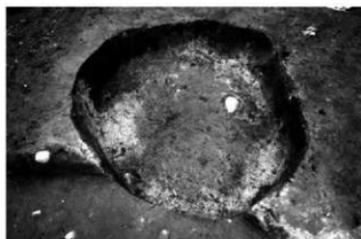
1.5K28 完掘 (南から)



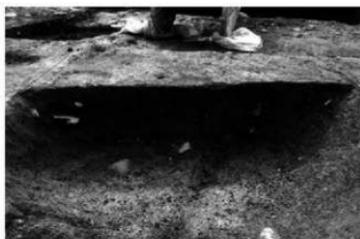
2.5K30 完掘 (北から)



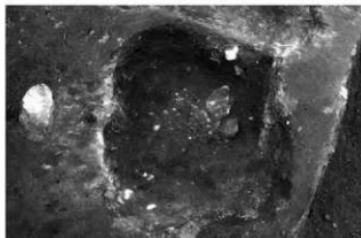
3.5K30 断面 (西から)



4.5K31 完掘 (南から)



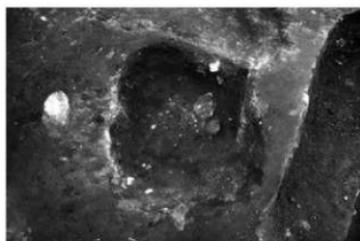
5.5K31 断面 (南西から)



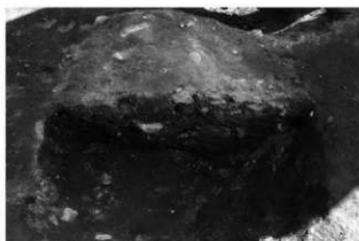
6.5K32 完掘 (東から)



7.5K32 断面 (東から)



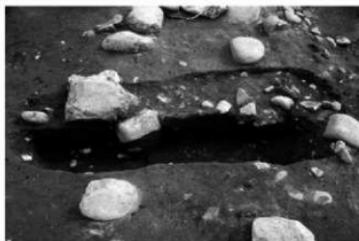
1.5K33 完掘 (東から)



2.5K33 断面 (東から)



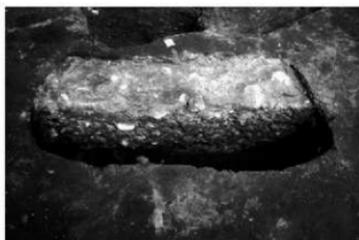
3.5K34 完掘 (北から)



4.5K34 断面 (東から)



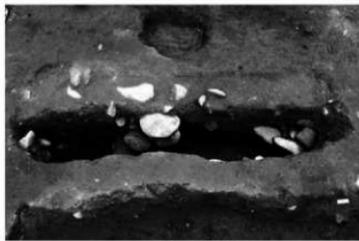
5.5K35 完掘 (東から)



6.5K35 断面 (北から)



7.5K36 完掘 (東から)



8.5K36 断面 (北から)



1.SK37 完掘 (南から)



2.SK37 断面 (西から)



3.SK37 断面 (南から)



4.SK37 遺物出土状況



1.5K40 完掘 (東から)



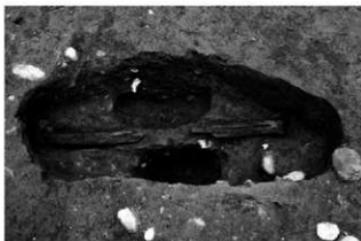
2.5K40 断面 (東から)



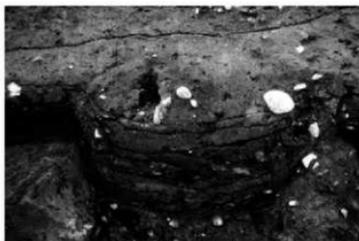
3.5K46 完掘 (西から)



4.5K46 断面 (西から)



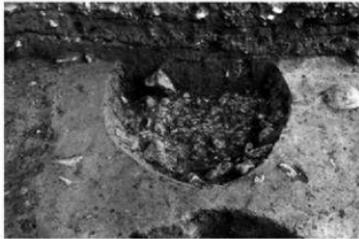
5.5K47 完掘 (東から)



6.5K50 断面 (北から)



7.5K51 完掘 (南から)



8.5K52 完掘 (南から)



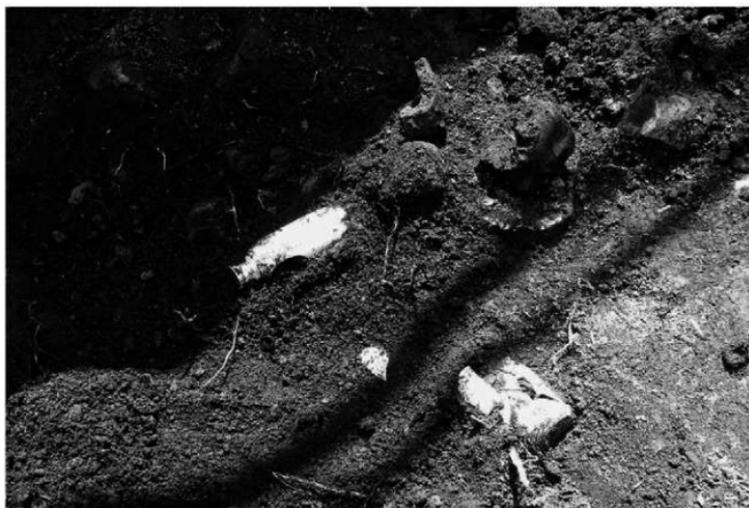
1.SK75 完掘 (北から)



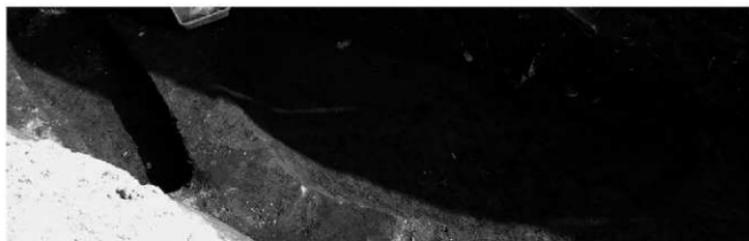
2.SK76 完掘 (北から)



1.5K77 完備 (東から)



2.5K77 横出・遺物出土状況 (北から)



1.5K78 完掘 (北から)



2.5N1 遺物出土状況 (南から)



3.5N1 遺物出土状況 (南から)



4.5N1 遺物出土状況 (南から)



1.SN2 遺物出土状況(東から)



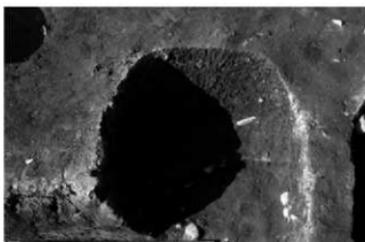
2.SN2 遺物出土状況(東から)



1.5X2 穴掘 (北から)



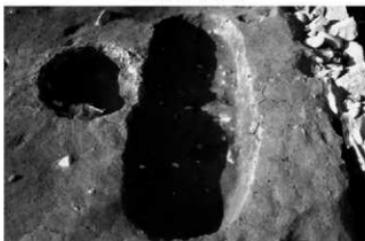
2.5X4 穴掘 (南から)



3.5X5 穴掘 (南から)



4.5X6 穴掘 (南から)



5.5X7 穴掘 (南から)



1.5X9 先掘 (西から)



2.5X9 断面 (東から)



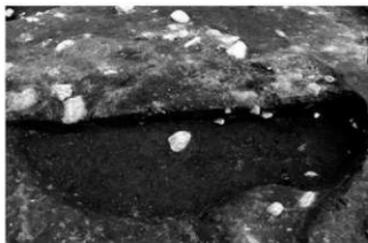
3.5X10 先掘 (南西から)



4.5X10 調査状況 (南東から)



5.5X10 断面 (南から)



1.5X12 調査状況 (西から)



2.5X12 調査状況 (南から)



3.5X14 調査状況 (南から)



4.5X14 調査状況 (北から)



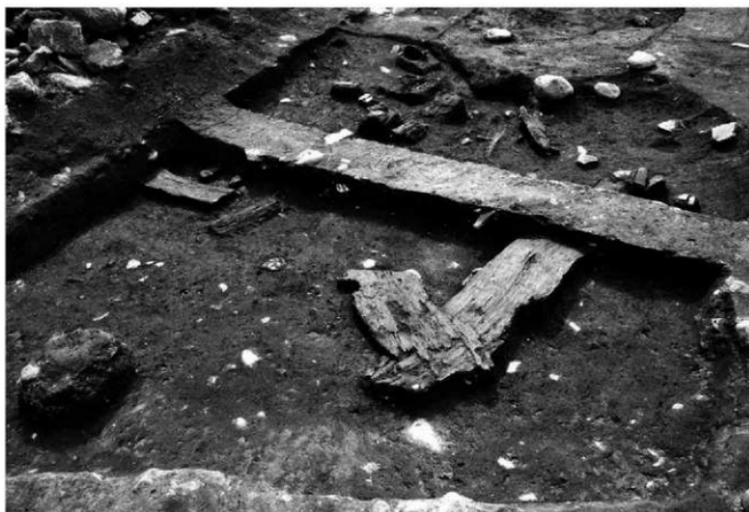
5.5X14 調査状況 (南から)



6.5X15 遺物出土状況



7.5X15 遺物出土状況



15X15 遺物出土状況 (北東から)



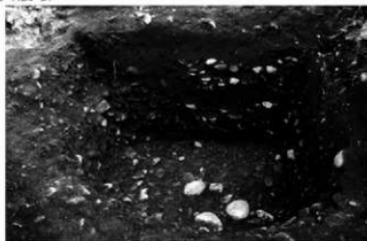
2.5X19 様出 (南から)



1.5X26 完照 (北から)



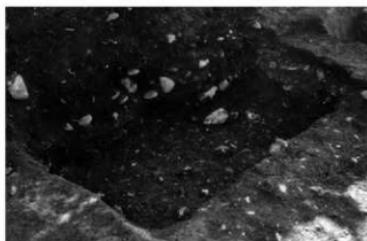
2.5X26 断面 (東から)



3.5X27 完照 (西から)



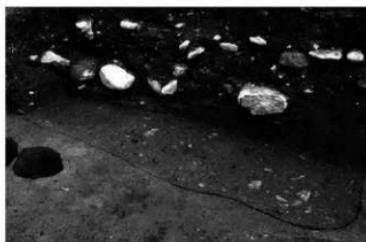
4.5X28 完照 (西から)



5.5X35 完照 (北東から)



1.5X36 完照 (南から)



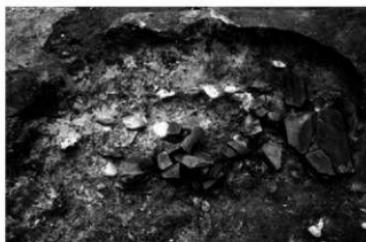
2.5X38 完照 (北から)



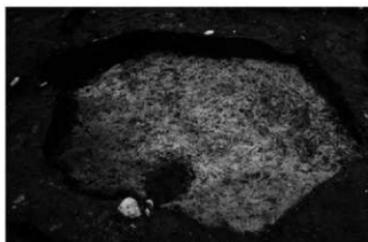
3.5X39 完照 (東から)



4.5X39 断面 (南から)



5.5X41 完照 (南から)



1.SX42 平面 (西から)



2.SX43 横出 (西から)



3.SX49 遺物出土状況 (北から)



4.SX49 断面 (北から)



5.SX49 平面 (西から)



1.SX56 先掘 (東から)



2.SX56 地鎮遺構位置関係 (西から)



1.5X57 完掘 (南から)



2.5X64 検出 (北から)



3.5X64 断面 (北から)



4.5B1 全景 (東から)



1.SD1 全景 (南から)



2.SD1 断面 (北から)



3.SD1 完掘 (東から)



4.SD1 石組完掘 (東から)



5.SD2 石組完掘 (西から)



1SD2 全景 (南東から)



2SD15 全景 (東から)



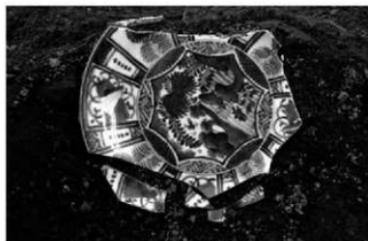
1SD16 全景 (西から)



2SD15・16 全景 (北西から)



15K74 穴掘 (北から)



2.5K74 遺物出土状況



3.5K80 検出 (南から)



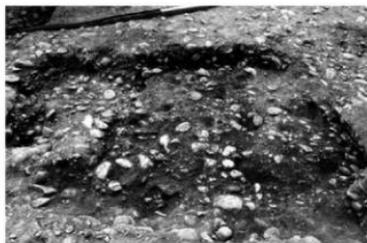
4.5K80 遺物出土状況



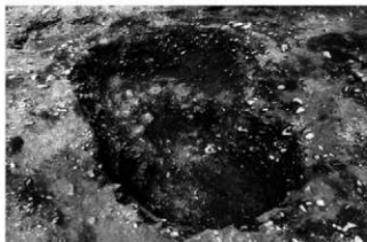
5.5K81 検出 (南から)



1.SK82 遺物出土状況 (北から)



2.SK83 検出 (南から)



3.SK84 検出 (南から)



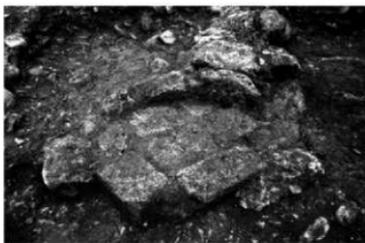
4.SK84 断面 (南から)



5.SK53 発掘 (西から)



1.SX53 遺物出土状況 (南から)



2.SX53 横出 (東から)



3.SX54 完掘 (北から)



4.SX54 断面 (北から)



5.SX54 断面 (東から)



1.SX58 検出 (南東から)



2.SX58 断面 (西から)



3.SX60 穴掘 (西から)



4.SX60 断面 (南から)



1. 調査区全景（西から）



1. 説明会風景



2. 説明会風景



3. 説明会風景



4. 調査風景 (西から)



1. 交番部噴水検出（北東から）



2. 交番部噴水検出（南から）



1. 交番部噴水底面完掘 (東から)



2.5E1 検出 (西から)



2.5E1 完掘 (東から)



1.5E1 石組 (西から)



2.5E1 断面 (東から)



1. 交番部調査区全景 (東から)



2. 大銀吉部完掘 (東から)



1. 大銀杏部遺物出土状況（北から）



2. 大銀杏部遺物出土状況



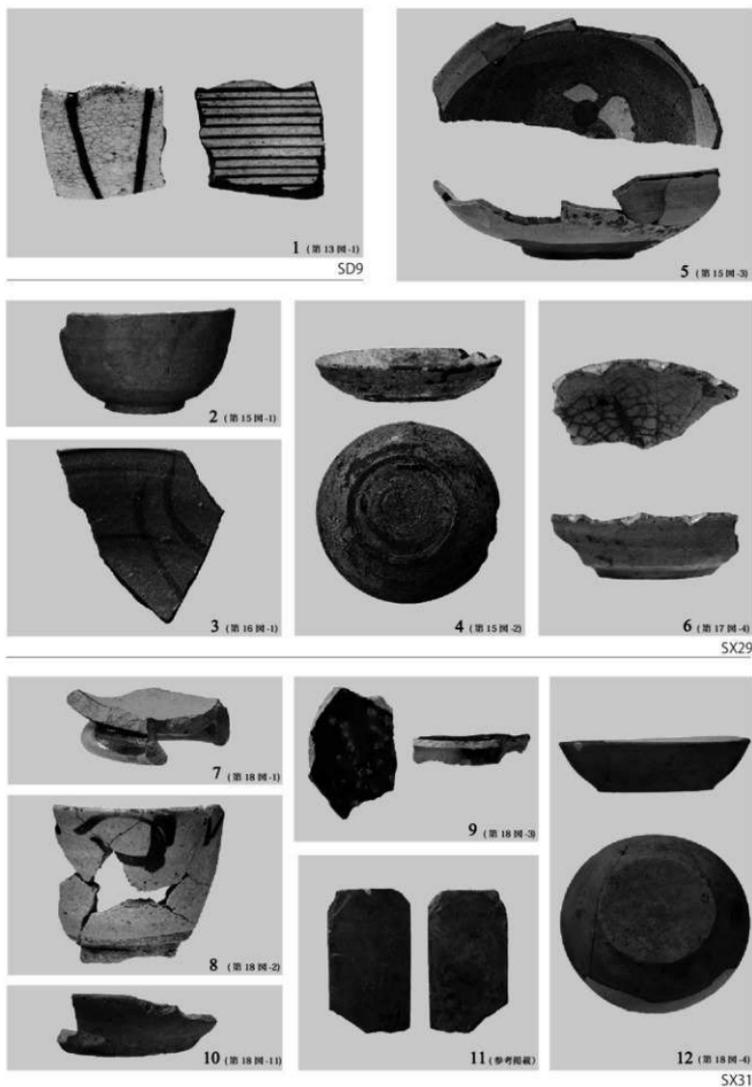
3. 大銀杏部遺物出土状況



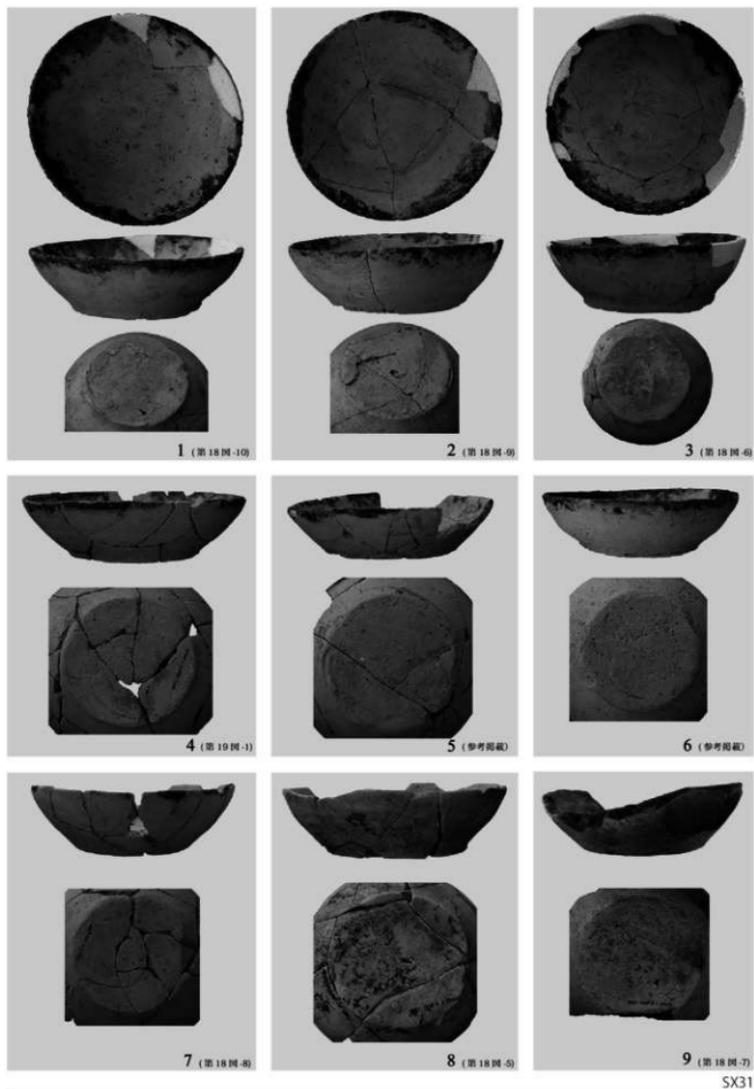
4. 大銀杏部遺物出土状況



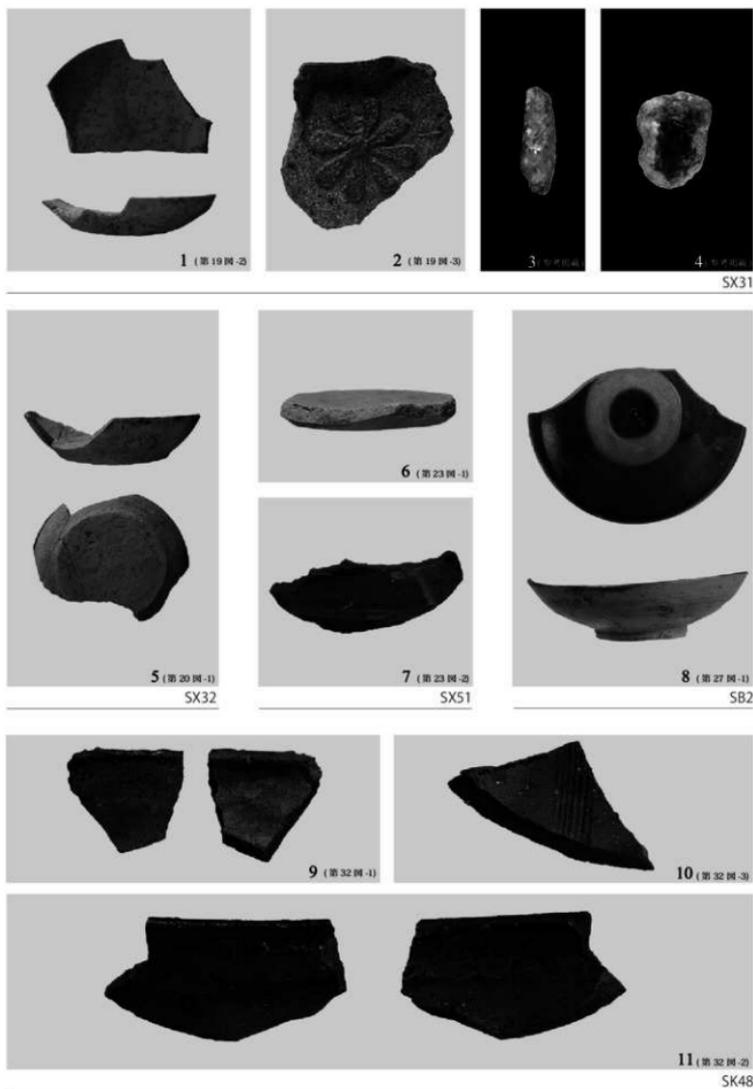
4. 大銀杏部遺物出土状況



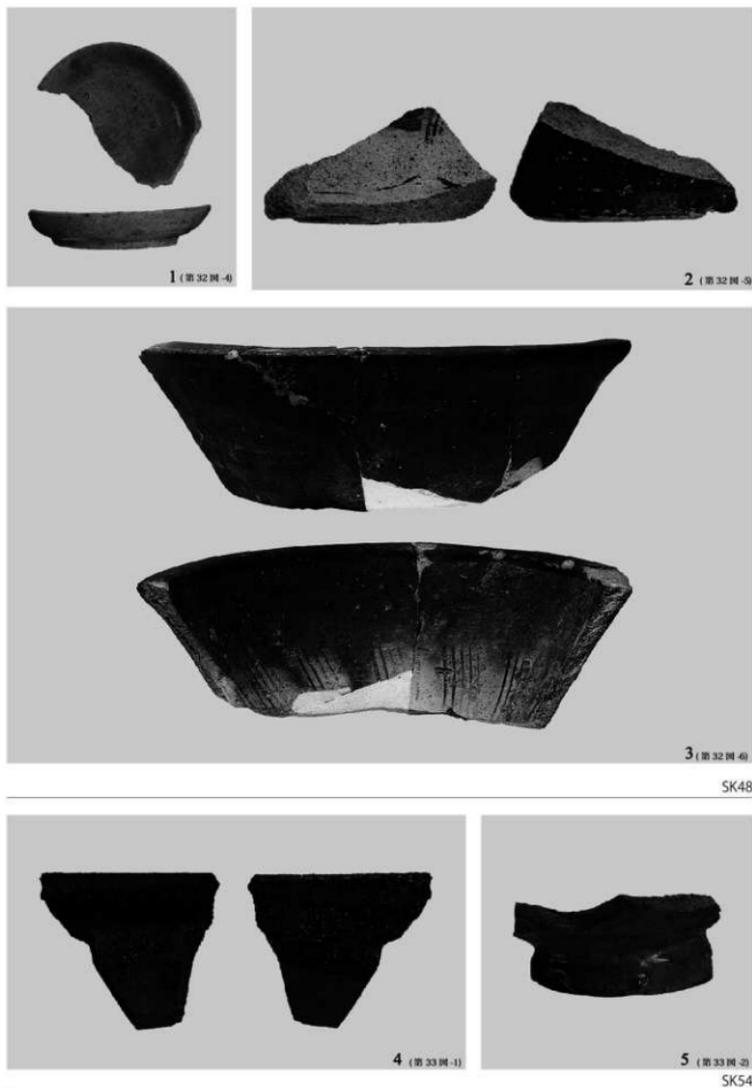
図版 51 駅部IV a 層上面遺構出土遺物(1)
253



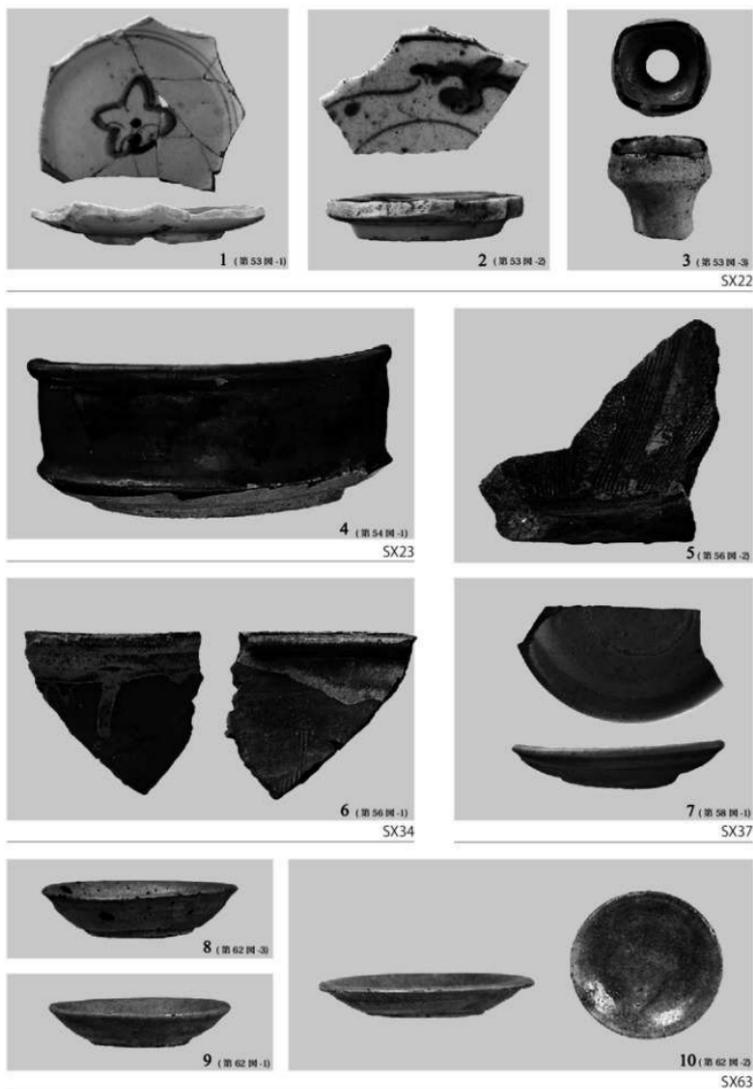
図版 52 駅部IV a層上面遺構出土遺物(2)



図版 53 駅部IV a層上面遺構出土遺物(3)・III層上面遺構出土遺物(1)



図版 54 駅部Ⅲ層上面遺構出土遺物 (2)
256

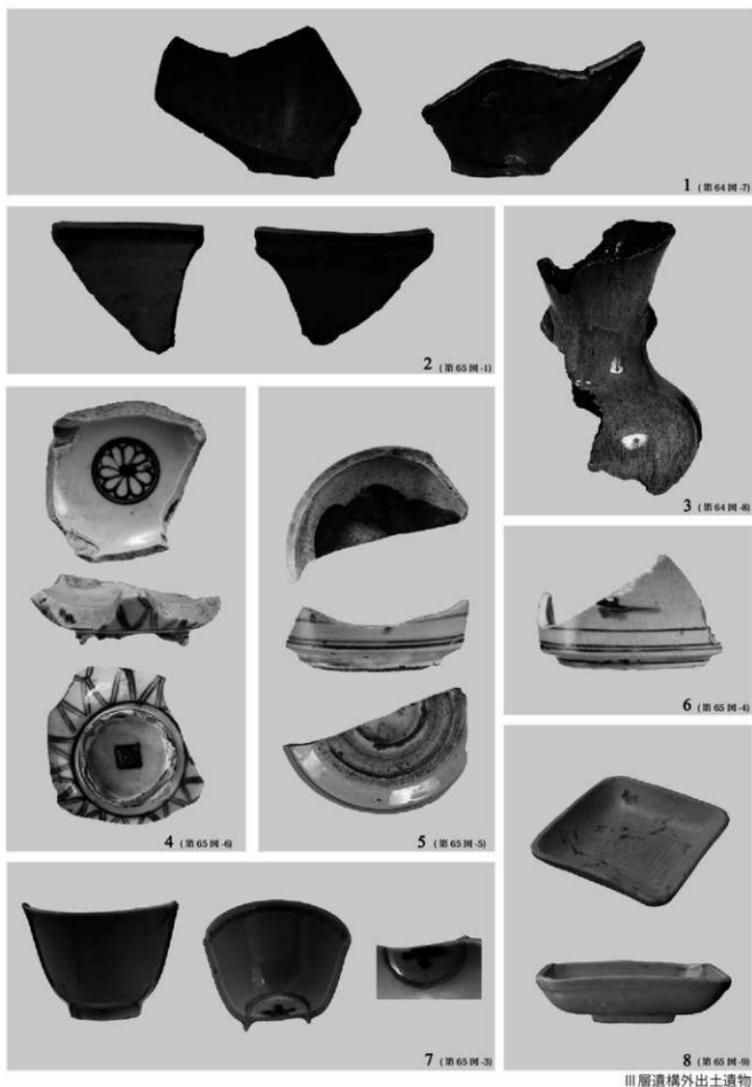


図版 55 駅部Ⅲ層上面遺構出土遺物 (3)

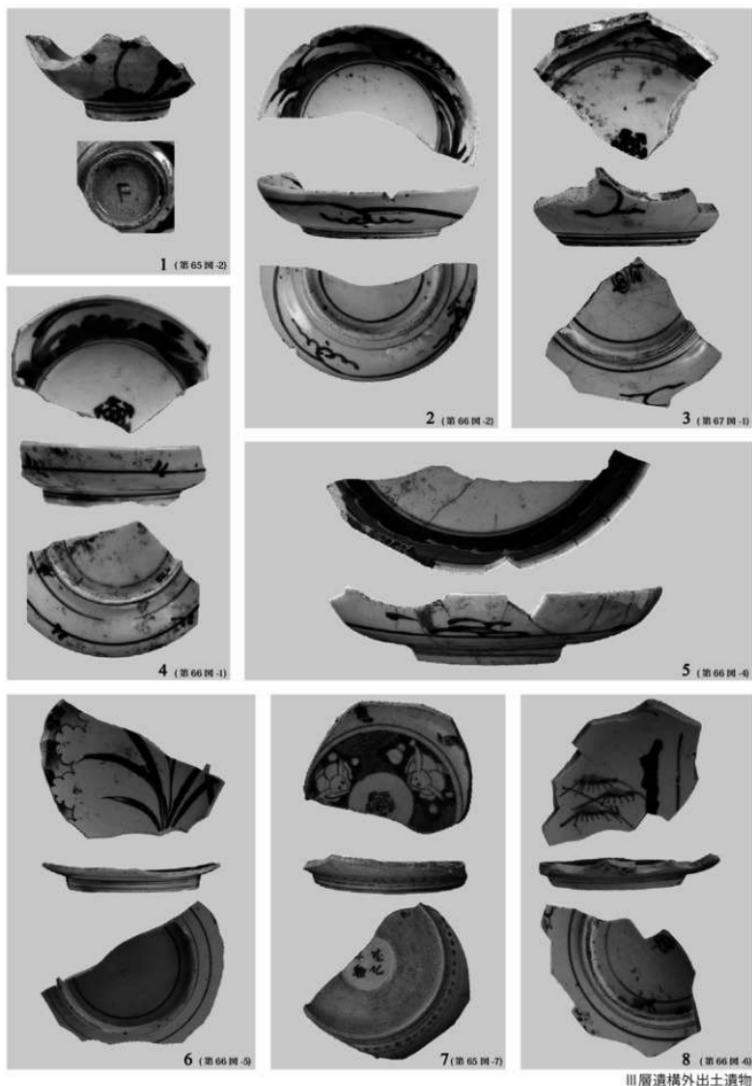


Ⅲ層遺構外出土遺物

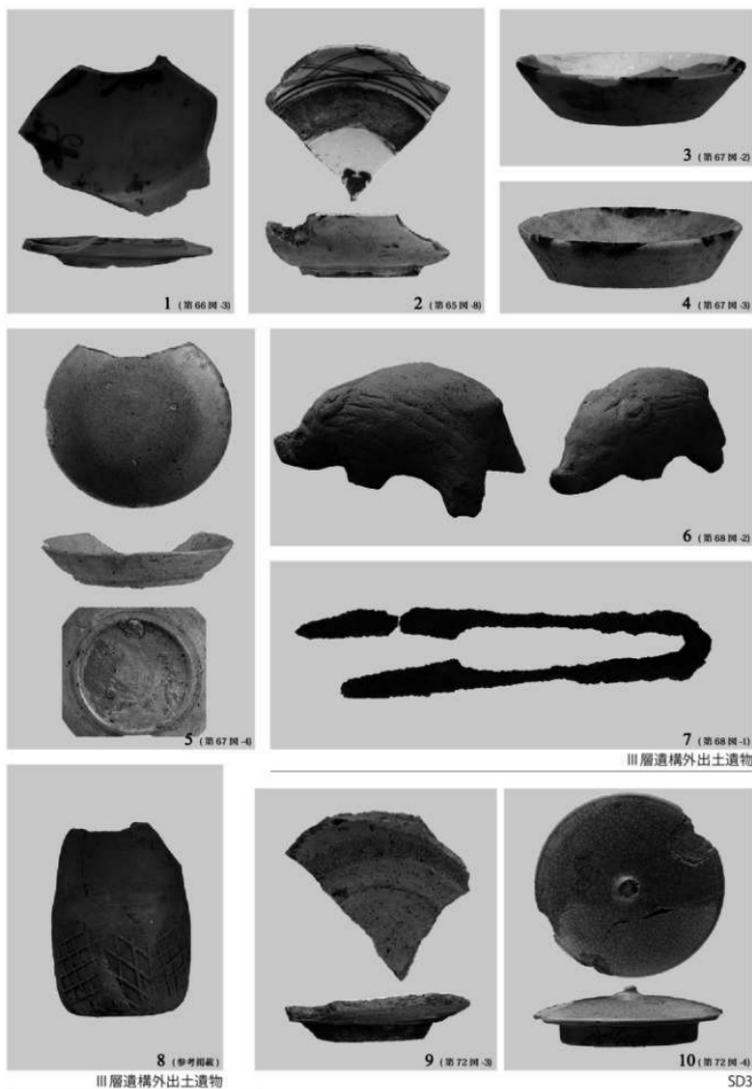
図版 56 駅部Ⅲ層遺構外出土遺物(1)
258



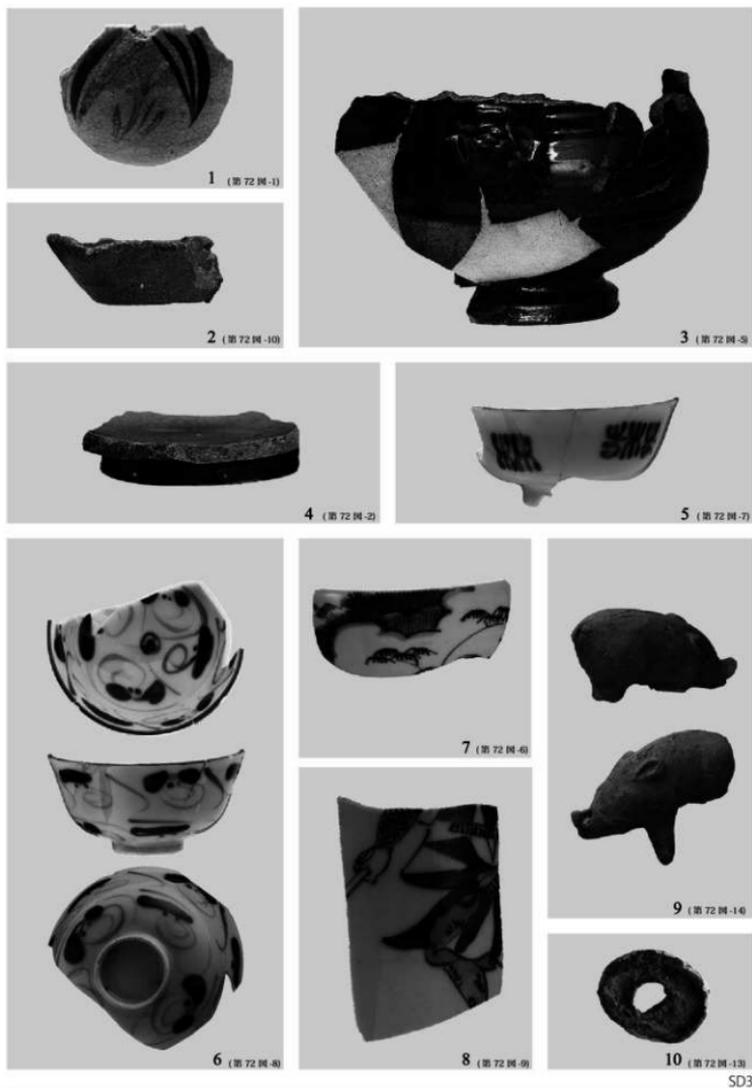
図版 57 駅部III層遺構外出土遺物(2)



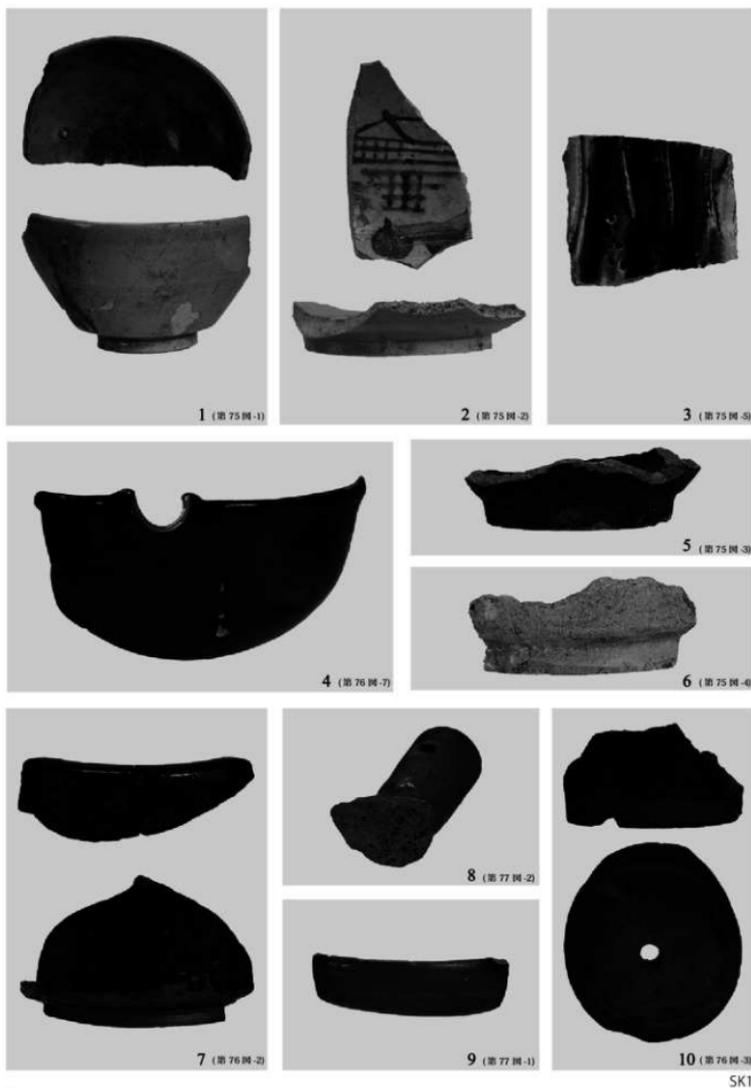
図版 58 駅部III層遺構外出土遺物(3)



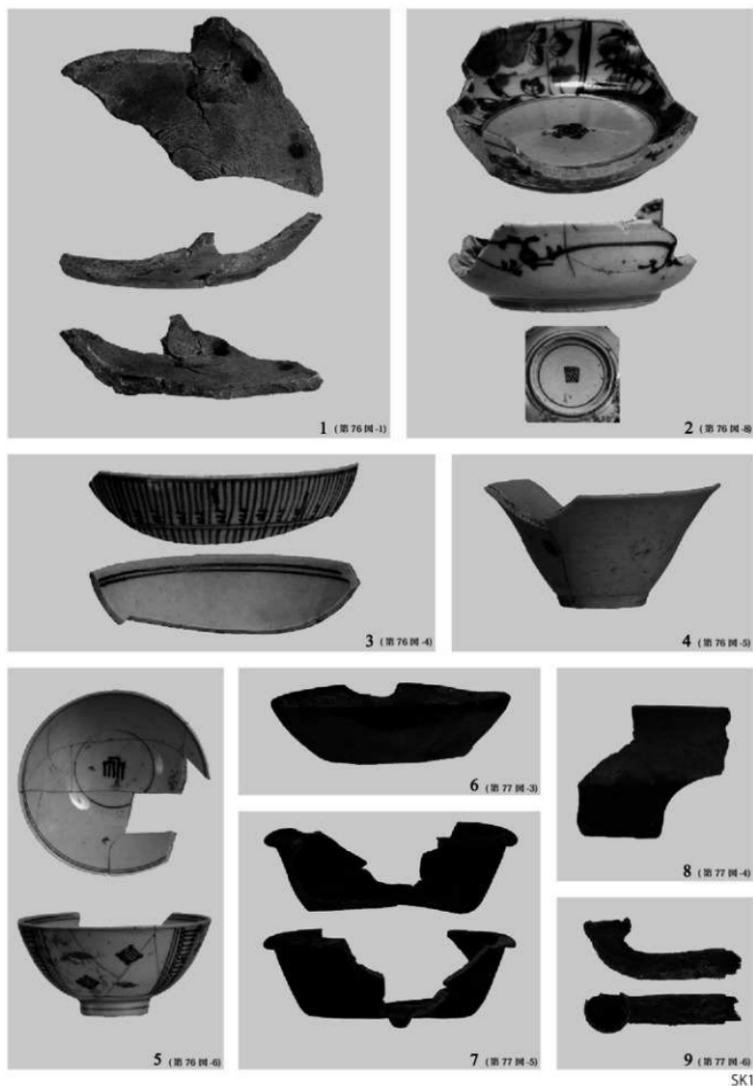
図版 59 駅部III層遺構外出土遺物(4)・II層上面遺構出土遺物(1)



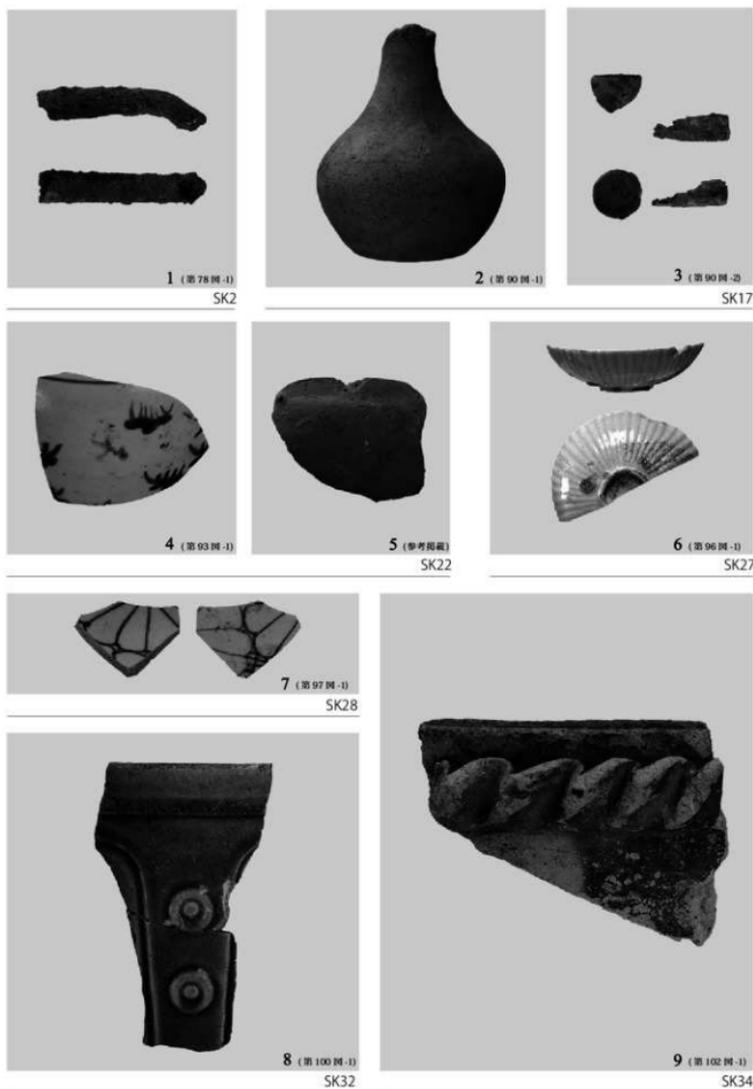
図版 60 駅部11層上面遺構出土遺物(2)



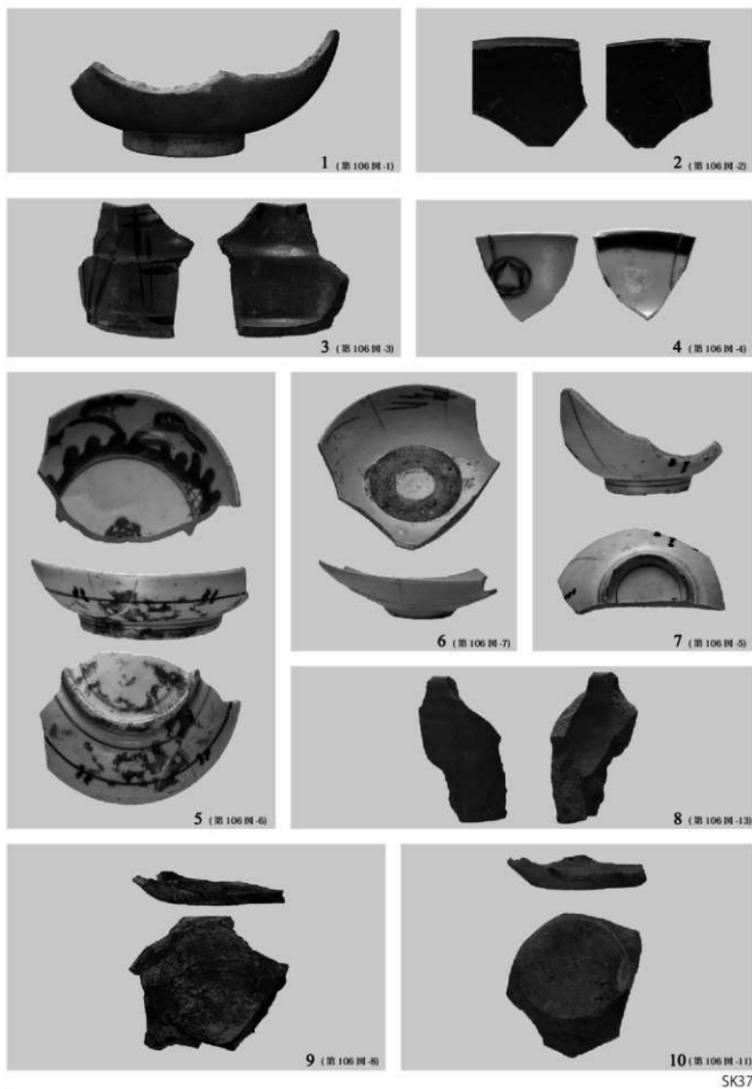
図版 61 駅部II層上面遺構出土遺物(3)



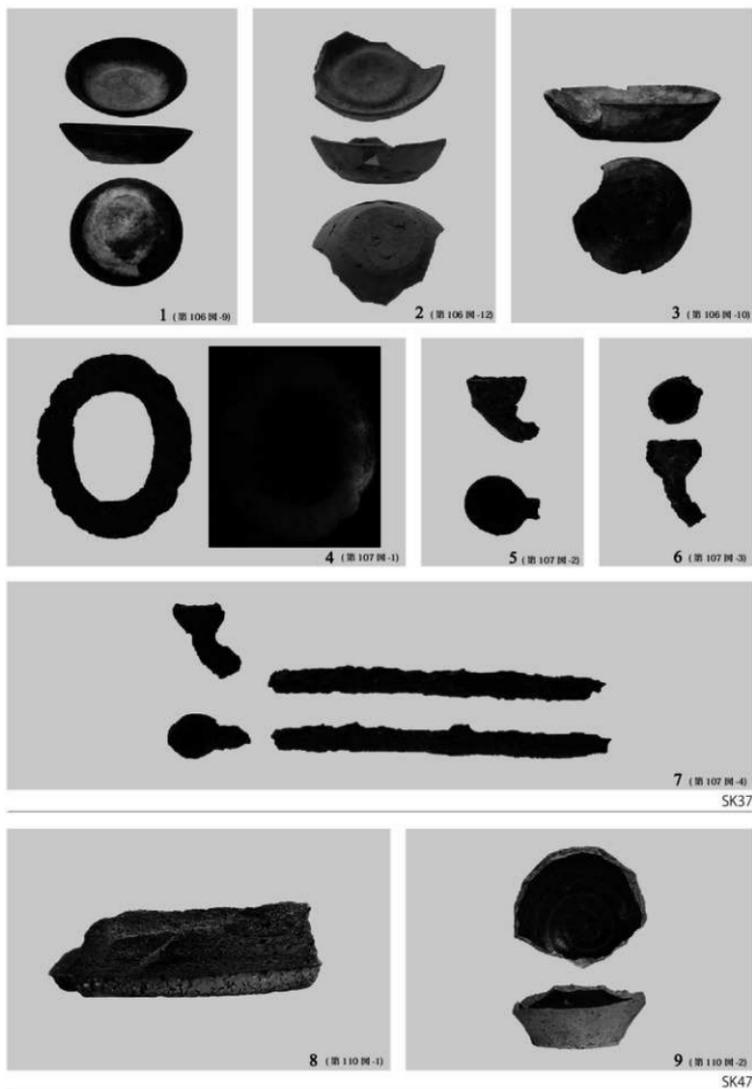
図版 62 駅部11層上面遺構出土遺物(4)



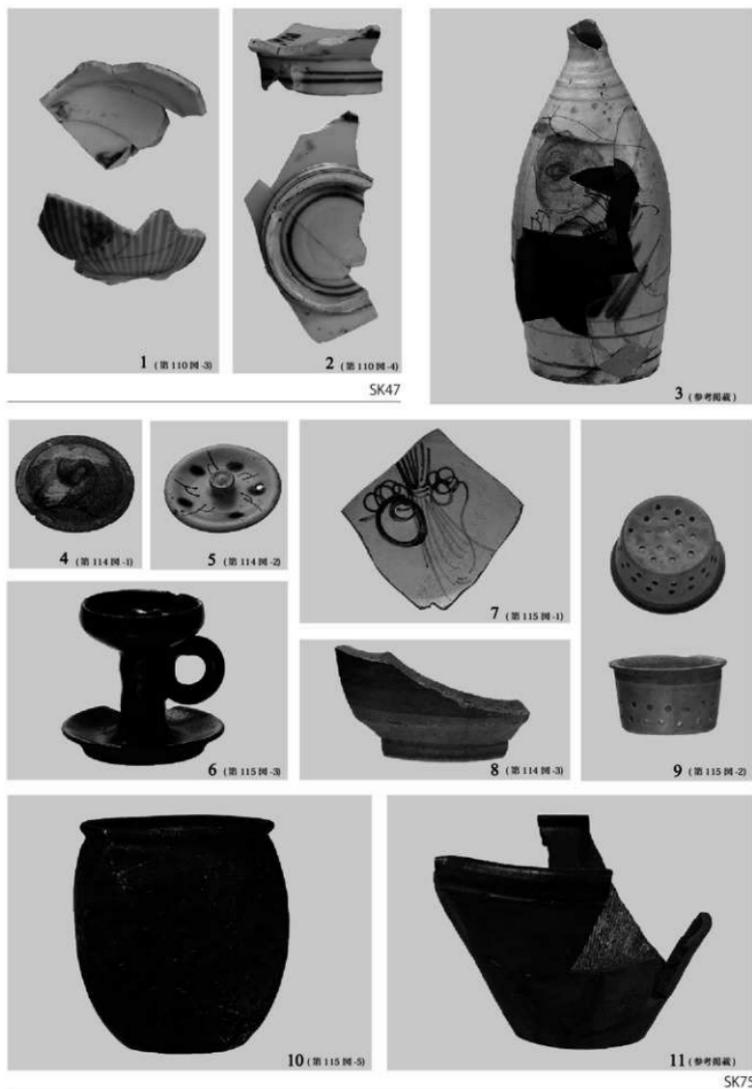
図版 63 駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(5)



図版 64 駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(6)



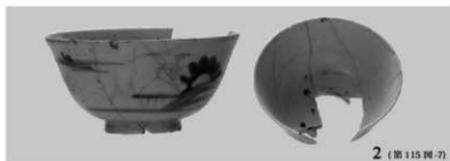
図版 65 駅部II層上面遺構出土遺物(7)



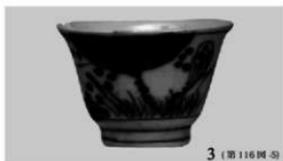
図版 66 駅部II層上面遺構出土遺物(8)



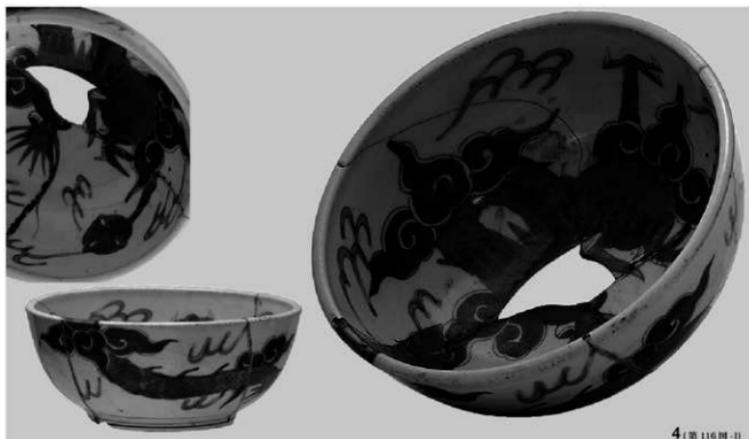
1 (第117図-1)



2 (第115図-1)



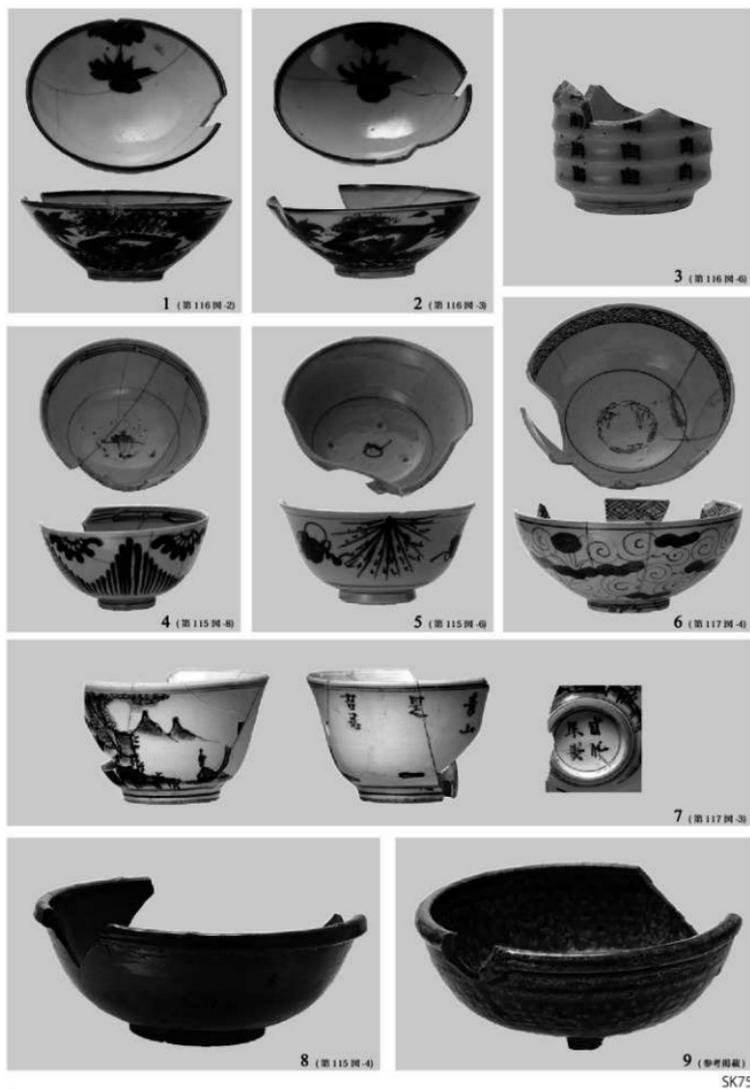
3 (第116図-1)



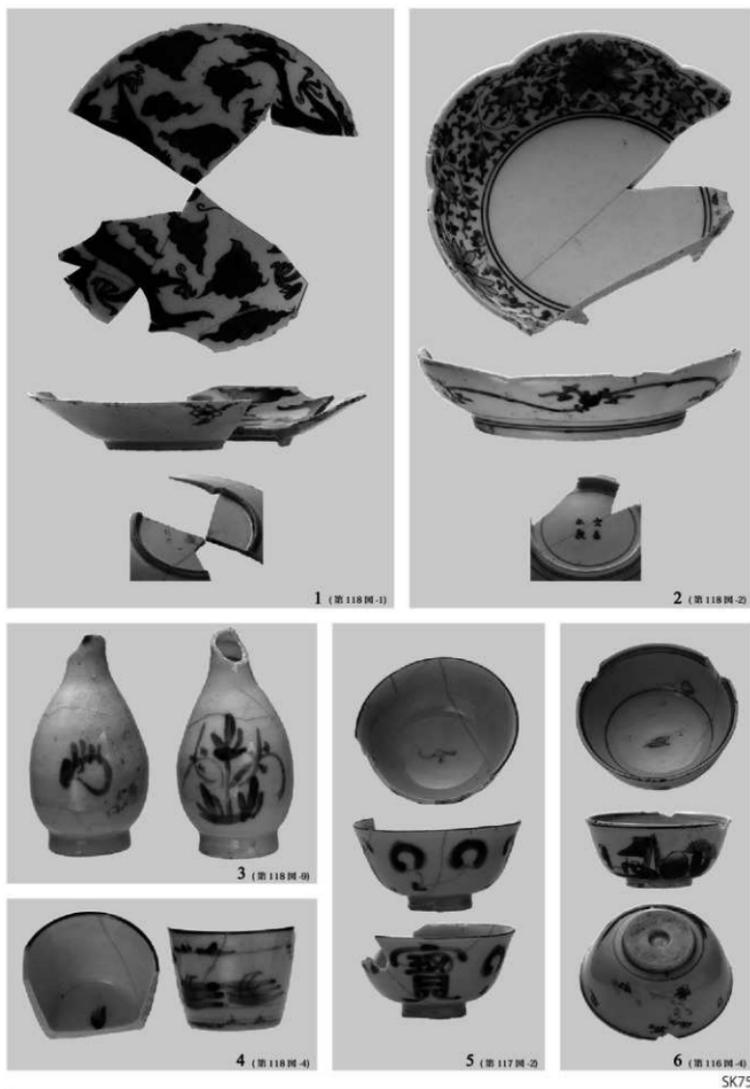
4 (第118図-1)

SK75

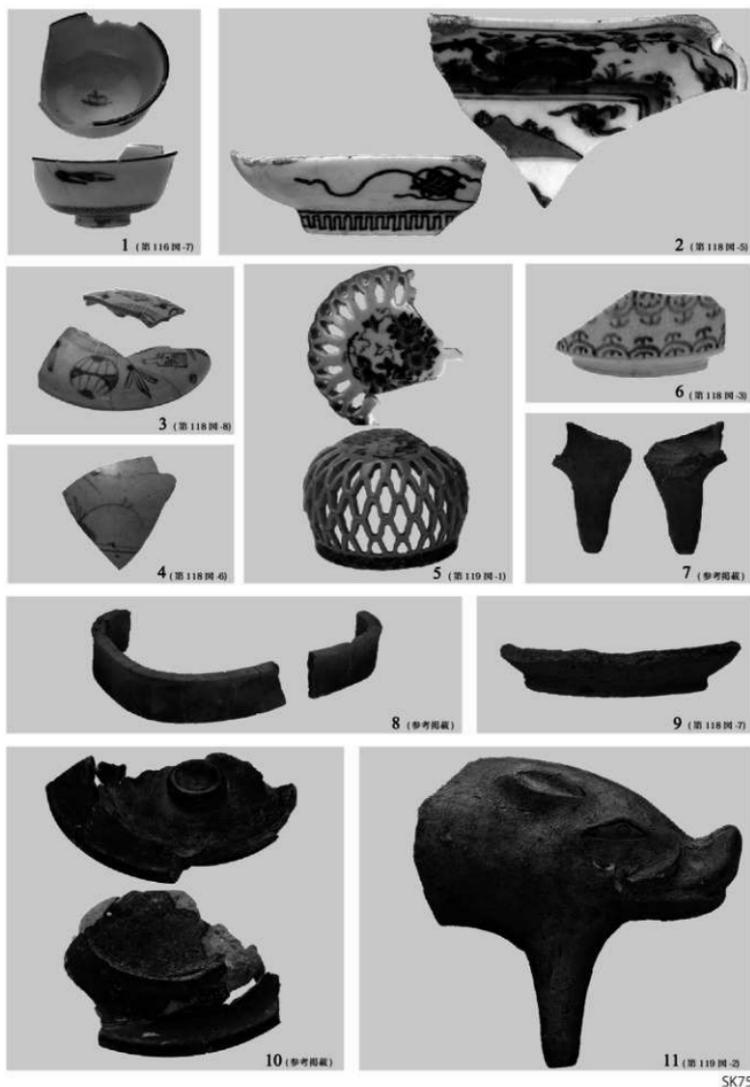
図版 67 駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(9)



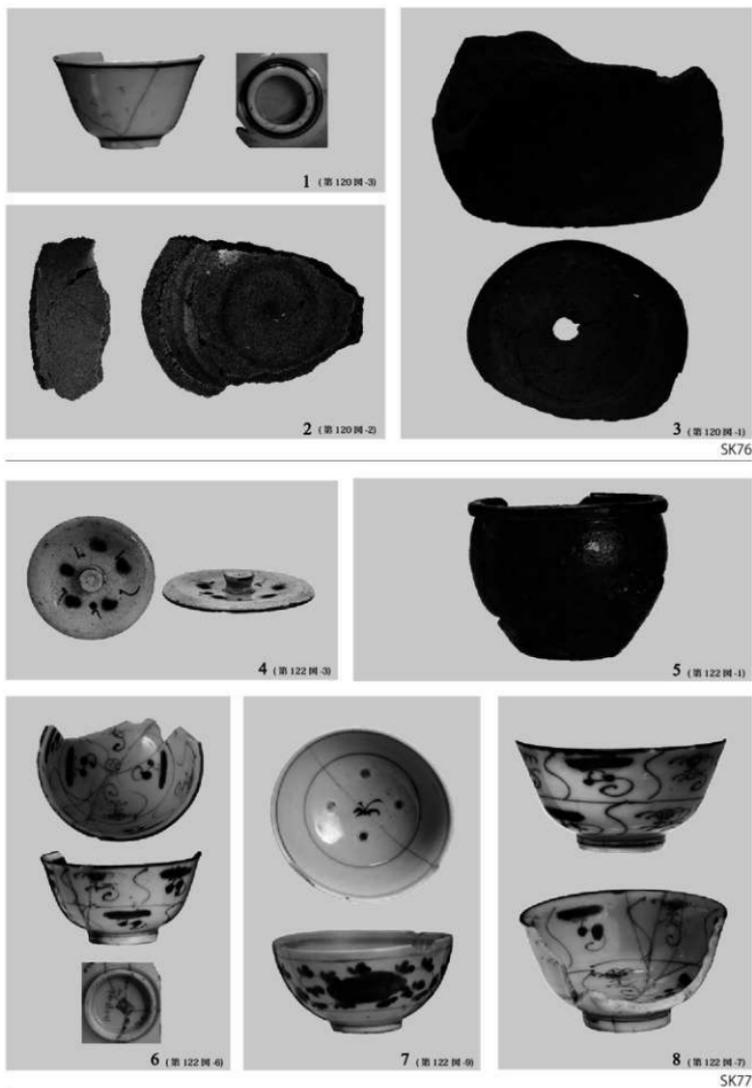
図版 68 駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (10)



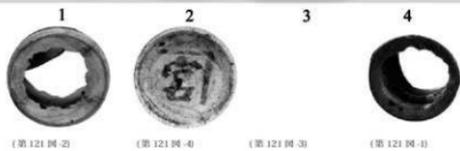
図版 69 駅部II層上面遺構出土遺物(11)



図版 70 駅部II層上面遺構出土遺物 (12)



図版 71 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (13)
273



(第121図-2)

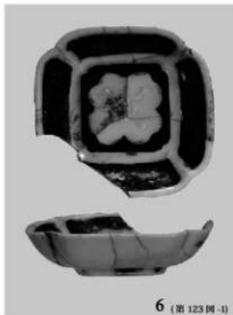
(第121図-4)

(第121図-3)

(第121図-1)



5 (第122図-5)



6 (第123図-1)



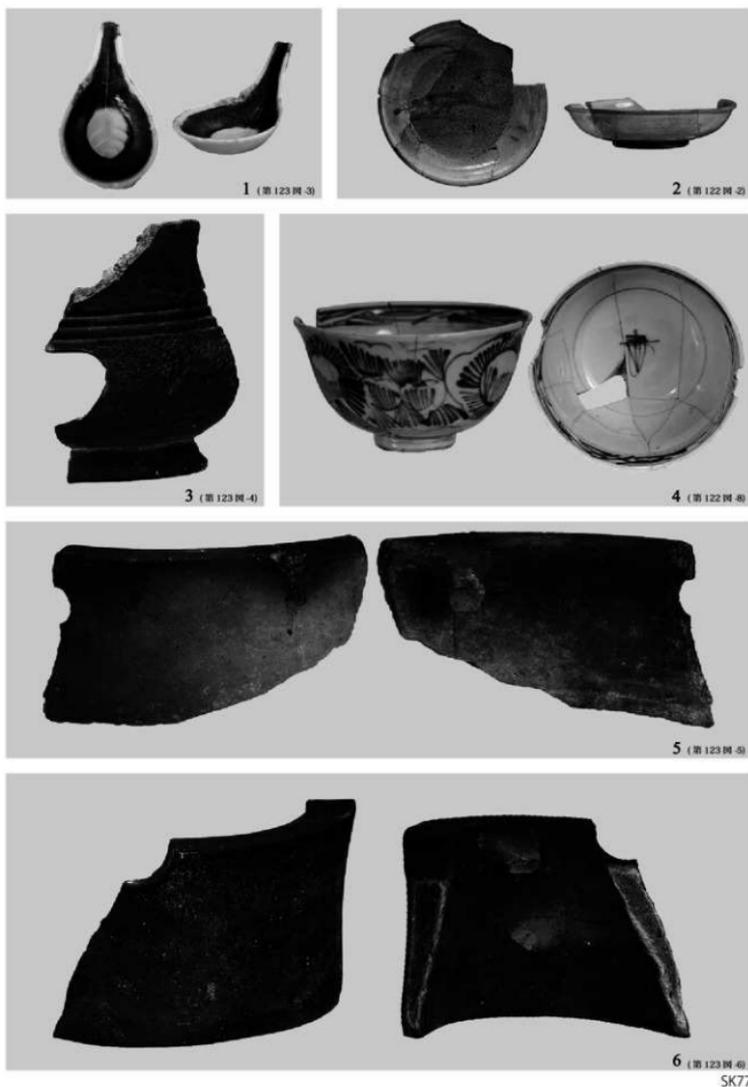
7 (第123図-2)



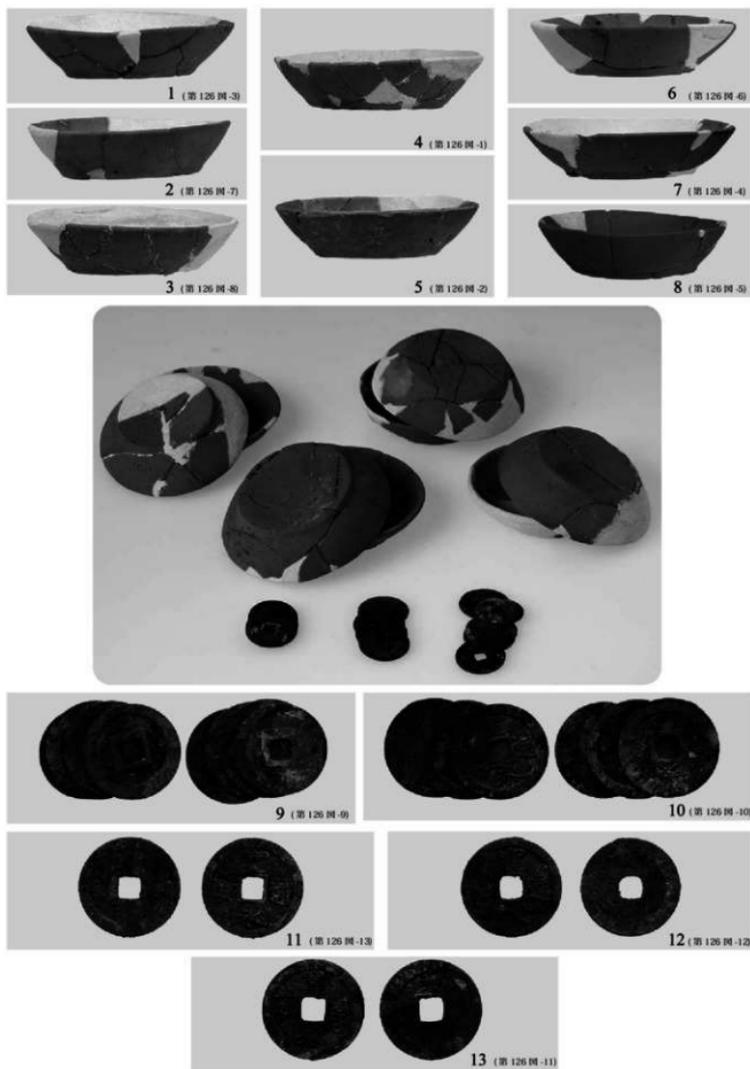
8 (第122図-6)

SK77

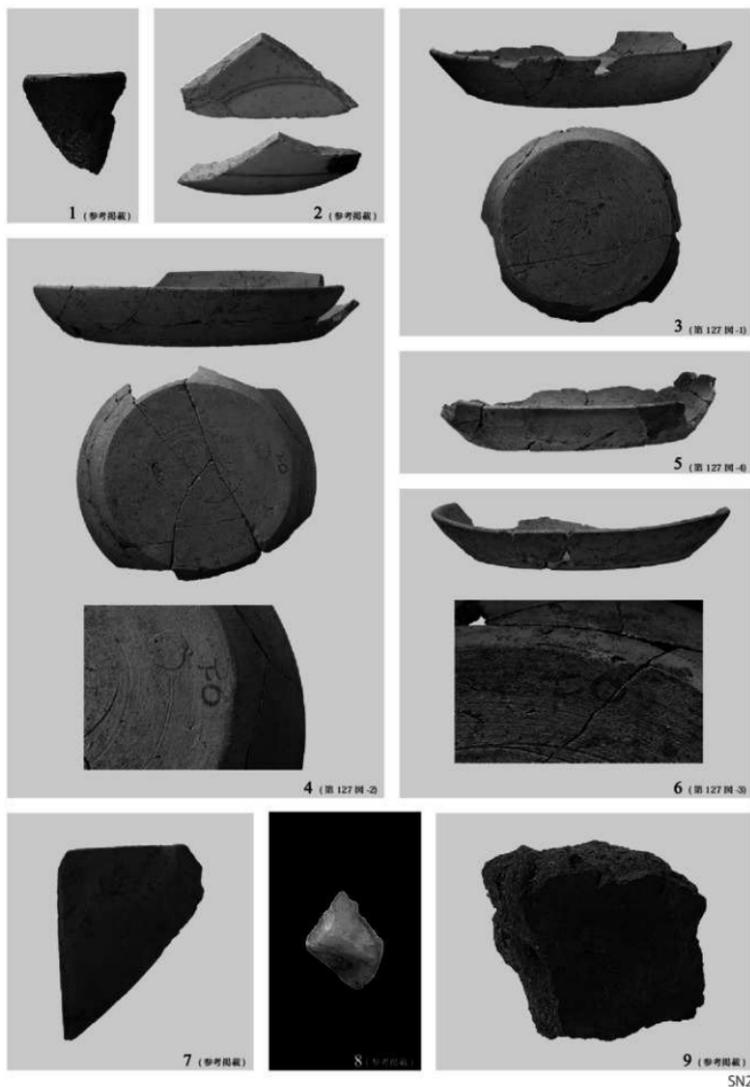
図版 72 駅部II層上面遺構出土遺物(14)



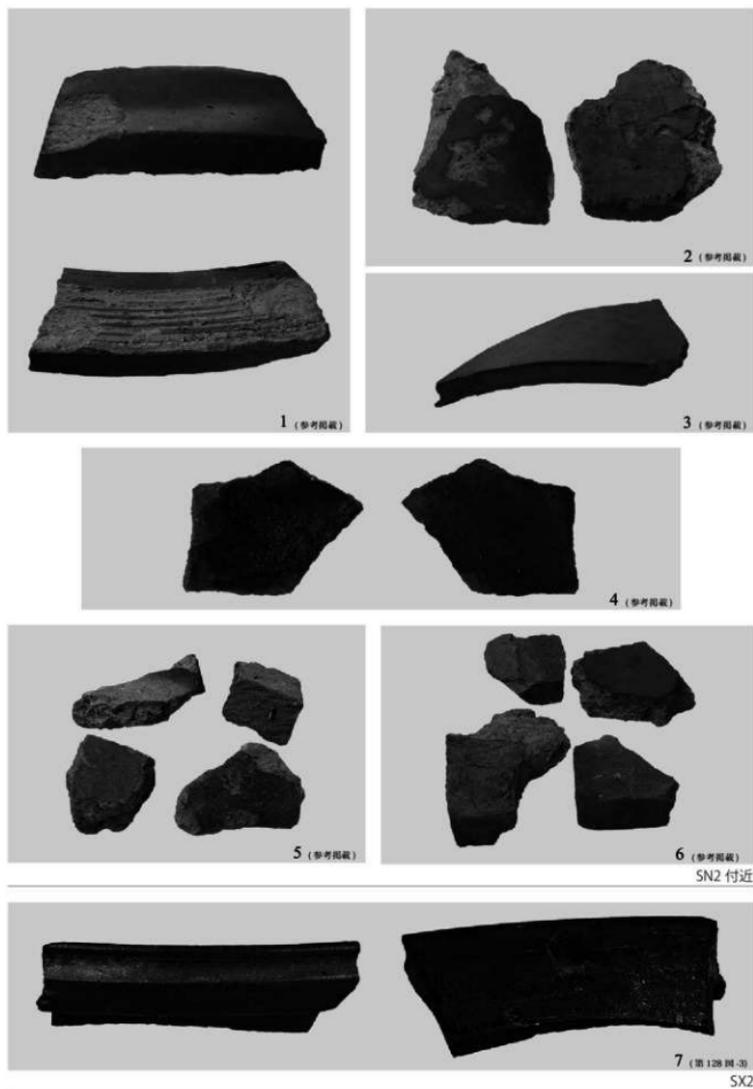
図版 73 駅部II層上面遺構出土遺物 (15)



図版 74 駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (16)



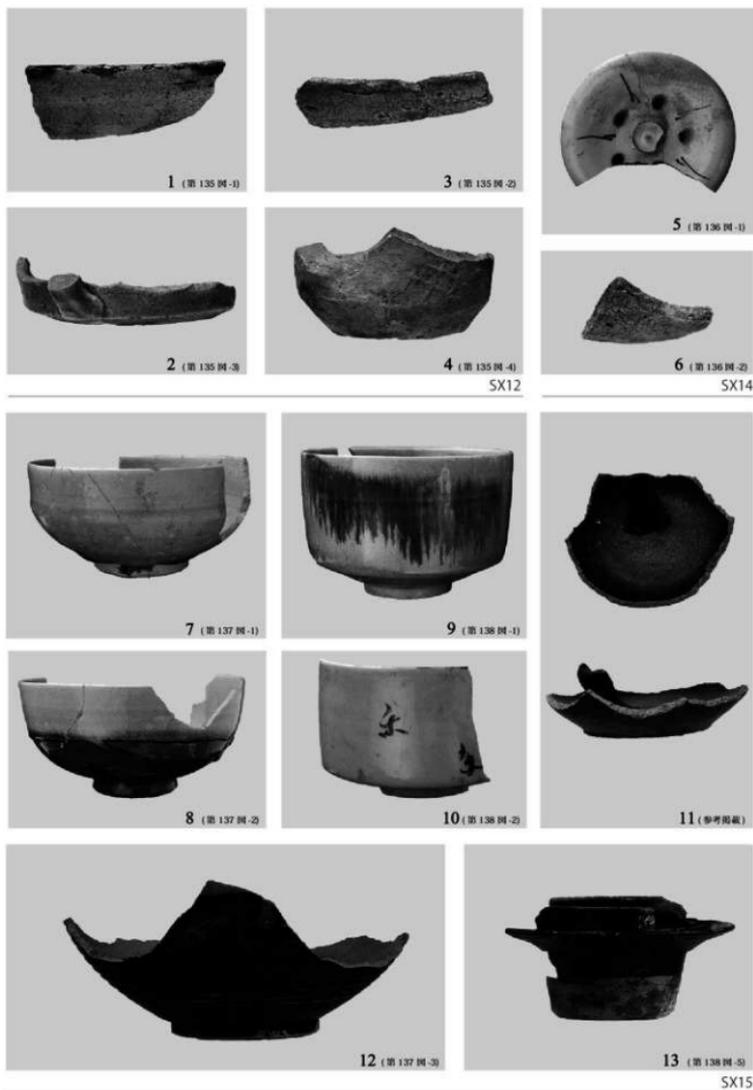
図版 75 駅部II層上面遺構出土遺物(17)



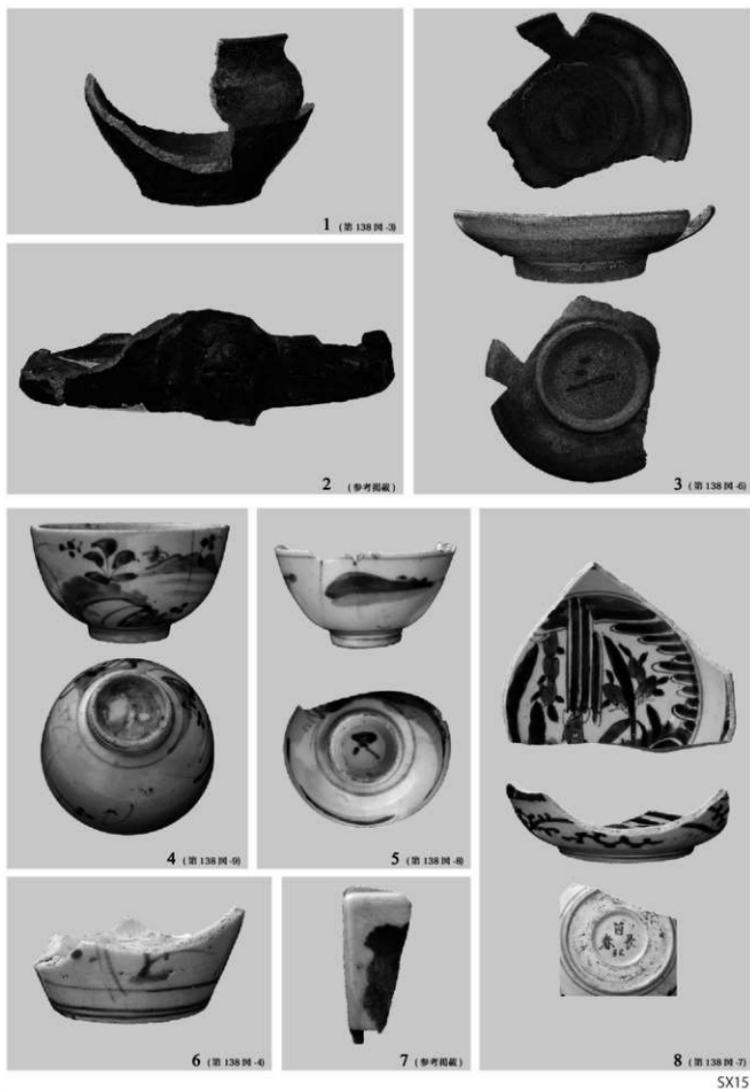
図版 76 駅部II層上面遺構出土遺物 (18)



図版 77 駅部II層上面遺構出土遺物(19)
279



図版 78 駅部II層上面遺構出土遺物 (20)



SX15

図版 79 駅部II層上面遺構出土遺物 (21)

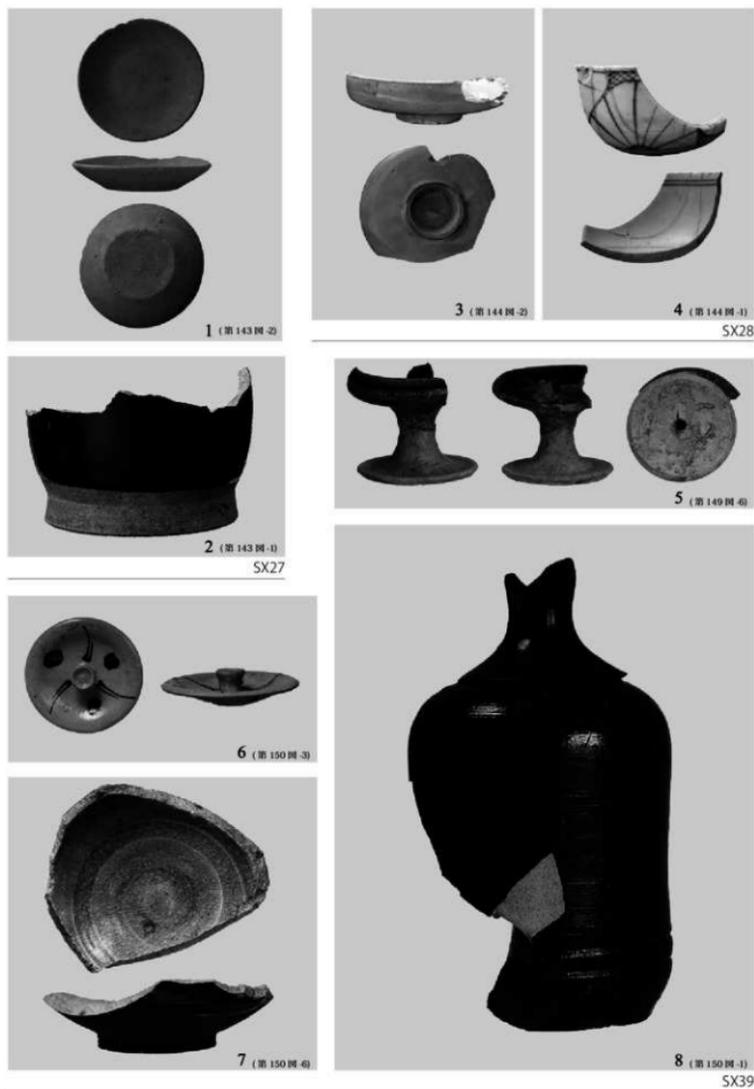


図版 80 駅部II層上面遺構出土遺物 (22)



SX26

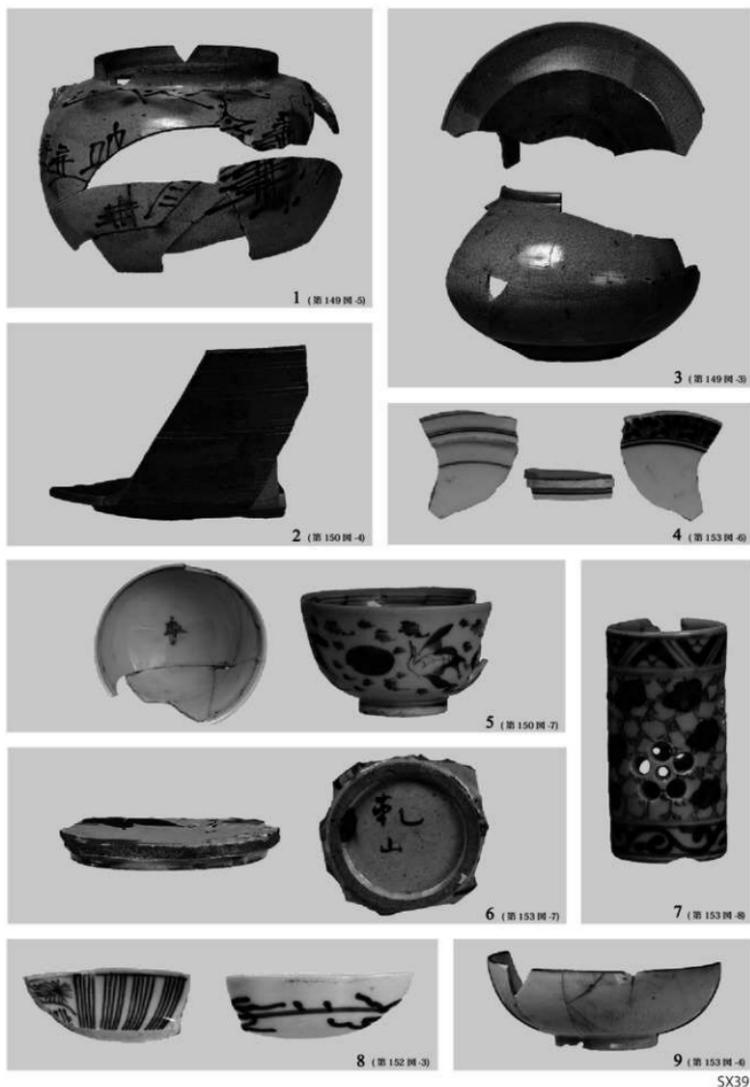
図版 81 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (23)
283



図版 82 駅部II層上面遺構出土遺物 (24)

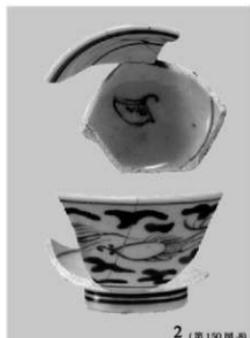


図版 83 駅部II層上面遺構出土遺物 (25)



SX39

図版 84 駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (26)



SX39

図版 85 駅部II層上面遺構出土物 (27)



SX39

図版 86 駅部II層上面遺構出土遺物 (28)

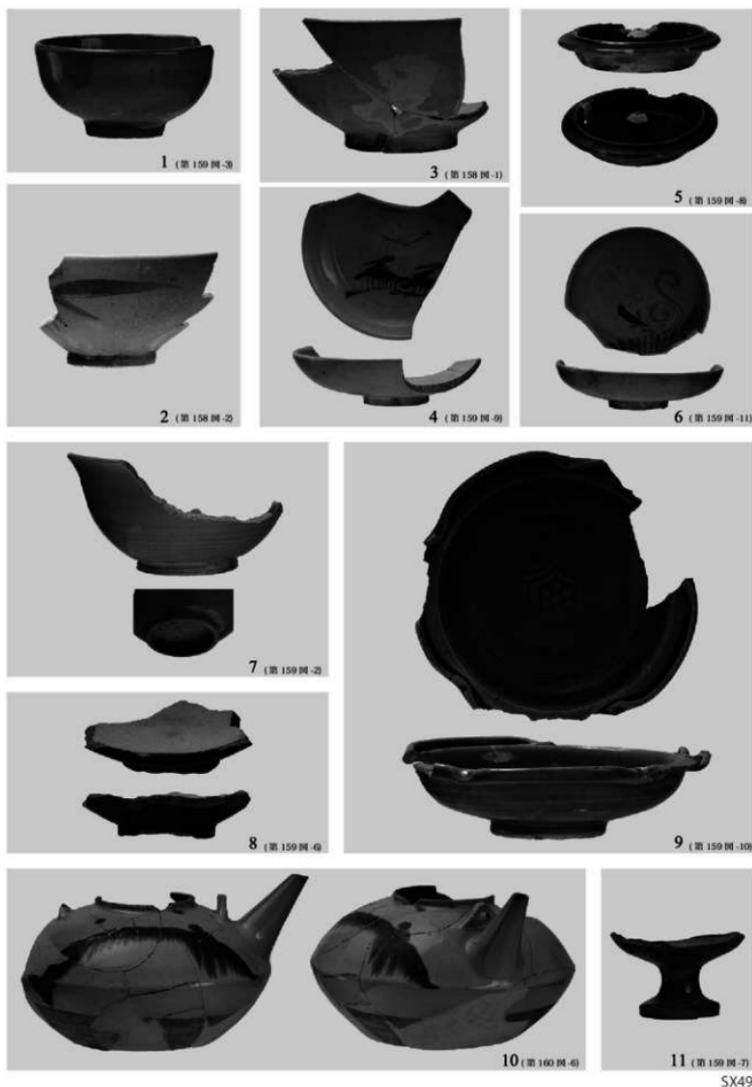


SX39

図版 87 駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (29)
289

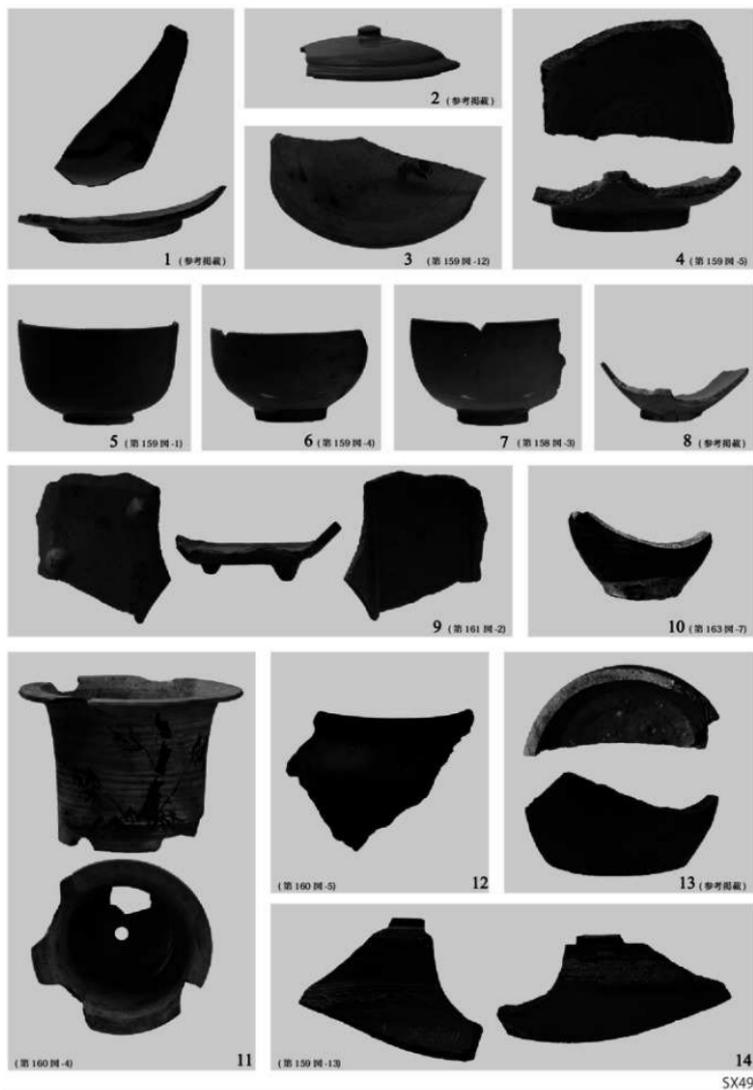


図版 88 駅部II層上面遺構出土遺物(30)



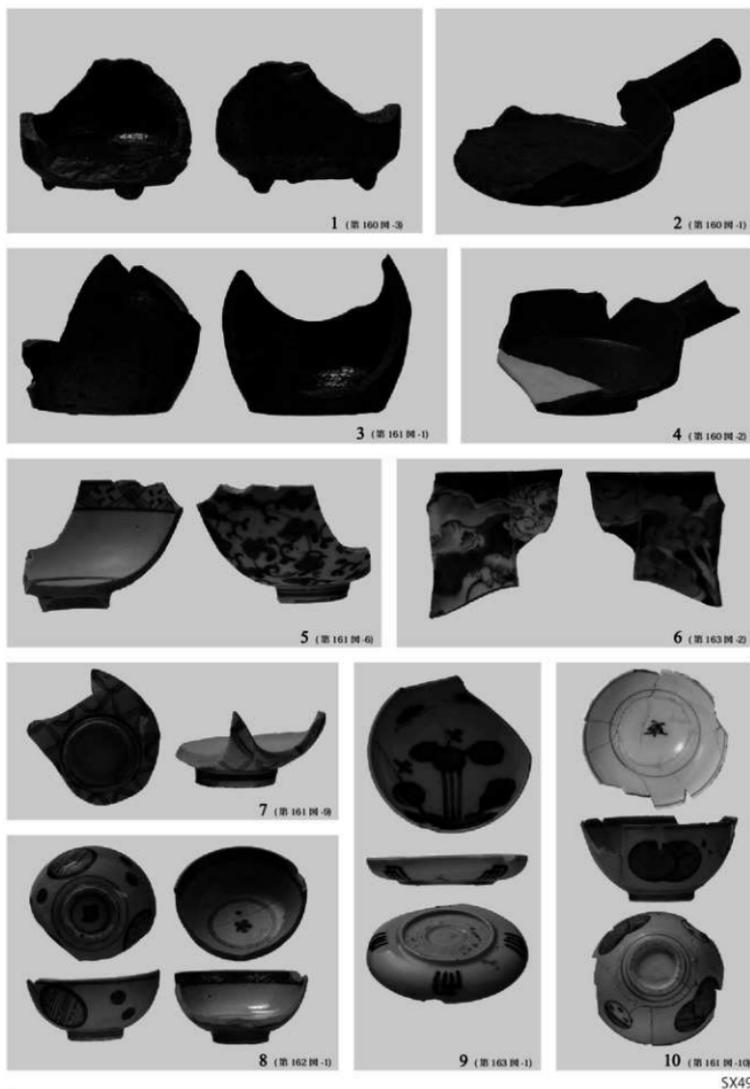
SX49

図版 89 駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (31)



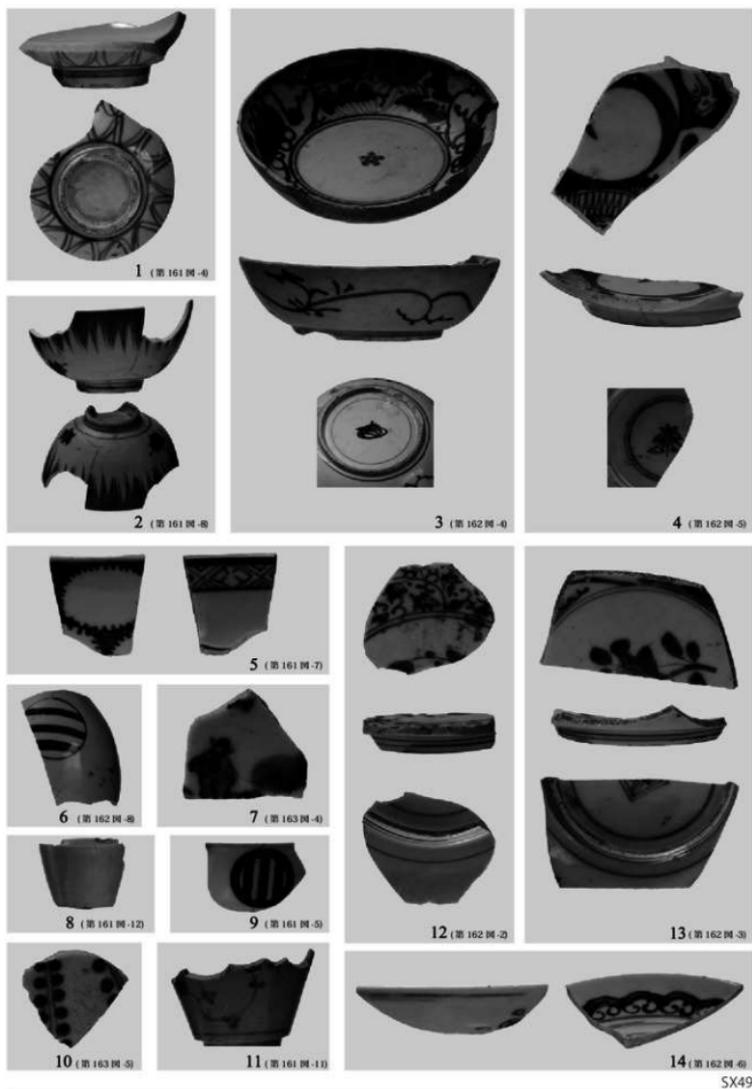
SX49

図版 90 駅部II層上面遺構出土遺物(32)



SX49

図版 91 駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物 (33)



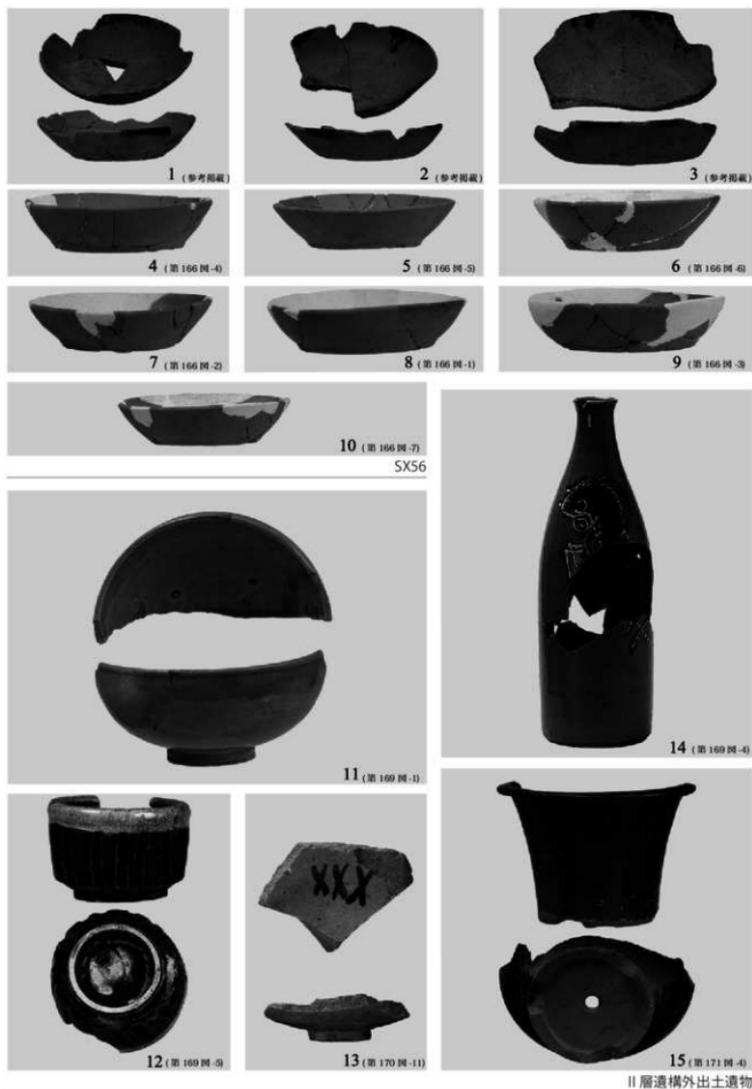
SX49

図版 92 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (34)
294



5X49

図版 93 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (35)



図版 94 駅部II層上面遺構出土遺物(36)・II層遺構外出土遺物(1)



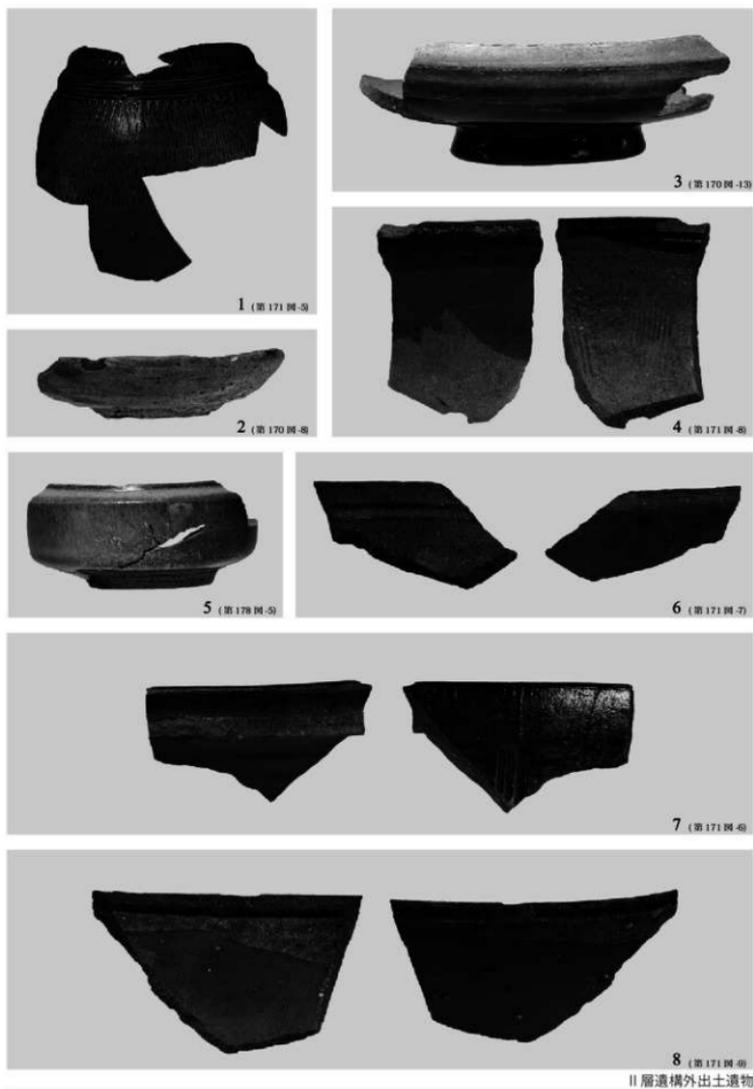
II層遺構外出土遺物

図版 95 駅部II層遺構外出土遺物(2)



II層遺構外出土遺物

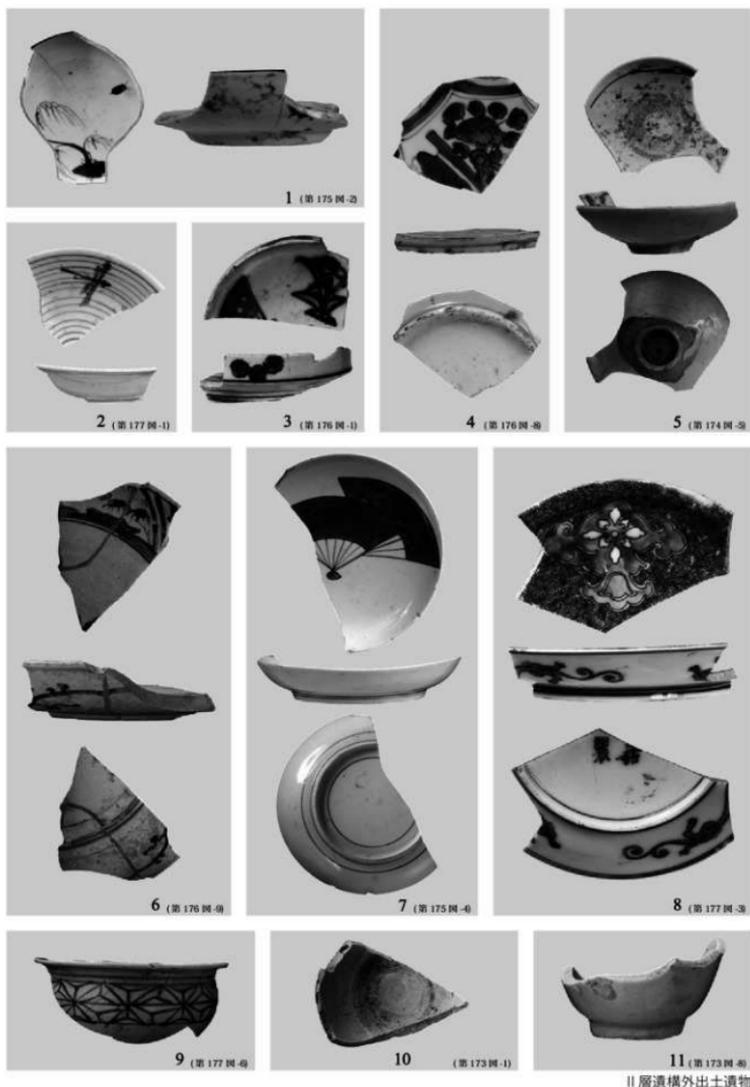
図版 96 駅部II層遺構外出土遺物(3)



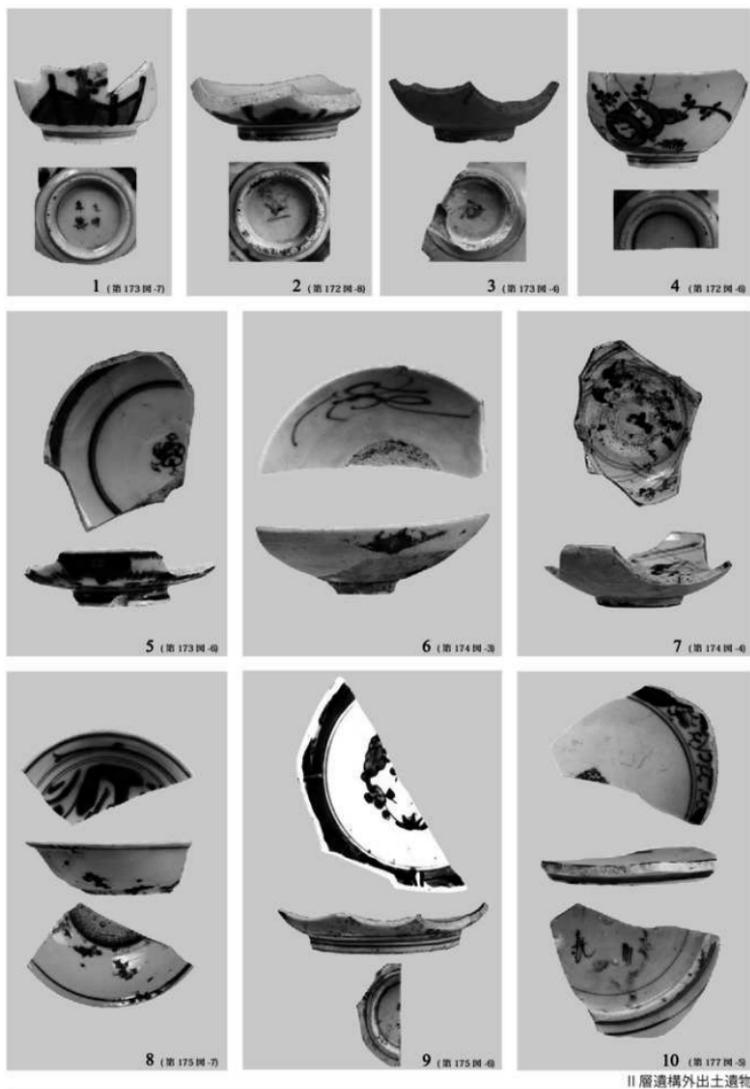
図版 97 駅部II層遺構外出土遺物(4)



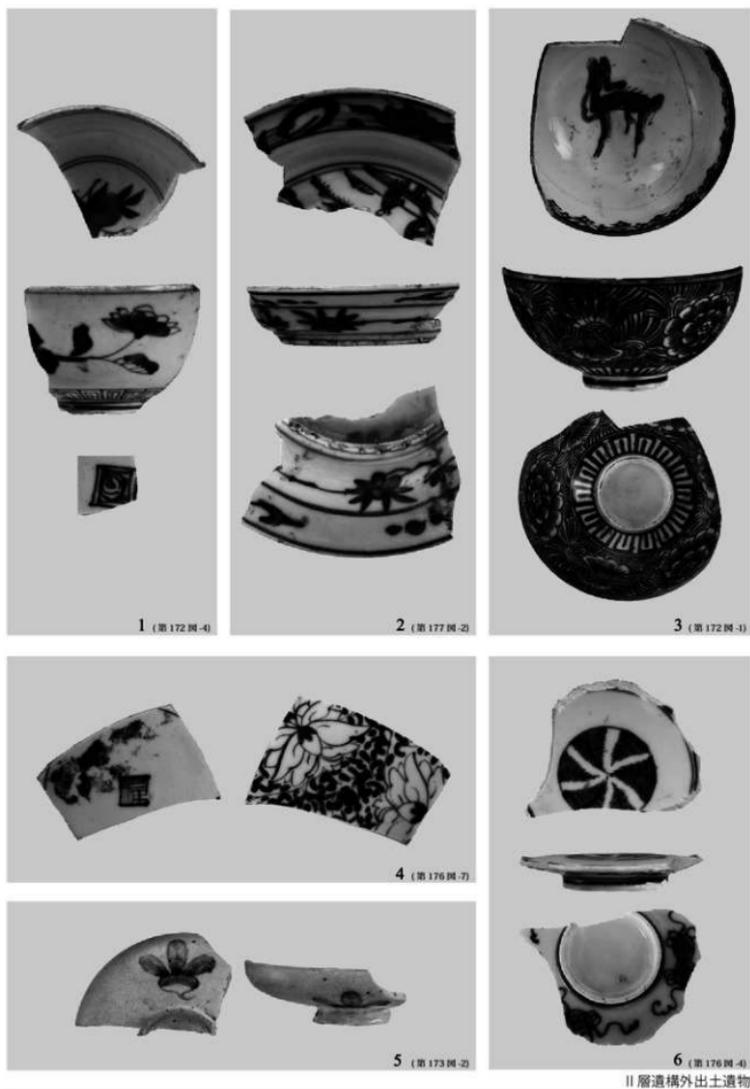
図版 98 駅部II層遺構外出土遺物(5)



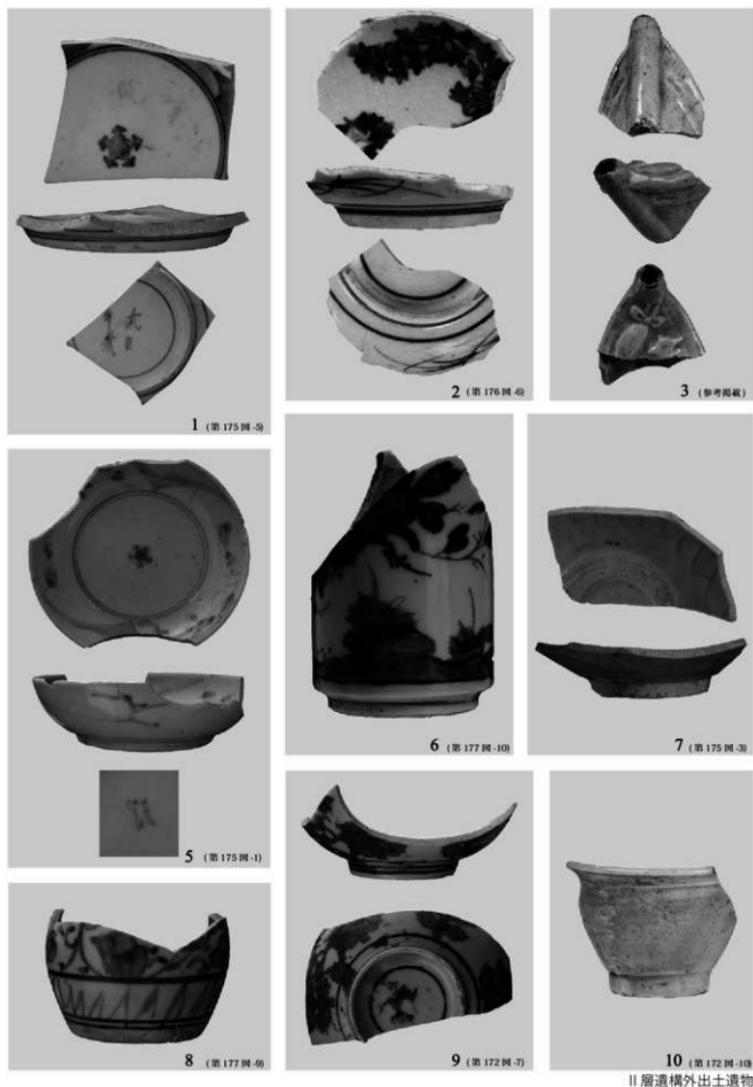
図版 99 駅部II層遺構外出土遺物(6)



図版 100 駅部 II 層遺構外出土遺物 (7)

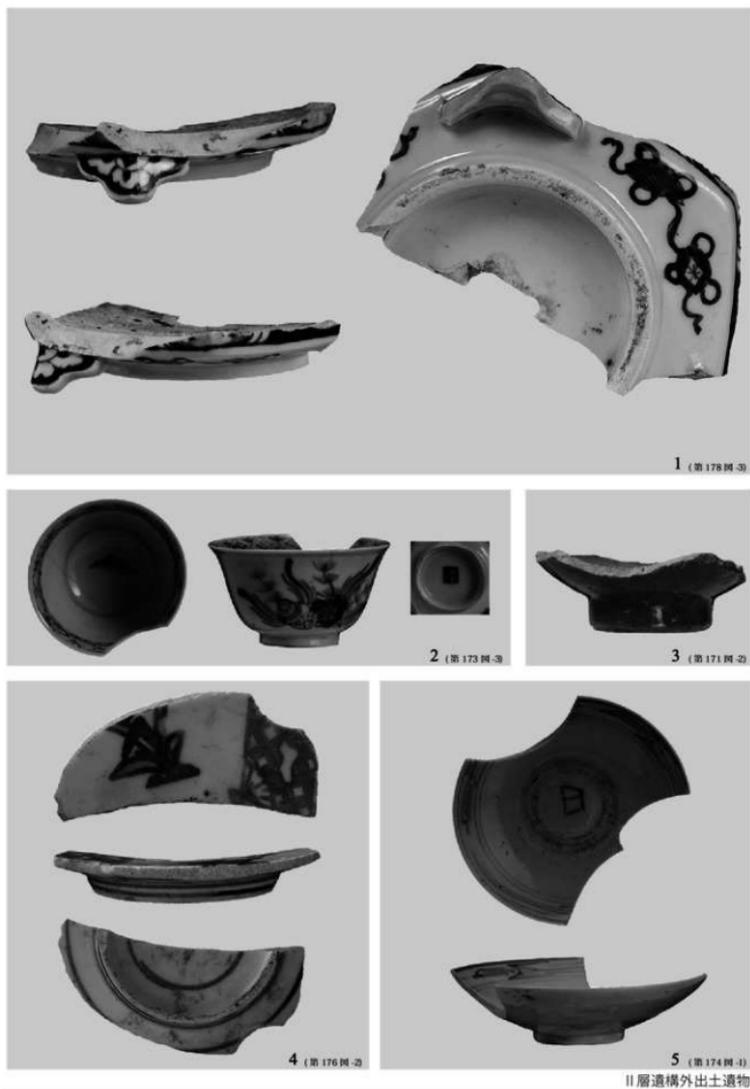


図版 101 駅部 II 層遺構外出土遺物 (B)

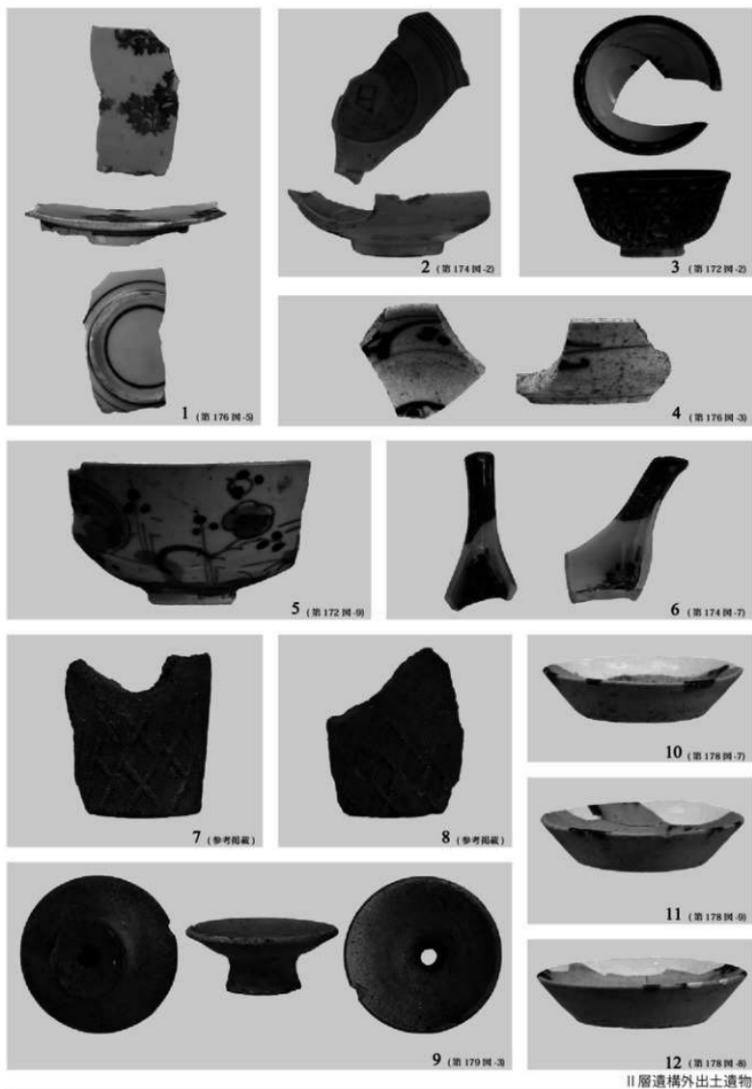


II層遺構外出土遺物

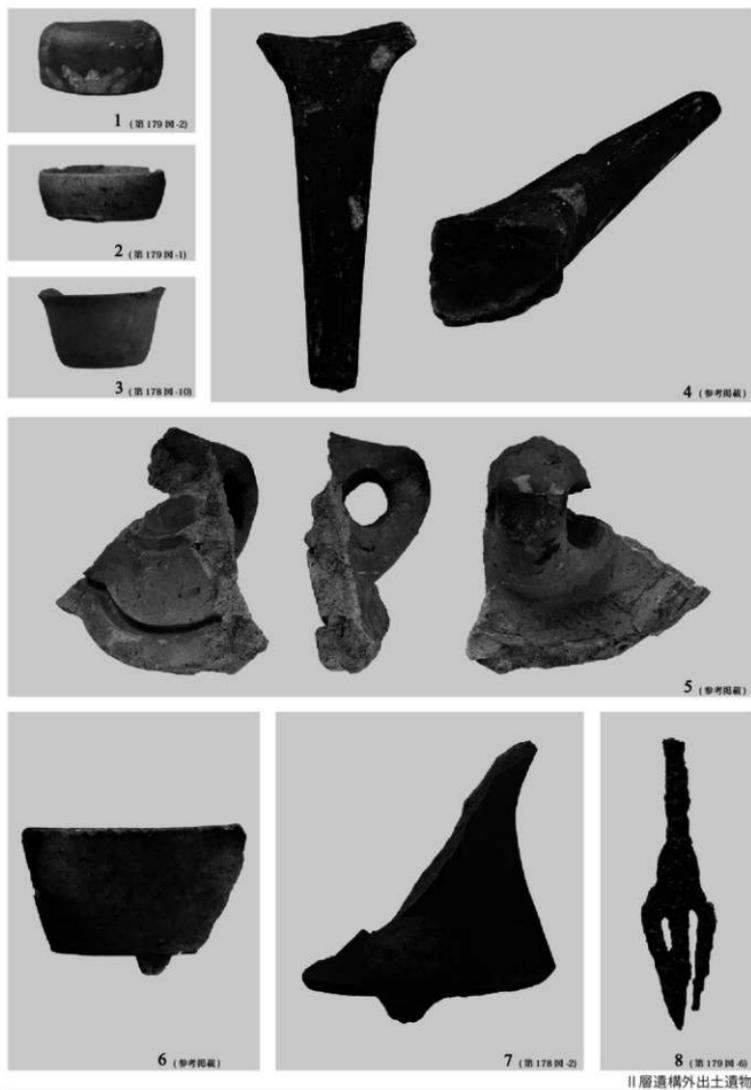
図版 102 駅部II層遺構外出土遺物(9)



図版 103 駅部II層遺構外出土遺物 (10)



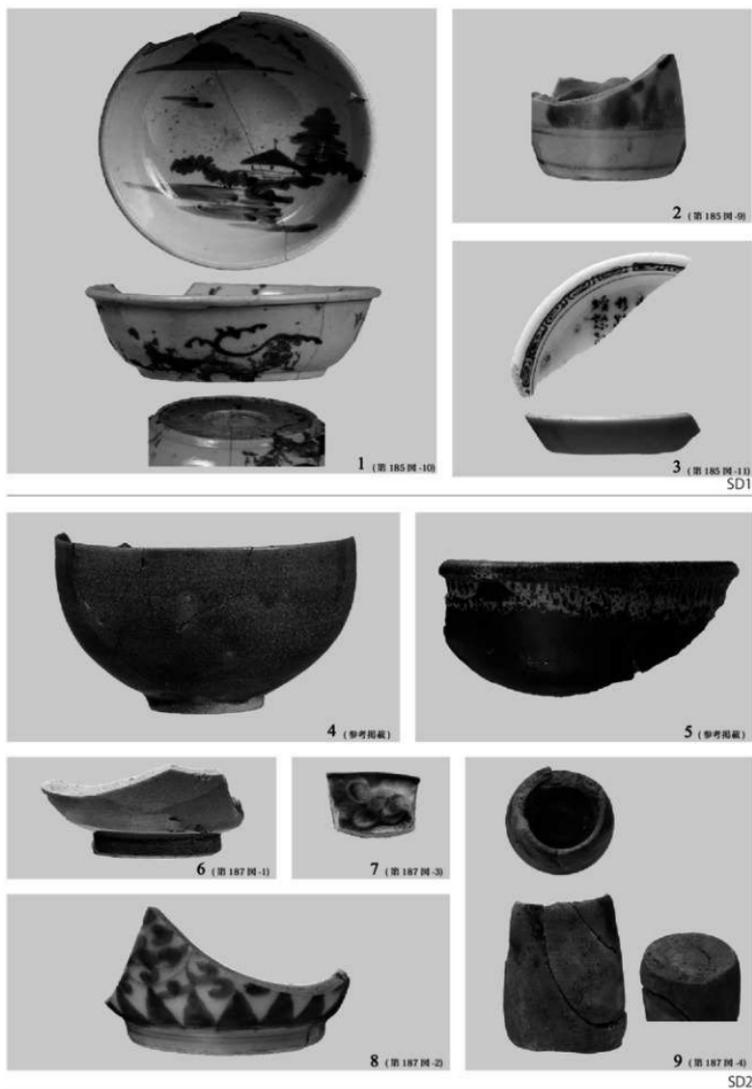
図版 104 駅部II層遺構外出土遺物 (11)



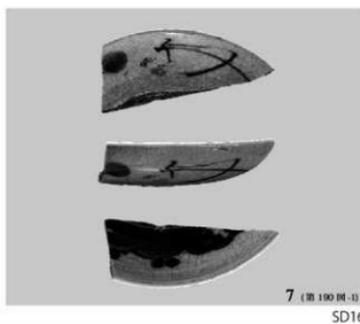
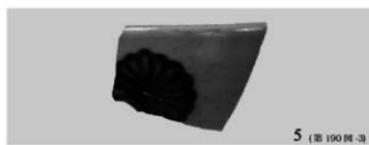
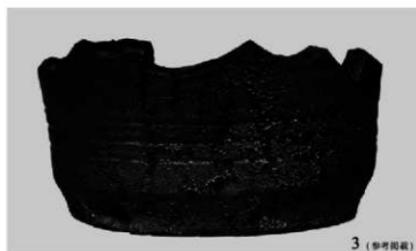
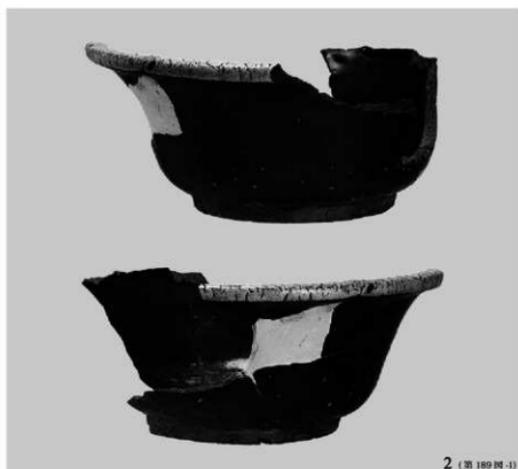
図版105 駅部II層遺構外出土遺物(12)



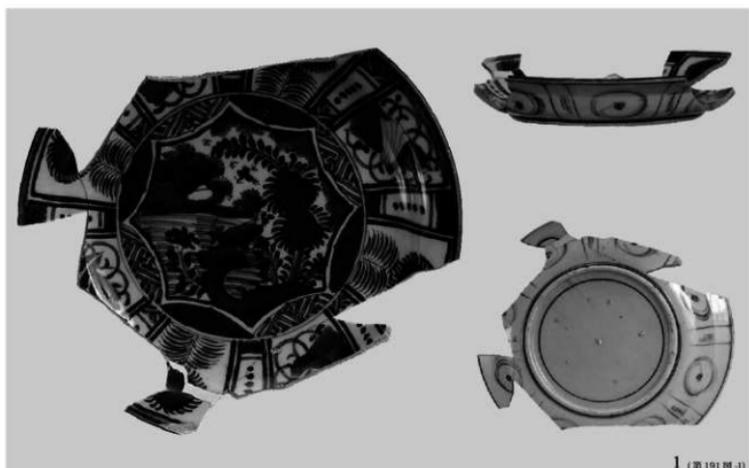
図版 106 駅部 II 層遺構外出土遺物 (13)・I 層上面遺構出土遺物 (1)



図版 107 駅部I層上面遺構出土遺物(2)



図版 108 駅部I層上面遺構出土遺物(3)



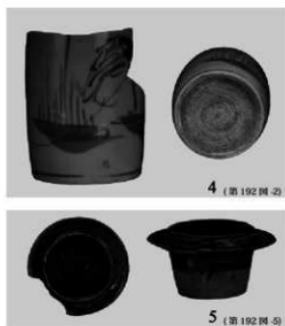
1 (第191図-1)



2 (第192図-6)



3 (第192図-3)



4 (第192図-2)

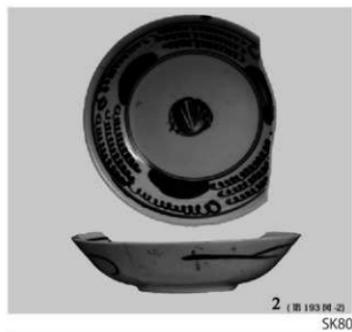
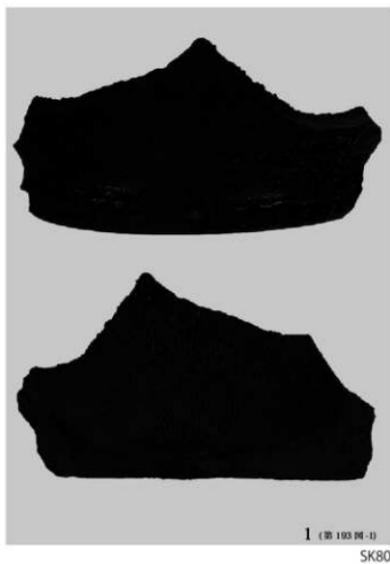


5 (第192図-5)

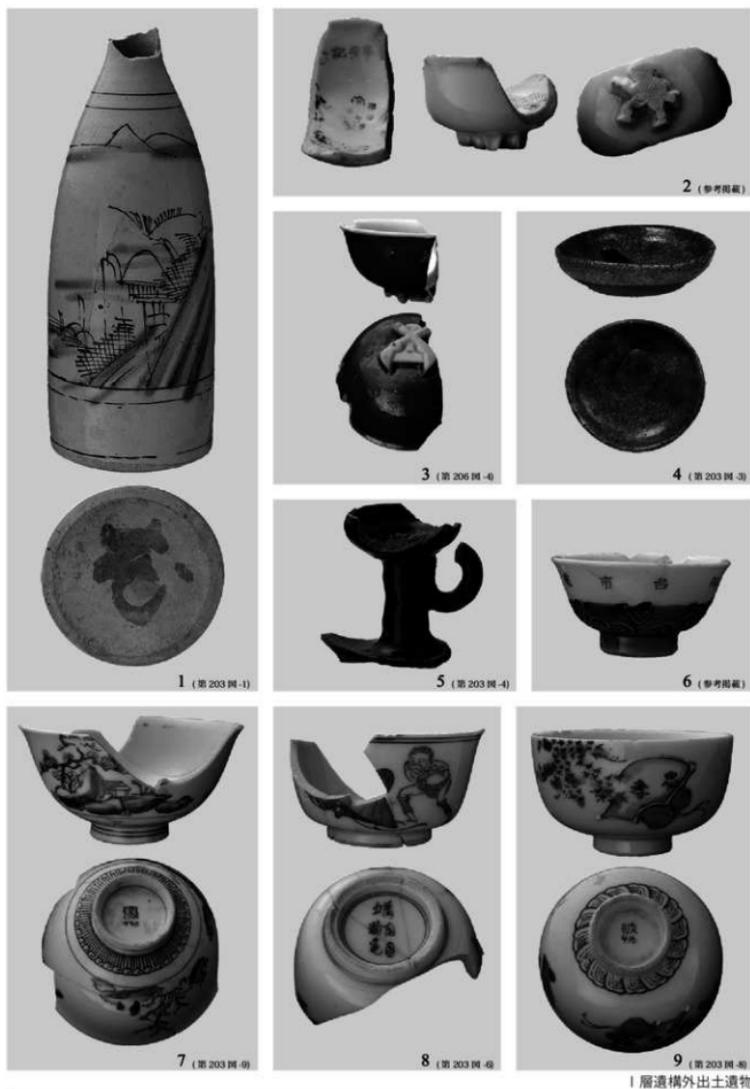


6 (第192図-1)

SK74



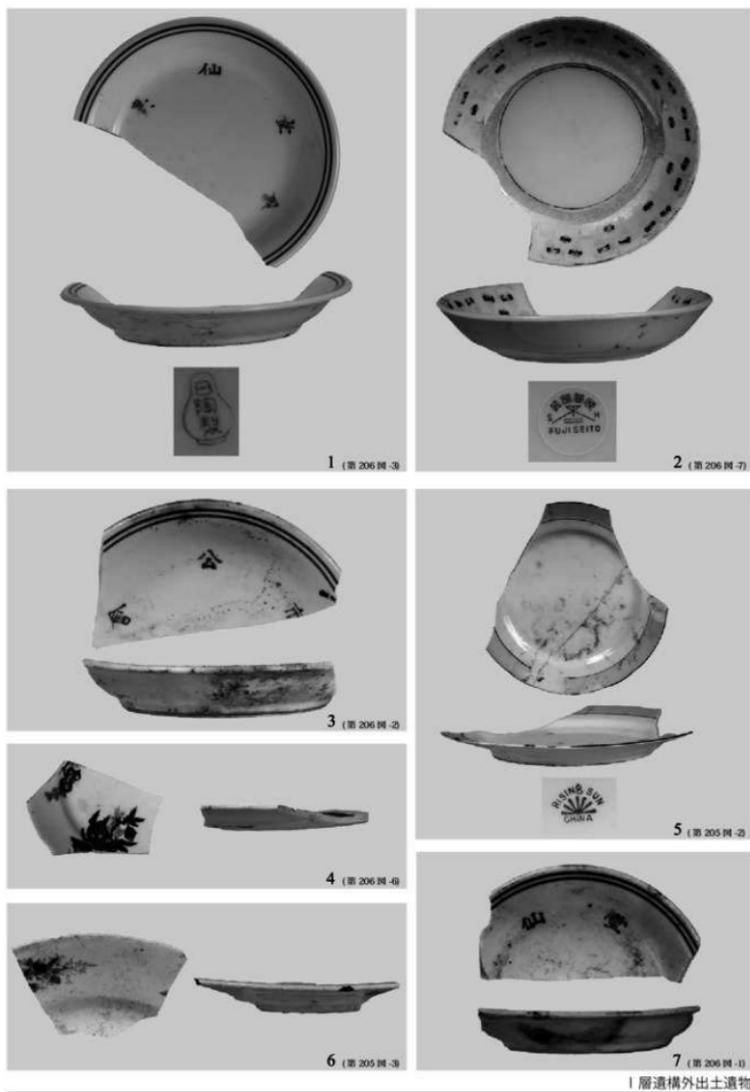
図版 110 駅部 I 層上面遺構出土遺物 (5)・I 層遺構外出土遺物 (1)



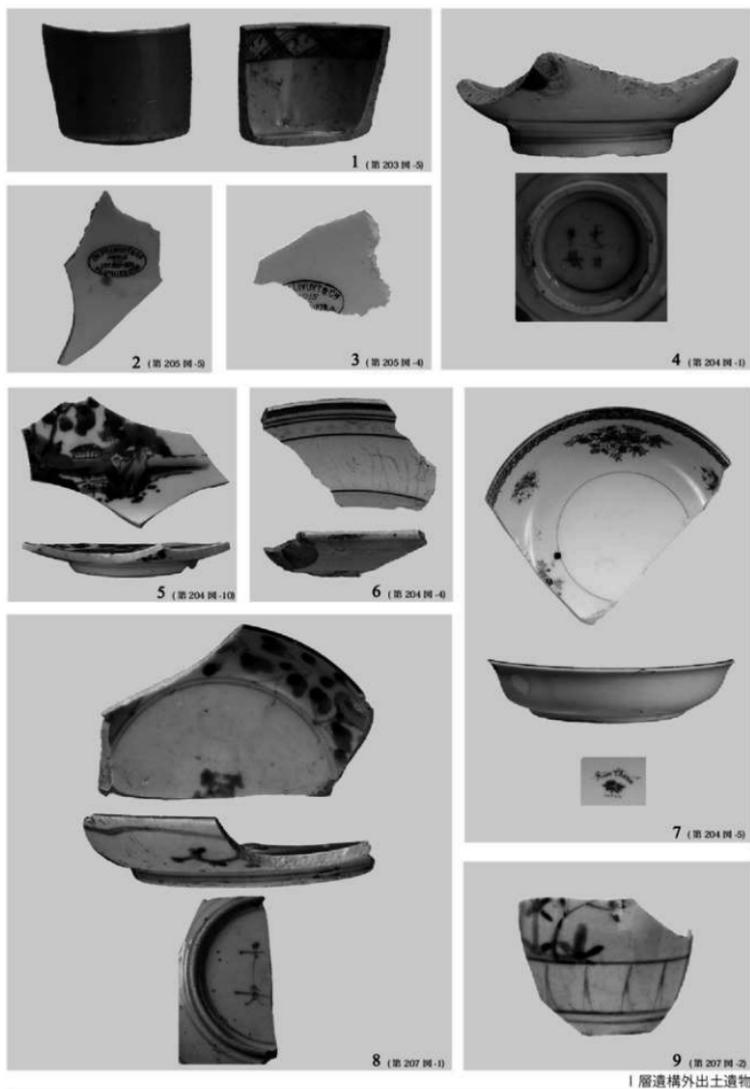
図版 111 駅部 I 層遺構外出土遺物 (2)



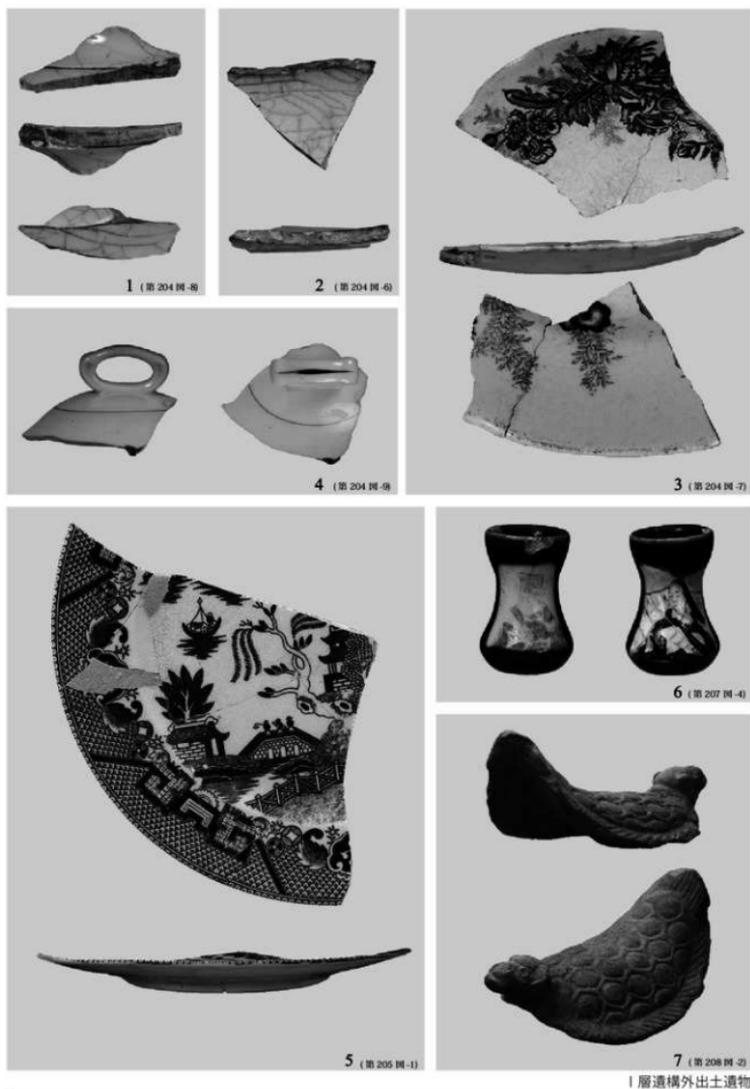
図版 112 駅部 I 層遺構外出土遺物 (3)



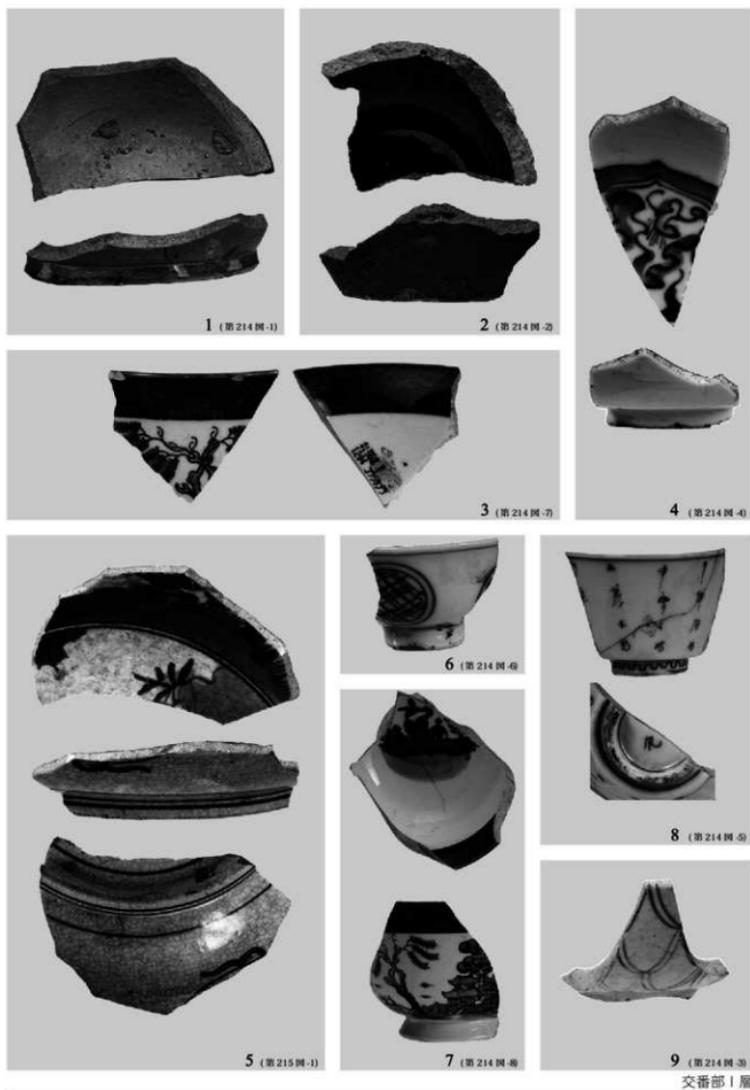
図版 113 駅部 I 層遺構外出土遺物 (4)



図版 114 駅部 I 層遺構外出土遺物 (5)



図版 115 駅部 I 層遺構外出土遺物 (6)



図版116 交番部I層出土遺物(1)



1 (第215図-2)

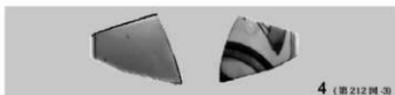


2 (第214図-8)

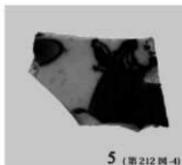
交番部1層



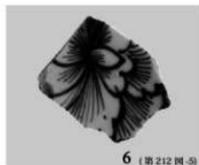
3 (第212図-1)



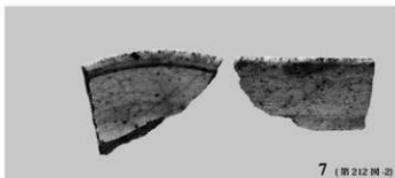
4 (第212図-3)



5 (第212図-4)



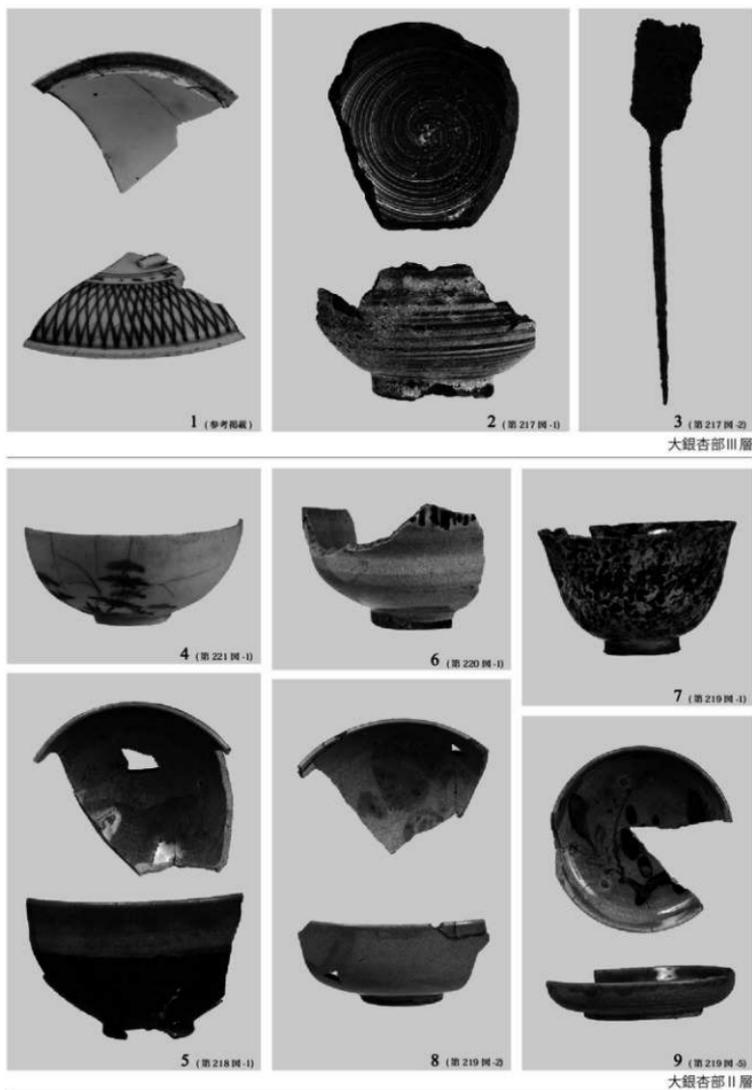
6 (第212図-5)



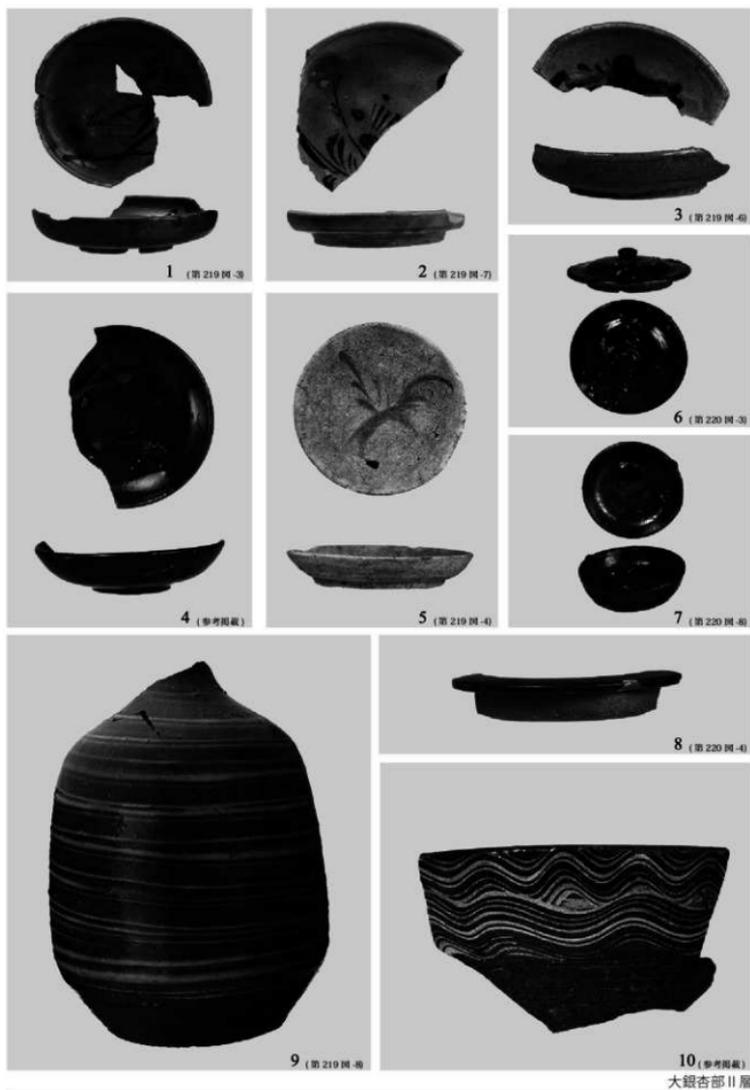
7 (第212図-2)

SEI

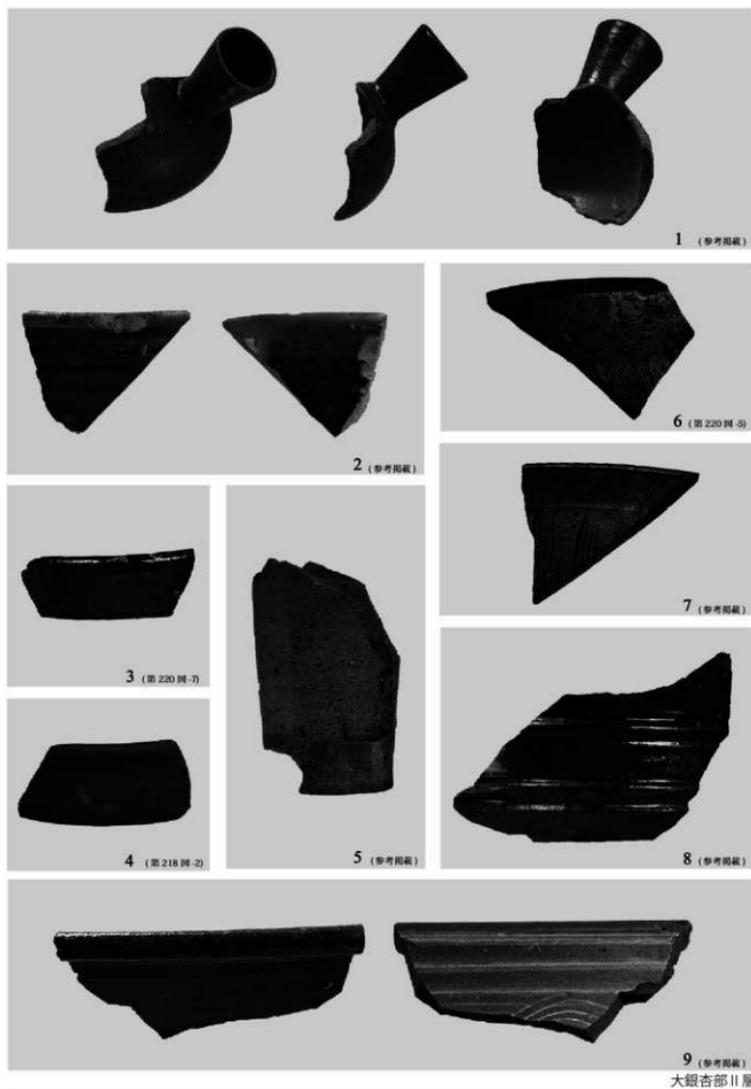
図版 117 交番部1層出土遺物(2)



図版 118 大銀杏部Ⅲ層出土遺物・Ⅱ層出土遺物(1)



図版119 大銀杏部II層出土遺物(2)

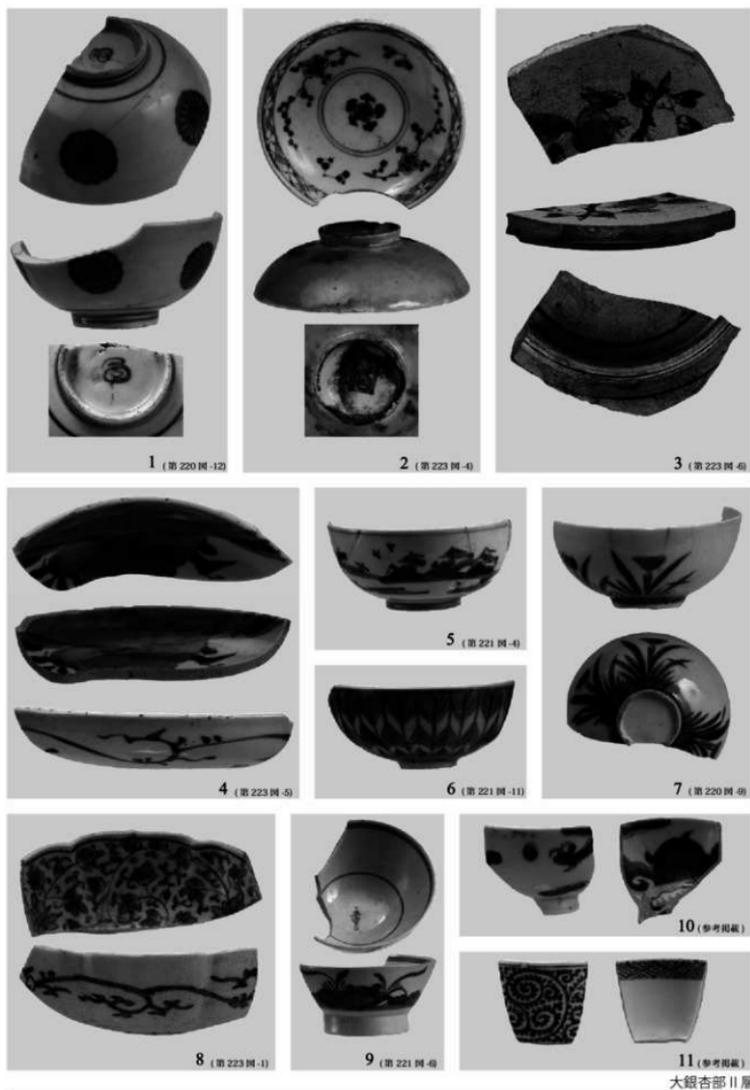


大銀杏部II層

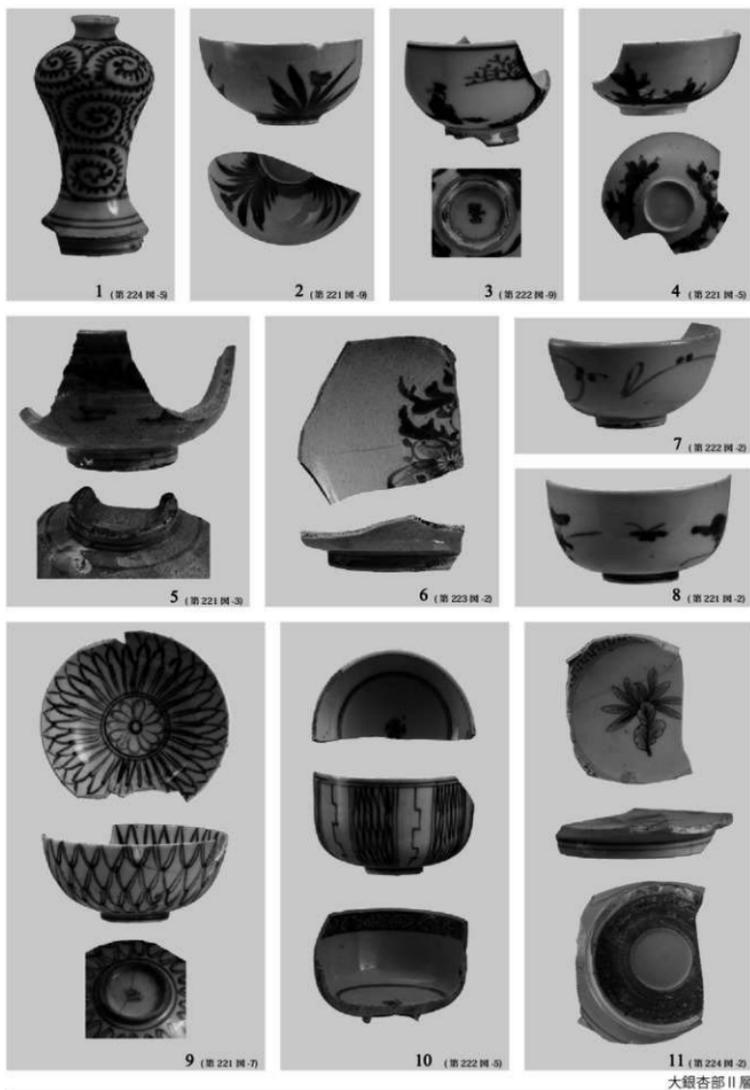
図版 120 大銀杏部II層出土遺物(3)



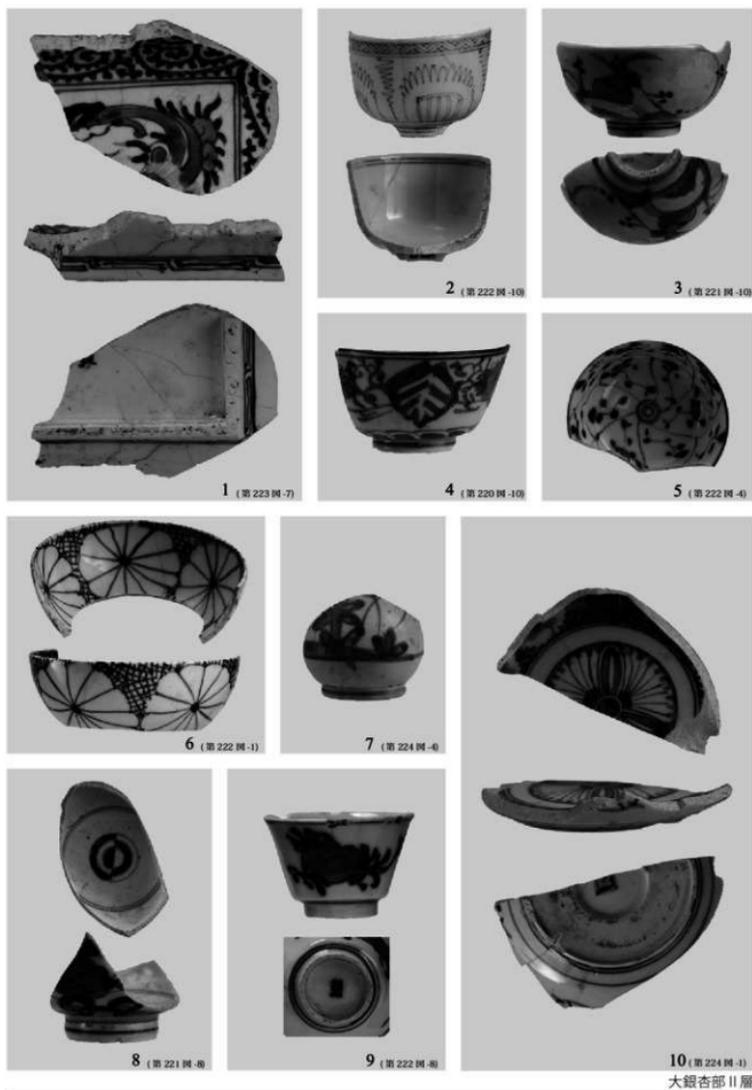
図版 121 大銀杏部II層出土遺物(4)



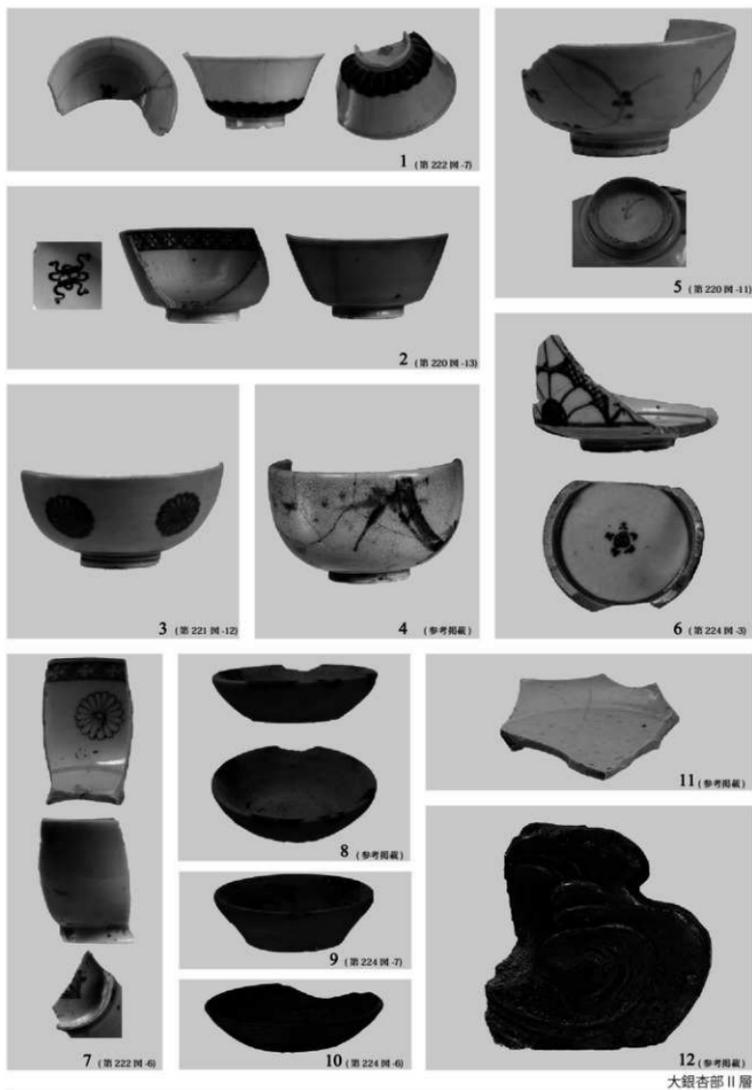
図版 122 大銀杏部II層出土遺物(5)



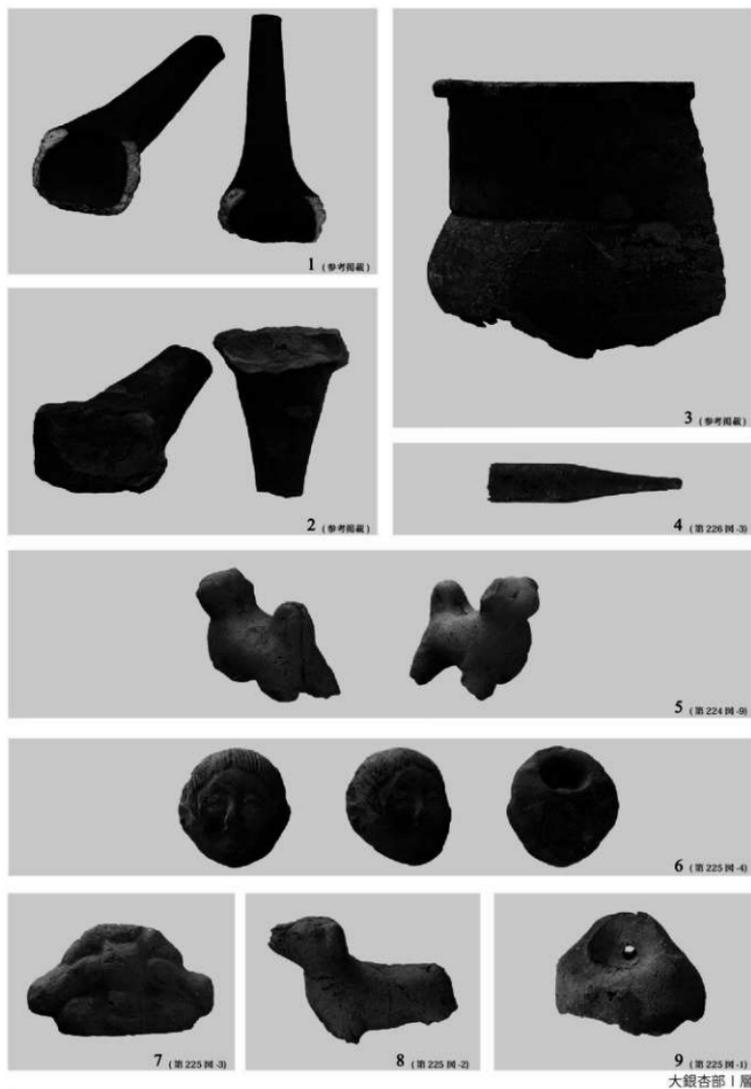
図版 123 大銀杏部II層出土遺物(6)



図版 124 大銀杏部II層出土遺物(7)



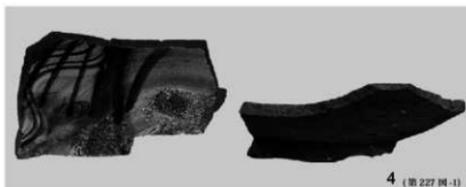
図版 125 大銀杏部II層出土遺物(8)



図版 126 大銀杏部I層出土遺物(1)

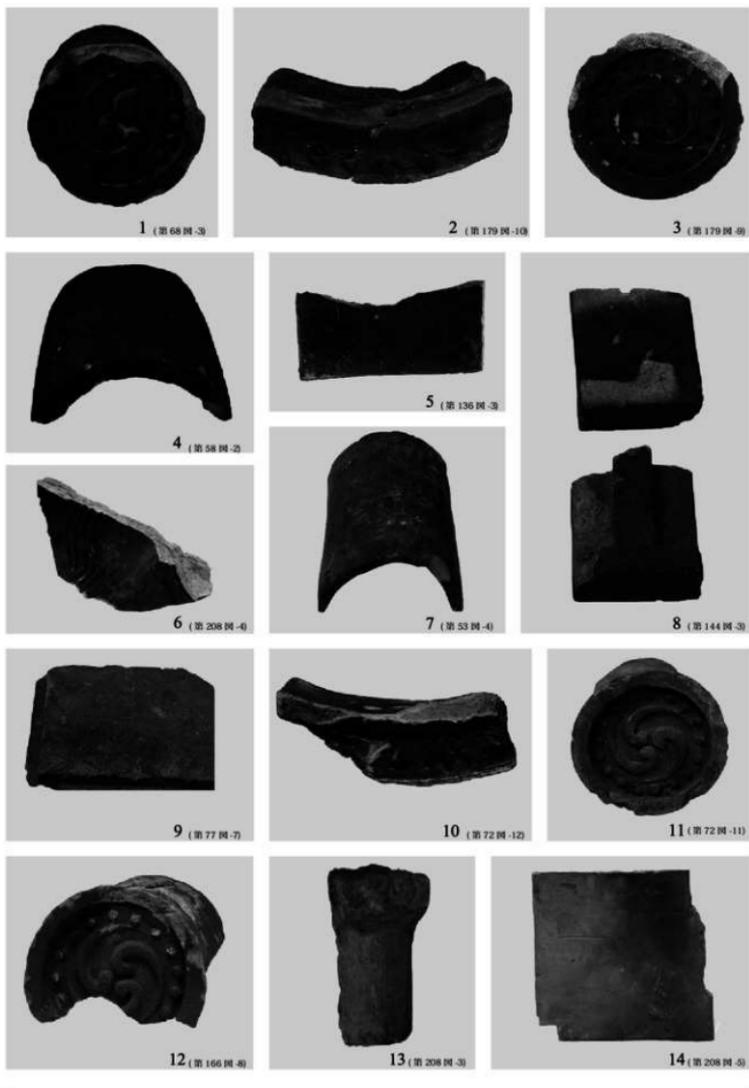


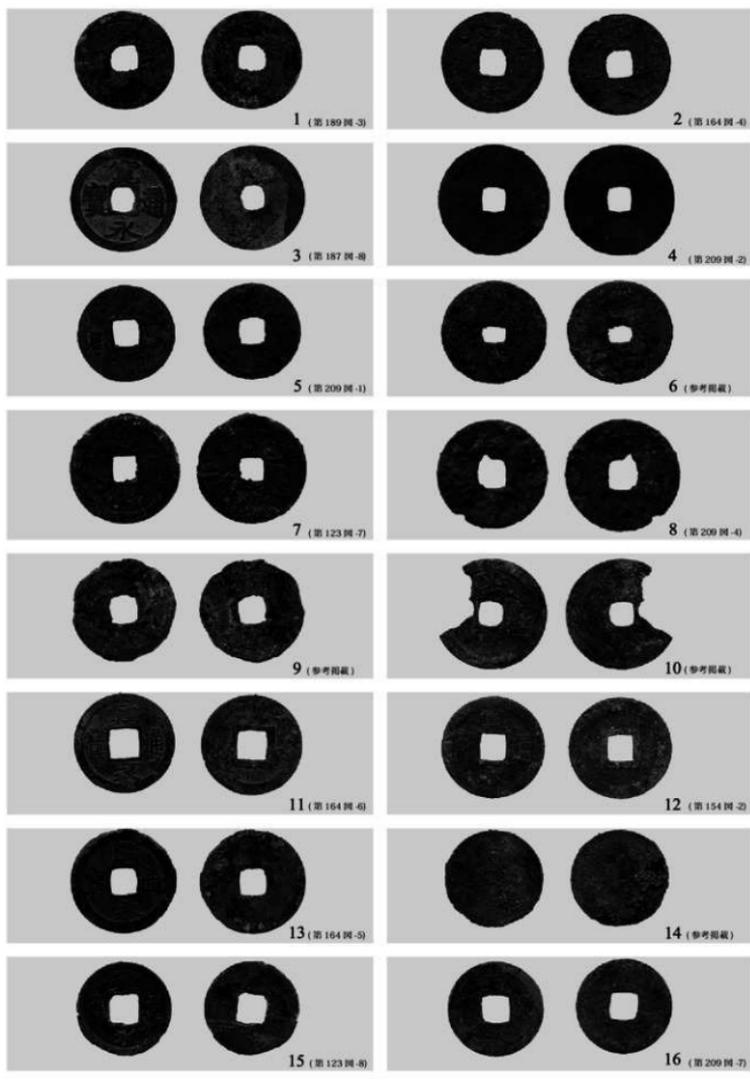
図版127 大銀杏部1層出土遺物(2)

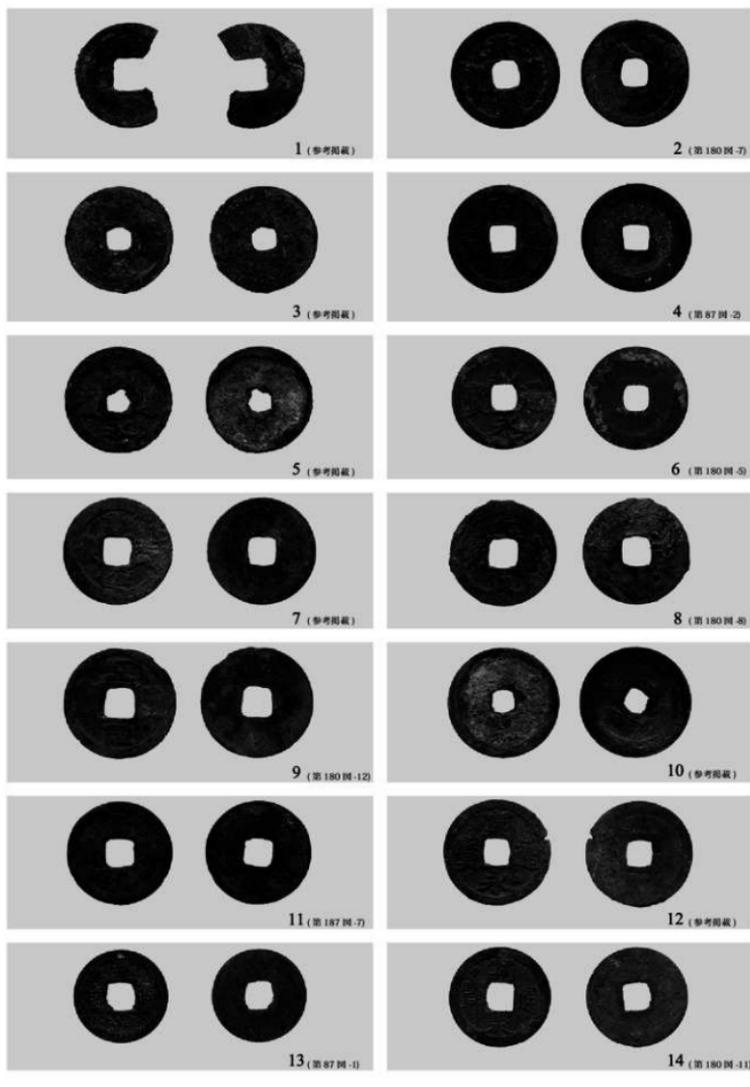


大銀杏部1層

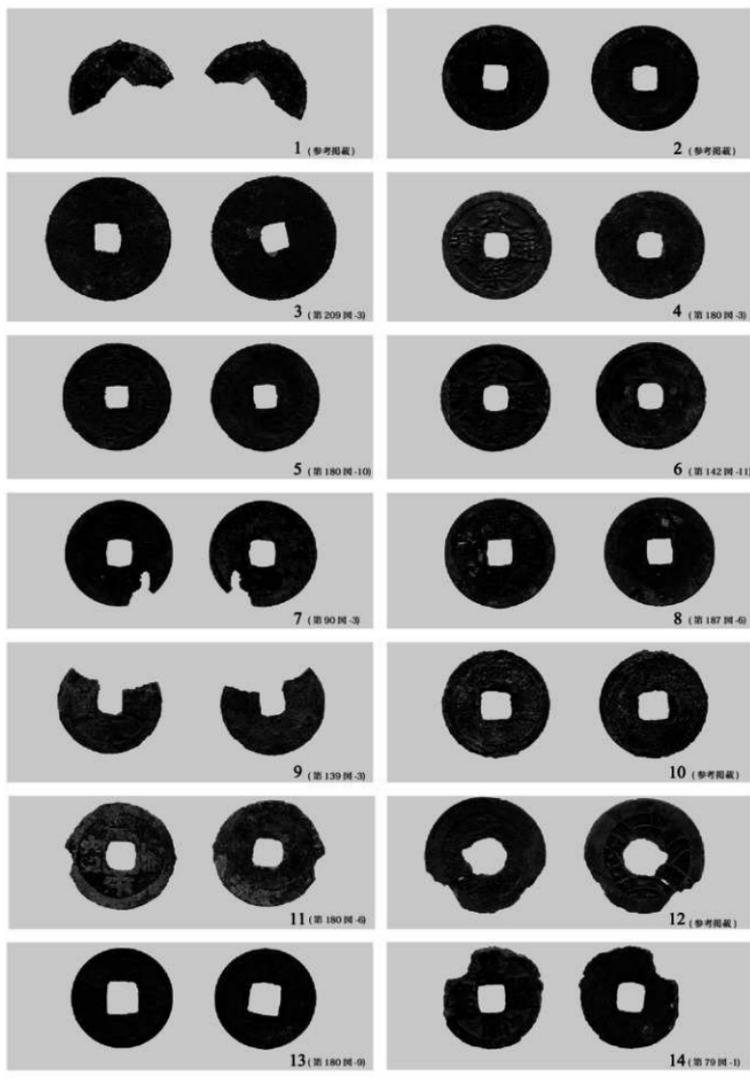
図版 128 大銀杏部1層出土遺物(3)



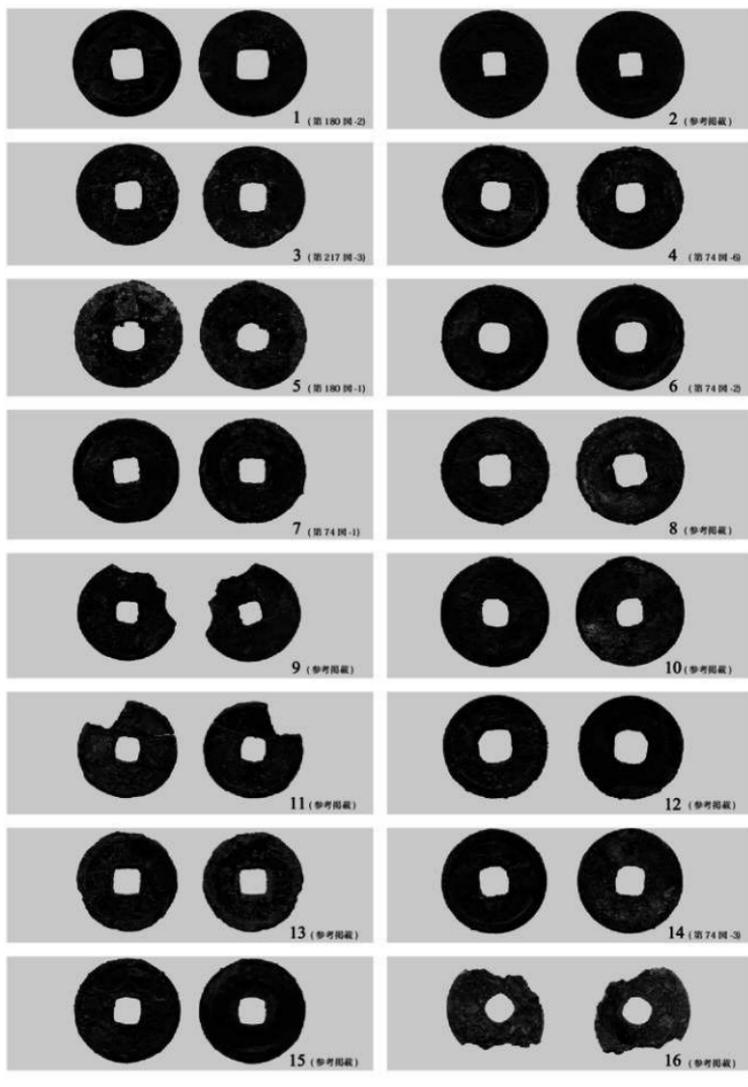




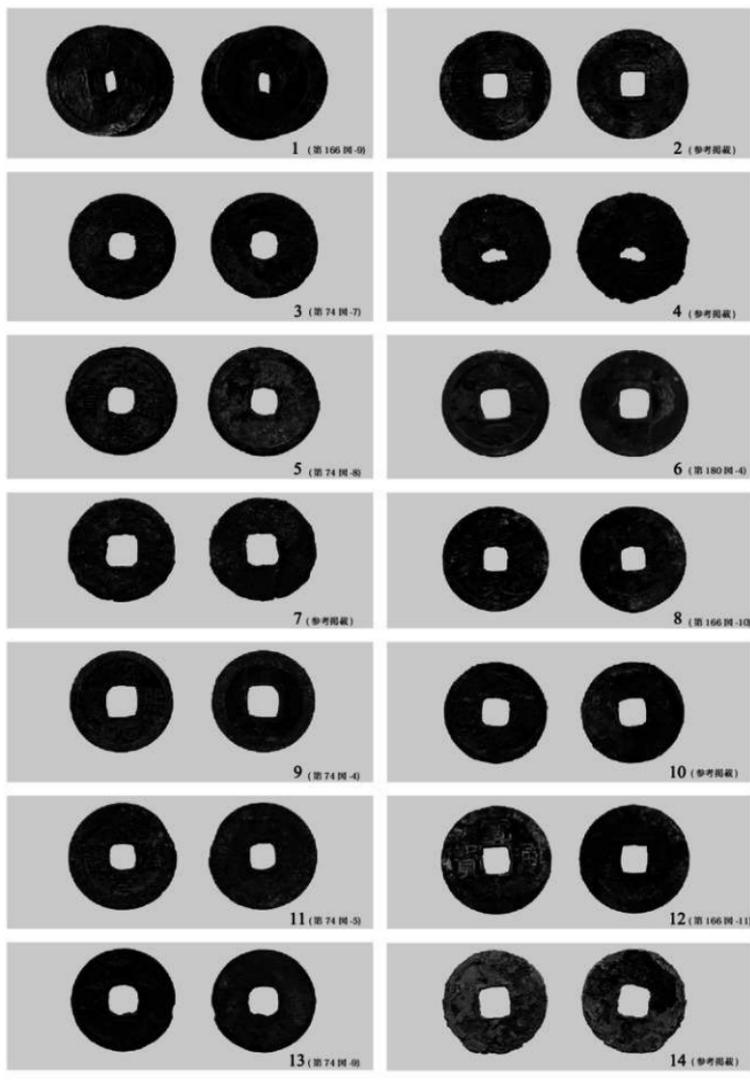
図版 131 出土古銭 (2)



図版 132 出土古銭 (3)



図版 133 出土古銭 (4)



報告書抄録

ふりがな	さくらがわこうえんいせきせんだいしこうそくてつどうとうざいせんかんけいいせきはくつちょうさほうこくしょⅣー							
書名	桜ヶ岡公園遺跡 一仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅳー							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番	第384集							
編著者名	主演光朗 結城慎一 守谷健吾 荻澤太郎							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二日町1番1号 TEL022(214)8893～8894							
発行年月日	2011年3月11日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さくらがわこうえんいせき 桜ヶ岡公園遺跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおぼく 青葉区 さくらがわこうえんりない 桜ヶ岡公園地内	4100	01562	38° 15' 38"	140° 86' 28"	平成19年5月10日 ～ 平成20年7月17日	2,282㎡	仙台市高速鉄道東西線建設事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
さくらがわこうえんいせき 桜ヶ岡公園遺跡	武家屋敷	江戸時代	掘立柱建物跡 土坑 性格不明遺構 井戸跡 祭祀遺構		陶器 磁器 瓦 金属製品 土製品		5棟の掘立柱建物を検出 掘立柱建物跡を検出 西洋磁器片が出土	
要約	桜ヶ岡公園遺跡は、広瀬川右岸、仙台中町段丘に立地する遺跡で、標高は43m～45mである。平成19年度・20年度に2282㎡の調査を行った結果、江戸時代の遺構面（Ⅳa層、Ⅲa層、Ⅱ層）を3面、近・現代の遺構面（Ⅰb層）を1面検出した。また、出土遺物の年代からⅣa層→Ⅰ期・17世紀初頭、Ⅲa層→Ⅱ期（武家屋敷前半）・17世紀中頃～18世紀中頃、Ⅱ層→Ⅲ期（武家屋敷後半）・18世紀中頃～19世紀初頭に相当することがわかった。 Ⅲa層上面において検出した5棟の掘立柱建物はいずれも、同軸方向で造成されており、仙台城周辺の屋敷とその土地割を考察していくうえで重要と考えられる。また、Ⅰb層上面で検出された建物跡は明治期に建てられた「抱家館」と考えられ、交番部調査区で検出された「噴水跡」とともに、近代の桜ヶ岡公園の状況を知るうえで大きな成果といえる。							

仙台市文化財調査報告書 第384集

桜ヶ岡公園遺跡 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書IV

2011年3月

発行 仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区二日町1番1号
文化財課 022(214)8893～8894

印刷 今野印刷株式会社
宮城県仙台市若林区六丁の目西町2-10
022(288)6123